



## 創立 50 周年記念誌

一般社団法人 群馬県計量協会 環境分科会

表紙画像



独自のコンセプトを具現化するにあたり、生成 AI を活用し、「群馬県環境をイメージした、明るく輝く水色とみどりを基調とした写真」というプロンプトを設定のうえ、デザインアシスタントと対話を重ねながら生成した画像を使用しております。

# 一般社団法人群馬県計量協会環境分科会 創立 50 周年記念誌 目次

挨拶	
発刊のことば 環境分科会長 青山 守 .....	2
祝辞	
発刊を祝して 群馬県衛生環境研究所長 猿木信裕 .....	3
発刊を祝して 群馬県計量検定所長 砂山和明 .....	4
創立 50 周年記念式典・祝賀会 .....	5
環境分科会のあゆみ .....	18
総務企画委員会 .....	23
技術委員会 .....	55
浄化槽委員会 .....	78
放射線委員会 .....	112
活動記録写真 .....	125
50 周年を振り返って .....	141
環境分科会を支えた人々（寄稿） .....	166
浅川千佳夫 .....	167
関根勇仁 .....	168
災害時等における緊急分析協定 .....	169
群馬県下水道総合事務所 .....	170
北関東環境測定分析機関連絡協議会 .....	173
歴代役員名簿 .....	177
歴代役員 .....	178
総務企画委員会 .....	182
技術委員会 .....	189
浄化槽委員会 .....	197
放射線委員会 .....	107
会則 .....	212
表彰規程 .....	218
組織図 .....	221
会員名簿 .....	223
あとがき .....	225



## 50周年記念誌 発刊の言葉

一般社団法人群馬県計量協会環境分科会

会 長 青山 守

(株式会社群馬分析センター 代表取締役)

一般社団法人群馬県計量協会環境分科会創立 50 周年にあたり、会員の皆様と共に心からお祝いを申し上げたいと思います。

これはひとえに、関係行政機関を始め会員の皆様方のご指導、ご支援の賜物であり又、多くの諸先輩方のご尽力により築き上げた歴史と思い感謝しております。

当会は昭和 1976 年（昭和 51 年）6 月に発足し 2006 年（平成 18 年）4 月に創立 30 周年記念誌を発刊しており、発足時は会員数 8 社と記してありました。

公害問題から環境証明事業が始まり、当時の公害対策基本法から環境基本法に引き継がれ、現在では「人の健康の保護に関する環境基準」が 27 項目となり、分析方法もいわゆる手分析から機器分析へと変わり行き、会員間での技術研鑽、クロスチェック、又、外部精度管理など高い信頼性の高い分析を提供できるよう努めてまいりました。

2011 年（平成 23 年）3 月 11 日、東日本大震災が発生し、東電福島第一原発は、地震によって外部電源が失われ、その後津波により全電源が喪失。原子炉 3 基で冷却機能が失われ炉心が溶け出し（メルトダウン）爆発して大量の放射性物質が放出されました。

当会では 2012 年（平成 24 年）5 月に放射性物質の理解、県内の土壌測定や会員間でのクロスチェック等の活動を行う放射線委員会を立ち上げ、総務企画委員会、技術委員会、浄化槽委員会、放射線委員会の 4 委員となりましたが、2024 年（令和 6 年）4 月に 12 年間活動を行った放射線委員会を廃止し 3 委員会で継続しております。

一方、コロナウィルスが 2020 年（令和 2 年）1 月 15 日に最初の感染者が確認された後、瞬く間にパンデミックとなり、当会事業の殆どが感染防止により中止となる事態となり、それに伴い、会員の事業所内感染により事業所の一時閉鎖を想定し、会員間での BCP（事業継続計画）策定の支援を行いました。

又、対面会合からオンライン会合が主流となり、各会員の皆様も社内及び家庭内感染防止に努められ、2023 年（令和 5 年）5 月 8 日の「5 類感染症」となるまで、幸いにも当会員では大きな感染事態には至りませんでした。

今後も時代に応じて柔軟な対応で活動を行っていきたい所存でございます。

われわれ、環境証明事業は見えない物質を「濃度」と言う形で表しております。これからも、高い信頼性、妥当性を持ち信頼おける団体であり社会貢献できるよう努めてまいりますので、どうぞ宜しくお願い致します。

本、記念誌の編纂にあたり多くの人達のご指導、ご協力をいただき委員の方々の努力により出来上がりました。大変多くの皆様のご尽力に厚く感謝致します。



## 発刊を祝して

群馬県衛生環境研究所長

猿木 信裕

一般社団法人群馬県計量協会環境分科会が創立 50 周年を迎えられ、記念誌を発刊されますことに、心よりお祝いを申し上げます。

貴分科会は 1976 年（昭和 51 年）の発足以来、土壌・水質・大気中の微量物質の分析や、騒音・振動の測定など、県内の環境保全に欠くことのできない役割を担い続けてこられました。高度で精密な技術を要する環境計量証明事業において、会員相互の研鑽と精度管理に努め、信頼性の高いデータを提供してこられたことは、社会にとって極めて大きな意義を持つものです。

昭和の公害対策、平成の環境改善と循環型社会の構築、そして令和の脱炭素と持続可能性の追求へと、環境をめぐる課題は時代とともにその姿を変えてきました。昨年には伊勢崎市で国内最高となる 41.8°C を記録するなど、気候変動の影響はもはや抽象的な概念ではなく、私たちの生活に直接的な脅威として現れています。豪雨災害の多発、生物多様性の変化、クマの市街地出没の急増など、環境の変化が社会に及ぼす影響は広範かつ深刻です。こうした状況下において、地域の環境分析の確かな裏付けは、県民の安全・安心を支える基盤であり、貴分科会の果たしてこられた役割の重みを改めて感じるところです。

衛生環境研究所と貴分科会は、研究発表会、研修や講演の実施、技術交流を通じ、長年にわたり緊密な連携を培ってきました。双方が専門性を活かし、地域の環境行政を支えてきたことは、県民生活の向上に確実に寄与してきたものと確信しております。

また、衛生環境研究所は今年度、食品安全検査センターとの統合により、衛生環境及び食品安全分野を一体的に担う組織へと再編されました。これにより、次なるパンデミックを含む健康危機管理の対応力の強化、部門を横断した迅速な指揮体制、技術融合による検査水準向上など、県全体の公衆衛生力の底上げを進めております。環境と健康の課題は密接に関連しており、地域における分析機関のネットワークは、今後ますます重要性を増していくものと考えております。

貴分科会が 50 年にわたり築いてこられた知見と信頼、そして技術者の皆様のたゆまぬ御努力に深く敬意を表するとともに、これからの時代においても、環境の保全と持続可能な社会の実現に向けてさらなるご発展を遂げられますことを心より祈念いたします。



## 発刊を祝して

群馬県計量検定所長

砂山 和明

このたび、一般社団法人群馬県計量協会環境分科会が創立 50 周年を迎え、記念誌が発行されますことを心よりお祝い申し上げます。また、この記念事業に携われました関係者の皆さまの御尽力に対し、深く敬意を表します。

環境分科会は 1976 年（昭和 51 年）に発足され、長年にわたり、土壌、水、大気中の微量物質の分析や騒音・振動の測定を行い、環境対策に大きく貢献されるとともに、分析や測定などに求められる高度な技術の維持・向上のために、会員相互の技術の研鑽や制度管理などに努められ、信頼性の高いデータを提供してこられました。

また、分析技術の高度化や複雑化などに対応するため、研究会、委員会を立ち上げられ、調査・研究活動を熱心に行い、環境計量証明事業の健全な発展と文化の向上に寄与してこられましたことは、誠に意義深く、会員の皆さまのこれまでの取組みに対して、改めて敬意を表する次第であります。

さて、この 50 年の間、環境分析を取り巻く環境は、大きく変化して参りました。昨今のデジタルトランスフォーメーションの推進や AI 技術の進展にみられる技術革新のほか、働き方改革など、環境測定分野にも大きな影響を与える変化も経験して参りました。そうした変化の中で、貴分科会におかれましては、幾多の困難な問題をも克服しながら、その時々々の経済、社会の諸要請に応え、地域社会の安全を図るとともに、県民が安心して生活できる環境づくりを推進してこられました。そして、時代に適した事業展開と積極的な活動により、関係諸官庁ならびに関係機関との緊密な連携のもとに、会員の経営基盤の確立と技術の維持・向上等に寄与するとともに、環境分析分野に大きく貢献されております。

これからの時代は、社会の変化や多様化する課題に対応して、環境分析に求められる役割も益々多様化し高度化することが予測されます。従前の手法に加え、更に迅速かつ的確な対応が求められるところですが、これまでに会員の皆さまが培われてきた精密な分析技術と会員の皆様の積極的な取組みを基盤として一層飛躍され、環境分析を担っていただきますことを心より期待申し上げます。

結びに、皆さまの益々の御健勝と一般社団法人群馬県計量協会環境分科会の益々の御発展を祈念致しまして、御祝いの言葉とさせていただきます。

# 創立50周年記念式典・祝賀会

# 創立 50 周年記念事業プログラム

---

日時：令和 8 年 5 月 13 日 (水)

場所：ホテルメトロポリタン高崎

## 1. 創立 50 周年記念式典

14:30 ～ 15:50

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 来賓祝辞
4. 来賓紹介
5. 環境分科会創立 50 周年のあゆみ (報告)
6. 表彰式 (環境計量功労者表彰等)
7. 感謝状贈呈
8. 謝辞
9. 閉会

## 2. 記念講演会

16:00 ～ 17:00

演題：「事業活動に求められるネイチャーポジティブの取組み」

講師：水口 剛 先生 (公立大学法人 高崎経済大学学長)

## 3. 創立 50 周年記念祝賀会

17:15 ～ 19:15

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 乾杯
4. アトラクション
5. 中締め
6. 閉会

## 環境分科会 50周年記念式典表彰 受賞者名簿

### 1 環境計量功労者

	氏 名	所属事業所	表彰区分	備考
1	須野原 修 <small>す の はら おさむ</small>	(一財) 群馬県薬剤師会 環境衛生試験センター	役員部門	
2	佐俣 満世 <small>さまた みつよ</small>	(株) 環境技研	従業員部門	
3	青柳 道夫 <small>あおやぎ みちお</small>	(株) 環境技研	従業員部門	
4	金子 美智子 <small>かねこ みちこ</small>	(株) 群馬分析センター	従業員部門	
5	富田 雄二 <small>とみた ゆうじ</small>	プロファ設計 (株)	従業員部門	
計	5 名			

### 2 感謝状贈呈

	氏 名	所 属	表彰区分	備考
1	浅川 千佳夫 <small>あさかわ ちかお</small>	前環境分科会会長	感謝状	
計	1 名			

## 1. 創立 50 周年記念式典

半世紀の歩みを礎に、確かな未来へ紡ぐ堅実なる一步

一般社団法人群馬県計量協会環境分科会は、多くの会員皆様の弛まぬ努力と関係各位の温かいご支援に支えられ、ここに創立 50 周年の節目を迎えました。厳粛な雰囲気の中で執り行われた記念式典では、これまでの輝かしい歩みを振り返るとともに、計量技術を通じた環境社会への貢献という一步を、未来へ向けてさらに力強く踏み出す決意を新たにする貴重な時間となりました。



### 会長挨拶

50年の節目にあたり、会員への感謝と今後のさらなる分科会の発展を誓う青山会長。

続いて、ご多忙中にもかかわらずご臨席を賜りましたご来賓の皆様より、温かいお祝いと激励のご祝辞をいただきました。環境保全における計量計測技術の重要性や、当分科会がこれまでに果たしてきた地域社会への貢献度を高く評価していただき、今後の活動に対する期待の言葉が寄せられました。



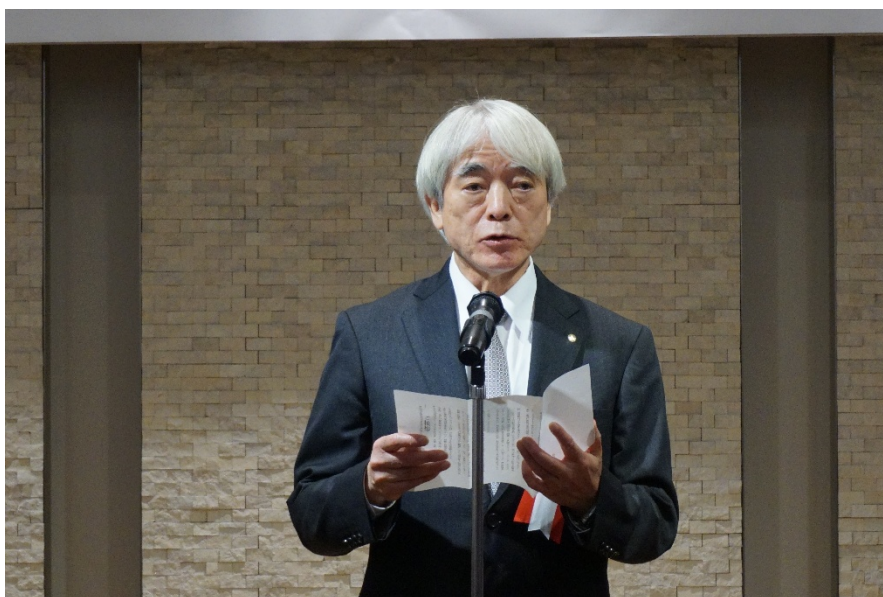
**来賓祝辞①**

ご臨席いただいた群馬県県土整備部 部長 佐々木 実様より、当分科会の 50 年の歩みを讃える格調高い祝辞を頂戴いたしました。



**来賓祝辞②**

群馬県環境森林部 部長代理 環境保全課 課長 畠中 一彦様より、長年にわたる連携への感謝と、環境計量分野における当分科会の重要性について、お言葉をいただきました。



**来賓祝辞③**

群馬県衛生環境研究所 所長 猿木 信裕様からは、次の半世紀に向けた環境分科会のさらなる飛躍と、地域社会への貢献に対する熱い期待の言葉が寄せられました。



**来賓祝辞④**

群馬県計量検定所 所長 砂山 和明様から、創立 50 周年のお祝いと、今後の計量技術の発展に向けた激励のお言葉を頂戴した。



### 来賓祝辞⑤

当分科会へ温かいエールを盛り込んだ祝辞を述べる一般社団法人 日本環境測定分析協会 副会長で関東支部長 小林 琢也様。示唆に富むお話に、出席者一同深く聞き入りました。

ご祝辞の拝受に続き、本分科会と深く関わりのある近隣県の計量・環境団体代表の皆様、ならびに当会の礎を築いてこられた前役員の皆様の「来賓紹介」が行われました。司会よりお名前が申し上げられると、対象の皆様はその場でご起立され、会場からはこれまでの歩みを支えてくださったことへの感謝を込めた盛大な拍手が送られました。

#### 【ご来賓紹介（順不同・敬称略）】

- 一般社団法人 茨城県計量協会 千波 尚
- 栃木県環境計量証明協議会 高梨 弘幸
- 一般社団法人 埼玉県環境計量協議会 佐藤 英樹
- 一般社団法人 群馬県計量協会環境分科会 前会長 浅川 千佳夫
- 一般社団法人 群馬県計量協会環境分科会 前理事 小見 明

### ご祝電御礼

式典の挙行にあたり、衆議院議員 小淵優子様、参議院議員 清水真人様をはじめ、関係各位より多数の丁重なお祝電を頂戴いたしました。

私たちのこれまでの環境計量活動に対する温かいご理解と、今後のさらなる発展に向けた心強い激励のメッセージをいただき、会員一同、深く感謝するとともに身の引き締まる思いでございます。

記念誌の誌面をお借りいたしまして、格別のご高配を賜りました皆様に厚く御礼申し上げます。

### 10 分間の映像に蘇る、50 年の歴史と絆

式典の中盤、会場を暗転して上映されたのは、環境分科会創立 50 周年のあゆみと題して 50 年間の軌跡を 10 分間にまとめた特別記念スライドショーです。懐かしい写真や歴代の活動記録が音楽とともにスクリーンへ映し出されると、参加者の皆様は当時の思い出を嘯み締めるようにじっと見入っていました。分科会の歴史と絆の深さを改めて実感する、感動的なひとときとなりました。

式典の後半では、長年にわたり当分科会の発展および環境計量業界の地位向上に多大な貢献をされた方々への表彰式が執り行われました。壇上にて受賞者の皆様に賞状が手渡されると、会場からはこれまでの功績を称え、感謝の意を込めた大きな拍手が沸き起こり、式典は感動的な雰囲気になりました。



### 功労者表彰

多年にわたり当分科会の発展および環境計量技術の向上に多大な貢献をされた功労者への表彰授与。



#### 感謝状贈呈

長きにわたり会長として当分科会の発展にただならぬ尽力をいただいた浅川 千佳夫様に当分科会より感謝状の贈呈。



#### 謝辞

感謝状贈呈の後、浅川千佳夫様より謝辞を頂戴いたしました。在任中の思い出や会員への感謝、そしてこれからの環境分科会の躍進を期待する温かいお言葉をいただき、会場は大きな感動と拍手に包まれました。



表彰された皆様  
誠におめでとうございます。

第1部の記念式典も、いよいよフィナーレを迎え、参加者全員での記念撮影が行われました。



50年の想いを胸に、希望に満ちた持続可能な社会への願いを次世代へと受け継ぐ礎として、この節目を心に刻む大切な一枚となりました。

## 2. 記念講演会

### 水口先生によるネイチャーポジティブ講演

第2部の記念講演会では、公立大学法人 高崎経済大学学長である水口 剛先生をお迎えし、「事業活動に求められるネイチャーポジティブの取組み」と題してご講演いただきました。これからの企業経営における自然再興の重要性と環境計量が果たすべき役割について、専門的かつ熱意溢れるお話をいただき、参加者は真剣な面持ちで聞き入っていました。



「事業活動に求められるネイチャーポジティブの取組み」をテーマに、最前線の知見を熱弁される水口先生。



40名以上の会員が集まり、満席となった講演会場。熱心に聴講する参加者の熱気に包まれた。

### 3. 創立 50 周年記念祝賀会

#### 笑顔と感謝が溢れた、至福の記念祝賀会

記念式典・講演会の興奮も冷めやらぬ中、第3部の祝賀会が賑やかに開催されました。乾杯の合図とともに会場は一気に和やかなムードに包まれ、魅力的なアトラクションがさらに華を添えました。これまでの50年を支え合ってきた会員同士、そしてご来賓の皆様と、感謝の思いを分かち合う素晴らしいひとときとなりました。



#### 晴れやかに、未来へ向かって乾杯

祝賀会の冒頭、杉山副会長による力強い音頭のもと、全員で高らかに乾杯を交わしました。50周年を祝う会場は一変して華やかな笑顔に包まれ、和やかな交流の時間が始まりました。

#### 会場を魅了した、天田シスターズの演奏と歌声



お楽しみのアトラクションタイムでは、天田シスターズのお二人が登場！息の合った素晴らしい演奏と心に響く歌声が披露され、会場は一気に華やかな熱気に包まれました。お馴染みの名曲に手拍子が沸き起こるなど、会員一同笑顔でステージを楽しみ、50周年を祝う宴はいっそうの盛り上がりを見せました。

## 会場が一つに！笑顔で響かせた万歳三唱



楽しかった祝賀会の締めくくり、中締めプログラムでは佐藤副会長のご発声により、参加者全員での「万歳三唱」が行われました。これまでの50年への感謝と、次の半世紀に向けた新たなる決意を込め、会場全体が一つになって声高らかに万歳を唱和しました。皆様の晴れやかな笑顔と高く挙げた手が、これからの明るい未来を象徴する素晴らしい幕引きとなりました。

## 環境分科会のあゆみ

# 群馬県計量協会環境分科会のあゆみ

## 1 設 立

我が国では、1965年（昭和40年）頃から高度成長の陰で「公害問題」が叫ばれ、健康問題や自然環境破壊が大きな社会問題となり、国、地方自治体、事業者及び国民が一体となった対策が急務となっていた。

そんな社会情勢を受け、環境測定と分析結果の社会的信頼性の確保が要求され、1975年（昭和50年）3月に計量法が改正され、濃度、騒音レベル等の計量証明事業が規制対象となり、「環境計量士資格制度」、「環境計量証明事業者登録制度」が制度化された。



これを契機に、「環境計量証明事業者」が誕生し、計量協会内において環境計量証明事業者が1つにまとまり、相互の技術の向上と行政機関への協力等々を目的に、1976年（昭和51年）6月に「環境分科会」は発足した。

### 【発足当時の役員】

会 長 齊藤信太郎（株）群馬環境技研

副会長 松本史郎（株）環境分析センター

発足時の会員数は8社であったが、徐々に増え現在は24社となっている。

公害問題に始まった環境計量証明事業は、その後世の中の要請で環境保全へと変わっていき、有害物資のみならず生活環境監視のためになくてはならないものになっている。

## 2 主な事業実績

会員は、総務企画委員会、浄化槽委員会、技術委員会及び放射線委員会の4つ委員会いずれかに属して活動している。総務企画委員会は、主として「環境分科会事業」全般を事業計画に則って遂行する実務を担っている。浄化槽委員会は関係団体との協力体制で効率化11条検査に取り組んでいる。技術委員会は毎年テーマを決めて月1回程度集まり研究を重ね、技術力の向上を図っている。放射線委員会は、東日本大震災による放射線流出が契機となって、2011年（平成23年）4月に発足し、放射線測定を行い、放射線量の監視を行ってきた。

### （1）創立30周年記念誌発行

2006年（平成18年）には「環境分科会」創立30周年の節目に、これまでの来し方を振り返るとともに、これからの礎とすることを目的に記念誌を発行した。

### 【創立30周年記念誌発行当時の役員】

- 会 長 浅川千佳夫( (株) 群馬分析センター)  
副会長 中西昇( (株) 環境科学コーポレーション)  
理 事 佐藤弘之( (株) インフォマテックヨシヤ)、川口勝( (株) 環境技研)、  
新井宗雄(瑞晃化学 (株) )、下山裕( (株) 不二ケミカル)、  
佐藤留治(シバタ環境科学 (株) )、高橋正欣(関東電化産業 (株) )、  
加藤征一郎( (財) 群馬県健康づくり財団 検査事業部)  
監 事 新井由雄( (有) アライ計量事務所)、  
関根勇仁( (株) 環境分析センター)

### (2) 放射線委員会設置

2011年(平成23年)3月11日に発生した東日本大震災における「東京電力福島第1原子力発電所」放射線放出に危機感を抱き、「放射線委員会」を新たに設置、県内各箇所から土壌のサンプリングを行い「放射線量」を測定し、年度末には成果を報告書にまとめてきた。

2024年(令和6年)3月末をもって、委員会の役目は終えたとして休会した。

### (3) 県との意見交換会を定例化

県土整備部との意見交換会は、2015年(平成27年)2月3日に開催されて以来、毎年定例的に開催し、時宜に見合った協議議題に対し県から回答を得て、意見交換を行っている。

環境森林部との意見交換会は、2017年(平成29年)6月15日に開催されて以来、毎年定例的に開催し、時宜に見合った協議議題に対し県から回答を得て、意見交換を行っている。

### (4) 新任技術者研修会の開催

会員事業所に入所した新人等を対象として、会員企業から選出されたインストラクターが講師となって、環境計量証明事業の基礎的な内容を1講義60分で6講義を行い基礎的知識の習得を図っている。

### (5) 計量法研修会の開催

計量検定所職員による研修で、環境計量証明事業に係る法令遵守のための講義と、事業所への立入調査結果による指摘事項等に基づく注意を喚起するための内容で、適正な事業の実施に役立てている。

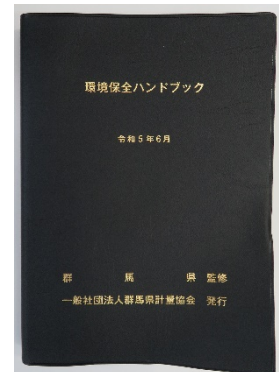
### (6) 環境白書研修会の開催

群馬県の環境実態に精通するため、毎年発行される環境白書の説明とトピックス的な話を環境森林部の関係課から説明を受け、資質向上を図っている。

## 3 取組成果

### (1) 環境保全ハンドブックの刊行

環境保全課に監修をお願いし、環境に係る基準、規制等とりまとめた「環境保全ハンドブック」平成20年度を発刊して以来、3年ごとに改訂版を発行し、環境関係事業者から大変好評を得ている。



### (2) 県との「災害時等における緊急分析の協力に関する協定」締結

近年では、自然災害は、激甚化・頻発化しており、インフラ施設の被害も増加してきており、そのような災害リスクへの対応が求められ、ハード面での取り組みに加え、ソフト面での取り組みも重要となる事例が発生している。

当会は、県土整備部と定期的に意見交換をしてきており、インフラ施設のリスク管理について協議した結果、2017年(平成29年)9月27日に下水道総合事務所との間で、災害時における水質分析に関する協定を締結した。

協定の内容は、地震等の自然災害により、県が運転管理している4つの水質浄化センター(奥利根、県央、桐生、西邑楽)における水質分析等が困難となった場合、下水道総合事務所からの協力要請に基づき、速やかに水質分析を行うものである。

### (3) 北関東三県との「災害時等における緊急分析の協力に関する協定」締結

北関東三県では、北関東三県環境測定分析機関連絡協議会を毎年持ち回りで開催し普段から交流を深めているが、2022年度(令和4年度)に開催された北関東三県環境測定分析機関連絡協議会において、当分科会からの提案で北関東三県において災害等が発生し、水質分析等実施困難な事態が生じたときには、お互いに協力しませんかとの呼び掛けをしたところ他県からも同調が得られ2023年(令和5年)9月14日に(一社)茨城県計量協会環境計量証明部会と栃木県計量協会環境計量証明部会との間で協定を締結した。

協定の内容は、地震等の自然災害等の発生により、北関東三県のいずれかの県において、水質分析等の実施困難な事態が発生した場合には、被災県以外の北関東三県環境計量証明部会等が緊急的に協力して分析を行うものである。

### (4) 前橋市 SDGs パートナー制度への登録

環境計量証明事業を通じて環境保全の監視と独自の環境美化運動を通じて快適な住みよい環境の保持を目的に、2023年度(令和5年度)からSDGsの達成に向けた活動とし

て、SDGs17の大きな目標のうち、6「水の衛生を守る」、14「海洋資源を守る」及び15「陸上資源を守る」の3つの目標に掲げ、持続可能な社会の実現を目指して活動を開始し、同年に前橋市SDGsパートナーに登録された。

#### 4 今後の環境測定分析ビジネスに向けた課題

“今日、環境基本法が1993年に制定された後、水質汚濁防止法や土壤汚染防止法、また大気汚染防止法などが相次いで改正され、日本も欧米に追随していよいよ有害化学物質に対する多項目規制の時代に突入した。かつて日本の公害防止を支えてきた民間の環境測定分析機関も、新たな環境規制や国際化の動きに伴い、環境測定分析のあり方を見直すべき大変革期を迎えたようだ。”

今後、“日本の環境測定分析ビジネスの健全な発展・拡大を期するためには、国内的には様々な課題を抱える計量法の見直し、国際的には試験所認定の国際規格などの取り入れといった時代ニーズに即した取り組みが必要となる。特に、世界に通用する環境試験・検査データを得るためには、①測定分析を行う人材のレベルや採用する測定分析手法、②利用する機械装置の検証（バリデーション）、③受け入れ設備環境の条件④試験所を運用するシステム——などが世界標準（グローバルスタンダード）に合致することなどが要求される。これらを詳細に規定する試験所の国際規格としては、ISO/IECガイド25があるが、今後はこうした国際規格に沿ったモニタリングシステムを構築していくことが、新たな環境測定分析ビジネスの一つの方向性と言えるだろう。”

#### 引用

(一社)日本環境測定分析協会 谷 學氏「これからの環境測定分析ビジネス展望」  
[https://greenblue.co.jp/cms/wp-content/uploads/2018/08/mtani\\_199810.pdf](https://greenblue.co.jp/cms/wp-content/uploads/2018/08/mtani_199810.pdf)

#### 【現在の役員】

- 会 長 青山 守( (株) 群馬分析センター)
- 副会長 佐藤弘之( (株) インフォマテックヨシヤ)  
杉山 崇(プロファ設計 (株) 環境研究所)
- 理 事 田中克佳( (株) 環境技研)、新井俊則(瑞光化学 (株) )、中野恵子  
(関東電化産業 (株) )、須藤律子( (公財) 群馬県健康づくり財団)、  
鈴木 敦( (株) エコセンター)、  
須野原 修( (一財) 群馬県薬剤師会環境衛生試験センター)
- 監 事 石塚政和( (株) 環境アシスト)、  
片亀 光( (株) 環境評価機構分析センター)

# 環境分科会のあゆみ

～ 総務企画委員会 ～

## 総務企画委員会の活動実績

### 〔委員会担当業務〕

環境分科会の事業活動に関わる総合的事項の企画立案を行う。

### 〔委員会活動記録〕

□□ 2006年度（平成18年度）事業実績 □□

- 1 北関東三県環境測定機関連絡会開催
  - ・9月8日～9日
  - ・会議、見学：群馬産業技術センター
  - ・懇親会、宿泊：ホテル一乃館（栃木県佐野市出流原町）
- 2 ぐんま環境フェスティバルを県庁で開催
  - ・10月15日
  - ・テーマ「地球温暖化防止活動の推進」
- 3 日環協関東支部主催セミナー（新潟県）
  - ・10月12日
- 4 日環協・経営セミナーin Ikaho
  - ・11月16日～17日
- 5 環境白書研修会 県庁29階295会議室で開催
  - ・11月29日
- 6 県・衛生環境研究所講演
  - ・1月26日
- 7 下水道展
  - ・テーマ「水よみがえりキャンペーン2006」
  - ・3月4日
- 8 環境分科会ホームページの開設
  - ・4月

□□ 2007年度（平成19年度）事業実績 □□

- 1 構成委員11名（◎委員長、○副）継続  
佐藤竜、佐藤修○、新井○、清水、中野、荒井、片亀、高橋、佐藤留、本嶋、星◎
- 2 ぐんま環境フェスティバル

- ・ 10月14日 群馬県庁にて開催 テーマ「3R 推進」
- 3 環境保全ハンドブックの作成
  - ・ 2,200部発行（松本印刷）
- 4 ホームページの維持管理  
(URL <http://www5.wind.ne.jp/gunkeikyo/index.html>)
  - ・ 30周年記念 CD「協会変遷」取込み
  - ・ 活動イベントカレンダー
  - ・ 各委員会の部屋（お知らせ等）
- 5 環境白書研修会
  - ・ 日時 11月27日 10:00～
  - ・ 場所 群馬県庁
- 6 計量法関係研修会
  - ・ 日時 2月27日
  - ・ 場所 計量検定所会議室
- 7 研修見学会
  - ・ 日程 10月26日～27日
  - ・ 行程 足尾、栃木方面
- 8 技術研修会新任者教育
  - ・ 日程 8月28日～29日
  - ・ 場所 計量検定所会議室
  - ・ 参加 28名
- 9 北関東3県環境測定期間連絡会議
  - ・ 日程 9月13～14日
  - ・ 場所 日立市 ホテルマグノリア
- 10 衛生環境研究所講演会  
新年交歓会と併せて開催
  - ・ 日時 1月23日
  - ・ 場所 ウェルシテイ前橋
- 11 日環協関係
  - ①関東支部環境セミナー
    - ・ 日程 6月21～22日
    - ・ 場所 神奈川県湯河原
  - ②全国環境セミナー
    - ・ 日程 11月29日～30日
    - ・ 場所 宮崎県

□□ 2008年度（平成20年度）事業実績 □□

- 1 構成委員 11名（◎委員長、○副）継続  
佐藤弘、高橋、佐藤修○、新井○、佐藤留、清水、中野、荒井、本嶋、片亀、星◎  
7回の開催（6/12、7/1、8/5、9/9、10/14、11/11、2/10）
- 2 事業内容（主な事業）
  - ①平成20年度版環境保全ハンドブックの発刊（2,200部） 4月
  - ②中堅技術者研修会として「統計解析」の研修 9月12日（27名出席）
  - ③研修見学会 埼玉県環境科学国際センター、鉄道博物館等  
・11月14、15日（16名参加）
  - ④北関東三県環境測定機関連絡会  
・栃木市 10月30日～31日（7名参加）

□□ 2009年度（平成21年度）事業実績 □□

- 1 構成委員 11名  
5回開催（6/23、8/19、9/15、11/26、2/24）
- 2 事業内容（主な事業）
  - ①環境分科会ホームページのリニューアル、更新頻度 トップページ等及び随時実施
  - ②北関東三県環境測定分析連絡会の開催（群馬県）40名参加  
・日時：10月2日～3日  
・宿泊：磯部温泉磯部館（31名）  
・見学会：世界遺産暫定リスト登録の富岡製糸場  
・講演：高専・青井先生  
・見学会（2日目）：碓氷峠鉄道文化村
  - ③ぐんま環境フェスティバルの企画  
・太田市 10月25日
  - ④環境白書研修会（環境政策課）、計量検定所講演の開催  
・11月26日及び2月19日
  - ⑤環境ハンドブックの販売（継続）  
・残30部

□□ 2010年度（平成22年度）事業実績 □□

- 1 構成委員 13名（◎委員長、○副委員長）
  - ◎星、○佐藤（修）、○佐藤（留）、佐藤（弘）、根岸、新井（宗）、清水、中野、荒井、鈴木、片亀、黒沢、高梨
- 2 委員会開催 計5回開催 6/24、8/5、9/8、11/9、2/17
- 3 事業内容
  - ①研修見学会（専務理事の歓送迎会を兼ねる）
    - ・11月19日～20日 神流川発電所、ぐんま天文台
  - ②環境分科会ホームページの運営
    - ・随時
  - ③北関東三県環境測定分析連絡会参加
    - ・10月1日～2日 ホテルグランド東雲（茨城県）
  - ④日環協・関東支部環境セミナー
    - ・7月1日～2日山梨 技術委員会が事例発表
  - ⑤群馬県環境フェスティバル
    - ・10月24日 群馬産業技術センター
  - ⑥環境白書研修会
    - ・11月26日 県庁
  - ⑦衛生環境研究所研究発表
    - ・1月21日 エテルナ高崎
  - ⑧計量法に係る研修会
    - ・2月17日 計量検定所
  - ⑨環境保全ハンドブック発刊準備
    - ・関係機関との調整、販売予約
- 4 役割分担
  - \*見学研修会:佐藤留、新井、荒井、中野
  - \*ぐんま環境フェスティバル:片亀、佐藤修、
  - \*会計:黒沢、根岸
  - \*ハンドブック:佐藤修、荒井

□□ 2011年度（平成23年度）事業実績 □□

- 1 構成委員 13名（◎委員長、○副委員長）
  - ◎佐藤（修）、○佐藤（留）、○荒井、星、中川、佐藤（弘）、清水、中野、新井、鈴木、片亀、黒沢、高梨

## 2 委員会開催

計 6 回開催 6/14、8/2、9/27、11/2、2/14、3/12

## 3 事業内容

### ①研修見学会の実施

- ・10月5日～6日
- ・⑤環境セミナーへの参加、都内見学

### ②新人技術者教育の実施

- ・11月29日参加者29名

### ③環境分科会ホームページの修正、更新

- ・随時

### ④北関東三県環境測定分析連絡会（栃木担当）参加

- ・日程 10月20日～21日
- ・場所 ツインリンクもてぎ（栃木県）

### ⑤日環協・環境セミナー全国大会参加

- ・日程 10月5日～6日
- ・場所 ホテルイースト21東京（東京都）
- ・①の見学研修会をかねて

### ⑥平成24年度日環協関東支部・環境セミナー準備

- ・日程 2012年（平成24年）7月12日～13日
- ・場所 エテルナ高崎
- 実行委員会設立で対応

### ⑦ぐんま環境フェスティバルの企画

- ・10月2日

### ⑧環境白書研修会開催

- ・11月24日

### ⑨衛生環境研究所研究発表会

- ・1月20日（新年交歓会時）

### ⑩計量検定所計量法に関する講演

- ・2月14日

### ⑪環境保全ハンドブックの発刊

- ・1,800部発刊（7月）

## 4 役割分担（上記、事業内容の番号）

①●中川、佐藤留、新井、中野、星

②●荒井、中野、（技術委員会）

③●佐藤弘、鈴木

④,⑤●星、荒井

⑥●星、浅川、中川、荒井、黒澤、  
高梨、（浄化槽・技術委員会）

⑦●佐藤修、鈴木、片亀

会計：●黒澤、高梨

⑧,⑨●清水、片亀

●：グループリーダー

⑪●佐藤修、荒井

□□ 2012年度（平成24年度）事業実績 □□

- 1 構成委員13名（◎委員長、○副委員長）  
◎佐藤（修）、○佐藤（留）、○荒井、星、中川、佐藤（弘）、新井、清水、中野、鈴木、片亀、黒澤、高梨
- 2 委員会開催  
総務企画委員会計4回開催 6/20、7/5、10/2、2/20
- 3 事業内容
  - ①研修見学会の実施  
・実施せず
  - ②技術者教育の実施  
・実施せず
  - ③環境分科会ホームページの更新  
・随時実施
  - ④北関東三県環境測定機関連絡会（群馬県担当）  
・7月13日 エテルナ高崎
  - ⑤日環協・関東支部環境セミナー in Takasaki  
・7月12日～13日 エテルナ高崎
  - ⑥ぐんま環境フェスティバルへの参画  
・11月3日 ヤマダ電機 LABI1 高崎
  - ⑦環境白書研修会開催  
・11月29日 県庁292会議室
  - ⑧衛生環境研究所講演依頼  
・1月18日 エテルナ高崎（新年会）
  - ⑨計量法に係る研修会  
・2月20日 計量検定所2F
  - ⑩環境保全ハンドブックの販売  
・随時実施
- 4 役割分担  
\*日環協・関東支部環境セミナー：浅川、星、中川、佐藤弘、荒井、黒澤、高梨、玉木

- \* ホームページ関係：佐藤弘、鈴木
- \* ぐんま環境フェスティバル関係：片亀、佐藤修
- \* 環境白書、衛生環境研究所講演依頼関係：清水、片亀
- \* 会計：黒澤      \* 日環協関係：星

□□ 2013 年度（平成 25 年度）事業実績 □□

- 1 構成委員 12 名（◎委員長、 ○副委員長）
  - ◎荒井、○清水、○鈴木、佐藤（修）、佐藤（留）、星、佐藤（弘）、新井、中野、片亀、黒澤、高梨
- 2 委員会開催
  - 総務企画委員会 計 3 回開催 7/2、10/15、2/25
- 3 事業内容
  - ①研修見学会の実施
    - ・ 7 月 18 日～19 日
    - ・ 日環協関東支部 in 福島 by 埼玉へ参加（参加者 19 名）
    - ・ 郡山ビューホテルアネックス
  - ②技術者教育の実施（新人技術者対象）
    - ・ 10 月 30 日（参加者 20 名）
  - ③環境分科会ホームページの更新
    - ・ 随時
  - ④北関東三県環境測定機関連絡会（茨城県当番）
    - ・ 9 月 5 日～6 日
    - ・ ホテルレイクビュー水戸
    - ・ 本県参加者 6 名
  - ⑤ぐんま環境フェスティバルへの参画
    - ・ 10 月 5 日 ヤマダ電機（高崎）
  - ⑥環境白書研修会開催
    - ・ 11 月 25 日 参加者 29 名
  - ⑦衛生環境研究所講演依頼
    - ・ 1 月 24 日（新年会） 参加者 33 名
  - ⑧計量法研修会
    - ・ 2 月 18 日（参加者 22 名）
  - ⑨環境保全ハンドブックの販売
    - ・ 平成 26 年度版作成準備を始める

- ・平成 23 年度版は完売
- ・買い受け希望予定数調査の結果  
26 年度版は 1,600 部発行予定

#### 4 役割分担

- \* 研修見学会：佐藤（留）・星・黒沢・高梨
- \* 新人技術者教育：荒井・中野・片亀
- \* ホームページ関係：佐藤（弘）・鈴木
- \* 北関東三県連絡会：星・高梨・黒沢
- \* ぐんま環境フェスティバル関係：佐藤（修）・鈴木・新井
- \* 環境白書、衛生環境研究所講演依頼関係：清水
- \* 環境保全ハンドブック：佐藤（修）・荒井
- \* 会計：黒澤      \* 日環協関係：浅川

#### □□ 2014 年度（平成 26 年度）事業実績 □□

- 1 構成委員 11 名（◎委員長、○副委員長） オブザーバー：浅川  
◎荒井、○清水、○鈴木、佐藤（修）、佐藤（留）、湯澤、新井、中野、  
片亀、黒澤、高梨
- 2 委員会開催  
総務企画委員会計 4 回開催 6/24、10/1、1/14、2/27
- 3 事業内容
  - ①研修見学会の実施
    - ・7 月 24 日～25 日
    - ・日環協・関東支部環境セミナー in Nagano ホテルメトロポリタン長野
    - ・参加者 17 名
  - ②新人等技術者研修会の実施
    - ・計量検定所会議室
    - ・10 月 29 日
    - ・参加者 13 名
  - ③環境分科会ホームページの更新
    - ・随時
  - ④北関東三県環境測定機関連絡会（栃木県当番）
    - ・9 月 18 日～19 日
    - ・ホテルエピナール那須
    - ・参加者 7 名

⑤ぐんま環境フェスティバルへの参画

- ・ LABI1 高崎
- ・ 9月27日
- ・ 参加者2名

⑥環境白書研修会

- ・ 県庁291会議室
- ・ 11月28日
- ・ 参加者24名

⑦新年研修会

- ・ エテルナ高崎
- ・ 1月30日
- ・ 参加者34名

⑧計量法に係る研修会

- ・ 計量検定所会議室
- ・ 2月17日
- ・ 参加者34名

⑨環境保全ハンドブック（平成26年度版）の発刊・販売

- ・ 5月発刊 1,600部（完売）

⑩県土整備部との意見交換会【新規】

- ・ 2月3日
- ・ 参加者20名
- ・ 県庁舎201会議室（建設企画課、河川課、下水環境課、前橋土木、下水道総合事務所）

4 役割分担

- \* 研修見学会：佐藤（留）・湯澤・黒澤・高梨
- \* 新人技術者教育：荒井・中野・片亀
- \* ホームページ関係：鈴木
- \* 北関東三県連絡会：湯澤・高梨・黒澤
- \* ぐんま環境フェスティバル関係：佐藤（修）・鈴木・新井
- \* 環境白書、衛生環境研究所講演依頼関係：清水
- \* 環境保全ハンドブック：佐藤（修）・荒井
- \* 会計：黒澤、 \* 日環協関係：浅川
- \* 【新規】県土整備部との意見交換会：会長・杉山・田島・事務局（木暮）

□□ 2015年度（平成27年度）事業実績 □□

- 1 構成委員 12名（◎委員長、○副委員長）
  - ◎荒井哲雄（ヤマト）、○清水則幸（健康づくり財団）、
  - 鈴木敦（エコセンター）、青山守（群馬分析センター）、
  - 新井俊則（瑞晃化学）、片亀光（環境評価機構）、
  - 黒澤文雄（アクアハイプラン）、佐藤留治（シバタ環境科学）、
  - 杉山崇（プロファ設計）、高梨正夫（浅野テクノロジー）、
  - 中野恵子（関東電化産業）、湯澤厚二（環境技研）
  - ※オブザーバー：浅川千佳夫（群馬分析センター）
- 2 委員会 5回開催（6/29、8/25、10/6、12/8、2/23）
- 3 事業内容
  - ① 日環協・関東支部環境セミナーin Yokohama（参加者4名）
    - ・7月23日～24日
    - ・「ホテル ニューグランド」にて開催、技術発表を行った。
  - ② ぐんま環境フェスティバルへの参画（参加者2名）
    - ・10月3日
    - ・ヤマダ電機（LABI1 高崎）にて開催され参加した。
  - ③ 北関東三県環境測定機関連絡会（群馬県当番）
    - ・10月15日～16日
    - ・草津温泉「ホテル一井」にて開催した。
    - ・講演会：「お天気出前講座」
    - ・講師 気象予報士（県職員）北角友和氏
    - ・視察 ハッ場ダム
    - ・参加者34名（来賓2名、茨城県4名、栃木県6名、群馬県22名）
  - ④ 環境白書研修会 参加者24名
    - ・11月17日
    - ・県庁舎292会議室にて
    - ・環境保全課及び同廃棄物・リサイクル課員を講師に開催した
  - ⑤ 新年研修会（参加者32名）
    - ・1月29日
    - ・エテルナ高崎にて開催した。
    - ・演題：「県内の水質汚濁事故について」
    - ・講師：衛生環境研究所 水環境係長 町田仁氏
    - ※終了後「新年交歓会」を開催した。
  - ⑥ 県土整備部との意見交換会（参加者20名）

- ・ 2月3日
- ・ 県庁舎 221 会議室にて理事等が出席し開催した。
- ・ 県側出席：建設企画課長、河川課長、下水環境課長、前橋土木事務所長、  
下水道総合事務所長
- ⑦ 計量法研修（参加者 29 名）
  - ・ 2月17日
  - ・ 計量検定所会議室にて
  - ・ 講師 計量検定所 壁主任
- ⑧ 「鉛等有害物を含有する塗装塗替取扱要領」等説明会（参加者 32 名）
  - ・ 3月18日
  - ・ 計量検定所会議室
  - ・ 講師 道路整備課橋梁係員
- ⑨ 環境分科会ホームページを逐次更新・管理した。

#### 4 役割分担

- \* 北関東三県連絡会【荒井、鈴木、黒澤、佐藤、高梨、中野】
- \* ぐんま環境フェスティバル関係【鈴木、新井、湯澤】
- \* 環境白書、衛生環境研究所講演依頼関係【清水、片亀】
- \* 県土整備部との意見交換会【荒井、青山、杉山、中野】  
アドバイザー：田島
- \* ホームページ関係【鈴木】
- \* 会計【黒澤】
- \* 日環協関係【浅川】

### □□ 2016 年度（平成 28 年度）事業実績 □□

- 1 構成委員 12 名（◎委員長、○副委員長）
  - ◎荒井哲雄（ヤマト）、○清水則幸（健康づくり財団）、
  - 鈴木敦（エコセンター）、青山守（群馬分析センター）、
  - 新井紀好（瑞晃化学）、片亀光（環境評価機構）、
  - 黒澤文雄（アクアハイプラン）、佐藤留治（シバタ環境科学）、
  - 杉山崇（プロファ設計）、高梨正夫（浅野テクノロジー）、
  - 中野恵子（関東電化産業）、湯澤厚二（環境技研）
  - ※オブザーバー：浅川千佳夫（群馬分析センター）
- 2 委員会開催 4 回（5/13、8/30、11/8、2/21）
- 3 事業内容

①研修見学会

- ・ 7月21日～22日
- ・ 茨城県内視察
- ・ 参加者 11名

※日環協・関東支部環境セミナーin Mito 「ホテルレイクビュー水戸」

1名技術発表

- ・ 参加者 17名

②北関東三県環境測定機関連絡会

- ・ 7月20日「ホテルレイクビュー水戸」
- ・ 参加者 9名

③ぐんま環境フェスティバル

- ・ 10月1日
- ・ 「ヤマダ電機 (LABI1 高崎)」
- ・ 参加者 2名

④新任技術者研修会

- ・ 10月27日
- ・ 「計量検定所会議室」
- ・ 参加者 25名

⑤環境白書研修会

- ・ 11月30日
- ・ 「県庁舎 294 会議室」
- ・ 参加者 28名

⑥新年研修会

- ・ 1月27日
- ・ 「エテルナ高崎」
- ・ 参加者 32名
- ・ 講師：衛生環境研究所 齋藤由倫
- ・ テーマ「環境を科学する環境教育～地方環境研究所の活用～」

※終了後 新年交歓会

- ・ 「エテルナ高崎」
- ・ 参加者 35名

⑦県土整備部との意見交換会

- ・ 2月2日
- ・ 「前橋テルサ」
- ・ 参加者 18名

※終了後 懇親会 参加者 15 名

⑧計量法研修

- ・ 2 月 15 日 (水)
- ・ 「計量検定所会議室」
- ・ 講師：計量検定所 壁俊治
- ・ 参加者 30 名

⑨環境保全ハンドブック (平成 29 年度版) の発刊準備作業

- ・ 5 月発行 1,500 部

⑩環境分科会ホームページの更新・管理

- ・ 随時

4 役割分担

- \* 研修見学会【清水、佐藤、黒澤、高梨】
- \* 技術者教育研修【荒井、片亀、中野】
- \* 北関東三県連絡会【青山、鈴木、高梨】
- \* ぐんま環境フェスティバル【新井 (紀)、湯澤】
- \* 環境白書研修会及び新年研修会 (講演依頼・調整等)【清水】
- \* 県土整備部との意見交換会 (県調整等)【荒井、青山、杉山、中野】  
※アドバイザー：田島
- \* 環境保全ハンドブック (県監修依頼・調整等)【荒井、佐藤】
- \* ホームページ更新・管理【鈴木】
- \* 会計【黒澤】
- \* 日環協関係【浅川】

□□ 2017 年度 (平成 29 年度) 事業実績 □□

1 構成委員 12 名 (◎委員長 ○副委員長)

◎鈴木敦 (エコセンター)、○青山守 (群馬分析センター)、  
○清水則幸 (健康づくり財団)、荒井哲雄 (ヤマト)、新井紀好 (瑞晃化学)、  
片亀光 (環境評価機構)、佐藤留治 (シバタ環境科学)、  
杉山崇 (プロファ設計)、高梨正夫 (浅野テクノロジー)、  
中野恵子 (関東電化産業)、小見明 (環境技研)、

アドバイザー：田島和明 (環境技研)

※オブザーバー：浅川千佳夫 (群馬分析センター)

2 委員会開催 5 回 (7/26、8/29、11/7、1/26、3/2)

3 事業内容

- ①研修見学会（環境セミナー参加兼ねる）
- ・10月12日～13日
  - ・参加者17名
- ※日環協環境セミナー全国大会（関東支部）in 千葉  
[於：TKP ガーデンシティ千葉]
- ②北関東環境測定分析機関連絡協議会
- ・9月21日～22日 [ホテルマイステイズ宇都宮]
  - ・参加者10名
- ③ぐんま環境フェスティバル
- ・9月30日 [ヤマダ電機 LABI1 高崎]
  - ・参加者2名
- ④環境白書研修会
- ・11月30日 [県庁 295 会議室]
  - ・参加者26名
- ⑤新年研修会
- ・1月26日 [エテルナ高崎]
  - ・参加者30名
- ※新年交歓会
- ・参加者33名
- ⑥県との意見交換会
- (1) 環境森林部【新規】
- ・6月15日 [県庁 161 会議室]
  - ・参加者20名
- (2) 県土整備部
- ・2月2日 [前橋テルサ（終了後懇親会）]
  - ・参加者18名
- ⑦計量法研修
- ・2月15日 [計量検定所 2 階会議室]
  - ・参加者25名
- ⑧環境保全ハンドブック（平成 29 年版）
- ・6月発行 1,500 冊
  - ・売却残 189 冊（松本印刷寄贈分 40 含む）
- ⑨環境分科会ホームページの更新・管理
- ・随時行う。
- ⑩新任技術者研修会「中堅技術者」【新規】

・11月18日〔産業技術センター〕

・参加者19名

#### 4 役割分担

\*研修見学会【清水、佐藤、高梨】

\*北関東環境測定分析機関連絡協議会【青山、鈴木、高梨】

\*ぐんま環境フェスティバル【新井（紀）、小見】

\*環境白書研修会及び新年研修会（講演依頼・調整等）【清水】

\*県土整備部との意見交換会【青山、鈴木、杉山、中野】

※アドバイザー：田島

\*ホームページ更新・管理【事務局】

\*会計【事務局】

\*日環協関係【浅川】

\*【新規】新任技術者研修会「中堅技術者」【荒井、片亀、中野】

\*【新規】環境森林部との意見交換会【青山、鈴木、杉山、中野】

※アドバイザー：田島

### □□ 2018年度（平成30年度）事業実績 □□

#### 1 構成委員（オブザーバー含む）11名（◎委員長、○副委員長）

◎鈴木敦（エコセンター）、○青山守（群馬分析センター）、  
○小見明（環境技研）、荒井哲雄（ヤマト）、新井紀好（瑞晃化学）、  
片亀光（環境評価機構）、佐藤留治（シバタ環境科学）、  
清水則幸（健康づくり財団）、杉山崇（プロファ設計）、  
中野恵子（関東電化産業）

※オブザーバー：浅川千佳夫（群馬分析センター）

※県との意見交換会アドバイザー：須野原修（薬剤師会）

#### 2 委員会開催 5回 6/18、7/31、9/5、11/28、3/14

#### 3 事業内容

##### ①日環協・関東支部環境セミナーin新潟

・参加者8名

・7月19日（木）～20日

「ANAクラウンプラザホテル」（技術発表1名、座長1名含）

##### ②北関東環境測定分析機関連絡協議会（当番）

・参加者（会議）41名

・9月13日～14日〔ホテルグランビュー高崎〕

(内会員 25 名)

③ぐんま環境フェスティバル

・ 10 月 13 日 [ヤマダ電機 LABI1 高崎]

・ 参加者 2 名

④環境白書研修会

・ 11 月 30 日 [県庁ビジターセンター]

・ 参加者 27 名

⑤新年研修会

・ 1 月 25 日 [ホテルラシーネ]

・ 参加者 32 名

※終了後「新年交歓会」

・ 参加者 (来賓 4 名含) 36 名

⑥群馬県との意見交換会

(1) 環境森林部

・ 10 月 22 日 [県庁 161 会議室]

・ 参加者 (県 7 名・理事等 12 名) 19 名

(2) 県土整備部

・ 2 月 8 日 [前橋テルサ] (懇親会有)

・ 参加者 (県 6 名・理事等 12 名) 18 名

⑦計量法研修

・ 2 月 14 日 [計量検定所会議室]

・ 参加者 24 名

⑧環境分科会ホームページの更新・管理

・ 随時行う。

4 役割分担

\* 日環協・関東支部環境セミナー【中野】

\* 北関東環境測定分析機関連絡協議会【青山、鈴木、小見、片亀、佐藤】

\* ぐんま環境フェスティバル【新井 (紀)、荒井】

\* 環境白書研修会、新年研修会 (講演依頼・調整等)【清水】

\* 群馬県との意見交換会 (県土整備部、環境森林部)【青山、鈴木、杉山、中野】

※県との意見交換会【アドバイザー：須野原】

\* ホームページ更新、管理【事務局】

\* 会計【事務局】

\* 日環協関係【浅川】

□□ 2019 年度（令和元年度）事業実績 □□

- 1 構成委員（オブザーバー及びアドバイザー含む）12名（◎委員長、○副委員長）  
◎鈴木敦（エコセンター）、○青山守（群馬分析）、○小見明（環境技研）、  
荒井哲雄（ヤマト）、新井紀好（瑞晃化学）、片亀光（環境評価）、  
佐藤留治（シバタ環境）、高橋昭統（健康づくり）、杉山崇（プロファ設計）、  
中野恵子（関東電化）  
※オブザーバー：浅川千佳夫（群馬分析）  
※アドバイザー：須野原修（薬剤師会）
- 2 委員会開催 5回 7/24、8/21、10/30、12/19、3/19
- 3 事業内容
  - ①日環協関連事業【新規】
    - ・日環協・関東支部共催経営セミナー全国大会 in 東京ベイエリア by 竹芝
    - ・参加者 1 名
    - ・11月7日～8日場所「アジュール竹芝」
  - ②新任技術者研修会
    - ・11月12日
    - ・場所「計量検定所会議室」
    - ・受講者 22 名
  - ③北関東環境測定分析機関連絡協議会（茨城県当番）
    - ・9月12日～13日
    - ・場所 茨城県「国民宿舎 鶴の岬」
    - ・参加者 11 名
  - ④ぐんま環境フェスティバルへの参画
    - ・10月5日
    - ・場所「LABI1 高崎」
    - ・参加者 2 名
  - ⑤環境白書研修会
    - ・11月14日
    - ・場所「県庁 222 会議室」
    - ・参加者 27 名
  - ⑥新年研修会（新年交歓会時開催） 講師：衛生環境研究所 田子博様
    - ・1月24日
    - ・場所「エテルナ高崎」
    - ・参加者 31 名

⑦群馬県との意見交換会

(1) 森林環境部

- ・ 11月26日
- ・ 場所「県庁161会議室」
- ・ 県及び理事等 参加者18名

(2) 県土整備部（終了後懇親会）

- ・ 2月7日
- ・ 場所「前橋テルサ」
- ・ 県及び理事等 参加者18名

⑧計量法研修

- ・ 場所「計量検定所会議室」
- ・ 2月13日
- ・ 参加者28名

⑨環境保全ハンドブック（令和2年版）の発刊準備

- ・ 12月～3月 編集作業
- ・ 12月下旬～予約取り纏め作業
- ・ 発行予定6月 1,400冊
- ・ 販売価格 会員2,300円 一般3,000円

⑩ 環境分科会ホームページの更新・管理 事務局にて随時行う。

4 役割分担

- \* 日環協関連事業【青山、新井（紀）】
- \* 新任技術者研修会【荒井、片亀、中野】
- \* 北関東環境測定分関機関絡協議会【青山、鈴木、佐藤】
- \* ぐんま環境フェスティバル【新井（紀）、小見】
- \* 白書研修会及び新年研修会（県講演依頼・調整等）【高橋】
- \* 群馬県との意見交換会（県調整等）【青山、杉山、中野】  
※アドバイザー：須野原
- \* 環境保全ハンドブック（県監修依頼・調整等）【小見、鈴木】
- \* 会計及びホームページ更新管理【事務局】
- \* 日環協担当理事【浅川】

□□ 2020年度（令和2年度）事業実績 □□

- 1 構成委員（アドバイザー含む）11名（◎委員長、○副委員長）  
◎鈴木敦（エコセンター）、○小見明（環境技研）、

関根友規（群馬分析）、荒井哲雄（ヤマト）、新井紀好（瑞晃化学）、  
片亀光（環境評価）、佐藤留治（シバタ環境）、高橋昭統（健康づくり）、  
杉山崇（プロファ設計）、中野恵子（関東電化）

※アドバイザー：須野原修（薬剤師会）

## 2 委員会開催

- ・ 第1回 6/18（書面決議）
- ・ 第2回 9/24（Web会議）
- ・ 第3回 3/18（Web会議）

## 3 事業内容

※コロナ禍のため、開催の是非等実務判断は「総務企画委員会」にて協議、特に県等第三者と調整を要する事業は、当該関係機関の意向を踏まえたうえで判断した。

### ①日環協関連事業

- ・ 環協関東支部セミナー【中止】  
（9月17日 13:30～宇都宮）

### ②北関東環境測定分析機関連絡協議会【中止】

（9月18日 10:00～宇都宮）

### ③新任技術者研修会【会員の講師による研修会は中止】

- ・ 日環協本部主催
- ・ 2月3日、8日          オンライン開催    1名参加
- ・ 日環協関東支部共催
- ・ 3月15日          オンライン開催    15名参加

### ④研修見学会（令元総会「セミナーと分離」3年毎開催）【中止】

### ⑤ぐんま環境フェスティバルへの参画【中止】

（10月）

### ⑥環境白書研修会【中止】

- ・ 県から資料提供：会員配布  
（11月）

### ⑦新年研修会（新年交歓会時開催）【中止】

- ・ 衛生環境研究所から資料提供：会員配布  
（1月）

### ⑧群馬県との意見交換会

- (1) 環境森林部【中止】  
・ 県から資料提供：会員配布  
（11月）
- (2) 県土整備部【中止】

- ・ 県から情報提供：会員周知  
(2月)
- (3) 県土整備部への要望  
2月10日
- ・ 災害レジリエンスにおける「お願い」を清水技監あて青山会長名で書面に  
て要望。県から書面にて回答があり、理解を得た
- ⑨計量法研修【中止】
  - ・ 計量検定所から資料提供：会員配布  
(2月)
- ⑩環境保全ハンドブック（令和2年版）
  - ・ 1,400+20冊 6月発刊  
【販売済1,344冊（残76冊）】
  - ・ 価格（消費税含） 会員2,300円 一般3,000円
- ⑪環境分科会ホームページの更新・管理
  - ・ 事務局にて随時更新
- ⑫下水道総合事務所との災害緊急机上訓練【中止】

#### 4 役割分担

- \* 日環協関連事業【関根】
- \* 新任技術者研修会【荒井、片亀、中野】
- \* 研修見学会【鈴木、新井（紀）、佐藤】
- \* 北関東環境測定分関機関絡協議会【小見、関根（暫定）、鈴木、佐藤】
- \* ぐんま環境フェスティバル【新井（紀）、小見】
- \* 環境白書研修会及び新年研修会（県講演依頼・調整等）【高橋】
- \* 群馬県との意見交換会（県調整等）【杉山、鈴木、関根】
  - ※アドバイザー：須野原
- \* ホームページ更新・管理【事務局】
- \* 会計【事務局】
- \* 日環協理担当理事【中野】
  - ※下水道総合事務所との災害緊急訓練【関根】

□□ 2021年度（令和3年度）事業実績 □□

- 1 構成委員（アドバイザー含む）11名（◎委員長、○副委員長）  
◎鈴木敦（エコセンター）、○小見明（環境技研）、

関根友規（群馬分析）、荒井哲雄（ヤマト）、新井紀好（瑞晃化学）、  
片亀光（環境評価）、佐藤留治（シバタ環境）、牟田恵理子（健康づくり）、  
杉山崇（プロファ設計）、中野恵子（関東電化）

※アドバイザー：須野原修（薬剤師会）、オブザーバー青山会長

## 2 委員会開催

- ・第1回 6/16（Web会議）
- ・第2回 9/1（Web会議）
- ・第3回 12/8（Web会議）
- ・第4回 3/16（Web会議）

## 3 事業内容

### ①日環協関連事業

- ・日環協関東支部セミナー  
9年16日（Web開催）

### ②北関東環境測定分析機関連絡協議会【中止】

（9月17日予定）

### ③研修見学会【中止】

（「セミナーと分離」3年毎開催）

### ④ぐんま環境フェスティバルへの参画【中止】

### ⑤環境白書研修会

- ・11月24日
- ・県庁2階「ビジターセンター」

### ⑥群馬県との意見交換会

#### (1) 県土整備部

- ・10月28日
- ・県庁292会議室（5議題）

#### (2) 環境森林部

- ・11月24日
- ・県庁295会議室（4議題）

### ⑦新年研修会（新年交歓会時開催）【中止】

### ⑧計量法に係る研修

- ・2月17日
- ・リモート開催21名

### ⑨環境分科会ホームページのリニューアル

- ・2月17日 運用開始

### ⑩新任技術者研修会（日環協関東支部共催）

- ・2月22日
- ・リモート開催29名参加

①下水道総合事務所との災害緊急訓練

- ・2月24日
- ・机上訓練実施

4 役割分担

- \*日環協関連事業【関根】
- \*新任技術者研修会【荒井、片亀、中野】
- \*研修見学会【鈴木、新井（紀）、佐藤】
- \*北関東環境測定分関機関絡協議会【小見、関根、鈴木、佐藤】
- \*ぐんま環境フェスティバル【新井（紀）、小見】
- \*環境白書研修会及び新年研修会（県講演依頼・調整等）【牟田】
- \*群馬県との意見交換会（県調整等）【杉山、鈴木、関根】  
※アドバイザー：須野原
- \*下水道総合事務所との災害緊急訓練【関根】
- \*ホームページリニューアル【佐藤、鈴木、事務局鈴木】
- \*ホームページ更新・管理【事務局】
- \*会計【事務局】
- \*日環協理担当理事【中野】

□□ 2022年度（令和4年度）事業実績 □□

1 構成委員（アドバイザー含む）11名（◎委員長、○副委員長）

- ◎鈴木敦（エコセンター）、○小見明（環境技研）、  
関根友規（群馬分析）、荒井哲雄（ヤマト）、新井紀好（瑞晃化学）、  
片亀光（環境評価）、佐藤留治（シバタ環境）、  
牟田恵理子（健康づくり）、杉山崇（プロファ設計）、  
中野恵子（関東電化）

アドバイザー：須野原修（薬剤師会）、オブザーバー青山会長、佐藤副会長

2 委員会開催

- ・1回 6/13（Web会議）
- ・2回 8/25（Web会議）
- ・第3回 12/7（Web会議）
- ・第4回 3/17（Web会議）

3 業内容

①日環協関係

- (1) 日環協関東支部大会（不参加）
- ・2月24日
- (2) 日環協・環境セミナー全国大会 in 京都

- ・ 10月6日～7日 技術委員会研究成果ビデオ発表
- ②北関東環境測定分析機関連絡協議会
  - ・ 9月15日 ホテルマイステイズ宇都宮 6名
  - ・ 「北関東三県災害時応援協定協議」
- ③ぐんま環境フェスティバルへの参画
  - ・ 2月18～19日
  - ・ Gメッセ
- ④群馬県との意見交換会
  - (1) 県土整備部
    - ・ 11月8日
    - ・ 群馬ロイヤルホテル (4議題)
  - (2) 環境森林部
    - ・ 11月1日
    - ・ 県庁30階「セミナールーム」(3議題)
- ⑤環境白書研修会
  - ・ 11月1日
  - ・ 県庁30階「セミナールーム」
  - ・ 26名参加
- ⑥下水道総合事務所との災害緊急訓練
  - ・ 下水道総合事務所の都合で中止
- ⑦新年研修会 (新年交歓会時開催)
  - ・ 1月27日
  - ・ エテルナ高崎
- ⑧計量法に係る研修会
  - ・ 2月15日
  - ・ ハイブリット開催 31名参加
- ⑨新任技術者研修会 (動画作成検討含む)
  - ・ 2月7日
  - ・ ハイブリット開催 45名参加
- ⑩環境ハンドブック販売
  - ・ 校正済みで6月に販売予定
- ⑪環境分科会ホームページの更新・管理
  - ・ 坂野事務所へ委託
- ⑫研修見学会【中止】
- ⑬講習会「業務に関する情報セキュリティについて」

- ・講演会と座談会
- ・7月11日
- ・講師：弁護士 村上大樹
- ⑭ICT推進（セキュリティ対策、Web配信会議等）
- ・HPにトピックス随時更新

#### 4 役割分担

- \*日環協関連事業・日環協担当理事【中野】
- \*新任技術者研修会【荒井、片亀、中野】
- \*研修見学会【鈴木、新井（紀）、佐藤】
- \*北関東環境測定分関機関絡協議会【小見、関根、鈴木、佐藤】
- \*ぐんま環境フェスティバル【新井（紀）、小見】
- \*白書研修会及び新年研修会（県講演依頼・調整等）【牟田】
- \*群馬県との意見交換会（県調整等）【杉山、鈴木、関根】
- ※アドバイザー：須野原
- \*下水道総合事務所との災害訓練【関根】
- \*ICT推進【佐藤、鈴木、事務局】
- \*会計【事務局】

### □□ 2023年度（令和5年度）事業実績 □□

- 1 構成委員（アドバイザー含む）13名（◎委員長、○副委員長）  
◎鈴木敦（エコセンター）、○小見明（環境技研）、  
関根友規（群馬分析）、新井紀好（瑞晃化学）、片亀光（環境評価）、  
佐藤留治（シバタ環境）、牟田恵理子（健康づくり）、  
中野恵子（関東電化）、杉山崇（プロファ設計）、川端洋之進（ヤマト）  
※アドバイザー：須野原修（薬剤師会）、オブザーバー青山会長、佐藤副会長
- 2 委員会開催
  - ・第1回 6/12（Web会議）
  - ・第2回 9/7（Web会議）
  - ・第3回 12/11（Web会議）
  - ・第4回 3/29（Web会議）
- 3 事業内容
  - ①日環協関係
    - ・日環協関東支部大会（休止）
    - ・日環協・環境セミナー全国大会 in ふじのくに（不参加）  
10月19日～20日
  - ②北関東環境測定分析機関連絡協議会

- ・ 9月14日～15日
- ・ 高崎ワシントンホテルプラザにて開催
- ・ 北関東三県災害時緊急分析協定を締結
- ③ぐんま環境フェスティバルへの参画
  - ・ 12月9日
  - ・ 県庁1階県民ホール
- ④群馬県との意見交換会
  - (1) 県土整備部
    - ・ 8月22日
    - ・ 群馬ロイヤルホテル（4議題）
  - (2) 環境森林部
    - ・ 12月8日
    - ・ 県庁18階181会議室（6議題）
- ⑤環境白書研修会
  - ・ 11月8日
  - ・ 県庁2階「ビジターセンター」
  - ・ 35名参加
- ⑥下水道総合事務所との災害緊急訓練
  - ・ 下水道総合事務所と机上訓練実施
  - ・ 12月14日
- ⑦新年研修会（新年交歓会時開催）
  - ・ 2024年（令和6年）令和6年1月26日
  - ・ エテルナ高崎にて開催
  - ・ 衛生環境研究所講演 29名参加
- 「尾瀬沼における環境DNAを用いた魚類調査手法の検討」講師：太田主席研究員
- ⑧計量法に係る研修会
  - ・ 2月22日
  - ・ オンライン開催（36名参加）
- ⑨新任技術者研修会（動画作成検討含む）
  - ・ 北関東三県当番県の時は休止
- ⑩環境ハンドブック販売
  - ・ 令和5年度改訂版を6月に販売
- ⑪環境分科会ホームページの更新・管理
  - ・ 坂野事務所へ委託
- ⑫研修見学会【中止】

⑬講習会「業務に関する情報セキュリティについて」【中止】

⑭ICT 推進（セキュリティ対策、Web 配信会議等）

・ 随時実施

⑮SDGs への参画

・ 前橋市 SDGs パートナーに登録

・ 環境美化運動実施

10月31日

前橋市嶺公園内公道にて実施

#### 4 役割分担

\* 日環協関連事業・日環協担当理事【中野】

\* 新任技術者研修会【荒井、片亀、中野】

\* 研修見学会【鈴木、新井（紀）、佐藤】

\* 北関東環境測定分関機関絡協議会【小見、関根、鈴木、佐藤】

\* ぐんま環境フェスティバル【新井（紀）、小見】

\* 環境白書研修会及び新年研修会（県講演依頼・調整等）【牟田】

\* 群馬県との意見交換会（県調整等）【杉山、鈴木、関根】

※アドバイザー：須野原

\* 下水道総合事務所との災害訓練【関根】

\* ICT 推進【佐藤、鈴木、事務局】

\* 会計【事務局】

□□ 2024 年度（令和 6 年度）事業実績 □□

#### 1 構成委員（アドバイザー含む）13 名（◎委員長、○副委員長）

◎鈴木敦（エコセンター）、○小見明（環境技研）、

関根友規（群馬分析）、新井紀好（瑞晃化学）、片亀光（環境評価）、

佐藤留治（シバタ環境）、牟田恵理子（健康づくり）、

中野恵子（関東電化）、杉山崇（プロファ設計）、

川端洋之進（大和分析）、和田英雄（本庄分析）

※アドバイザー：須野原修（薬剤師会） オブザーバー：青山会長

下部組織【SDGs 環境委員会設立準備グループ構成メンバー10 名】

◎和田英雄（本庄分析）、○新井由雄（アライ計量）、

○片亀 光（環境評価）、栞原 繁和（パリノサーヴィエイ）、

尾崎 剛（総合環境）、高木 厚（ミツバ環境）、和田尚人（本庄分析）、

木元英哉（プロファ設計）、松本彰平（食環境）、野田 猛（江東微生物）

2 委員会開催 ・第1回 6/24（Web 会議）

3 事業内容

- ①日環協関東支部大会（環境セミナー全国大会 IN かながわ開催のため休止）
- ②北関東環境測定分析機関連絡協議会 9月12日～13日  
レイクビュー水戸にて開催
- ③ぐんま環境フェスティバルへの参画 11月16日  
県庁1階県民ホール
- ④群馬県との意見交換会  
・県土整備部 8月27日 県庁201会議室で開催（4議題）  
・環境森林部 11月8日 県庁ビジターセンター（8議題）
- ⑤環境白書研修会 11月8日  
県庁ビジターセンター（27名参加）
- ⑥下水道総合事務所との災害緊急訓練  
下水道総合事務所の都合により休止
- ⑦新年研修会（新年交歓会時開催） 1月24日  
エテルナ高崎にて開催  
（演題）「気候変動の影響とその適応 ～群馬県の暑さはどれくらい危険か～」  
（講師）衛生環境研究所主任研究員兼大気環境係長 熊谷 貴美代氏
- ⑧計量法研修 2月25日 オンライン開催（28名参加）
- ⑨技術者研修会（動画作成検討含む） 2月7日 オンライン開催（49名参加）
- ⑩環境分科会ホームページの更新・管理 外部委託
- ⑪環境美化運動 10月16日 高崎駅西口周辺にて実施
- ⑫研修見学会 中止
- ⑬講演会の開催 中止
- ⑭埼玉県環境計量連絡協議会との意見交換会 11月29日  
塚越屋七兵衛（5名参加）

4 役割分担

- \* 日環協関連事業・日環協関東支部担当【中野】
- \* 新任技術者研修会【片亀、中野、川端】
- \* 研修見学会【鈴木、新井（紀）、佐藤】
- \* 北関東環境測定分関機関連絡協議会【小見、関根、鈴木、佐藤】
- \* ぐんま環境フェスティバル【新井（紀）、小見】
- \* 環境白書研修会及び新年研修会（県講演依頼・調整等）【牟田】
- \* 群馬県との意見交換会（県調整等）【杉山、鈴木、関根】

※アドバイザー：須野原

\* 下水道総合事務所との災害訓練【関根】

\* SDGs 環境設立準備グループの協議進捗状況報告【和田】

\* 会計【事務局】

□□ 2025 年度（令和 7 年度）事業実績 □□

1 構成委員（アドバイザー含む）13 名（◎委員長、○副委員長）

◎鈴木敦（エコセンター）、○小見明（環境技研）、関根友規（群馬分析）、  
新井紀好（瑞晃化学）、片亀光（環境評価）、佐藤留治（シバタ環境）、  
牟田恵理子（健康づくり）、中野恵子（関東電化）、  
杉山崇（プロファ設計）、川端洋之進（大和分析）、和田英雄（本庄分析）  
※アドバイザー：須野原修（薬剤師会） オブザーバー：青山会長

下部組織 SDGs 環境委員会設立準備グループ構成メンバー10 名】

◎和田英雄（本庄分析）、○新井由雄（アライ計量）、  
○片亀光（環境評価）、榎原繁和（パリノサーヴィエイ）、  
尾崎剛（総合環境）、高木厚（ミツバ環境）、和田尚人（本庄分析）、  
木元英哉（プロファ設計）、松本彰平（食環境）、野田猛（江東微生物）

- 2 委員会開催 ・第 1 回 12/10（計量検定所会議室）  
・第 2 回 3/27（くいもの屋わん）

3 事業内容

①日環協関東支部大会

②北関東環境測定分析機関連絡協議会

9 月 11 日～12 日 ホテルマイステイズ宇都宮にて開催

③ぐんま環境フェスティバルへの参画 11 月 15 日

県庁 1 階県民ホール

④群馬県との意見交換会

(1) 県土整備部

・10 月 27 日

・県庁 201 会議室で開催（4 議題）

(2) 環境森林部

・10 月 31 日

・県庁ビジターセンター（7 議題）

⑤環境白書研修会

- ・ 10月31日
- ・ 県庁ビジターセンター（27名参加）
- ⑥下水道総合事務所との災害緊急訓練
  - ・ 下水道総合事務所の都合により休止
- ⑦新年研修会（新年交歓会時開催）
  - ・ 1月24日
  - ・ エテルナ高崎にて開催
  - （演題）「マイクロプラスチック調査について」
  - （講師）衛生環境研究所主任研究員兼水環境係長 太田 正徳氏
- ⑧計量法に係る研修会
  - ・ 2月24日
  - ・ オンライン開催（31名参加）
- ⑨新任技術者研修会（動画作成検討含む）
  - ・ 2月4日
  - ・ オンライン開催（32名参加）
- ⑩環境分科会ホームページの更新・管理 外部委託
- ⑪環境美化運動 10月7日 前橋市上沖町周辺にて道路清掃
- ⑫研修見学会 中止
- ⑬講演会の開催 中止

#### 4 役割分担

- \* 日環協関連事業・日環協関東支部担当【中野】
- \* 新任技術者研修会【片亀、中野、川端】
- \* 研修見学会【鈴木、新井（紀）、佐藤】
- \* 北関東環境測定分関機関絡協議会【小見、関根、鈴木、佐藤】
- \* ぐんま環境フェスティバル【新井（紀）、小見】
- \* 環境白書研修会及び新年研修会（県講演依頼・調整等）【牟田】
- \* 群馬県との意見交換会（県調整等）【杉山、鈴木、関根】
- ※アドバイザー：須野原
- \* 下水道総合事務所との災害訓練【関根】
- \* SDGs 環境設立準備グループの協議進捗状況報告【和田】
- \* 会計【事務局】

令和7年度 総務企画委員会（12社12名）

	<p>委員長 （株）エコセンター 鈴木 敦</p> <p>2017年より総務企画委員の委員長を拝命し、環境分科会に携わる業務の進行やイベントの企画・運営等を担当させていただいてまいりました。早いもので、次年度には節目となる10年目を迎えようとしておりますが、これもひとえに総務企画委員の皆様のお力添えによるものと心より感謝申し上げます。誠にありがとうございます。今後も環境分科会のさらなる発展のため、微力ながら尽力してまいりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。</p>
	<p>副委員長 （株）環境技研 茂木 謙和</p> <p>昨年途中から小見前副委員長の後を引き継ぎ、副委員長を務めさせていただいております。何も分からない状態からのスタートでしたが、鈴木委員長のご指導と皆さまのご支援に支えられ、なんとか本年度の務めを果たすことができました。今後も微力ながら環境分科会の発展に寄与できますよう、引き続き精進してまいります。何卒よろしくお願い申し上げます。</p>
	<p>委員 （株）群馬分析センター 関根 友規</p> <p>記念すべき50周年の年に委員として参加できたことを光栄に思います。これまで支えてこられた諸先輩方の思いを大切にしながら、次の世代につなげていきたいと思っております。</p>
	<p>委員 瑞晃化学（株） 新井 紀好</p> <p>環境分科会創立50周年誠におめでとうございます。総務企画に参加して10年経ちました。北関東三県連絡会や研修見学会、環境フェスティバルなどにも参加し環境について考えるよい経験ができました。これまで何とか続ける事ができたのは支えてくれた皆様のおかげと大変感謝しています。これからもよろしくお願い致します。</p>
	<p>委員 シバタ環境科学（株） 佐藤 留治</p> <p>各委員の皆様と創立50周年を迎えることができ感無量です。人生100年の時代ですが、当環境分科会も次の50年先を見据えて益々発展していくことを願うと共に微力ながら尽力致します。</p>
	<p>委員 （公財）群馬県健康づくり財団 牟田 恵理子</p> <p>創立50周年、心よりお慶び申し上げます。総務企画委員会の一員として、本会が歩んできた50年の軌跡を誇らしく感じております。企画の仕事を通じ、環境計量を支える確かな技術と会員の絆の強さを改めて学びました。これからも協会の目的である社会環境の保全と文化向上のため、皆様と共に一歩ずつ歩んでまいります。</p>

	<p>委員 関東電化産業（株） 中野 恵子</p> <p>50周年を迎え、振り返ってみますと私自身はその後半の25年程度、微力ながら本委員会に関わらせていただきました。地域の環境保全から地球規模の環境問題、新任者教育等様々なテーマで研修会他の企画をし、多くの方にご参加をいただきました。感謝申し上げます。今後とも皆様のご支援ご協力をいただきながら精進してまいります。</p>
	<p>委員 （株）ヤマト大和分析センター 川端 洋之進</p> <p>委員会活動を通じて、環境保全や水質改善活動に携われることに感謝と喜びを感じています。この50年間に築かれた一つ一つの努力の積み重ねと対話の継続が、委員会活動を支える「根」であり土台となっているのではないかと思います。思いを巡らせています。</p>
	<p>委員 （株）本庄分析センター 伊勢崎事業所 和田 英雄</p> <p>2024年度SDGs環境委員会設立準備グループ、2025年度SDGs環境ワーキンググループのグループ長として参加させていただきました。そして総務企画委員会の皆様には、環境委員会として新たなスタートを、後押しして頂きました。鈴木委員長初め会員の皆様には、感謝の気持ちでいっぱいです。</p>
	<p>委員 （株）環境評価機構分析センター 片亀 光</p> <p>環境白書研修や県との意見交換会、北関東3県連絡協議会など、貴重な情報・意見交換の場に参画・参加させていただき、感謝しております。新任者研修も担当しましたが、テキストの内容を十分掘り下げることができず、反省しております。</p>
	<p>委員 プロファ設計（株） 杉山 崇</p> <p>50周年を迎えることができまして、歴代委員の皆様の献身的なご尽力と、関係各位の温かいご支援の賜物と、心より感謝申し上げます。次の半世紀に向けても、これまで培った経験と信頼を礎に、さらなる発展を目指してまいります。</p>
	<p>（一財）群馬県薬剤師会環境衛生試験センター 須野原 修</p> <p>創立50周年おめでとうございます。私どもセンターも創立50周年を契機に令和5年4月から一般財団法人として新たな一歩を踏み出しました。今後とも環境分析を通じて、地域社会に貢献できるよう、環境分科会の皆様と共に歩んでいきたいと思っております。</p>

# 環境分科会のあゆみ

～ 技術委員会 ～

## 技術委員会運営の概略

委員会は、委員長1名、副委員長2名で構成し当番制により運営する。副委員長を2年間務めた者が次年度の委員長に就任する。

次年度のテーマとして、3月開催の委員会に次年度委員長より最近の環境に関するテーマ案を選出し、委員会で選考し、5月の総会時に発表を行う。

委員会は年8回程度開催し、試料配布、分析結果等のまとめ・整理、および情報交換を行う。

委員会は計量協会2階会議室、若しくはオンライン方式で行う。

成果品として当年度の結果等をA4判にまとめ（10枚以上になる場合あり）、次年度総会時に披露する。

成果品は、一般社団法人日本環境測定分析協会主催の発表会に、北関東代表として発表する機会がある。

本記念誌への連載において、30周年以降の2005年度（平成17年度）から2025年度（令和7年度）までの21年間の成果品を、年度ごとにA4判1枚にまとめて作成しました。

## 各年度技術委員会活動テーマ

- 2005年度（平成17年度）：ISO/IEC 17025 試験所認定制度の概略 (株) 環境分析センター
- 2006年度（平成18年度）：分析展、関東化学（株）見学会 (株) 不二ケミカル  
目次のみ 委員長 下山 裕
- 2007年度（平成19年度）：水中の重金属及び陰イオン分析行動実験 (株) 環境アシスト
- 2008年度（平成20年度）：ふっ素化合物の分析方法相違による (株) ミツバ環境分析リサーチ  
分析値比較 【現 (株) ミツバ環境ソリューション】
- 2009年度（平成21年度）：水質試料の保存安定性についての共同実験 プロファ設計 (株) 環境研究所
- 2010年度（平成22年度）：水質試料の経時変化 関東電化産業 (株)
- 2011年度（平成23年度）：環境水中のカドミウムについての共同実験 (株) 群馬県臨床検査センター
- 2012年度（平成24年度）：放射線・放射能についての情報整理 (公財) 群馬県環境検査事業団  
目次のみ 委員長 玉木 哲也
- 2013年度（平成25年度）：産廃に含まれる金属の新たな検定法クロスチェック (株) 不二ケミカル
- 2014年度（平成26年度）：水試料中のセレンに関する共同実験 (株) 環境技研
- 2015年度（平成27年度）：水試料中の六価クロムに関する共同実験 パリノ・サーヴェイ (株)
- 2016年度（平成28年度）：水試料中の砒素に関する共同実験 (株) 群馬分析センター
- 2017年度（平成29年度）：ほう素のメモリー効果に関する共同実験 関東電化産業 (株)
- 2018年度（平成30年度）：ヘキサン抽出物質の経時変化に関する共同実験 (株) 総合環境分析
- 2019年度（令和元年度）：鉍物油におけるn-ヘキサン回収率共同実験に関する共同実験  
(一社) 群馬県薬剤師会環境衛生試験センター  
【現 (一財) 群馬県薬剤師会環境衛生試験センター】
- 2020年度（令和2年度）：流れ分析と手分析による比較共同実験 (株) ヤマト大和分析センター
- 2021年度（令和3年度）：ナトリウムイオン (Na<sup>+</sup>) 濃度測定に 東芝環境ソリューション (株)  
おけるAAS、IC、ICPの比較評価を行う共同実験 北関東分析センター
- 2022年度（令和4年度）：水質汚濁に係る環境基準の見直しによる六価クロムの (株) 環境分析センター  
定量下限値確認について共同実験
- 2023年度（令和5年度）：硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素の試料安定性・保存性 (株) 環境アシスト  
確認の共同実験
- 2024年度（令和6年度）：過去19年の活動報告資料まとめ 技術委員会全企業
- 2025年度（令和7年度）：土粒子粒径の違いによるふっ素及びその (株) 環境研究所  
化合物（土壌溶出量）濃度確認の共同実験

事業年度 2005 年度 (平成 17 年度)

活動テーマ : ISO/IEC 17025 試験所認定制度の概要

委員長 (株) 環境分析センター 関根 勇仁

## 1. 目的

従来、精度管理は測定者や計量管理者が個人個人で行ってきた部分が大きかったが、最近ではサンプリングから測定結果を出すまでに一人で行うことが少なくなり、組織として精度管理を行うことが必要とされてきた。このようなことから、ダイオキシン類の測定においては、環境省から精度管理指針が出され、計量法の改正により特定計量証明事業者認定制度 (MLAP) が誕生した。その他の環境測定分野においても ISO/IEC 17025 に基づいた試験所認定が次第に広がりつつある。

ISO/IEC17025 試験所認定は、ISO9000 シリーズのように品質システムが整備していることを認証したものではなく、試験の分野、項目、規格を定めその範囲内で、標準作業手順をもとに検査・分析を実施するための適切な環境と分析技術が審査されるものである。つまり、認定範囲において試験所としての総合的な能力があるのかを審査し、合格した試験所は認証ではなく、能力があるとされることから認定が与えられる。よって認定された試験所から発行される分析結果は、数値までも保証されていることを示すものである。

このような背景の中で、平成 17 年度環境分科会技術委員会では、ISO/IEC17025 試験所認定制度に関する基礎知識を整理することとした。

## 2. 実施要領

各社で国内の試験所認定制度、認定審査の内容、試験所認定制度のメリット等を調べてもらった。

## 3. 実施結果

各社で調べてもらった資料を基に報告書として作成した。

報告書の内容は、

- ・試験所認定制度とは
- ・試験所認定制度のメリット
- ・環境計量証明事業との係わり
- ・試験所認定に関する Q & A 12 項目についての Q & A

編集者 (株) 環境分析センター 関根 勇仁

事業年度 2007 年度 (平成 19 年度)

活動テーマ 水中の重金属及び陰イオン分析共同実験

委員長 (株) 環境アシスト 小澤 光男

1. 目的

環境への関心が高まる中、環境保全に対する取り組みも活発に行なわれている。その中において汚染状況把握等の基本となる分析結果に対する精度が重要視されている。豊かな自然が数多く残る本県において、この自然を未来に引き継ぐことが我々に課せられた使命であると考えられる。県内の計量事業所全体の精度向上を目的とし平成19年度・技術委員会においてクロスチェックを実施した。

亜鉛の基準引き下げ、これまでのクロスチェックでは行っていなかった陰イオンの分析等を考慮し、水中のカドミウム・亜鉛・硝酸イオン・りん酸イオンを分析項目とした。

2. 実施要領

濃度の異なる2種の試料(A・B)を調製し、技術委員会だけにとどまらず協会加盟の全21事業所を対象として実施した。試験方法は指定せず各事業所の任意とした。

3. 評価方法

評価方法は、ISO/IEC43-1 (JIS Q 0043-1) に記載されている手法のうち「Zスコア」で行った。

試料A、試料Bの報告値に対して、各事業所のA・B試料のZスコア及び試験所間Zスコア(ZB)と試験所内Zスコア(ZW)を求めた。Zスコアの評価基準は右図の通りである。

$ Z  \leq 2$	満足
$2 <  Z  < 3$	疑わしい
$ Z  \geq 3$	不満足

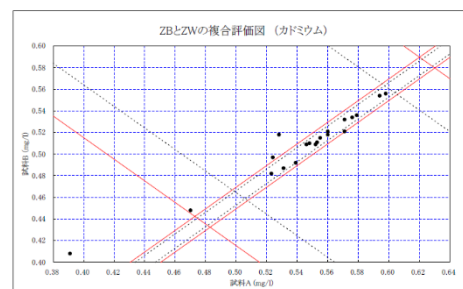
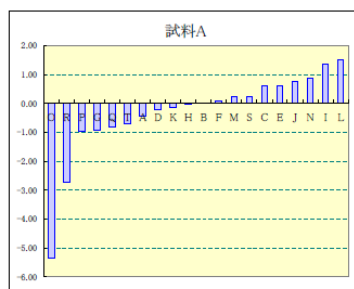
4. 評価結果

各分析項目におけるZスコアの出現率を試料A、試料Bを代表として下記に示す。

Zスコアの範囲	カドミウム		亜鉛	
	試料A	試料B	試料A	試料B
$ Z  \leq 2$	90.0%	85.0%	90.0%	85.0%
$2 <  Z  < 3$	5.0%	5.0%	10.0%	5.0%
$3 \leq  Z $	5.0%	10.0%	0.0%	10.0%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

Zスコアの範囲	硝酸イオン		りん酸イオン	
	試料A	試料B	試料A	試料B
$ Z  \leq 2$	81.0%	71.4%	95.2%	85.7%
$2 <  Z  < 3$	19.0%	14.3%	0.0%	14.3%
$3 \leq  Z $	0.0%	14.3%	4.8%	0.0%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

各事業所のZスコアを昇順バーチャートとし、試験所間・試験所内のZスコアをプロットした複合評価図を作成した。参考としてその一部を右図に示す。



5. まとめ

概ね7割から9割の事業所でZスコア $\leq 2$ の満足できる区分であった。残りは疑わしい若しくは不満足となる区分であった。各事業所のデータを確認したが、Zスコアと試験方法に相関性は確認されなかった。本試験結果は参加事業所に開示し、実力値の確認および改善の機会として利用した。

事業年度 2008年度(平成20年度)

活動テーマ ふっ素化合物の分析方法相違による分析比較

委員長 (株)ミツバ環境分析リサーチ 高木 厚

### 1. 目的

ふっ素化合物の分析方法が新たにイオンクロマトグラフ法(以後IC法と明記)が追加されました。従来の吸光光度法との違いについて検討を実施しました。

### 2. 実施要領

群馬県計量協会分科会技術委員会 18社及び分科会他の委員会会員2社の計20社参加にて行いました。

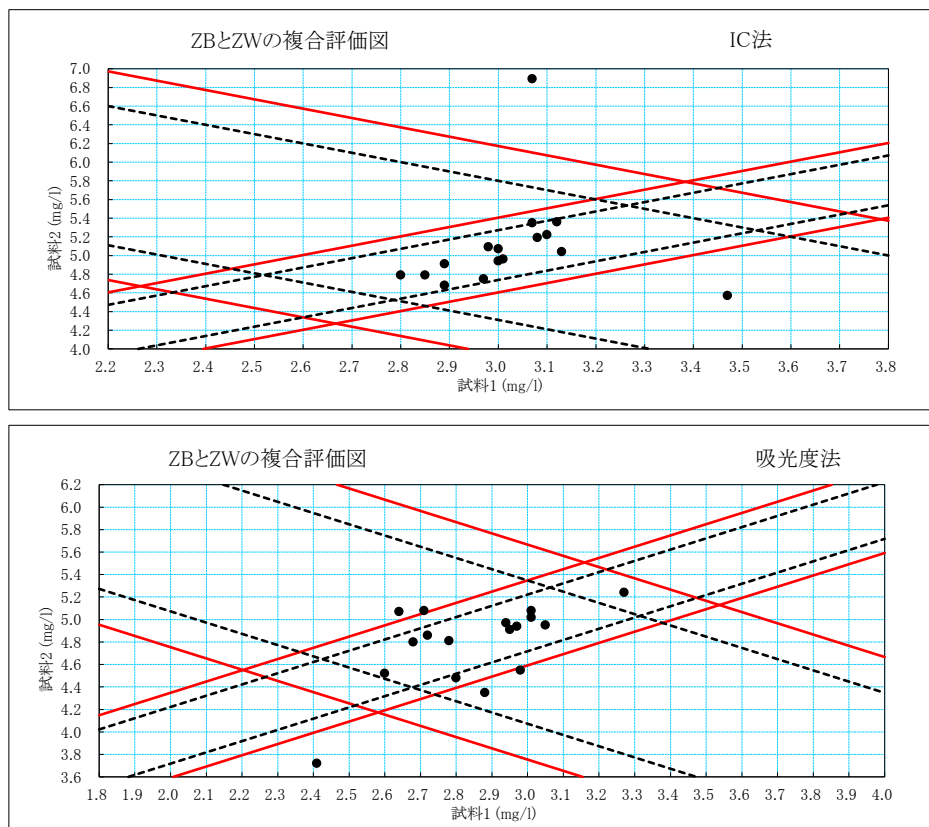
ふっ素 試料1(3 mg/L)及び試料2(5 mg/L)に阻害物質アルミニウム(0.01 mg/L)を添加し、試料としました。

分析方法はJIS K0102 34.3イオンクロマトグラフ法(IC法)及びJIS 34.1ランタン-アリザリンコンプレキソン吸光光度法で各社同試料で比較試験を行う。吸光光度法に使用する試薬として各社アルフツソン(同仁)を使用することにしました。

報告値は分析回数3回の平均値、分析時間、分析者の経験年数、濾過の有無等の条件を明記して報告としました。

### 3. 結果

IC法、吸光度法のZスコアは下記図の様な分布が観測されました。



### 4. 考察

1) 吸光光度法による測定の平均値は、IC法と比べて3 mg/L、5 mg/L両試料ともややばらつきがありましたが、t検定の結果1%の有意水準での分析方法の平均値に差は見られませんでした。

2) 分析時間と分析機器の間には傾向は認められませんでした。

3) 経験年数と分析機器の間に違いの傾向は認められませんでした。

4) IC法は蒸留の必要が無く、分析時間が短縮できます。

編集者 (株)ミツバ環境ソリューション 高木 厚

### 1. 目的

計量証明事業所が携わる分析においては、河川水をはじめ工場排水、下水、浄化槽放流水など、様々な性質の検水が存在する。採取した検水については、直ちに分析に着手することが最も望ましいが、実際には分析室に持ち帰ってから測定が一般的である。また、結果の真偽が疑われる場合、基準値超過の確認など再分析を実施する必要性が生じる場合も想定される。

以上のことから、本活動テーマでは幾つかの水質サンプルにおける保存期間中の水質経時変化に関する知見を得ることを目的として共同実験を行った。

### 2. 実施要領

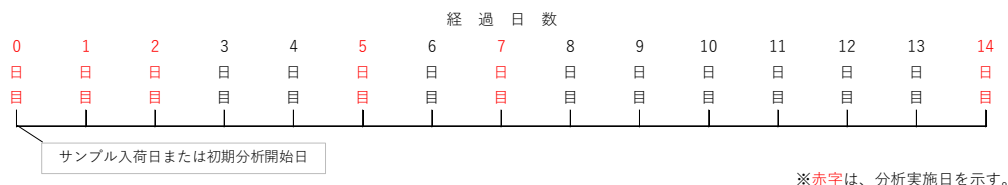
群馬県計量協会環境分科会技術委員会 17社が参加した。水質サンプルについては、参加各社で準備したサンプルを便宜的に、環境系(河川水、地下水)、汚濁系(下水流入水、下水初沈水)、排水系(下水・浄化槽処理水、工場排水)の3グループに分類し、冷蔵(2~10℃)及び室温(14~29℃)で保存したサンプルについて普段から分析を実施することが多い分析項目(表1参照)について検討を行った。

分析頻度については、それぞれの温度条件下で保存したサンプルについて、原則として表2の頻度にて分析を実施した。ただし、参加各社の状況により独自の判断で分析日数を前後させることも可能とした。

表1. 分析項目

水素イオン濃度 (pH)	生物化学的酸素要求量 (BOD)	化学的酸素要求量 (COD)
浮遊物質 (SS)	アンモニア性窒素 (NH <sub>4</sub> -N)	亜硝酸性窒素 (NO <sub>2</sub> -N)
硝酸性窒素 (NO <sub>3</sub> -N)	大腸菌群数 ( <i>E. Coli</i> )	

表2. 分析実施頻度



### 3. 結果

いずれのサンプル及び項目においても、共通する傾向は確認できなかった。例えば、BODは全体的に減少傾向を示す経時変化が確認できるが、環境系では大きく減少傾向を示すサンプルが認められる一方で、排水系では大きく増加傾向を示すサンプルが認められる等、サンプルの性質や分析項目により経時変化の挙動が異なることが確認された(図1参照)。なお、冷蔵保存と室温保存との挙動は近似した傾向を示すものの、室温保存の変化の度合の方が大きかった。ただし、水素イオン濃度(pH)や化学的酸素要求(COD)の一部のサンプルについては、大きな経時変化が確認されないサンプルも存在していた。

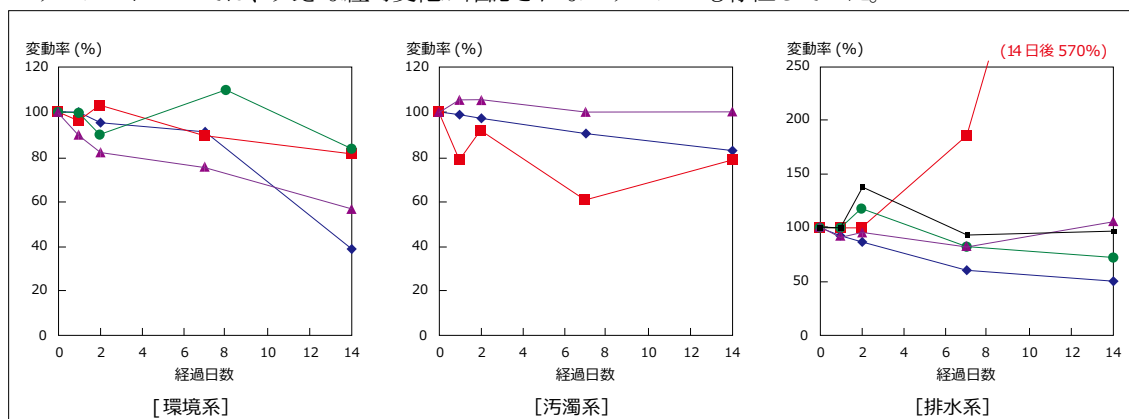


図1. BOD(冷蔵保存)の経時変化

### 4. 考察

本共同実験の結果、参加各社が準備したサンプルについて保存安定性に関わる共通の傾向は確認できなかったが、分析項目によっては経時変化を示すサンプルが確認されたことから、水質の分析については出来る限り採水当日の分析が望ましいことが窺えた。しかし、ルーチン分析等のある程度特性が判明しているサンプルについては、項目によっては冷蔵保存等の検討を加えることで、数日間の保存の可能性が示唆される結果となった。

### 1. 目的

環境計量証明事業所が携わる分析においては、河川水や地下水、工場排水、下水、浄化槽放流水など、様々な媒体が存在する。また、その調査項目についても、環境基準項目をはじめとして生活環境項目、排水基準項目その他、調査の目的に応じた、多種多様な物資が対象となる。採取した検体については、直ちに分析に着手することが最も望ましいが、実際には多くの制約から、現場で測定する項目を除き、分析室に持ち帰ってから測定を行うのが一般的である。検体の運搬・保存の際には、分析項目に応じた適切な処置により、変質防止を行うが、項目によっては冷暗所での保存など“温度低下のみ”が規定されているなど、保存中の変質が懸念されるため、基本的には出来るだけ速やかな測定が望まれる。一方で、分析途中での容器破損や、結果の真偽が疑われる場合、基準値超過の確認など、予備検体や保存検体の再分析を実施する必要性が生じる時がある。その際には、時間の経過と、それに伴う水質変化によって、初期分析と同様の水質を示すかどうかは不確定な部分が多い。それらは、共存物質や保存条件など検体の状況の差異により変動が大きいことから、変質や損失、汚染の程度は再現性が悪く、一律に規定することは困難であるため、JIS等でも保存期間に関する規定はなく、その補正は不可能であるといえる。しかしながら、上述のような再分析の必要性等を考えると、様々な媒体・項目における保存中の変動を知ることは、環境分析の実務を行う機関にとって有用な情報になり得ると考えられる。そこで、ケーススタディとして幾つかの水検体における分析を実施し、保存期間中の水検体における経時変化に関する知見を得るため共同実験を行った。

### 2. 実施要領

参加各社で準備可能な水検体(下水流入水、排水、河川水、地下水)の全窒素、全磷、亜鉛、鉄、マンガンの項目について、冷蔵(～10℃)及び常温(20～25℃程度)で保存した検体を、JIS K 0102 3.3に定められた方法での前処理有無毎に分析を行い比較した。

### 2. 結果

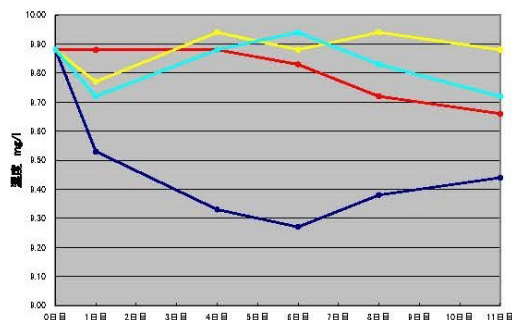


図1 排水の全窒素 経時変化

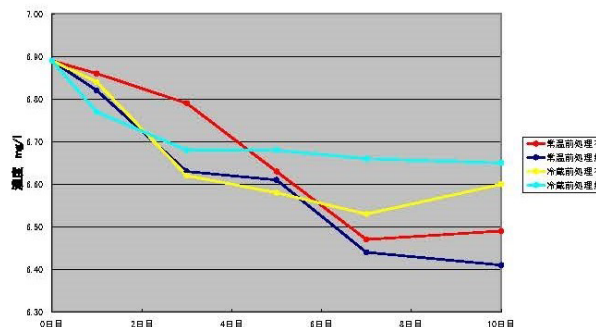


図2 河川水の全窒素 経時変化

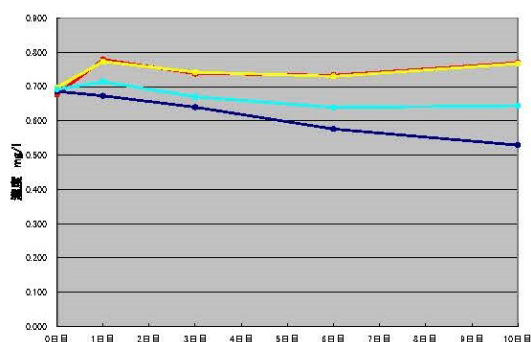


図3 排水の鉄 経時変化

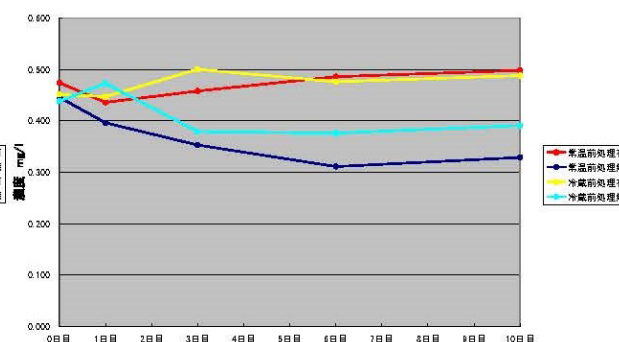


図4 地下水水の鉄 経時変化

### 3. 考察

今回分析を行った検体では、全窒素や全磷において、予想していた程前処理の有無による差は現れなかった。むしろ、冷蔵保存の有効性の方が大きい結果となった。他方、金属(亜鉛、鉄等の重金属)においては顕著に前処理の必要性が現れた。しかし、我々が行っている実検体は、今回分析に用いた検体以外にも多種におよんでおり、分析に影響するであろう要因も多数考えられる。さらに分析を重ねて、データを蓄積していくと今回の共同実験の結果はより有用なものとなると考えられる。

事業年度 2011年度(平成23年度)

活動テーマ 環境水中のカドミウムについての共同実験

委員長 (株)群馬臨床検査事業団 殿木 正人

### 1. 目的

カドミウムは亜鉛と共存する形で自然界に広く分布しており、特に汚染を受けていない地表水や地下水にも亜鉛の1/100 から1/150 程度の量が含まれているといわれています。主な用途として、顔料、プラスチック、電池、金属加工品等があります。また、人体に対する毒性は強く、公害病として有名なイタイイタイ病は、慢性中毒による腎機能障害、カルシウム代謝異常として妊娠、授乳、栄養素としてのカルシウム不足などの要因が重なって発症した重症の骨軟化症となっています。

一方、平成23年3月に中央環境審議会水環境部会の環境基準健康項目専門委員会より環境基準値が見直しされ、0.01 mg/L 以下から0.003 mg/L 以下に変更されました。そこで本委員会において0.003 mg/L 付近の濃度のものを共同実験の試料とし、定量下限値が環境基準値を満足しているかを検討しました。

同時に測定方法、前処理の方法などによって差異を生じるか、塩濃度の高いもので物理干渉の影響をうけるかを検討しました。それによって得られた知見を報告します。

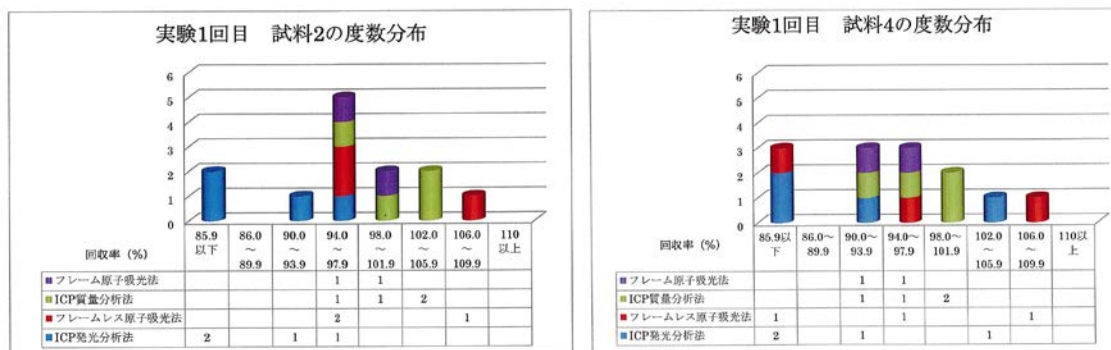
### 2. 実施要領

実験用試料として下記に示した通りカドミウム標準の添加のあるものとないもの、塩化カルシウムの添加のあるものとないもの4種類の試料を作成しました。

試料名	試料1	試料2	試料3	試料4
カドミウム設定濃度 ( $\mu$ g/L)	0	2.51	0	2.51
カルシウム設定濃度 (mg/L)	0	0	300	300
硝酸濃度	0.1mol/L	0.1mol/L	0.1mol/L	0.1mol/L

### 3. 結果

各装置と回収率について、下記に示します。



### 4. 考察

今回カドミウム濃度0.00251 mg/L の試料を用い13機関で行いました。13機関全てにおいて、環境基準値よりも低濃度で定量下限を満足しており、一部回収率の低い機関がありましたが、概ね良好な結果が得られました。

カラム法による前処理は、1機関のみ実施しました。前処理による差異はなく、良好な結果が得られました。

全体的にマトリックスの影響か、試料2よりも試料4の方が回収率の悪い傾向に傾向がありました。

また、マトリックス添加の試料4で、外れ値検定により、数値が棄却された2施設は、フレイムレス原子吸光の測定法で行っていた。これは、絶対検量線に物理干渉などの影響があるのではないかと推測されました。

検出感度の違いはあるものの、機器による差異はないという結果が得られたのではないかと思います。

編集者 東芝環境ソリューション (株) 坂本 洋祐

事業年度 2013年度(平成25年度)  
活動テーマ 産廃に含まれる金属の新たな検定法のクロスチェック  
(鉛のクロスチェック)

委員長 (株) 不二ケミカル 下山 徹也

## 1. 目的

平成25年2月21日、産業廃棄物に含まれる金属等の検定方法(昭和48年環境庁告示第13号)の一部を改正する告示の公布があった。

当技術委員会にて検討した結果、日頃の測定業務からのフィルターの違い・放置時間の違い・測定装置の違いによるものが、測定値に違いをもたらすのではないかとのことであった。

1. フィルターメーカーの違い、2. 放置(静置)時間、3. 測定装置の違い、これらに着目してクロスチェックを行った

## 2. 実施要領

2-1 試料配付 平成25年11月15日(金) ※飛灰

2-2 測定項目 鉛(前処理は配布したマニュアルに従う)

特に統一したこと。

- 振盪時の混合条件を一定にする。(試料12.5gで125mlの検液を作成する。空隙率50%)
- 250mlのポリ瓶(酸洗い済み)・メンブランフィルターの配布
- ろ液に硝酸を入れてpH1にする。

2-3 測定方法・報告値 各事業所の判断による(※JIS等の公定法に準拠)が、マニュアルに従い、

測定細部・測定機器等を報告する。報告値は、小数点以下3桁、単位はmg/L表示で報告。

## 3. 結果

今回の各条件の違いについて有意差は無かったと評価する。

t検定にて、いずれも両側 $P > 0.05$ であった。

今回の試料がろ過し易いものであったことなどが影響していると考えられる。

## 4. 考察

想定していたよりもばらつきが大きくなった。日環協等で行われているクロスチェックの変動

係数が10%前後であるので、全体のばらつきも大きいと言わざるを得ない。

各事業所に分ける試料の少なさ、その結果としての検液の少なさ、全体の分析数(標本数)の

少なさ、以上が理由として考えられる。

但し、変動係数をより見ていくと静置時間10時間にしたもののばらつきが大きいのが確認

出来る。有意差は無いものの、測定値の信頼性が静置時間を10時間とした場合は疑わしくなってくる。

今回のクロスチェックの対象は試料が飛灰である為、鉛としたが、

「土壌分析方法の操作条件に関する検討」日環協

によれば、鉛では出ない有意差もヒ素などで振盪後放置(静置)時間の差が出るとのことである。(但し、上記検討では吸着媒体としての土壌からの脱着の問題が指摘されている。)

環境省のマニュアルには振盪後放置(静置)時間が記述されていないため、今回の検討課題としたが、他の金属項目も検討し且その他の条件も加味しなければ評価できない。

それが課題である。

編集者 (株) 不二ケミカル 下山 徹也

## 1. 目的

水試料中のセレンの試験方法はJIS K0102で水素化物発生原子吸光法、水素化物発生ICP発光分析法、ICP質量分析法、吸光光度法などが規定されている。この中でも、水素化物発生原子吸光法と水素化物発生ICP発光分析法は前処理工程で加熱時にセレンが揮散しやすいことや、共存物による妨害が懸念され、分析者の熟練が必要とされている。

試験規格の中で試験条件が曖昧な点や分析値に影響を与えそうな要因をリストアップし、共同実験で、それらの確認試験を行った。

## 2. 実施要領

### 硝酸残存量の影響

前処理操作で硫酸白煙を発生させ、硝酸を完全に除去している。硝酸が残った場合、セレンの還元を妨害する恐れがあり、その影響を調査した。

### 予備還元時間

試験規格では90~100℃で10分と定めがあるが、この時間が短いと還元不足を起こしたり、長すぎるとセレンの揮発が生じる恐れがあるため、その影響を調査した。

### 予備還元後の放置時間

試験規格では予備還元終了後、何時間以内に測定を行わなければならないのか特に定めがない。予備還元の後、どの程度放置しても問題ないのか、経時変化を調査した。

### マトリックスの影響

セレンの測定に影響を与える元素として、銅、コバルト、ニッケルなどの遷移金属が知られている。これらの元素がセレン濃度に対して数倍から100倍以上の高濃度の水準で共存した場合の影響を調査した。

## 3. 結果

### 硝酸残存量の影響

前処理液25mLに対して、硝酸1.0mLの添加量までは、影響が見られなかった。

### 予備還元時間

予備還元時間5分から30分の間で、回収率はほぼ100%だった。

### 予備還元後の放置時間

放置時間168h(7日)後の回収率は、低濃度標準液(0.06 mg/L)で92.2%、高濃度標準液(0.6 mg/L)で99.8%だった。低濃度標準液で減少傾向が見られた。

### 妨害元素濃度の影響

セレン濃度0.06 mg/Lに対して、銅、ニッケル、コバルトを0、0.5、3.0、5.0、10 mg/L添加し、影響を調査した。

銅の濃度が高くなるにつれセレンの値は低くなる傾向を示した。ニッケルの濃度が高くなるにつれ、やや回収率の低下が見られた。一方、コバルトに関しては影響が見られなかった。

## 4. 考察

前処理で硝酸が残存する場合や、予備還元の時間などが分析値に影響を与えるのではないかと予想していたが、設定された試験条件下では、あまり影響を受けないことが解り、意外な結果となった。

前処理後の検液の放置時間について、検液中のセレンの濃度が低いとやや経時変化が見られたので、速やかに測定を行う必要があることが解った。

妨害元素の種類によってセレンの分析値に与える影響が異なることが解った。

事業年度 2015年度(平成27年度)

活動テーマ 水試料中の六価クロムに関する共同実験

—ジフェニルカルバジド吸光光度法「JISK0102」についての検証—

委員長 パリノ・サーヴェイ(株) 小畑 勝

### 1. 目的

平成27年度の技術委員会は、共存物による妨害が懸念され、分析者の熟練が必要と思われる吸光光度法を対象とした「水試料中の六価クロムの共同実験」を実施しました。

### 2. 実施要領

第1回共同実験では、事業所間の分析値を比較する目的で妨害がない場合と妨害がある場合(標準と強)の2パターンで実験をしました。第2回共同実験では、分析値に影響を及ぼすと思われる要因について各種の試験を行いました。要因については、第1回共同実験の協議中に議論となった操作Bのエタノールの残量が分析値に与える影響や第1回共同実験での妨害物として添加したFe(III)が分析値に与える影響、また、六価クロムが有機物を酸化分解することから、その存在が分析値へ与える影響について等を検証しました。

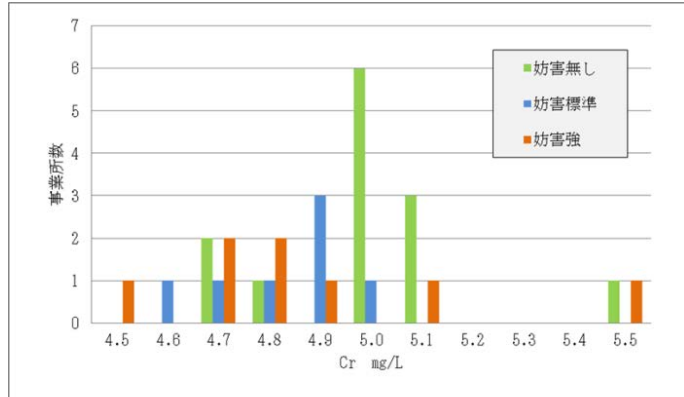


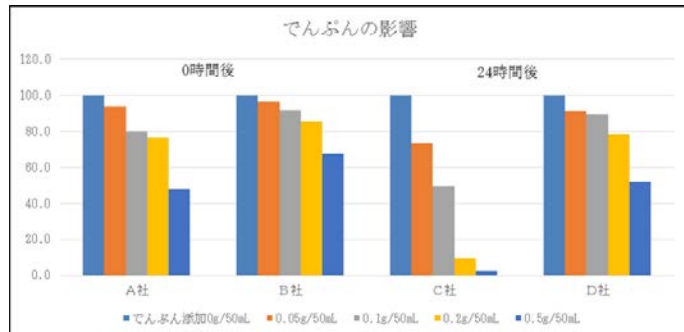
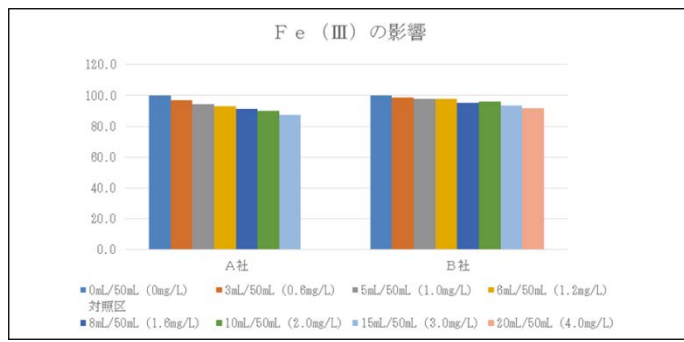
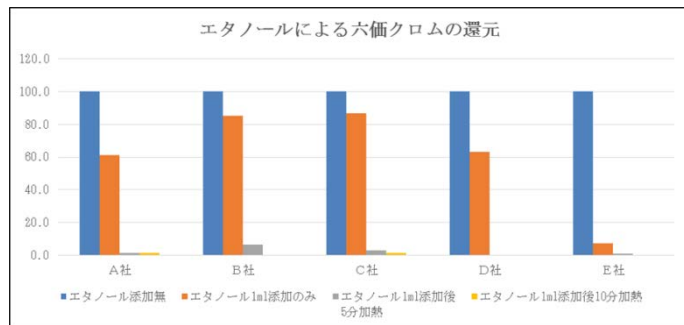
図4 第1回共同実験のヒストグラム

### 3. 結果・考察

第1回共同実験は、13事業所が参加しました。この中には、通常分析方法とした採用していない事業所も3社ありましたが、ほとんどの事業所が設定値とほぼ一致し、2σの範囲に入る結果となりました。

第2回共同実験の結果、エタノールの残存は操作Bの目的上、影響が大きいことや、操作Bでの煮沸操作がエタノールによる六価クロムの還元を進行させることを目的としていることなどを示唆する結果となり、Fe(III)の存在は負の効果が、有機物はフタル酸水素カリウムでは効果は顕著ではなく、でんぷんでは負の効果があることが解りました。

以上の2回の共同実験を通して、ジフェニルカルバジド吸光光度法「JISK0102」による六価クロム分析の知見が増した活動となりました。ただ、今回得られた知見は本対象方法の分析値に影響を及ぼす要因の一部です。2回目、3回目と共同実験のテーマとして検証する必要があると思います。



編集者 パリノ・サーヴェイ(株) 小畑 勝

## 1. 目的

砒素の試験方法は、JIS K 0102 61.1に記載されているジエチルジチオカルバミド酸銀吸光度法 (ABS法)、JIS K 0102 61.2水素化物発生原子吸光度法 (AA法)、JIS K 0102 61.3水素化物発生 ICP 発光分析法 (AES法)、JIS K 0102 61.4ICP 質量分析法 (MS法) があり、当技術委員会では上記4方法が分析可能である。

実際の業務で試料前処理の際、硝酸が残ると分解生成物である窒素酸化物によって水素化砒素の発生が阻害される事や、過マンガン酸カリウムが消えた時は追加するなどの注意点の記載があるが、どの程度硫酸白煙を出したら硝酸が残らないのか、硝酸が残留する事で測定値にどのような影響がでるのか、過マンガン酸カリウムの添加の方法など、あいまいな点も少なくないと感じる。今回の共同実験では実施前にアンケートにより測定業務担当者により注意点、問題点を挙げてもらい、第1回共同実験では精度管理とアンケートで挙げた塩酸の影響を検証した。また、第2回共同実験ではABS法、AA法、AES法の3方法について硝酸残留量の影響を、AES法について予備還元時間の影響について検証した。

## 2. 実施要領

第1回共同実験 上記4方法による精度管理とアンケートで妨害元素として挙げた塩酸について検証した。(株)和光純薬砒素標準液 100 mg/L を用いて砒素濃度 0.10 mg/L になるように硝酸1%添加し純水を用いて調製した「第1回共同実験試料」を各社に配布した。第1回共同実験試料を前処理して測定する「塩酸添加無」と前処理する際5%の塩酸を添加してから前処理する「塩酸添加有」をn=2で報告値は小数点以下第5位を切り捨てて報告することとした。

第2回共同実験 前処理分解後の硝酸残留量の影響について検証した。ABS法：砒素濃度 0.5 mg/L になるように硝酸1%を添加し純水を用いて調製し「第2回共同実験試料 (ABS法)」とした。第2回共同実験試料 (ABS法) を採取して、硝酸を 0.0, 0.1, 0.5, 1.0, 2.0mL 添加して吸光度を測定する。

AA法、AES法：砒素濃度 0.010 mg/L になるように硝酸1%を添加し純水を用いて調製し「第2回共同実験試料 (AA法、AES法)」とした。第2回共同実験試料 (AA法、AES法) を10mL採取し硝酸を 0.0, 0.1, 0.5, 1.0, 2.0mL 添加して予備還元を行い、20mL定容して測定する。

## 3. 結果 (抜粋)

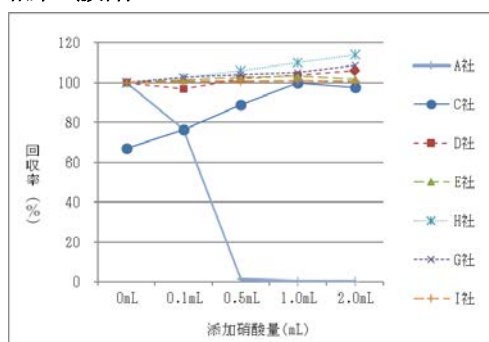


図1 第2回共同実験硝酸添加量と回収率

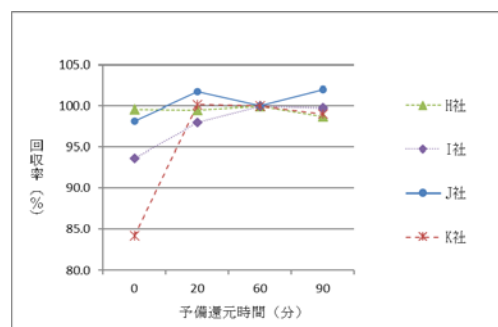


図2 第2回共同実験予備還元時間と回収率

## 4. 考察

第1回共同実験の結果から、参加事業所の成績は、全ての方法でおおむね満足のいく技術レベルであることが確認された。また塩酸による砒素の揮散があるのではないかと考え行った実験でも、今回の共同実験では塩酸による影響はみられなかった。ハロゲンが存在しても酸化剤が存在することで砒素(V)が保たれ、砒素(III)にならないので揮散しないとの報告がある。今回の第1回共同実験でも過マンガン酸カリウムと硝酸が酸化剤として働き砒素(V)が保たれ揮散しなかったのではないかと考える。

第2回の共同実験では分析値に影響を及ぼすと思われる要因について、各種の試験を行った。硝酸添加量の影響ではABS法で硝酸添加が測定値に負の影響があることが解った。AA、AES法では検討段階の予想とは反対に前処理で硝酸が残存しても設定された条件の範囲内ではあまり影響を受けないことが解り、意外な結果となった。また予備還元時間が分析値に影響を与えるのではないかと予想していたが、今回の共同実験試料では、予備還元試薬投入直後の0分でも直ぐに予備還元反応[砒素(V)→砒素(III)]が進み20分では予備還元が98%完了する結果となった。

### 1. 目的

メモリー効果とは、測定した溶液中の主成分元素が、装置内(測定系)にいつまでも残存しブランク値を上昇させる現象である。メモリー効果が起こり易い元素としては、ほう素、水銀がある。メモリー効果を避けるためにはトーチ等の器具を分析試料の種類毎に使い分けたり、連続した測定は行わず一旦汚染部分を洗浄した後に分析を始める等の作業が行われる。平成29年度の技術委員会は「ほう素のメモリー効果に関する共同実験」をテーマとし活動した。

### 2. 実施要領

第1回共同実験 アンケートの結果を参考にしたところ、殆どの機関において試料導入経路の洗浄による対応であった。そこで今回は試料導入経路の洗浄に着目し、超純水、酸を用いた試料導入経路の洗浄について共同実験を行った。酸はICP発光分光分析で通常用いられている、塩酸、硝酸、王水について検討を行った。また、超純水については、温度による違いも検討した。

第2回共同実験 ICP分析の機関は、第1回共同実験を受けて、各機関における洗浄の最適条件を用いて分析を行う。吸光光度分析の機関は、各機関の条件で行う。ICP分析の機関、吸光光度分析の機関共に、JIS K0102 47に則って分析を行う。分析方法の違いによる差を確認する。

### 3. 結果

第1回共同実験 分析に使用したICP発光分光分析装置の違いによる導入経路そのものの長さの違い、オートサンプラーの使用の有無により各機関で洗浄時間がまちまちになってしまった。しかしながら10mg/Lの標準溶液で発生するメモリー効果を超純水だけで洗浄しようとするると2分以上かかる結果となった。酸による洗浄効果では1%、5%、10%の塩酸又は硝酸、王水の何れも洗浄液による洗浄効果は有意差が認められなかった。超純水の温度差によるライン洗浄においては、冷水は洗浄効果が低くなり、50℃温水による洗浄は効果が若干高くなった。

第2回共同実験 ICP発光分光分析及び、吸光光度法共に全ての機関がzスコア±2以内に入っており良好な結果であった。また、ICP発光分光分析、吸光光度法の違いによる有意差はなくメモリー効果の影響は受けていないと思われる。

表1 第2回共同分析の結果

事業所	試験方法	分析結果 (mg/L)		zスコア (中央値)		試験所間		試験所内	
		サンプル1	サンプル2	サンプル1	サンプル2	zスコア (中央値)	zスコア (中央値)		
A	JIS K0102 47.3 ICP発光分光分析法	10.8	9.26	1.25	0.88	14.18	1.02	1.09	0.67
B	JIS K0102 47.3 ICP発光分光分析法	10.0	8.56	-1.05	-1.33	13.12	-1.30	1.02	0.00
C	JIS K0102 47.3 ICP発光分光分析法	10.7	9.18	0.88	0.63	14.04	0.70	1.05	0.33
D	JIS K0102 47.3 ICP発光分光分析法	9.78	8.39	-1.67	-1.85	12.85	-1.89	0.98	-0.33
E	JIS K0102 47.3 ICP発光分光分析法	10.3	8.98	-0.19	0.00	13.63	-0.19	0.93	-0.80
F	JIS K0102 47.3 ICP発光分光分析法	10.1	8.98	-0.76	0.00	13.49	-0.50	0.79	-2.13
G	JIS K0102 47.3 ICP発光分光分析法	10.5	9.02	0.39	0.13	13.80	0.19	1.05	0.27
H	JIS K0102 47.3 ICP発光分光分析法	10.4	9.24	0.19	0.82	13.91	0.42	0.84	-1.66
I	JIS K0102 47.2 アゾメチンH吸光光度法	10.7	8.98	0.97	0.00	13.92	0.43	1.22	1.86
J	JIS K0102 47.1 メチレンブルー吸光光度法	10.0	8.56	-1.05	-1.33	13.12	-1.30	1.02	0.00

### 4. 考察

今回の共同分析では、各機関のICP発光分光分析によるほう素の分析においてメモリー効果の影響を受けていないか確認すると共に何か新しい知見は得られないか検討を行った。結果としては、ICP発光分光分析装置メーカー、機種、オートサンプラーの使用の有無等の都合上、条件の統一が出来ずに各機関の現状の結果比較となってしまう共通の知見を見出す事はできなかった。しかしながら、洗浄液の温度という視点において、違いが期待できそうなデータも出てきた。

第2回共同分析の結果よりメモリー効果の影響を受けた分析をしている機関は無かった。当委員会に所属している機関はいずれも適正な分析が行われていると思われる。

事業年度 2018年度(平成30年度)

活動テーマ ヘキサン抽出物質の経時変化に関する共同実験

委員長 (株)総合環境分析 中村 和弘

## 1. 目的

ヘキサン抽出物質の測定において、速やかに分析できない場合、塩酸(1+1)を加え、水素イオン濃度を4以下とし水質の固定処理を行う事が規定されている。この数日間にヘキサン抽出物質の値に変化を生じるかに着目し共同実験を検討した。

又、これまでにヘキサン抽出物質の共同実験は行われているが、均一なサンプルを用意することや標準物質は何を使用するべきか、どのように添加するのか等の問題点を具体化することを目的とした。

## 2. 実施要領

第1回共同実験では、塩酸による固定処理後、保存条件を常温・冷蔵の2通りに分けての経時変化と、排水・河川水・農集処理水の試料種類の違いでの経時変化について調査を行った。

この結果を参考に第2回共同実験では、試験操作を見直し、その結果の再現性を確認するため、共同実験とは別にブランク試験を行い、室間精度を確認した。

## 3. 結果

第1回共同実験の結果から、一部で経時変化が起こる可能性が得られ、回収率に差を生じた。その原因として、標準物質としたサラダ油の定量方法とサンプルを転倒混合する回数等が挙げられた。このことを踏まえ見直した結果、第2回共同実験では回収率が改善され、全社でほぼ90%を超える値が得られた。ブランクの回収率も平均値で96.3%が得られ、室間精度も含め満足のいく技術レベルであることが確認された。使用したサンプルガラス瓶については、ねじ口タイプが多かった。一部共栓付きガラス瓶を使用したところもあったが、転倒混合時にすりの部分から液漏れがあり、難しいとの報告があった。採取容器についての検討も報告されているが、しっかり蓋のできるねじ口ガラス瓶が、安定して高い回収率を得るには適している結果となった。

経時変化については、保存温度(室温と冷蔵)の違いによる3日後の回収率に差が無く経時変化の影響はなかった。次に試料のサンプルの種類の違いについては、排水・河川水・農集処理水の3種類があり、排水の結果を見ると3日後と7日後の回収率に差が無く経時変化の影響は見られなかった。河川水の結果を見ると性状の比較的きれいなサンプルについては、回収率に差が無く経時変化の影響は見られなかった。しかし、土砂のようなSSを多く含んだものは3日後の回収率では経時変化の影響は見られなかったが、7日後の回収率では低下する傾向を示した。農集処理水の結果を見るとはっきりとした経時変化を示した。追加実験で細菌の働きによる影響が示唆され、一般細菌が270個/mL程度でもサンプルによっては経時変化が起こる可能性が示唆された。

## 4. 考察

第1回共同実験では、標準物質として用いたサラダ油をどのように試料に定量的に加えるかという点で、知見が無く操作手順が完全に確立されていない手探りの状態で試験を進めた。

そこで第2回共同実験では添加方法の確立と、操作手順の見直しを図り、再現性の高い方法を追求し、保存条件よりも試料種類での経時変化が起こることが確認された。

さらに追加調査から農業集落排水処理施設の処理水に対する塩素消毒の有無でヘキサン抽出物質の経時変化に影響を与えていた。今後の課題としては、試料中の一般細菌数(多い、少ない)がヘキサン抽出物質の値に与える影響を検討していきたい。

今回の試験結果は、限定的な試験条件で得られたものであるため、ある種の変動要因が加わることにより、また違った結果につながることも十分考えられるが、標準物質が存在しないヘキサン抽出物質という項目において、回収率の高い精度管理の手法を示せたことは一定の成果を挙げられた。

編集者 (株)総合環境分析 小林 正寛

事業年度 2019年度(令和元年度)

活動テーマ 鉱物油におけるノルマルヘキサン抽出物質の回収率に関する共同実験

委員長 (一社) 群馬県薬剤師会環境衛生試験所 恩田 哲行

## 1. 目的

ヘキサン抽出物質である鉱物油に関して、分析対象は「揮散しにくい鉱物油」と曖昧に定義されている。そこで、一般的に広く使用されている鉱物油を対象に添加回収の検証を行い、知見を集めた。

## 2. 実施要領

1) 対象試料(各試料濃度 30 mg/L)

① 灯油 ② 軽油 ③ サイクルオイル ④ エンジンオイル ⑤ A重油

(第1回共同実験)

上記①～⑤を30,000mg/Lに調製し配布。試験開始時に1mL分取し、下記2)3)を実施

(第2回共同実験)

上記②～⑤を着手時にアルミカップで30mg計り採り、下記2)3)を実施

2) 分析方法

① 抽出操作(鉱物油及び動植物油合計値) 昭和49年環告64号付表4備考

② 分離操作(鉱物油) JIS K 0102(2019)付属書1 II

3) 分析詳細

① 分析回数:2回

② 抽出操作後の回収率が10%を下回った場合、その後の分離操作は行わずに報告する。

③ 濃縮方法:ホットプレート(第2回共同実験は80℃以下の温度確認実施)

## 3. 結果

対象試料	平均回収率(%)				
	灯油	軽油	サイクルオイル	エンジンオイル	A重油
第1回共同実験 (ヘキサン希釈試料)	1.2 (*1)	8.3	49.4	53.6	10.8
第2回共同実験 (実試料)	-	13.6	57.3	81.1	19.1
追加試験 (80℃・30分で実試料揮散 操作のみ)	-	16.2	75.0	86.0	23.9
補足試験 (室温でヘキサン希釈試料 の溶媒揮散操作のみ)	29.6	74.8	100.9	107.8	85.5
参考資料 (*2) (80℃・30分加熱乾燥デー タ)	0.5	28.9	-	-	33.4

(\*1) 抽出操作のみ (\*2) 環境分析技術手法データより

(追加試験及び補足試験)

温度(80℃及び室温)による揮散の影響を確認した結果、各対象物質に差が生じた。

(補足データ)

ホットプレート上を20ヶ所に区分して温度を測定した結果、最大10℃程度の開きが生じた。

- ① 灯油・・・揮発性が高く、本試験方法では対象と出来ない
- ② 軽油・・・温度により回収率が損失するため本試験方法では対象と出来ない
- ③ サイクルオイル・・・一応の回収率を得たが、温度の影響をうける
- ④ エンジンオイル・・・良好な回収率を得た
- ⑤ A重油・・・温度により回収率が損失するため本試験方法では対象と出来ない

## 4. 考察

原油の精製工程を考慮すると、沸点分留順に灯油<軽油<A重油<サイクルオイル及びエンジンオイルと考えられ、今回の回収率にも一応の相関が出ているものと思われる。軽油、A重油については事業所間の差が大きくなっており、結果として対象試料の揮散性が高いほど回収率のばらつきへの影響が大きくなる傾向が見られた。ホットプレート上の表面温度が位置により最大10℃程度の差が出た事で、各事業所で使用するホットプレート表面温度もばらつきの大い事が予想され、その事が少なからず回収率に影響しているものと思われる。

編集者 (一財) 群馬県薬剤師会環境衛生試験センター 田島 幸夫

## 1. 目的

環境分野に係る流れ分析は、2011年に流れ分析法による水質試験方法がJIS K 0170規格群として制定され、2013年にJIS K 0102に、2014年に環境省の告示法に引用された。さらに、2019年には流れ分析法に係るJIS規格及び環境省の告示法が改正された。

このように公定分析法への追加拡大が行われている流れ分析法は、自動分析装置として注目されている分析方法であることから、今年度の技術委員会のテーマとして取り上げ、対象項目は、委員が所属する事業所で流れ分析の導入事例が多いふっ素とした。

ふっ素の分析では、ふっ素化合物の種類や共存物質の有無により蒸留操作等を適切に行わないと低値となる可能性があることから、ここでは2種類のふっ素化合物と共存物質を含む試料を用いて流れ分析法と手分析(従来法)との比較検討を行った。

なお、今年度はコロナ禍の影響で、例年よりも委員会の開始時期が遅れ、共同実験は1回しかできず、妨害物質対策等の検討に十分な時間が取れなかったため、結果のまとめと課題の整理までとした。

## 2. 実施要領

測定用試料は、ふっ化ナトリウムとヘキサフルオロリン酸カリウムを超純水に1:1に溶かした試料1、及びそれに共存物質として塩化カルシウムを溶かした試料2を用いた。分析方法は、流れ分析法(CFA)と、従来法(吸光光度法、イオンクロマトグラフ法(IC))で行い、従来法については蒸留操作有無の両方で測定した。

表1 測定用試料

	ふっ素化合物	共存物質	F濃度(mg/L)	Ca濃度(mg/L)	Cl濃度(mg/L)
試料1	NaF+KPF <sub>6</sub>	-	0.997	0	0
試料2	NaF+KPF <sub>6</sub>	CaCl <sub>2</sub>	0.997	約120	約210

## 3. 結果

従来法と流れ分析の測定結果の平均値を表2に示す。有意差検定の結果では、危険率5%で両者に差があるとはいえない。

表2 分析方法の比較(試料1)

分析方法	従来法	流れ分析法
平均濃度(mg/L)	0.897	0.851

蒸留操作を行った場合と行わない場合の結果を表3に示す。

表3 蒸留操作の有無による結果

蒸留操作	試料1(mg/L)		試料2(mg/L)	
	平均	範囲	平均	範囲
有	0.894	0.733~1.009	0.664	0.453~0.861
無	0.486	0.394~0.560	0.197	0.105~0.366

## 4. 考察

試料1では、蒸留操作無の測定値が蒸留操作有と比べおよそ1/2と低くなった。これは蒸留操作を行わないために、試料中のヘキサフルオロリン酸塩がふっ化物イオンに分解されないためと思われる。

試料2では、蒸留操作を行った場合でも値が低くなる傾向を示しており、共存物質のCaが妨害していると考えられる。しかし、0.861mg/Lなど比較的高い結果が得られている報告値もあることから、操作方法を見直すことで改善可能と思われる。このような試料に対する分析操作上の注意すべきポイントの明確化については課題として残った。

種々のふっ素化合物やCaを高濃度を含む試料に対しては、値がばらつきやすいことから、回収率の確認を行うなど操作条件等を予め検討しておく必要があると思われる。

事業年度 2021年度(令和3年度)

活動テーマ ナトリウムイオン(Na<sup>+</sup>)濃度測定における原子吸光度法(AAS)とイオンクロマトグラフ法(IC)と ICP 発光分光法(ICP)の比較評価を行う共同実験

委員長 東芝環境ソリューション(株) 北関東分析センター 坂本 洋祐

## 1. 目的

日本産業規格 JIS K0102 48 での、ナトリウム(Na)とカリウム(K)の測定は、2019年の改正に伴い、フレーム光度法、フレーム原子吸光度法、イオンクロマトグラフ法の他に、新たに ICP 発光分光法が加わった。水質検査では、定められている基準値が水道法のみと、あまり馴染みのないナトリウムは、イオン化干渉が大きく、様々な元素の影響を受けやすい。測定自体は、水試料を希釈し、各装置にて測定する単純なものだが、その為、装置の影響が大きく関わってくる。実際にナトリウムを測定する時の干渉や問題点を挙げ、原子吸光度法(AAS)とイオンクロマトグラフ法(IC)と ICP 発光分光法(ICP)を比較し、各装置の特性と傾向の検証を行い、今後の測定の方向性を示すべく、当技術委員会各事業所々々の装置を用い検討を行った。

## 2. 実施要領

A社~L社の計11社が参加し、測定対象物質であるナトリウムに、測定の妨害物質としてカリウム・カルシウム・酸(今回は硝酸を選択)、また測定の助剤として塩化セシウムを表1に示す条件にて添加し試料を作成、測定した。

表1. 試料の条件設定

単位: mg/L

	条件1	条件2	条件3	条件4	条件5	条件6	条件7	条件8
Na	1	1	1	50	50	50	50	50
K	-	10	-	-	5000	-	5000	-
Ca	-	-	-	-	-	5000	-	5000
添加物	-	-	1%硝酸	-	-	-	塩化セシウム	塩化セシウム

Na: ナトリウム、K: カリウム、Ca: カルシウム

## 3. 結果

原子吸光度法では条件3の酸に、ICP発光分光法では条件2のカリウムに影響を受ける傾向にあり、ICP発光分光法では条件5のカリウム及び条件6のカルシウム共に影響が出たが、カリウムの方がより大きなものになった。塩化セシウムを添加することにより、特にICP発光分光法では各事業所の濃度差が収束方向に進んだ。また、原子吸光度法でも外れ値にあった値が、真値の近似値へと推移した。

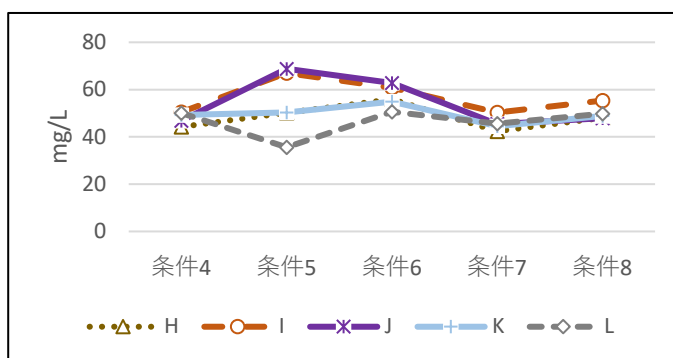


図1 ICP法(条件4, 5, 6, 7, 8)

測定結果の一例として、H社~L社の妨害物質の影響が大きかった条件4, 5, 6と収束に向かった条件7, 8の結果を図1に示す。なお各条件についてt検定による有意差検定を行ったところ、各試験法に有意差はなかったことを申し添えておく。

## 4. 考察

カリウム及び酸は正の影響を受けるが、標準液の10倍のカリウムの影響は、最大で1割程度のもので、誤差範囲内と言える値が確認できた。標準の100倍濃度の妨害物質の影響は、ICP発光分光法では、カリウム、カルシウムとばらつきが出たが、ナトリウムとイオン化干渉の影響が大きいカリウムの方がより、影響を受けた。原子吸光度法、イオンクロマトグラフ法、ICP発光分光法に有意差はないが、ICP発光分光法では塩化セシウムを添加したほうが、結果がより真値へと近似する結果となった。装置の状態によっては、原子吸光度法、ICP発光分光法の双方とも常に塩化セシウムの添加を検討するべきと考える。

各装置は、分析する試料によっては注意すべき点異なる所もあり、装置の理解と特性を把握し、単一の評価だけでなく、多角的な評価によって信頼性を上げていくことが重要と考える。

事業年度：2022年度（令和4年度）

活動テーマ：水質汚濁に係る環境基準の見直しによる六価クロムの定量下限値の確認についての共同実験

委員長（株）環境分析センター 関根 勇仁

## 1. 目的

令和4年4月1日に「水質汚濁に係る環境基準（昭和46年12月環境庁告示第59号）」の改正に伴い、六価クロムの基準値が0.05 mg/L から0.02 mg/L へ強化された。

これに伴い環告第59号における六価クロムの測定方法は工場排水試験方法（JIS K 0102）を引用しているが、今回の改正でJIS K 0102の引用状況も改正された。

六価クロムの基準値が0.02 mg/L に強化されたことにより、定量下限値も改訂前の0.02 mg/L から0.01 mg/L に引き下げる必要があるため、改正された環告第59号の測定方法を用いて参加各社で六価クロムの定量下限値の確認を行う共同実験を実施した。

## 2. 実施要領

第1回共同実験結果は、低濃度の六価クロム標準液（0.01 mg/L）を配布したことから経時変化によりほとんどの会社が0 mg/L であった。

第1回共同実験結果を踏まえて第2回共同実験を行うこととし、今度は比較的高濃度の六価クロム標準液（5 mg/L）を配布し、各社で測定時に設定濃度（0.01 mg/L）に希釈して測定することとした。

## 3. 実験結果

### ① 「実測の定量下限値」の確認

各社における測定結果は、平均値0.0067～0.01 mg/L、変動係数0.79～7.3%、定量下限値0.00078～0.005 mg/L であった。

共同実験に参加した12社の平均の定量下限値は0.0024 mg/Lであった。

### ② 添加回収率

六価クロム標準液（5 mg/L）を各社で希釈して0.05 mg/L に設定して測定した結果は、平均値0.026～0.051 mg/L、回収率53～102%であった。

共同実験に参加した12社の平均の回収率は93.9%であった。

## 4. 考察

### ① 「実測の定量下限値」の確認

共同実験に参加した12社の平均の定量下限値は0.0024 mg/Lであった。

定量下限値を0.01 mg/L に引き下げる必要があることから始まった共同実験結果は、定量下限値0.01 mg/L を下回ることが確認できた。

### ② 添加回収率

共同実験に参加した12社の平均の回収率は93.9%であった。

改正後の変更点として測定の際に「鉄共沈」操作を行う場合は、添加回収試験を行い、その添加回収率が70～120%の範囲にあることを要求している。

共同実験結果は、添加回収率の範囲内に入ることが確認できた。

編集者（株）環境分析センター 関根 勇二

1. 目的

環境分析において分析作業が完了するまで試料を変質させず保存することは、正確な試験データを取得するうえで留意すべき事項である。硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素は、アンモニア性窒素も含め試料中の共存物質や保存状態によって挙動が変化する物質としても知られており、正確な試験データを得るため、試料の保存性・安定性を確認した。

2. 保尊方法

硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素の保存方法は、クロロホルムを加えて 0～10℃の暗所で保存するか、短い日数であればそのままの状態でも 0～10℃の暗所に保存してもよいとなっている。但し、イオンクロマトグラフ法を採用する場合は、クロロホルムの添加を行わず直ちに試験が冷暗所保存ととされている。

3. 実施要領

対象となる試料に硝酸・亜硝酸の標準液を各 10mg/L となるように添加し実験試料とした。分析方法に関わらずクロロホルムの添加保存処理は行わず、冷暗所での保存のみとした。評価方法は、標準液を添加した日の濃度を基準として、保存日数による濃度変化率を確認した。

4. 結果

1 回目の実験は河川水と浄化槽処理水の 2 種類、各々 2 系統 (A 試料、B 試料) を実験した結果、3 試料については変化はなく、河川水 B のみ亜硝酸が減少し硝酸が増加する結果が得られた(図.1)。但し窒素換算の合計値については、変動はなかった。2 回目は、各事業所の実験試料を用いて実験を実施した。22 試料のうち 4 試料に変化が確認された(図.2)。地下水については硝酸・亜硝酸ともに増加しており、その結果窒素換算値も増加していた。

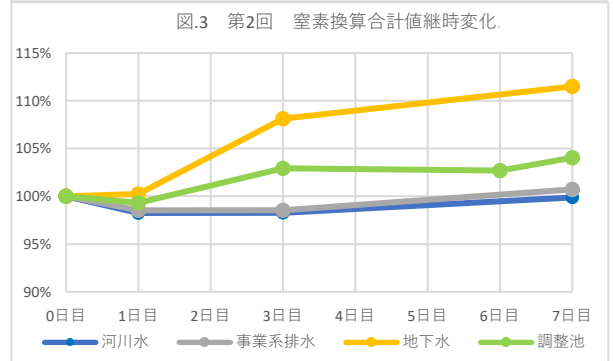
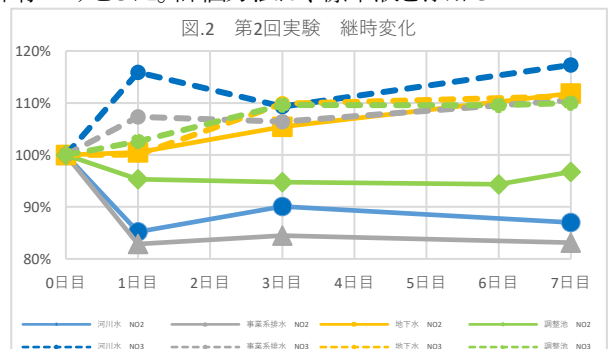
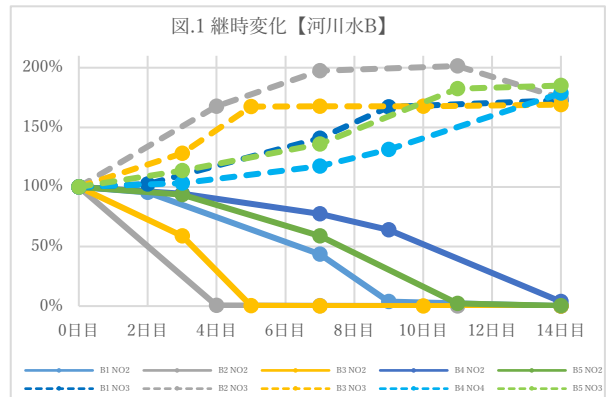
5. 考察

今回実施した冷暗所での保存実験において、発生頻度としては少ないが試料の種別を問わず硝酸及び亜硝酸の濃度変化が確認された。保存翌日から濃度変化するものや、4 日で全て硝酸の変化するものなど変化速度は様々であった。また窒素換算値においても合計値として 10%以上変動する試料も確認された。

JIS で規定されている硝酸・亜硝酸の試料保存は「直ちに試験する、冷暗所に保存しできるだけ早く試験する」という定性的な表現ではあるが、今回の結果からも試料は変化するものと改めて確認され JIS 記載事項の意味合いを理解できた。当委員会ではイオンクロマトグラフ法が主流であり、試料採取後直ちに試験を実施する事業所が大半である。JIS を遵守しつつも再試験を実施する際ややむを得ず保管する際には、経時的に濃度変化が生じる可能性があることを十分に理解して分析を実施することが、正確な試験データを取得するうえで重要である。

6. 参考文献

- ・令和5年版 環境・循環型社会・生物多様性白書
- ・工場排水試験方法 JIS K 0102



事業年度 2025年度(令和7年度)

活動テーマ 土粒子粒径の違いによるふっ素及びその化合物(土壌溶出量)濃度確認の共同実験

委員長 プロファ設計(株) 松永 道彦

### 1. 目的

重金属類等による土壌汚染は、汚染物質が土粒子表面に付着していることから質量に対する土粒子表面積の割合が大きくなる小さな粒径の土粒子において、重金属類等濃度が高いことが知られている。

本共同実験では、畑土壌及び現にふっ素及びその化合物の土壌汚染が確認されている土壌(以下、汚染土壌)を用いて、土粒子粒径の違いによるふっ素及びその化合物(土壌溶出量)濃度分布を確認した。併せて、ふっ素及びその化合物の分析方法の違い(表1参照)についても確認を行った。

表1 ふっ素及びその化合物分析方法一覧

分析検液作成方法	平成3年 環境庁告示第46号 付表
JIS K 0102-2 5.3	ランタン・アリザリンコンプレキソン吸光光度法
JIS K 0102-2 5.4	流れ分析法
JIS K 0102-2 5.5	イオンクロマトグラフ法

### 2. 土粒子粒径について

本共同実験で使用する土壌サンプルは、土壌汚染対策法で土壌と規定されている粒径 2mm 以下の土壌を、図1の4種類の粒径に区分し分析対象サンプルとした。なお、実験で用いたサンプルはふるい分け(乾式)を実施し、それぞれの粒径のサンプルを作成した。

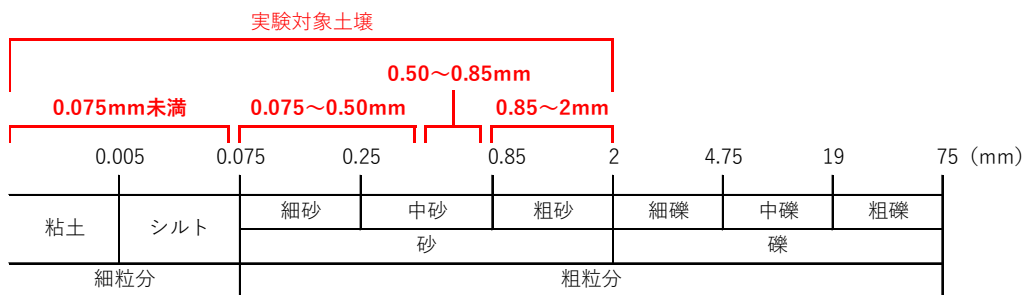


図1 実験対象土粒子粒径について

### 3. 実験結果について

畑土壌については、土粒子粒径の違い及び分析方法の違いにおいて、ふっ素及びその化合物濃度に差異は見られなかった。これは、畑土壌等で見られる団粒構造(微細土粒子が固まって形成された集合体)が分析検液作成中に破壊されることにより土粒子粒径に差が無くなったことが原因と推察された。

一方、汚染土壌は有機質の少なく団粒構造を形成しない土性のサンプルを用いた。その結果、最も土粒子粒径の小さい 0.075mm 未満の土壌サンプルにおいて、ふっ素及びその化合物濃度が最も高い値を示した(図2参照)。また、分析方法の違いについては、いずれの土粒子粒径においてもイオンクロマトグラフ法が他の2つの分析方法よりも高い値を示した。本実験でのイオンクロマトグラフ法では、分析前処理である水蒸気蒸留等を実施していないことによる正の妨害となる物質の共存や、他の2つの分析方法で実施されている水蒸気蒸留工程におけるふっ素及びその化合物の損失等が疑われる結果となった。

以上のことから、土壌サンプルの性状によっては土粒子粒径で異なる濃度分布となることを確認することができるが、団粒構造等の土塊形成の有無によっては濃度分布確認が困難であることも確認された。また、土壌分析におけるふっ素及びその化合物の分析選択については、細心の注意が必要であることも確認された。

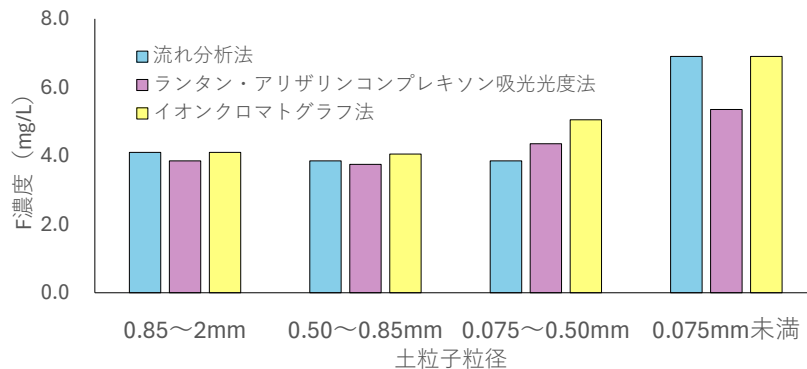


図2 汚染土壌における実験結果

編集者 プロファ設計(株) 松永 道彦

令和7年度 技術委員会（12社12名）

	<p>委員長 プロファ設計（株） 松永道彦</p> <p>50年前の1970年代は高度経済成長期であり、多くの環境問題が発生し様々な法律・制度が整備されましたが、環境問題に終わりはなく、現在でも新たな環境問題が生じています。技術委員会は、これからも日進月歩の分析技術の波に取り残されないよう、一層努力してまいる所存です。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。</p>
	<p>副委員長 （株）環境技研 篠原政登</p> <p>半世紀という大きな節目に立ち会い、本分科会の一員であることを心より誇りに思います。100周年という次なる高みへ向けて。時代とともに変わりゆく環境課題に対し、正確な計量を守るという変わらぬ情熱を持って、これからも全力で挑み続けてまいります。</p>
	<p>副委員長 （株）群馬分析センター 金子美智子</p> <p>50周年記念を迎え会発足以降の諸先輩方のご尽力に敬意を表します。またこの期間に、中継ぎの技術委員として平成26年から令和7年の11年間、共同実験を通し会員の皆さんと一緒に活動出来た経験は私にとって良きものとなりました。平成29年日環協環境セミナーin千葉での技術発表。「環境と測定技術」/Vol.45 No.4 2018 技術報文寄稿。</p>
	<p>委員 （株）不二ケミカル 下山徹也</p> <p>この度は環境分科会創立50周年おめでとうございます。 長年の関係者様方のご尽力・情熱に敬意を表します。 皆様のご健勝とご多幸を祈念いたします。</p>
	<p>委員 パリノ・サーヴェイ（株）小畑勝</p> <p>50周年おめでとうございます。 始めは右も左もわかりませんでした。技術委員会を通して色々ご教授してもらい、技術が向上したように感じます。これからも技術委員会とともに向上していきたいので、ご教授よろしくお願いいたします。</p>
	<p>委員 関東電化産業（株） 小林生二</p> <p>50周年を迎えるにあたり、関係者の皆様のご尽力に深く敬意を表します。思えば、私が技術委員会に参加させて頂くようになり、20年の月日が流れました。その間、一年の成果を環境セミナーで発表したりしました。学生時代とは違った緊張感を味わったのが懐かしく思います。今後も、技術委員会の活動がより活発になる事を祈念します。</p>

	<p>委員 (株) 総合環境分析 小林正寛</p> <p>群馬県計量協会環境分科会 50 周年、誠におめでとうございます。この節目に技術委員として関わる機会を頂けた事、心より感謝申し上げます。また、同業者の皆様との交流の場を通じ多くの学びと刺激を得られる事を大変ありがたく感じております。今後も技術と現場力を磨き、地域社会に貢献してまいります。</p>
	<p>委員 (一財) 群馬県薬剤師会環境衛生試験センター 田島幸夫</p> <p>この長い歴史のうち私はまだほんの一部分しか携わることができていませんが、携わることができ大変、光栄に思っております。50 周年を迎えることができたのも先輩方、関係者の皆様方の努力の賜物だと思います。今後、私自身、環境計量に尽力し、この業界に少しでも力添えできればと考えております。</p>
	<p>委員 (株) ヤマト 大和分析センター 春山由紀子</p> <p>技術委員会に参加して3年ほど経ちますが、委員会での他社の方々との情報交換は、毎回様々な気づきがあり、大変勉強になっております。自社の分析室にいただけでは、決して得られない経験です。これからは60周年、70周年を皆様と共に迎えらるることを目指し、活動に参加していきたいと思っております。</p>
	<p>委員 東芝環境ソリューション (株) 坂本洋祐</p> <p>技術委員会を通して、様々な課題と改善を皆様のご協力のもとに行ってきた成果を、お手元にお届けできるこのような機会を持って嬉しく思います。普段の業務で気軽にできないような基礎実験も含まれていますので、楽しんで頂ければと存じます。今後もより良いテーマを探求し、ご支援とご協力を賜りますよう努力してまいります。</p>
	<p>委員 (株) 環境アシスト 石塚政和</p> <p>50周年を迎えるにあたり、心よりお祝い申し上げます。技術委員会メンバーとして、数々の技術検討を通じて環境保全に取り組んできたことを誇りに感じております。これまでの歩みを振り返りつつ、技術を通じて社会と環境に貢献する取り組みを続けてまいります。関係者の皆様のご支援に心より感謝申し上げます。</p>
	<p>委員 (株) ミツバ環境ソリューション 恩田綾子</p> <p>今まで共同実験の協力で技術委員会に触れることはありましたが、今期半ばから前任者に代わり委員として参加することになりました。なかなか他社と交流する機会がなく要領を得ないことがありますが、微力ながら委員会の発展に貢献できればと思っております。何卒宜しくお願い致します。</p>

# 環境分科会のあゆみ

～ 浄化槽委員会 ～

# 浄化槽委員会の活動実績

〔委員会担当業務〕

浄化槽委員会は、浄化槽に関する事項の企画立案を行う。

〔委員会活動記録〕

## 目 次

1. 序文（はじめに）	82
2. 効率化導入まで① 行政と四団体	82
3. 効率化導入まで② 内部協議	83
4. 効率化導入から現在	84
5. 浄化槽委員会の活動（創立31年から創立50年）	84
6. 終章（おわりに）	111
7. 平成7年度 浄化槽委員	112

## 1. 序文（はじめに）

私たちの住む群馬県は首都圏の水源地といわれ、坂東太郎の別名をもつ利根川は長さでは第2位、流域面積では第1位という日本で有数の一級河川です。そして県土のほとんどが利根川の流域になっており、家庭や事業場からの生活・事業排水は各支流を經由して多くが利根川に流れ込んでいます。河川の汚れの原因の約3分の2が生活系の汚れが占めていると言われていています。この生活系の汚れの除去に対応しているのが、主に公共下水道と県内に約30万基ある単独及び合併浄化槽です。浄化槽の汚水処理比率は全排水に対して約4割を占め、公共下水道と同じく今や重要な社会インフラとなっています。そして、ますます加速する人口減少動向等を考慮すると維持コスト、安定的持続性、災害時のリスク分散等では、公共下水道に対して優位性がある反面、維持管理に課題問題があることは残念ながら否めません。

この課題を解決すべく、浄化槽法（1983年（昭和58年）5月11日成立、5月18日公布）が厚生省（当時）と建設省（当時）により制定され、その法律のもと2005年（平成17年）4月より群馬方式の効率化11条検査がスタートして現在に至っています。この効率化11条は10年に一度の全項目検査（11条検査）を補完するものであり、その検査の核となるのは浄化槽委員会が担っているBOD検査であります。

浄化槽委員会は浄化槽法公布以前、いわゆる旧指導要綱時代より設立され活動をしてきましたが、効率化11条導入20年後の今から当時を振り返ってみると、2005年（平成17年）4月が大きなターニングポイントであったと深い感慨とともに判ります。

## 2. 効率化導入まで－① 行政と四団体

序文で記したように浄化槽委員会と他委員会の相違は、BOD測定が発注先である（公財）群馬県環境検査事業団との間に受託料金としての経済的やりとりの発生があること

と、(一社)群馬県浄化槽協会、(一社)群馬県保全協会等の関係団体と BOD 検査を通じて協働協力関係があることです。

平成 17 年以前は旧指導要綱に基づく BOD 検査が行われており、各浄化槽管理業者と計量証明事業者間での直接契約で分析料金も標準価格は定められてはいたものの、実際は各社ごと、場合によっては管理業者毎に料金の違いがあり、その為分析機関間での価格競争もあり、協働協力より各社ライバル関係に近いものがありました。そして、当時は法改正等により BOD 検査そのものがなくなる可能性もあるのではないかという情報も飛び交い、不安な空気感が浄化槽委員会を覆ってもしました。

その様な時代背景の中、2003 年(平成 15 年)10 月 15 日から行政(廃棄物政策課)と(社)群馬県浄化槽協会、(社)群馬県環境保全協会、(財)群馬県環境検査事業団、(社)群馬県計量協会環境分科会の民間四団体(以下、関係四団体)で効率化 11 条導入に係る協議がスタートしました。

第 1 回目の協議内容 法定検査の現状、国の指導、県の方針について県及び(財)群馬県環境検査事業団より説明が四団体に対して行われた。

2 回目は、法定検査の効率化の実施方法(案)の説明とそれに対する各団体役員からのヒヤリング

3 回目は、効率化 11 条の実施方法に関わる基本事項への関係団体の合意とりつけと導入スケジュール等

その後、回を重ね 2004 年(平成 16 年)9 月 9 日の 5 回目で協議を終了した。特に 4 回目の業務委託手数料の決定については多くの時間を要しました。この協議会には、環境分科会からは浅川会長(当時)と新井(由)浄化槽委員長(当時)が主に参加して当分科会の意見を行政及び関係団体へ伝えました。

行政及び関係四団体の群馬県方式の効率化 11 条の協議と基本合意に基づく案を環境省が 2004 年(平成 16 年)8 月 23 日協議を開始し、当年 12 月 6 日に群馬県方式が正式承認されました。この承認を受けて環境分科会(浄化槽委員会)として平成 17 年 4 月から導入される予定(当時)の新方式に対応する準備を迫られることになり、内部協議がスタートしました。

### 3. 効率化導入まで② 内部協議

2004 年(平成 16 年)4 月の新方式による 11 条検査の開始にむけて、浄化槽委員会としてどの様に対処してゆくか迫られ、浅川会長を中心に本格的協議に入りました。協議は旧指導要綱による BOD 検査体制の現状確認と移行に際しての問題と障壁の認識の共有を目指しました。と同時に今後『問題の対応・検討にあたって』というテーマで全委員にアンケートを実施しました。そこで調整作業にあたっての基本原則(①give & give の精神をもってあたる ②排除でなく包摂の態度であたる ③決まったことは守る)が決まり課題・問題の洗い出し等の作業に入っていました。この基本原則の確立には環境分科会会長事業所(株)環境技研 社長の川口監事に負う所が大でありました。

早急に決断が必要な課題としては①新規参加の事業者 ②県外に住所のある事業者 ③サンプリングのみの非計量証明事業者の三つでした。又、同時並行的に想定外の外部状況への対処（伊勢崎市担当課へのロビー活動）等と従来の BOD 検査実施率が低い浄化槽管理業者への委員会としての新方式の説明と協力要請を、会長を中心に訪問、説明し理解と協力を求めました。移行にあたっての問題・課題の解決までには紆余曲折もありましたが各委員それぞれの基本原則に基づく協力を得られ、新方式導入に向けての体制が出来あがりました。

#### 4. 効率化導入から現在まで

2004 年（平成 16 年）12 月 6 日の環境省による効率化 11 条群馬方式の正式承認を受けて同年同月 21 日に浄化槽法定検査委員会が群馬県庁 161 会議室にて開催され、県、市町村、各保健福祉事務所、関係四団体が参加しました。当委員会からは会長、委員長が参加しました。この会議では、判定基準の改定と実施方法について話し合わせ各委員、団体の承認がなされ、以後県、市町村、保健福祉事務所、環境分科会はじめ四団体で 2005 年（平成 17 年）2 月には効率化 11 条の目玉とも言える指定採水員指定講習会が（一社）群馬県浄化槽協会主催で行われ、浄化槽委員会は（株）群馬分析センターの佐藤氏を講師として派遣し、それを皮切りに現在に至っています。

創立 30 年までの委員会活動の詳細については、既に発行済みの『30 年記念誌』を参照し、以降については次項の年度別の「浄化槽委員会・活動実績」に各期間の正副委員長名、各年度での重要議題・関係四団体等との会議、指定講習・更新講習会への講師派遣、精度管理（BOD 他クロスチェック）等についての情報を記載致しましたのでご覧下さい。

#### 5. 浄化槽委員会の活動（創立 31 年から創立 50 年）

□□ 2005 年度（平成 17 年度）事業実績 □□

新井由雄委員長、佐藤竜馬副委員長、新井宗雄副委員長

第 1 回浄化槽委員会（通算 33 回） 2005 年（平成 17 年）4 月 12 日（火）

- ・「新制度導入報告会」の内容報告
- ・効率化 11 条受託契約状況について
- ・導入推進対策について
- ・基本件数と各社上限数算出について
- ・ブロック分けの最終確認、ブロック長の選出について
- ・「事務業務マニュアル」の作成について

第 2 回浄化槽委員会（通算 34 回） 2005 年（平成 17 年）4 月 28 日（火）

- ・負担金算出方法について
- ・幹事役・ブロック長の選出について

- ・(財)群馬県環境検査事業団からの要望について

第3回浄化槽委員会(通算35回)2005年(平成17年)5月20日(火)

- ・客先(管理業者)が重複する分析業者の調整
- ・ブロックの機能とブロック長の役割について

第4回浄化槽委員会(通算36回)2005年(平成17年)7月5日(火)

- ・客先が重複する分析業者の調整経過の報告
- ・50人槽以上の自主検査に関する要望書提出
- ・BOD検査依頼書の意見書・様式案提出

第5回浄化槽委員会(通算37回)2005年(平成17年)8月9日(火)

- ・要望書提出の報告
- ・支払い条件について
- ・「効率化11条」取り組み状況について
- ・浄化槽問題研究会発足、会長及び委員長が出席

第6回浄化槽委員会(通算38回)2005年(平成17年)9月27日(火)

- ・第1回浄化槽問題研究会報告
- ・浄化槽関係四団体事業推進協議会の設立について
- ・新規・少数依頼の管理業者の担当について
- ・今後顕著化する問題の対応策について

第7回浄化槽委員会(通算39回)2005年(平成17年)10月18日(火)

- ・今後顕著化する問題の対応策について
- ①委員会への欠席時委任状の提出
- ②月次実績報告は翌月20日まで

第8回浄化槽委員会(通算40回)2005年(平成17年)11月29日(火)

- ・浄化槽関係四団体事業推進協議会の報告
- ・浄化槽問題研究会への提出議案について

第9回(通算41回)2005年(平成17年)12月19日(火)

- ・第2回群馬県浄化槽問題研究会(12/6)報告説明
- ・月次集計について
- ・予想される問題・基本事項踏まえての対応策

第 10 回浄化槽委員会（通算 42 回）2006 年（平成 18 年）1 月 24 日（火）

- ・問題発生時の解決法について各社提案
- ・ワーキンググループ（4 グループ）新設
- ・委員会の出席は業務の最優先とする

第 11 回浄化槽委員会（通算 43 回）2006 年（平成 18 年）2 月 28 日（火）

- ・ワーキンググループメンバー・リーダー選任

□□ 2006 年度（平成 18 年度）事業実績 □□

新井由雄委員長、佐藤竜馬副委員長、新井宗雄副委員長

第 1 回浄化槽委員会（通算 45 回）2006 年（平成 18 年）4 月 11 日（火）

- ・ワーキンググループ検討内容の報告
- ・「調整」の具体的方法の検討

第 2 回浄化槽委員会（通算 46 回）2006 年（平成 18 年）6 月 6 日（火）

- ・ワーキンググループ検討内容の報告
- ・広報活動におけるルール確認について
- ・BOD 自動化・効率化について

第 3 回浄化槽委員会（通算 47 回）2006 年（平成 18 年）7 月 4 日（火）

- ・ワーキンググループ検討内容の報告
- ・浄化槽関係四団体事業推進連絡協議会への提案議題検討

第 4 回浄化槽委員会（通算 48 回）2006 年（平成 18 年）8 月 9 日（火）

- ・浄化槽問題研究会の内容報告
- ・群馬県から「水よみがえれキャンペーン」の協力要請

第 5 回浄化槽委員会（通算 49 回）2006 年（平成 18 年）9 月 5 日（火）

- ・ワーキンググループ検討内容の報告
- ・「水よみがえれキャンペーン」参加決定

第 6 回浄化槽委員会（通算 50 回）2006 年（平成 18 年）10 月 3 日（火）

- ・ワーキンググループ検討内容の報告
- ・「ぐんま環境&森林フェスティバル」の参加要請
- ・（財）群馬県環境検査事業団との意見交換の場作りについて

第 7 回浄化槽委員会（通算 51 回）2006 年（平成 18 年）11 月 28 日（火）

- ・「水よみがえれキャンペーン」の出展協議について

第 8 回浄化槽委員会（通算 52 回）2007 年（平成 19 年）2 月 2 日（金）

- ・ BOD 測定結果の統計的問題と今後の対応について
- ・ 「水よみがえれキャンペーン」参加内容
- ・ （財）群馬県環境検査事業団から理事就任要請、選任について
- ・ 未収金の実態調査と対策・対応について
- ・ ブロック内等の協力について
- ・ 今後の浄化槽委員会検討事項について

第 9 回浄化槽委員会（通算 53 回）2007 年（平成 19 年）3 月 6 日（火）

- ・ 「水よみがえれキャンペーン」参加報告
- ・ 四団体連絡協議会の議決内容報告
- ・ （財）群馬県環境検査事業団理事推薦者の選任について
- ・ 測定値の精度問題における経過報告について
- ・ 未収金調査と支払いリスク対策・対応

第 10 回浄化槽委員会（通算 54 回）2007 年（平成 19 年）3 月 27 日（火）

- ・ （財）群馬県環境検査事業団へ精度管理について内容報告
- ・ 精度管理の方法について
- ・ 外部会議出席に際しての補助について承認

□□ 2007 年度（平成 19 年度）事業実績 □□

新井由雄委員長、佐藤竜馬副委員長、新井宗雄副委員長

第 1 回浄化槽委員会（通算 55 回）2007 年（平成 19 年）4 月 24 日（火）

- ・ （財）群馬県環境検査事業団に対しての当協会の説明について
- ・ （財）群馬県環境検査事業団の要望に即した対応を協議

第 2 回浄化槽委員会（通算 56 回）2007 年（平成 19 年）5 月 8 日（火）

- ・ 執行部人事の承認について
- ・ 精度管理の経過と今後の対応について
- ・ 今年度の主要課題の確認について

第 3 回浄化槽委員会（通算 57 回）2007 年（平成 19 年）6 月 5 日（火）

- ・ クロスチェック用 BOD 試料の配布と説明
- ・ （財）群馬県環境検査事業団評議員に当委員会から 3 名承認
- ・ 新任者講習の講師の選任について

第 4 回浄化槽委員会（通算 58 回）2007 年（平成 19 年）7 月 3 日（火）

- ・ クロスチェック結果集計報告

- ・ 新任者講習の講師の決定について

第 5 回浄化槽委員会（通算 59 回）2007 年（平成 19 年）8 月 7 日（火）

- ・ 浄化槽関係四団体事業推進連絡協議会について議事報告
- ・ 群馬県浄化槽問題研究会について議事報告

第 6 回浄化槽委員会（通算 60 回）2007 年（平成 19 年）9 月 11 日（火）

- ・ 調整方法に関する検討アンケート結果報告
- ・ 次回クロスチェックについて
- ・ 「水よみがえれキャンペーン」参加最終確認

第 7 回浄化槽委員会（通算 61 回）2007 年（平成 19 年）10 月 16 日（火）

- ・ (財) 群馬県環境検査事業団から塩化物イオン測定について要望
- ・ 「水よみがえれキャンペーン」参加報告
- ・ BOD クロスチェック試料配布

第 8 回浄化槽委員会（通算 62 回）2007 年（平成 19 年）12 月 4 日（火）

- ・ BOD クロスチェックの集計結果報告
- ・ 調整方法案の検討と承認について

第 9 回浄化槽委員会（通算 63 回）2008 年（平成 20 年）2 月 2 日（火）

- ・ 四団体連絡協議会の報告
- ・ 新役員の選出について
- ・ 浄化槽委員会の開催頻度について

第 10 回浄化槽委員会（通算 64 回）2008 年（平成 20 年）2 月 19 日（火）

- ・ 浄化槽問題研究会の報告
- ・ 新役員の選出方法について

第 11 回浄化槽委員会（通算 65 回）2008 年（平成 20 年）3 月 4 日（火）

- ・ (財) 群馬県環境検査事業団へ 7 条・11 条 BOD 検査継続受注要請
- ・ 新役員の選出方法について

第 12 回浄化槽委員会（通算 66 回）2008 年（平成 20 年）3 月 11 日（火）

- ・ (財) 群馬県環境検査事業団から 11 条 BOD 検査受渡し等の説明
- ・ 新年度活動方針について

第 13 回浄化槽委員会（通算 67 回）2008 年（平成 20 年）3 月 18 日（火）

- ・ 新人事調整作業の経過報告

- ・(財)群馬県環境検査事業団への要望書(案)についての検討

第14回浄化槽委員会(通算68回)2008年(平成20年)3月25日(火)

- ・(財)群馬県環境検査事業団への「要望書」提出報告
- ・新委員長、副委員長人事選任について

□□ 2008年度(平成20年度)事業実績 □□

新井宗雄委員長、本嶋茂雄副委員長、佐藤弘之副委員長、川口勝監事、新井由雄監事

第1回浄化槽委員会(通算69回)2008年(平成20年)4月15日(火)

- ・7条・全項目11条BOD前年度分析委託報告
- ・今年度活動計画について

第2回浄化槽委員会(通算70回)2008年(平成20年)5月20日(火)

- ・ワーキンググループ打合せ・報告
- ・クロスチェックの進め方

第3回浄化槽委員会(通算71回)2008年(平成20年)6月10日(火)

- ・ワーキンググループ打合せ・報告
- ・BODクロスチェック試料配布

第4回浄化槽委員会(通算72回)2008年(平成20年)7月8日(火)

- ・ワーキンググループ打合せ・報告
- ・浄化槽関係四団体事業推進連絡協議会報告
- ・クロスチェック実施結果の進捗状況について

第5回浄化槽委員会(通算73回)2008年(平成20年)8月7日(火)

- ・(財)群馬県環境検査事業団から消費税の取り扱いに係る説明
- ・浄化槽問題研究会開催報告
- ・BODクロスチェックサンプル配布

第6回浄化槽委員会(通算74回)2008年(平成20年)9月9日(木)

- ・(財)群馬県環境検査事業団へ要望書提出の件(消費税の件)
- ・精度管理委員会(クロスチェックの件)

第7回浄化槽委員会(通算75回)2008年(平成20年)10月7日(火)

- ・(財)群馬県環境検査事業団から要望書回答の件(消費税の件)
- ・浄化槽関係四団体事業推進連絡協議会報告
- ・精度管理委員会(クロスチェックの件)

第 8 回浄化槽委員会（通算 76 回）2008 年（平成 20 年）11 月 11 日（火）

- ・（財）群馬県環境検査事業団から要望書回答の件（消費税の件）
- ・浄化槽関係四団体事業推進連絡協議会報告
- ・精度管理委員会（クロスチェックの件）

第 9 回浄化槽委員会（通算 77 回）2008 年（平成 20 年）12 月 9 日（火）

- ・BOD クロスチェック、チェックシートの進捗
- ・BOD 分析結果報告の電子化について
- ・全項目 11 条・7 条分析委託の隔週化について

第 10 回浄化槽委員会（通算 78 回）2009 年（平成 21 年）2 月 5 日（木）

- ・（財）群馬県環境検査事業団より BOD 結果報告書電子化の説明
- ・大岩専務を迎えての研修会

第 11 回浄化槽委員会（通算 79 回）2009 年（平成 21 年）2 月 10 日（火）

- ・浄化槽関係法令改正の動向について

第 12 回浄化槽委員会（通算 80 回）2009 年（平成 21 年）3 月 10 日（火）

- ・BOD クロスチェックシート見直しについて
- ・次年度通常総会開催について
- ・浄化槽関係四団体事業推進連絡協議会報告
- ・群馬県浄化槽問題研究会報告

□□ 2009 年度（平成 21 年度）事業実績 □□

新井宗雄委員長、本嶋茂雄副委員長、佐藤弘之副委員長、川口勝監事、新井由雄監事

第 1 回浄化槽委員会（通算 81 回）2009 年（平成 21 年）4 月 14 日（火）

- ・（財）群馬県環境検査事業団より新システム及び改善要望の説明
- ・通常総会事業報告案及び事業計画について

第 2 回浄化槽委員会（通算 82 回）2009 年（平成 21 年）5 月 12 日（火）

- ・通常総会事業報告案及び事業計画について
- ・BOD クロスチェック予定について

第 3 回浄化槽委員会（通算 83 回）2009 年（平成 21 年）6 月 10 日（水）

- ・平成 21 年度通常総会開催報告
- ・精度管理について（クロスチェック試料配布）
- ・浄化槽問題研究会 6/30 開催予定

第4回浄化槽委員会（通算84回）2009年（平成21年）7月14日（火）

- ・（財）群馬県環境検査事業団から塩化物イオンの傾向について説明
- ・BODクロスチェック集計進捗
- ・関係四団体及び浄化槽問題研究会開催報告

第5回浄化槽委員会（通算85回）2009年（平成21年）8月25日（火）

- ・（財）群馬県環境検査事業団から「効率化11条検査に係るお願い」
- ・浄化槽管理会社の支払い滞納による諸問題について

第6回（通算86回）2009年（平成21年）9月15日（火）

- ・（財）群馬県環境検査事業団から効率化11条検査進め方の説明
- ・実サンプルによるBODクロスチェックの検討
- ・効率化11条検査審査会に新井由雄委員出席

第7回（通算87回）2009年（平成21年）10月6日（火）

- ・（財）群馬県環境検査事業団から効率化11条検査進め方の説明
- ・実サンプルによるBODクロスチェックの検討
- ・効率化11条検査審査会に新井由雄委員出席

第8回（通算88回）2009年（平成21年）11月10日（火）

※本嶋茂雄監事から鈴木敦監事に変更

- ・（財）群馬県環境検査事業団から効率化11条検査進め方の説明
- ・BODクロスチェック集計について
- ・「水よみがえれキャンペーン」の進め方
- ・委員会組織変更（副委員長、本嶋から鈴木に変更）

第9回（通算89回）2009年（平成21年）12月2日（火）

- ・（財）群馬県環境検査事業団より7条・全項目分析委託終了の報告
- ・「水よみがえれキャンペーン」の進め方

第10回（通算90回）2010年（平成22年）2月9日（火）

- ・通常総会開催について
- ・（財）群馬県環境検査事業団へ12/18提出の要望書の回答について

第11回（通算91回）2010年（平成22年）3月8日（月）

- ・（財）群馬県環境検査事業団より12/18提出の要望書回答の説明
- ・通常総会開催について

□□ 2010年度（平成22年度）度事業実績 □□

新井宗雄委員長、本嶋茂雄副委員長、佐藤弘之副委員長、新井由雄監事、川口勝監事（途中、田島和明監事へ交代）

第1回浄化槽委員会（通算92回）2010年（平成22年）4月13日（火）

- ・（財）群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・通常総会開催に向け活動報告、活動計画を審議

第2回浄化槽委員会（通算93回）2010年（平成22年）6月8日（火）

- ・（財）群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・浄化槽四団体事業推進協議会開催予定
- ・BODクロスチェックサンプル配布

第3回浄化槽委員会（通算94回）2010年（平成22年）7月13日（水）

- ・（財）群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・BODクロスチェック集計報告
- ・第1回浄化槽四団体事業推進協議会開催報告

第4回浄化槽委員会（通算95回）2010年（平成22年）8月10日（火）

- ・第2回四団体及び浄化槽問題研究会開催報告
- ・第1回群馬県浄化槽問題研究会開催報告
- ・新規会員「浅野テクノロジー」

第5回浄化槽委員会（通算96回）2010年（平成22年）10月12日（火）

- ・（財）群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・第1回浄化槽関係四団体事業推進連絡協議会拡大会議報告
- ・「水よみがえれキャンペーン」11/27 予定

第6回浄化槽委員会（通算97回）2010年（平成22年）11月9日（火）

- ・（財）群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・「水よみがえれキャンペーン」開催について担当当番割り

第7回浄化槽委員会（通算98回）2011年（平成23年）1月11日（火）

- ・（財）群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・第2回BODクロスチェック実施について（サンプル配布）

第8回浄化槽委員会（通算99回）2011年（平成23年）2月17日（火）

- ・（財）群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・第2回BODクロスチェック結果について

- ・次年度役員改選について

第9回浄化槽委員会（通算100回）2011年（平成23年）3月15日（火）

- ・（財）群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・次年度通常総会における活動報告及び活動計画（案）について
- ・役員改選について

□□ 2011年度（平成23年度）事業実績 □□

佐藤弘之委員長、鈴木敦副委員長、近野栄子副委員長、田島和明監事、新井由雄監事

第1回浄化槽委員会（通算101回）2011年（平成23年）6月7日（火）

- ・（財）群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・通常総会開催報告
- ・第1回浄化槽関係四団体事業推進協議会開催報告
- ・効率化11条検査で使用するカバン及びカギの破損等について
- ・検査料金の支払い方法について
- ・不適となった浄化槽について
- ・停電による効率化11条検査への影響について
- ・四団体及び浄化槽問題研究会担当委員の選出
- ・メール添付様式「効率化11条BOD測定結果報告書」について

第2回浄化槽委員会（通算102回）2011年（平成23年）7月6日（火）

- ・（財）群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・メール添付様式「効率化11条BOD測定結果報告書」について
- ・第1回BODクロスチェック実施についてサンプル配布
- ・計画停電時インキュベーターの温度変化について

第3回浄化槽委員会（通算103回）2011年（平成23年）8月2日（水）

- ・（財）群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・第1回BODクロスチェック集計について
- ・第2回浄化槽関係四団体事業推進協議会報告

第4回浄化槽委員会（通算104回）2011年（平成23年）9月6日（火）

- ・（財）群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・自己啓発・レベルアップのための情報交換（仮）について
- ・「水よみがえれキャンペーン」の実施について

第5回浄化槽委員会（通算105回）2011年（平成23年）11月2日（水）

- ・（財）群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・「水よみがえれキャンペーン」について詳細打ち合わせ

第6回浄化槽委員会（通算106回）2012年（平成24年）1月17日（火）

- ・第2回BODクロスチェックについて（サンプル配布）
- ・浄化槽関係四団体事業推進協議会2/8に予定
- ・新規入会希望（プロファ設計）

第7回浄化槽委員会（通算107回）2012年（平成24年）2月7日（火）

- ・（財）群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・第2回BODクロスチェック集計について
- ・群馬県浄化槽問題研究会2月開催予定

第8回浄化槽委員会（通算108回）2012年（平成24年）3月12日（月）

- ・（財）群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・来年度通常総会に向けて活動報告・活動計画案を確認
- ・浄化槽関係四団体事業推進協議会報告
- ・群馬県浄化槽問題研究会報告

□□ 2012年度（平成24年度）事業実績 □□

佐藤弘之委員長、鈴木敦副委員長、近野栄子副委員長、田島和明監事、新井由雄監事

第1回浄化槽委員会（通算109回）2012年（平成24年）6月12日（火）

- ・（公財）群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・通常総会開催報告
- ・新委員紹介（プロファ設計、アクアハイプラン）
- ・関係四団体等担当委員確認（四団体、浄化槽問題研究会）
- ・ワーキンググループ再編成について
- ・BODクロスチェック実施について

第2回浄化槽委員会（通算110回）2012年（平成24年）7月10日（火）

- ・（公財）群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・第1回浄化槽関係四団体事業推進連絡協議会報告
- ・BODクロスチェック8月に実施予定

第3回浄化槽委員会（通算111回）2012年（平成24年）8月21日（火）

- ・（公財）群馬県環境検査事業団と情報交換

- ・ BOD クロスチェック実施についてサンプル配布

第 4 回浄化槽委員会（通算 112 回）2012 年（平成 24 年）9 月 11 日（火）

- ・（公財）群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・ BOD クロスチェック実施結果について
- ・「水よみがえれキャンペーン」の予定について

第 5 回浄化槽委員会（通算 113 回）2012 年（平成 24 年）10 月 16 日（火）

- ・（公財）群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・「水よみがえれキャンペーン」について詳細打ち合わせ

第 6 回浄化槽委員会（通算 114 回）2012 年（平成 24 年）11 月 13 日（火）

- ・（公財）群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・「水よみがえれキャンペーン」実施報告
- ・浄化槽関係四団体事業推進連絡協議会報告
- ・群馬県浄化槽問題研究会報告

第 7 回浄化槽委員会（通算 115 回）2012 年（平成 24 年）12 月 11 日（火）

- ・（公財）群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・ BOD クロスチェック進め方について
- ・総会に向けて（役員改選、事業計画、その他）

第 8 回浄化槽委員会（通算 116 回）2013 年（平成 25 年）1 月 22 日（火）

- ・（公財）群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・ BOD クロスチェックサンプル配布
- ・総会に向けて（役員改選、事業計画、その他）

第 9 回浄化槽委員会（通算 117 回）2013 年（平成 25 年）2 月 19 日（火）

- ・ BOD クロスチェック集計報告
- ・関係四団体事業推進連絡協議会報告
- ・総会に向けて（役員改選、事業計画、その他）

第 10 回浄化槽委員会（通算 118 回）2013 年（平成 25 年）3 月 26 日（月）

- ・（公財）群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・来年度通常総会に向けて役員、活動報告・活動計画案を確認

□□ 2013年度（平成25年度）事業実績 □□

佐藤弘之委員長、鈴木敦副委員長、近野栄子副委員長、田島和明監事、新井由雄監事

第1回浄化槽委員会（通算119回）2013年（平成25年）6月11日（火）

- ・通常総会開催報告（新体制、活動計画、その他）
- ・第1回BODクロスチェック実施予定について
- ・第1回浄化槽関係四団体事業推進連絡協議会6/24予定

第2回浄化槽委員会（通算120回）2013年（平成25年）7月9日（火）

- ・（公財）群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・第1回BODクロスチェック実施についてサンプル配布
- ・第1回浄化槽関係四団体事業推進連絡協議会報告

第3回浄化槽委員会（通算121回）2013年（平成25年）8月20日（火）

- ・（公財）群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・BODクロスチェック実施結果について

第4回浄化槽委員会（通算122回）2013年（平成25年）9月10日（火）

- ・（公財）群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・「水よみがえれキャンペーン」の予定について（11/23）

第5回浄化槽委員会（通算123回）2013年（平成25年）10月15日（火）

- ・（公財）群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・「水よみがえれキャンペーン」について詳細打ち合わせ

第6回浄化槽委員会（通算124回）2013年（平成25年）11月12日（火）

- ・（公財）群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・「水よみがえれキャンペーン」について詳細打ち合わせ

第7回浄化槽委員会（通算125回）2013年（平成25年）12月10日（火）

- ・（公財）群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・「水よみがえれキャンペーン」実施報告
- ・第2回BODクロスチェックについて（1/21予定）

第8回浄化槽委員会（通算126回）2014年（平成26年）1月21日（火）

- ・（公財）群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・浄化槽関係四団体事業推進連絡協議会報告（12/19開催）
- ・第2回BODクロスチェック実施サンプル配布

第9回浄化槽委員会（通算127回）2014年（平成26年）2月25日（火）

- ・（公財）群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・浄化槽関係四団体事業推進連絡協議会報告（2/13開催）
- ・第2回BODクロスチェック結果集計
- ・通常総会に向けて（活動報告、活動計画（案））
- ・効率化11条実施向上に向けた県から管理者へ指導要望書提出

第10回浄化槽委員会（通算128回）2014年（平成26年）3月18日（火）

- ・（公財）群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・「浄化槽法定検査手数料の改定に伴う要望」に対する県の回答
- ・通常総会に向けて（活動報告・活動計画（案））

□□ 2014年度（平成26年度）事業実績 □□

佐藤弘之委員長、鈴木敦副委員長、近野栄子副委員長、田島和明監事、新井由雄監事

第1回浄化槽委員会（通算129回）2014年（平成26年）4月8日（火）

- ・（公財）群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・「浄化槽法定検査手数料の改定」への移行状況について
- ・通常総会に向けて（活動報告・活動計画）

第2回浄化槽委員会（通算130回）2014年（平成26年）5月20日（火）

- ・（公財）群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・「浄化槽法定検査手数料の改定」への移行状況について
- ・通常総会開催報告（活動報告・活動計画）
- ・浄化槽関係四団体事業推進連絡協議会開催予定（5/28）

第3回浄化槽委員会（通算131回）2014年（平成26年）6月10日（火）

- ・（公財）群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・浄化槽関係四団体事業推進連絡協議会開催報告（5/28）
- ・第1回BODクロスチェック実施予定について

第4回浄化槽委員会（通算132回）2014年（平成26年）7月15日（火）

- ・（公財）群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・BODクロスチェック実施についてサンプル配布

第5回浄化槽委員会（通算133回）2014年（平成26年）8月12日（火）

- ・（公財）群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・効率化11条検査指定採水員講習、講師として1名出席（報告）

第6回浄化槽委員会（通算134回）2014年（平成26年）9月9日（火）

- ・(公財) 群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・BOD クロスチェック実施について結果報告

第7回浄化槽委員会(通算135回)2014年(平成26年)10月14日(火)

- ・(公財) 群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・「水よみがえれキャンペーン」詳細打ち合わせ(11/1予定)

第8回浄化槽委員会(通算136回)2014年(平成26年)11月18日(火)

- ・(公財) 群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・「水よみがえれキャンペーン」実施報告

第9回浄化槽委員会(通算137回)2015年(平成27年)1月13日(火)

- ・(公財) 群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・第2回BODクロスチェックについて
- ・浄化槽関係四団体事業推進連絡協議会への効率化11条検査向上議題募集

第10回浄化槽委員会(通算138回)2015年(平成27年)2月17日(火)

- ・(公財) 群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・浄化槽関係四団体事業推進連絡協議会報告(2/12)
- ・第2回BODクロスチェックサンプル配布

第11回浄化槽委員会(通算139回)2015年(平成27年)3月10日(火)

- ・(公財) 群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・第2回BODクロスチェック集計
- ・総会に向けて活動報告及び活動計画案の確認

□□ 2015年度(平成27年度)事業実績 □□

佐藤弘之委員長、鈴木敦副委員長、近野栄子副委員長、小見明監事、新井由雄監事

第1回浄化槽委員会(通算140回)2015年(平成27年)4月14日(火)

- ・(公財) 群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・BODクロスチェック再実施についてサンプル配布
- ・総会に向けて活動報告及び活動計画案の確認

第2回浄化槽委員会(通算141回)2015年(平成27年)5月12日(火)

- ・(公財) 群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・BODクロスチェック再実施結果について

第3回浄化槽委員会(通算142回)2015年(平成27年)6月10日(水)

- ・(公財) 群馬県環境検査事業団と情報交換
  - ・BOD クロスチェック再実施結果について
- 第4回浄化槽委員会(通算143回) 2015年(平成27年)7月14日(火)
- ・(公財) 群馬県環境検査事業団と情報交換
  - ・浄化槽関係四団体事業推進連絡協議会報告
  - ・浄化槽関係四団体事業推進連絡協議会10周年講演会について
  - ・第1回BODクロスチェック実施予定について
- 第5回浄化槽委員会(通算144回) 2015年(平成27年)8月11日(火)
- ・(公財) 群馬県環境検査事業団と情報交換
  - ・浄化槽関係四団体事業推進連絡協議会10周年記念講演会報告
  - ・「水よみがえれキャンペーン」の準備案について
- 第6回浄化槽委員会(通算145回) 2015年(平成27年)9月8日(火)
- ・(公財) 群馬県環境検査事業団と情報交換
  - ・第1回BODクロスチェック実施について結果報告
  - ・「水よみがえれキャンペーン」の準備案について
- 第7回浄化槽委員会(通算146回) 2015年(平成27年)10月6日(火)
- ・(公財) 群馬県環境検査事業団と情報交換
  - ・指定採水員講習会講師派遣について浅川会長が講師として出席
- 第8回浄化槽委員会(通算147回) 2015年(平成27年)11月10日(火)
- ・(公財) 群馬県環境検査事業団と情報交換
  - ・指定採水員講習会の講師派遣について報告
  - ・効率化11条実施推進運動について
- 第9回浄化槽委員会(通算148回) 2016年(平成28年)1月12日(火)
- ・(公財) 群馬県環境検査事業団と情報交換
  - ・指定採水員講習会の講師選任について
  - ・第2回BODクロスチェック実施予定について
- 第10回浄化槽委員会(通算149回) 2016年(平成28年)3月8日(火)
- ・(公財) 群馬県環境検査事業団と情報交換
  - ・第2回BODクロスチェックサンプル配布
  - ・指定採水員講習会の講師選任について
  - ・次年度通常総会に向けて資料の確認

□□ 2016年度（平成28年度）事業実績 □□

佐藤弘之委員長、鈴木敦副委員長、近野栄子副委員長、小見明監事、新井由雄監事

第1回浄化槽委員会（通算150回）2016年（平成28年）4月26日（火）

- ・（公財）群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・第2回BODクロスチェック結果について
- ・指定採水員講習用テキストの改定について
- ・通常総会に向けて

第2回浄化槽委員会（通算151回）2016年（平成28年）6月14日（火）

- ・（公財）群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・浄化槽関係四団体事業推進連絡協議会拡大会議報告
- ・指定採水員講習資料の見直し

第3回浄化槽委員会（通算152回）2016年（平成28年）7月12日（火）

- ・（公財）群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・第2回浄化槽関係四団体事業推進連絡協議会拡大会議報告
- ・第1回BODクロスチェック実施について（サンプル配布）
- ・環境分科会分室の在り方について

第4回浄化槽委員会（通算153回）2016年（平成28年）9月13日（火）

- ・（公財）群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・第2回浄化槽関係四団体事業推進連絡協議会拡大会議報告
- ・第1回BODクロスチェック実施結果について

第5回浄化槽委員会（通算154回）2016年（平成28年）9月27日（火）

- ・（公財）群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・第4回浄化槽関係四団体事業推進連絡協議会拡大会議に向けて提出意見の協議

第6回浄化槽委員会（通算155回）2016年（平成28年）11月8日（火）

- ・（公財）群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・第4回浄化槽関係四団体事業推進連絡協議会拡大会議について

第7回浄化槽委員会（通算156回）2016年（平成28年）1月17日（火）

- ・（公財）群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・環境分科会分室の在り方について
- ・第5回浄化槽関係四団体事業推進連絡協議会拡大会議について

第8回浄化槽委員会（通算157回）2017年（平成29年）2月21日（火）

- ・群馬県環境検査事業団と情報交換

- ・第5回浄化槽関係四団体事業推進連絡協議会拡大会議について
- ・群馬県優良浄化槽認定制度運営に伴う経費の負担について
- ・環境分科会分室の在り方について
- ・第2回BODクロスチェックについて

第9回浄化槽委員会（通算158回）2017年（平成29年）3月14日（火）

- ・（公財）群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・次年度通常総会に向けて
- ・第2回BODクロスチェックについてサンプル配布
- ・環境分科会分室の在り方について「環境分科会分室運営規程」

□□ 2017年度（平成29年度）事業実績 □□

佐藤弘之委員長、近野栄子副委員長、新井俊則副委員長、小見明監事、新井由雄監事

第1回浄化槽委員会（通算159回）2017年（平成29年）4月4日（火）

- ・（公財）群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・通常総会に向けて
- ・平成28年度BODクロスチェック結果について

第2回浄化槽委員会（通算160回）2017年（平成29年）6月13日（火）

- ・第1回BODクロスチェック実施について
- ・優良浄化槽認定制度について

第3回浄化槽委員会（通算161回）2017年（平成29年）7月11日（火）

- ・（公財）群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・第1回BODクロスチェックについてサンプル配布
- ・優良浄化槽認定制度ロゴマーク表彰式参加報告

第4回浄化槽委員会（通算162回）2017年（平成29年）8月8日（火）

- ・（公財）群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・効率化11条検査実施向上に向け環境分科会としての取り組み

第5回浄化槽委員会（通算163回）2017年（平成29年）9月12日（火）

- ・（公財）群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・第1回BODクロスチェック結果報告について
- ・効率化11条検査実施率向上PR活動について

第6回浄化槽委員会（通算164回）2017年（平成29年）10月10日（火）

- ・効率化11条検査実施率向上PR活動について

- ・新規指定採水員講習の講師派遣依頼について

第7回浄化槽委員会（通算165回）2017年（平成29年）11月14日（火）

- ・（公財）群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・効率化11条検査実施率向上PR活動について
- ・効率化11条検査審査会（11/20）に浅川会長出席予定
- ・新規指定採水員講習、講師として1名出席予定

第8回浄化槽委員会（通算166回）2017年（平成29年）12月12日（火）

- ・（公財）群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・効率化11条実施率向上PR活動について
- ・地域で開催される環境展などへの参加について検討

第9回浄化槽委員会（通算167回）2018年（平成30年）2月13日（火）

- ・（公財）群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・効率化11条新規指定採水員講習会について報告
- ・効率化11条実施率向上PR活動について
- ・第2回BODクロスチェックについて

第10回浄化槽委員会（通算168回）2018年（平成30年）3月13日（火）

- ・（公財）群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・浄化槽関係四団体事業推進連絡協議会拡大会議報告
- ・第2回BODクロスチェック実施についてサンプル配布

□□ 2018年度（平成30年度）事業実績 □□

佐藤弘之委員長、近野栄子副委員長、新井俊則副委員長、小野知弘監事、  
新井由雄監事

第1回浄化槽委員会（通算169回）2018年（平成30年）4月10日（火）

- ・（公財）群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・平成29年度第2回クロスチェック結果について
- ・通常総会に向けて活動報告及び活動計画案の確認

第2回浄化槽委員会（通算170回）2018年（平成30年）6月12日（火）

- ・（公財）群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・浄化槽関4四団体事業推進連絡協議会拡大会議報告

第3回浄化槽委員会（通算171回）2018年（平成30年）7月10日（火）

- ・(公財)群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・第1回BODクロスチェック実施予定について
- ・単独処理浄化槽転換推進事業説明会の役割分担について

第4回浄化槽委員会(通算172回)2018年(平成30年)9月11日(火)

- ・(公財)群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・効率化11条検査業務委託料の支払いについて
- ・第1回BODクロスチェック実施についてサンプル配布
- ・単独処理浄化槽転換事業説明会役割分担について(報告)
- ・効率化11条指定採水員講習の講師派遣について(報告)

第5回浄化槽委員会(通算173回)2018年(平成30年)11月13日(火)

- ・(公財)群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・効率化11条検査業務委託料の支払いについて
- ・第1回BODクロスチェック実施について(報告)
- ・効率化11条指定採水員更新講習の講師派遣について

第6回浄化槽委員会(通算174回)2019年(平成31年)1月15日(火)

- ・(公財)群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・効率化11条指定採水員更新講習、講師として3名出席予定
- ・来年度通常総会に向けて役員改選・事業活動計画について
- ・第2回BODクロスチェック予定について
- ・浄化槽委員会の運営について

第7回浄化槽委員会(通算175回)2019年(平成31年)3月12日(火)

- ・(公財)群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・効率化11条指定採水員更新講習について報告
- ・第2回BODクロスチェック実施についてサンプル配布
- ・通常総会に向けて(役員改選・活動報告及び活動計画案)
- ・浄化槽委員会の運営について

□□ 2019年度(令和元年度)事業実績 □□

佐藤弘之委員長、近野栄子副委員長、新井俊則副委員長、小野知弘監事、  
新井由雄監事

第1回浄化槽委員会(通算176回)2019年(令和元年)5月14日(火)

- ・(公財)群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・令和元年度体制について

- ・ 2018 年度（平成 30 年度）第 2 回 BOD クロスチェック結果報告
- ・ 消費税増税に伴う効率化 11 条検査業務委託料について
- ・ 浄化槽関係四団体事業推進連絡協議会拡大会議報告

第 2 回浄化槽委員会（通算 177 回）2019 年（令和元年）7 月 9 日（火）

- ・（公財）群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・ 令和元年度体制について
- ・ 第 1 回 BOD クロスチェック実施予定について

第 3 回浄化槽委員会（通算 178 回）2019 年（令和元年）9 月 10 日（火）

- ・（公財）群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・ 効率化 11 条検査業務委託について
- ・ 第 1 回 BOD クロスチェック実施についてサンプル配布

第 4 回浄化槽委員会（通算 179 回）2019 年（令和元年）11 月 5 日（火）

- ・（公財）群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・ 第 1 回 BOD クロスチェック結果について
- ・ 高崎市優良浄化槽認定促進会議について（報告）
- ・ 塩化物イオン実施変更内容の要望について

第 5 回浄化槽委員会（通算 180 回）2020 年（令和 2 年）1 月 14 日（火）

- ・（公財）群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・ 第 2 回 BOD クロスチェック実施予定について
- ・ 高崎市優良浄化槽認定制度促進事業について

第 6 回浄化槽委員会（通算 181 回）2020 年（令和 2 年）3 月 10 日（火）

- ・（公財）群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・ 第 2 回 BOD クロスチェック実施についてサンプル配布
- ・ 令和 2 年度通常総会に向けて活動報告及び活動計画案を確認

□□ 2020 年度（令和 2 年度）事業実績 □□

佐藤弘之委員長、近野栄子副委員長、新井俊則副委員長、小野知弘監事、  
新井由雄監事

第 1 回浄化槽委員会（通算 182 回）2020 年（令和 2 年）5 月 28 日（木）※書面評決

- ・ 令和 2 年度体制について（総会承認済活動計画）
- ・ 浄化槽関係四団体事業推進連絡協議会の窓口変更について
- ・ 令和元年度第 2 回 BOD クロスチェック結果について
- ・ 令和元年度収支決算報告について

- ・令和2年度事務局運営費負担のお願いについて
- ・分室代表幹事の変更（通帳口座名義人変更について）
- ・バックとカギの受け渡し窓口について

第2回浄化槽委員会（通算183回）2020年（令和2年）7月14日（火）

- ・（公財）群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・第1回浄化槽委員会（書面開催）での決定事項の確認
- ・第1回BODクロスチェック実施予定について
- ・WEB会議システム導入について

第3回浄化槽委員会（通算184回）2020年（令和2年）9月8日（火）

- ・（公財）群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・第1回BODクロスチェック実施についてサンプル配布
- ・Web会議システム導入に向けての進捗状況
- ・事業団様より新型コロナ感染に伴うBOD業務委託について検討
- ・「浄化槽トップセミナー」に協賛することを承認

第4回浄化槽委員会（通算185回）2020年（令和2年）11月10日（火）※Web開催

- ・（公財）群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・第1回BODクロスチェック結果について
- ・浄化槽委員会における緊急措置への対応について
- ・「浄化槽法第11条に基づく法定検査の受検促進について」説明
- ・浄化槽トップセミナー群馬について協賛名義使用を承認

第5回浄化槽委員会（通算186回）2021年（令和3年）2月9日（火）※Web開催

- ・（公財）群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・第2回BODクロスチェック実施予定について
- ・来年度通常総会について
- ・緊急措置への対応報告

第6回浄化槽委員会（通算187回）2021年（令和3年）3月9日（火）※Web開催

- ・（公財）群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・第2回BODクロスチェック実施についてサンプル配布
- ・令和3年度通常総会に向けて活動報告及び活動計画案を確認
- ・BOD異常値発生時のセルフチェックについて
- ・委員会予算執行状況について

□□ 2021年度（令和3年度）事業実績 □□

佐藤弘之委員長、近野栄子副委員長、新井俊則副委員長、小野知弘監事、  
新井由雄監事

第1回浄化槽委員会（通算188回）2021年（令和3年）6月8日（火）※Web開催

- ・（公財）群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・2022年度（令和3年度）活動計画について（報告）
- ・浄化槽関係四団体「浄化槽転換促進会議」について（報告）
- ・群馬県優良浄化槽認定委員会の書面開催報告
- ・2021年度（令和2年度）BODクロスチェック結果について
- ・BOD異常値発生時のセルフチェックについて
- ・浄化槽協会主催、指定採水員講習における講師派遣について
- ・2021年度（令和2年度）分室収支報告

第2回浄化槽委員会（通算189回）2021年（令和3年）8月10日（火）※Web開催

- ・（公財）群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・第1回BODクロスチェック実施について（9月予定）
- ・BOD異常値発生時のセルフチェックについて
- ・浄化槽トップセミナー開催予定について
- ・効率化11条検査におけるBOD値の上限値について

第3回浄化槽委員会（通算190回）2021年（令和3年）10月12日（火）※Web開催

- ・（公財）群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・第1回BODクロスチェック結果について
- ・BOD異常値発生時のセルフチェックについて

第4回浄化槽委員会（通算191回）2021年（令和3年）12月14日（火）※Web開催

- ・（公財）群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・BOD異常値発生時のセルフチェックについて
- ・指定採水員講習（11/30）佐藤委員が講師として出席

第5回浄化槽委員会（通算192回）2022年（令和4年）2月8日（火）※Web開催

- ・（公財）群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・BOD異常値発生時のセルフチェックについて
- ・第2回BODクロスチェック実施予定について
- ・BOD緊急依頼発生時における対応について
- ・次年度通常総会に向けて
- ・浄化槽トップセミナーに4名参加
- ・浄化槽関係四団体事業推進連絡協議会、会長・委員長出席予定

第 6 回浄化槽委員会（通算 193 回）2022 年（令和 4 年）3 月 8 日（火）※Web 開催

- ・（公財）群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・ BOD 異常値発生時のセルフチェックについて
- ・ 第 2 回 BOD クロスチェック実施について
- ・ BOD 緊急依頼発生時における対応について
- ・ 次年度通常総会に向けて活動報告及び活動計画案確認

□□ 2022 年度（令和 4 年度）事業実績 □□

佐藤弘之委員長、新井俊則副委員長、近野栄子副委員長、新井由雄監事

第 1 回浄化槽委員会（通算 194 回）2022 年（令和 4 年）6 月 14 日（火）※Web 開催

- ・（公財）群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・ 新年度の委員会構成員について
- ・ 浄化槽委員会への出席率カウント開始について
- ・ 令和 3 年度 BOD クロスチェック結果について
- ・ 精度管理の徹底について
- ・ 分室分担金変更について

第 2 回浄化槽委員会（通算 195 回）2022 年（令和 4 年）8 月 9 日（火）※Web 開催

- ・（公財）群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・ 精度管理の徹底について進捗報告
- ・ 第 1 回 BOD クロスチェック実施について（9 月予定）
- ・ 浄化槽協会より指定採水員講習の講師依頼あり

第 3 回浄化槽委員会（通算 196 回）2022 年（令和 4 年）10 月 11 日（火）※Web 開催

- ・（公財）群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・ 第 1 回 BOD クロスチェックについてサンプル配布
- ・ 精度管理の徹底についての進捗状況
- ・ 指定採水員講習に 3 名が講師として出席予定
- ・ 高崎市優良浄化槽認定促進会議実施

第 4 回浄化槽委員会（通算 197 回）2022 年（令和 4 年）12 月 13 日（火）※Web 開催

- ・ 第 1 回 BOD クロスチェック結果について
- ・ 精度管理の徹底についての進捗状況
- ・ 新規指定採水員講習講師として出席（報告）
- ・ 第 2 回 BOD クロスチェック予定について

第5回浄化槽委員会（通算198回）2023年（令和5年）2月14日（火）※Web開催

- ・（公財）群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・第2回BODクロスチェック予定について（3月予定）
- ・精度管理の徹底についての進捗状況
- ・「群馬県浄化槽適正処理促進協議会」の設置について報告

□□ 2023年度（令和5年度）事業実績 □□

佐藤弘之委員長、新井俊則副委員長、近野栄子副委員長、新井由雄監事

第1回浄化槽委員会（通算199回）2023年（令和5年）4月11日（火）※Web開催

- ・（公財）群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・通常総会に向けて（活動報告及び活動計画案）
- ・令和4年度浄化槽委員会への出席スコア結果について
- ・令和4年度第2回BODクロスチェック結果について
- ・精度管理の徹底についての進捗状況について（知見等の報告）
- ・分室分担金予算について

第2回浄化槽委員会（通算200回）2023年（令和5年）6月13日（火）※Web開催

- ・（公財）群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・令和4年度第2回BODクロスチェック結果について
- ・令和5年度第1回BODクロスチェック実施方法について
- ・精度管理の徹底についての進捗状況について
- ・環境分科会としてSDGsに取り組むことを委員会でも周知

第3回浄化槽委員会（通算201回）2023年（令和5年）8月8日（火）※Web開催

- ・（公財）群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・第1回BODクロスチェック実施方法について（環境分科会員全員に案内）
- ・精度管理の徹底についての進捗状況について（知見等の報告）
- ・岐阜県浄化槽らくらくプロジェクト促進協議会出席報告

第4回浄化槽委員会（通算202回）2023年（令和5年）10月10日（火）※Web開催

- ・（公財）群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・第1回BODクロスチェック結果報告について
- ・精度管理の徹底についての進捗状況について（知見等の報告）
- ・新規指定採水員講習講師として出席（報告）

第5回浄化槽委員会（通算203回）2023年（令和5年）12月12日（火）※Web開催

- ・（公財）群馬県環境検査事業団と情報交換

- ・第1回 BOD クロスチェック結果報告について
- ・精度管理の徹底についての進捗状況について（知見等の報告）
- ・11/21 効率化 11 条検査審査会に青山会長出席予定
- ・新規入会希望について協議

第6回浄化槽委員会（通算 204 回）2024 年（令和 6 年）2 月 13 日（火）※Web 開催

- ・（公財）群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・第2回 BOD クロスチェック実施について
- ・次年度通常総会に向けて
- ・創立 50 周年記念誌、浄化槽委員会の活動成果の掲載について
- ・精度管理の徹底についての進捗状況について（知見等の報告）
- ・群馬県浄化槽適正処理促進協議会に会長、委員長出席予定
- ・分析料金について

□□ 2024 年度（令和 6 年度）事業実績 □□

佐藤弘之委員長、新井俊則副委員長、近野栄子副委員長、新井由雄監事

第1回浄化槽委員会（通算 205 回）2024 年（令和 6 年）6 月 11 日（火）※Web 開催

- ・（公財）群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・第1回 BOD クロスチェック実施について
- ・創立 50 周年記念誌、浄化槽委員会の活動成果の掲載について
- ・精度管理の徹底についての進捗状況について（知見等の報告）

第2回浄化槽委員会（通算 206 回）2024 年（令和 6 年）8 月 20 日（火）※Web 開催

- ・（公財）群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・第1回 BOD クロスチェック実施について
- ・創立 50 周年記念誌、浄化槽委員会の活動成果の掲載について
- ・精度管理の徹底についての進捗状況について（知見等の報告）
- ・分析料金について

第3回浄化槽委員会（通算 207 回）2024 年（令和 6 年）10 月 8 日（火）※Web 開催

- ・（公財）群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・創立 50 周年記念誌、浄化槽委員会の活動成果の掲載について
- ・環境保全協会創立 60 年記念式典に来賓として会長出席予定
- ・分析料金について

第4回浄化槽委員会（通算 208 回）2024 年（令和 6 年）12 月 10 日（火）※Web 開催

- ・（公財）群馬県環境検査事業団と情報交換

- ・第1回 BOD クロスチェック実施結果について
- ・創立 50 周年記念誌、浄化槽委員会の活動成果の掲載について
- ・分析料金については次回に持ち越し

第5回浄化槽委員会（通算 209 回）2025 年（令和 7 年）3 月 11 日（火）※Web 開催

- ・（公財）群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・第2回 BOD クロスチェック実施について
- ・創立 50 周年記念誌、浄化槽委員会の活動成果の掲載について
- ・分析料金について
- ・BOD 報告値の上限について

□□ 2025 年度（令和 7 年度）事業実績 □□

佐藤弘之委員長、新井俊則副委員長、近野栄子副委員長、新井由雄監事

第1回浄化槽委員会（通算 210 回）2025 年（令和 7 年）6 月 10 日（火）※Web 開催

- ・（公財）群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・令和 6 年度第 2 回 BOD クロスチェック結果について
- ・創立 50 周年記念誌、浄化槽委員会の活動成果の掲載について
- ・令和 6 年度分室経費収支報告・令和 7 年度分室運営費負担金について
- ・要望書について

第2回浄化槽委員会（通算 211 回）2025 年（令和 7 年）8 月 12 日（火）※Web 開催

- ・（公財）群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・令和 7 年度第 1 回 BOD クロスチェック実施について
- ・創立 50 周年記念誌、浄化槽委員会の活動成果の掲載について

第3回浄化槽委員会（通算 212 回）2025 年（令和 7 年）10 月 14 日（火）※Web 開催

- ・（公財）群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・令和 7 年度第 1 回 BOD クロスチェック結果について
- ・創立 50 周年記念誌、浄化槽委員会の活動成果の掲載について
- ・知見等の報告

第4回浄化槽委員会（通算 213 回）2025 年（令和 7 年）12 月 9 日（火）※Web 開催

- ・（公財）群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・令和 7 年度第 1 回 BOD クロスチェック結果について
- ・知見等の報告

第 5 回浄化槽委員会（通算 214 回）2026 年（令和 8 年）2 月 10 日（火）※Web 開催

- ・（公財）群馬県環境検査事業団と情報交換
- ・令和 7 年度第 2 回 BOD クロスチェック実施について
- ・50 周年記念誌・浄化槽委員会活動のとりまとめについて
- ・総会に向けて 令和 7 年度活動報告及び令和 8 年度活動計画（案）について
- ・知見等の報告

## 6. 終章（おわりに）

群馬県方式の 11 条検査が 2005 年（平成 17 年）4 月よりスタートして今年は 20 年（2025 年現在）という区切りの年でもあります。かつて浄化槽は下水道が普及するまでの過渡的な設備であり、いずれはなくなってゆくものと言われた時代からは隔世の感があります。現在では公共下水道とともに社会的インフラとして確固たる地位をしめ、気候変動に伴う各種災害や人口動態変化などにより、その重要性は今後ますます増してゆくものと考えられます。

群馬県における水質汚濁に関する環境行政の一端を、効率化 11 条の一丁目一番地、中核部分とも言える BOD 検査を担う（一社）群馬県計量協会環境分科会浄化槽委員会の役割とその責任は大変大きなものと考えます。


そのような私達は（公財）群馬県環境検査事業団をはじめ関係四団体、そしてなにより浄化槽管理者である県民の皆様からの付託に応える為に、クロスチェックや知見のデータベース化等を通じて今後も測定技術の向上に努めてゆく所存です。

以下に、浄化槽委員会に毎回出席し、情報交換やご指導をいただいた（公財）群馬県環境検査事業団の BOD 検査担当者に感謝の意を表したいと思います。




1983 年（昭和 58 年）5 月に浄化槽法が公布されるまでは、公共下水道や流域下水道が普及するまでの過渡的インフラであり、いずれは浄化槽の多くは無くなるだろうと言われ、我々もその時の覚悟を持ちつつ分析業務に携わっていた記憶があります。その様な将来に希望がもてない状況の中で、委員会の運営を担い、そして現在の礎を築いた柴田正三（初代）浄化槽委員長の浄化槽委員会への貢献は大きいものがありました。又、効率化 11 条の導入・移行にあたって、卓越したリーダーシップをもって県・市町村、関係団体間での調整、取りまとめを成し遂げた（公財）群馬県環境検査事業団 高橋太郎理事長（在任期間 2001 年（平成 13 年）6 月 21 日～2013 年（平成 25 年）11 月 14 日）の存在は特筆すべきものがありました。佐藤善也副会長は東毛地域東群馬環境整備協同組合を設立し、1983 年（昭和 58 年）より太田、館林、桐生方面の浄化槽管理者や清掃業者等からの強い信頼を得ていました。この様な下地を創ってもらっていたことが、スムーズな新制度の移行へつながった要因と考えられます。

導入後の BOD 検査実施率の向上は委員各社の受注額のアップと経営の安定をもたらしました。中国の故事で「飲水思源」とあるように、環境分科会と浄化槽委員会の礎を築いた斉藤信太郎初代会長をはじめ諸先輩の方々、そしてそれを支え続けていただいた歴代専務理事と事務局の皆様感謝の念を禁じえません。

令和7年度 浄化槽委員（15社16名）

	<p>委員長 （株）インフォマテックヨシヤ 佐藤 弘之</p> <p>50周年を迎えるにあたり、この記念誌を通じて、私たちの浄化槽委員会の歩みをご覧いただけることを嬉しく思います。この半世紀にわたり、環境保全と水質改善に取り組んできた数々の努力と成果を振り返り、未来に向けてさらなる挑戦を続ける所存です。関係者の皆様のご支援とご協力に心より感謝申し上げます。</p>
	<p>副委員長 瑞晃化学（株） 新井 俊則</p> <p>環境分析を通じて環境の保全に携わることができ光栄に思います。長年にわたり積み重ねてこられた活動が今般の礎になっていることと、当社も会員としてその一端に関われることを大変ありがたく感じております。関係する皆様に感謝を申し上げます。</p>
	<p>副委員長 （株）総合環境分析 北関東支社 近野 栄子</p> <p>創立50周年誠におめでとうございます。</p> <p>浄化槽委員会で精度管理の試料調整、まとめを行っています。BODの課題はありますが委員会を通じて共に技術力を向上させ前進してまいります。</p> <p>これまでの深い敬意を表し今後の発展をお祈りいたします。</p>
	<p>環境分科会 分室 （株）群馬分析センター 市毛 克哉</p> <p>浄化槽検査事業の遍歴を、今回の機会から多くの方々に認知して頂けることを願っています。これからも分析業務における技術の向上、環境保全事業の継続等に取り組んでいく所存でございます。</p> <p>今回この記念誌の作成に携わって頂いた方々、この事業にご協力して頂いた方々に心よりお礼申し上げます。</p>
	<p>委員 （株）不二ケミカル 下山 徹也</p> <p>この度は環境分科会創立50周年おめでとうございます。</p> <p>長年の関係者様方のご尽力・情熱に敬意を表します。</p> <p>皆様のご健勝とご多幸を祈念いたします。</p>
	<p>委員 シバタ環境科学（株） 村木 江津子</p> <p>50周年という節目に浄化槽委員として立ち会えたことを感謝するとともに、今後も分析精度管理向上と水質環境保全に一層努めます。よろしくお願い致します。</p>

	<p>委員 (公財) 群馬県健康づくり財団 検査部 石田 敏教</p> <p>環境分科会創立 50 周年という節目の年に、浄化槽委員会に携わることができたことを光栄に思います。これまで本会を築き上げてくださった方々に感謝するとともに、これからの発展に貢献できるよう努力していきたいと思います。</p>
	<p>委員 (一財) 群馬県薬剤師会 環境衛生試験センター 恩田 哲行</p> <p>技術委員会から浄化槽委員会に移って数年と、まだまだ経験不足ですが、50 周年という節目を迎えることができ嬉しく思います。これまでは環境や排水の分析を主な業務として活動してきましたが、この経験を浄化槽委員会に少しでも寄与できればと思います。</p>
	<p>監事 (有) アライ計量事務所 新井 由雄</p> <p>30 周年記念式が、ついこの間のように感じます。 あれから 20 年がまたたく間に経過しました。その 20 年の間の大きな出来事としては「群馬県方式効率化 11 条」の導入があります。 それに伴い委員会に新たに仲間も増え、各自各社協力して問題の解決、課題や共有、知見の蓄積に取り組んで今日に至っております。</p>
	<p>委員 (株) エコセンター 鈴木 敦</p> <p>2010 年より浄化槽委員として活動させていただき、水処理の必要性や環境保全の大切さについて学んでまいりました。現在は、浄化槽管理士における指定採水員の講師も務めさせていただいております。今後も水源県である群馬県の一員としての自覚を常に持ち、水質保全に努めてまいるのでございますので、宜しくお願い致します。</p>
	<p>委員 昭和環境分析センター (株) 小林 洋行</p> <p>環境分科会創立 50 周年を迎えられますこと、心よりお祝い申し上げます。記念誌に掲載された浄化槽委員会の数々の記録を振り返り、更なる分析精度の向上を追求していく所存です。 皆様方には、今後も変わらぬご協力のほど、宜しくお願い申し上げます。簡単ではございますが、環境分科会の益々の発展を祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。</p>
	<p>委員 (有) 吾妻分析センター 篠原 和人</p> <p>私はこの業界に入って五年目です。以前は道路や橋梁、下水道管渠等の土木工事の施工管理に長く携わってまいりました。利便性向上の反面、自然を破壊しているのではとの思いもありました。現在は主に汚水の分析や空気環境測定を担当しております。仕事を通して自然環境の保全、自然と人との共生を考えていきたいと思っています。</p>

	<p>委員 (株)本庄分析センター 伊勢崎事業所 和田 英雄</p> <p>浄化槽からの放流水の BOD を測定することにより、群馬県の河川の浄化に貢献できているのではないかと考えております。</p> <p>また、クロスチェックなどを行うことによって自社の分析精度の向上に役立ってきたと思います。引き続き貢献出来るよう努力していきたいと思います。</p>
	<p>委員 (株)本庄分析センター 伊勢崎事業所 和田 尚人</p> <p>浄化槽の放流水検査を通じて、群馬県内の水質保全に携わる機会をいただいておりますことに、心より感謝申し上げます。</p> <p>未来の子どもたちのため、持続可能な水環境の維持に向けて、今後も微力ながら努めてまいります。</p>
	<p>委員 (株)環境評価機構分析センター 片亀 光</p> <p>浄化槽は「個人下水道」として社会インフラとなっています。下水道管の老朽化が問題となっている昨今、合併浄化槽の活用がますます重要となっています。単独槽からの転換、集合処理からの計画変更など、50 周年に当たり、合併浄化槽の適正利用に資する当委員会の活動の意義を再確認しております。</p>
	<p>委員 (株)アクアセント 黒澤 文雄</p> <p>環境分科会創立50周年、おめでとうございます。</p> <p>浄化槽委員会に加わらせていただいてまだ2年の新入りですが、委員会の一員としてより一層の測定精度の向上に取り組んでまいります。</p>

# 環境分科会のあゆみ

～ 放射線委員会 ～

## 放射線委員会の活動実績

### 【誕生の経緯】

2011年（平成23年）3月11日に発生した、東日本大震災とそれに伴う原子力発電所の事故により、放射能の環境汚染が大きな問題となりました。その汚染状況の正確で迅速な把握が、行政をはじめとする各方面から望まれました。

環境分科会会員事業所もこのような社会からの要望に応える形で、2011年（平成23年）12月15日時点で会長事業所をはじめ、9社が測定体制を整え、さらに数社が測定を開始する予定でした。

この放射能測定は「計量法」にはない未知の分野でありました。そこで「計測」を実施するにあたって、多様な課題や問題を集団で解決するため、新たに放射線委員会を設立しました。

委員会では関連法規や基礎知識、測定方法を事業所間で共有し、クロスチェックを行い精度評価しました。

- 【活動期間】 2012年（平成24年）5月総会にて臨時委員会として発足  
 2013年（平成25年）5月総会にて正式に委員会として発足  
 2024年（令和6年）4月より休会

### 【技術的記録】

期	年度	実施内容
1期		【高線量時における技術的活動】 高線量時において入手可能であった放射性物質濃度測定機器についての精度確認、検証と県内土壌における放射能汚染分布の調査方法の確立を行った。
	2014 H26	第25回日本環境測定分析協会関東支部環境セミナー発表 器差検証：高線量時における汎用機器についての精度確認(NaI vs Ge)
	2015 H27	土壌フィールド調査
2期		【中線量時における技術的活動】 中線量時における放射性物質濃度測定機器についての精度確認、検証を行った。
	2016 H28	第27回日本環境測定分析協会関東支部環境セミナー発表 器差検証：低線量時における汎用機器についての精度確認(第2ラウンド NaI vs Ge)
3期		【低線量時における技術的活動】 低線量時における環境中の残存放射線量測定方法の検証と実態調査を行った。
	2018 H30	第30回日本環境測定分析協会関東支部環境セミナー発表 環境中の残存放射線量において検証(セシウムボール)
	2019H31R1	表層土壌における放射性セシウム濃度分析
	2021R3	土壌深度別放射能調査
全期		【クロスチェック事業】 全期を通して、放射線委員会内での測定技術向上のため、その時期の放射線量に合わせて試料を選択して精度確認した。

## 【組織構成】

委員長	和田 英雄	(株) 本庄分析センター 伊勢崎事業所
副委員長	新井 由雄	(有) アライ計量事務所
書記	和田 尚人	(株) 本庄分析センター 伊勢崎事業所
技術委員会連携担当	高木 厚	(株) ミツバ環境ソリューション
オブザーバー	青山 守	(株) 群馬分析センター
	浅川千佳夫	(株) 群馬分析センター

### ワーキンググループ

測定技術	委員	松本 彰平	(株) 食環境衛生研究所
		野田 猛	(株) 江東微生物研究所
		小澤 章	プロファ設計 (株) 環境研究所
		富田 雄二	プロファ設計 (株) 環境研究所
法令、測定ニーズ	委員	近野 栄子	(株) 総合環境分析 北関東支社
		尾崎 剛	(株) 総合環境分析 北関東支社
		高木 厚	(株) ミツバ環境ソリューション
		中根 秀二	パリノ・サーヴェイ (株)
		榎原 繁和	パリノ・サーヴェイ (株)
		和田 英雄	(株) 本庄分析センター 伊勢崎事業所
		和田 尚人	(株) 本庄分析センター 伊勢崎事業所
調査、研究	委員	鈴木 敦	(株) エコセンター
		片亀 光	(株) 環境評価機構 分析センター
		新井 由雄	(有) アライ計量事務所
		金子 弓子	(有) アライ計量事務所
		佐藤 伸子	シバタ環境科学 (株)

※設立当初からのメンバーを全て掲載しています。

# 【1期-1】2014年（平成26年）

## 第25回 日本環境測定分析協会関東支部環境セミナー発表

### 【器差検証：高線量時における汎用機器についての精度確認 NaI vs Ge】

#### （実験要約）

放射能測定における測定精度の維持、管理は比較的高濃度の標準線源を用いて行われている。その為、一般分析のような標準試料を用いたクロスチェックを容易に行うためには、低濃度の標準線源が必要になる。それに加え、昨今食品等の放射能の基準値が厳しくなったことから、より低濃度の測定が必要となってきている。現在主に使用されている測定機器はゲルマニウム半導体検出器（Ge 検出器）もしくはNaI（TI）シンチレーションスペクトロメータ（NaI 検出器）であり、現時点で広く導入されている NaI 検出器の測定可否に関して検証する必要があるため、その検証実験を行った。

#### （測定方法）

会員6社の保有する装置（Ge 検出器3台、NaI 検出器3台）について同一のサンプルを測定して器差を検証した。

BG 測定時間	測定項目	測定時間	測定回数	測定対象
12 h	Cs-134、Cs-137	2 h	5 回	玄米（約 7Bq/kg）

#### （結果考察）

測定結果から精度及び確度に関して有意な差は確認できなかった。今回使用した NaI 検出器であれば低濃度域の測定も可能と考えられた。

#### （スライド抜粋）

第25回(一社)日本環境測定分析協会  
関東支部環境セミナー in Nagano (2014) 2014年7月25日(金)

## 放射能測定器の 測定精度比較について

【 Ge半導体検出器及び  
NaI (TI) シンチレーションスペクトロメータ 】

一般社団法人群馬県計量協会環境分科会 放射線委員会  
和田 尚人

### 5. 結果及び解析

#### 5-2. 【精度評価①】測定値のボックスプロット

平均値及び、測定結果の幅も、Geと標的な差異は確認できなかった。

A~C : Geで測定  
D~F : NaIで測定

※ 測定値はCs-134、Cs-137の合算値

### 6. 考察

#### 測定可否の検証

① 精度  
Geと比較して、有意な差は確認できなかった。精度に関しても問題がないと考えられる。

② 確度  
仮定の真値に基づき、標本平均からの確度評価のため、参考結果にすぎないが、低濃度域におけるNaIの測定においてもGeと問題のある差異は生じない可能性が高いと考えられる。

今回使用したNaIなら、10Bq/kg以下の低濃度域の測定が可能と考えられる。

# 【1期-2】2015年（平成27年）

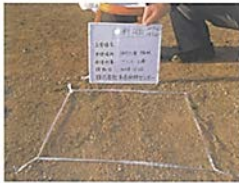
## 土壌フィールド調査

### （調査方法）

表層土及び垂直方向深度別の土壌における放射性物質含有濃度を測定した。

#### 試料採取及び前処理方法

- ① 試料採取場所として、ロープで1m<sup>2</sup>を確保する。 ② GPS測定器で経度、緯度を記録する。



- ③ 桶にて表層土を採取する。

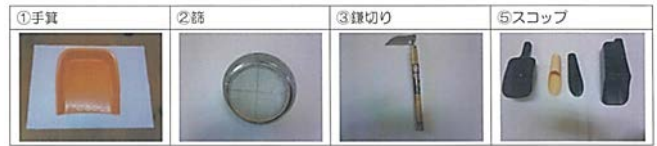


- ④ 2mm目の篩でふるい分けする。



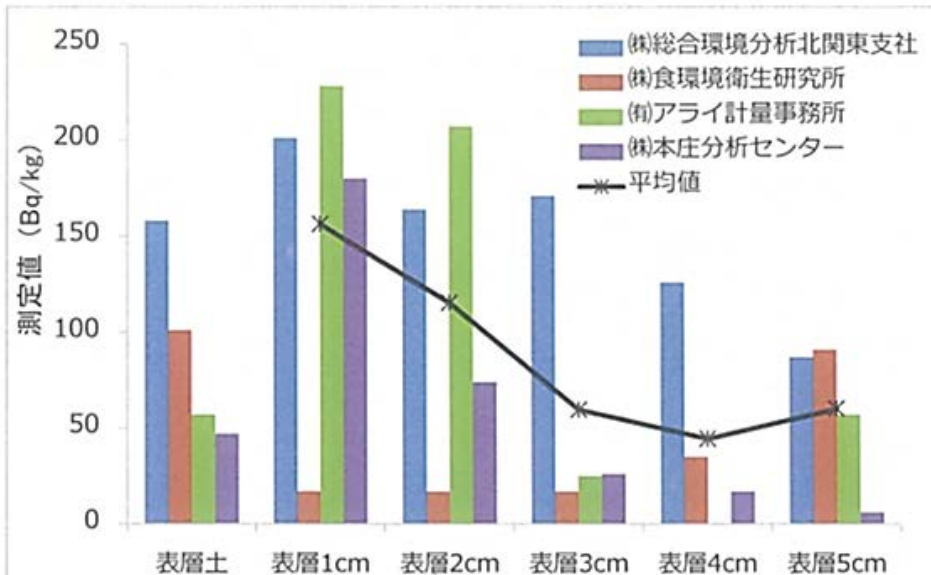
#### 2. 試料採取及び前処理方法

- ① 試料の採取に適した場所\*130cm×30cmの枠を設定する。 ② 枠にそって適当な器具\*2で切れ目を入れる。  
 ③ 定規で確認しながら鎌切りで表層から1cmを削り取り手箕に集める。 ④ 集めた土壌を新聞紙の上で2mm目の篩にかける。  
 ⑤ 篩を通過した土壌をスコップ等で測定用容器\*3に入れて測定試料とする。 ⑥ 以上の作業を表層から1cmずつ5cmの層まで繰り返し5試料を作成する。



### （調査結果）

垂直方向の深度により放射性物質含有濃度が低下している傾向にあるが、場所によっては深度により濃度が上昇する結果も得られたため、土の性質による差が伺えた。表層土は50~150Bq/kg前後の濃度となり、細粒等の人体への吸引も危惧された。



## 【2期】

### 第 27 回日本環境測定分析協会関東支部環境セミナー発表

#### 【器差検証：低線量時における汎用機器についての精度確認 第 2 ラウンド NaI vs Ge】

##### (実験要約)

放射性物質の半減期に伴い環境中に存在する放射能も年々減少する傾向にある。前回の実験を踏まえて、より低濃度のサンプル（玄米）を用いて、再度ゲルマニウム半導体検出器（Ge 検出器）と NaI (TI) シンチレーションスペクトロメータ（NaI 検出器）の器差に関して検証した。

##### (測定方法)

会員 8 社の保有する装置（Ge 検出器 4 台、NaI 検出器 4 台）について、同一のサンプルを測定して器差を検証した。

BG 測定時間	測定項目	測定時間	測定回数	測定対象
12 h	Cs-134、Cs-137	4 h	5 回	玄米（約 2Bq/kg）

##### (結果考察)

精度について Ge 検出器と NaI 検出器に有意差が認められた。確度についての有意差は認められず、NaI 検出器においても複数回測定し平均値を求めることで、低濃度試料の測定も行うことが可能と考えられた。

##### (スライド抜粋)

第27回(一社)日本環境測定分析協会  
関東支部環境セミナー in Mito (2016) 2016年7月22日(金)

### 第二ラウンド Ge vs NaI

#### 【低濃度試料による放射能測定器の測定精度比較について】

一般社団法人群馬県計量協会環境分科会  
放射線委員会 和田 尚人

## 5. 結果及び解析

### 5-4. ボックスプロット(合算値)

図6. 各測定機間の平均値(Cs-134+Cs-137合算値) (n=10)

**Geの方が測定結果の範囲が小さい**

## 5. 結果及び解析

### 5-6. 相対標準偏差

図9. Ge半導体検出器とNaI (TI) シンチレーションスペクトロメータの相対標準偏差

**Geの方が小さくなっている。また両者において、Cs-134の方が高い。**

## 7. 総括

### 長時間測定による精度改善

今回は全て4時間測定で行ったことから、より長時間測定により、精度改善が図れるかどうかを検討する余地がある。

### 低濃度試料へのNaIの活用方法

低濃度試料の測定に関しては、Ge半導体検出器が適していることが考えられる。しかしながらNaI (TI) シンチレーションスペクトロメータにおいても、平均値を分析値とすることで低濃度試料の測定においても利用できる可能性があると考えられる。

### 【3期-1】

## 第30回日本環境測定分析協会関東支部環境セミナー発表 【環境中の残存放射線量において検証 セシウムボール】

#### (実験要約)

セシウムボールと呼ばれる、土壤中に含まれる放射性セシウムを含んだ不溶性微粒子の存在について調査した。県内土壌を採取し、粒子径別に分級した後、放射性セシウム濃度を測定して、粒子径毎の濃度差からセシウムボールの存在について検証した。

#### (測定方法)

群馬県山間部の表層土を採取し、集めた土壌を2mm以上、2mm～0.45mm、0.45mm～0.075mm、0.075～0.020mm、0.020～0.005mm、0.005～0.0025mm、0.0025mm未満の粒径に分級した。測定はゲルマニウム半導体検出器 CANBERRA 社 GC2020-7500SL-2002CSL を用いた。

#### (結果考察)

- ①調査の結果、粒子径が小さくなるにつれて放射性セシウム濃度が高くなる現象がみられた。
- ②確認された放射性セシウムの Cs-134 と Cs-137 の濃度比は粒径に関わらず一定であった。
- ③放射性カリウムと比較すると、放射性セシウムは概ね土壌粒子の表面に付着していることが考えられた。
- ④セシウムボールは今回のサンプルに関しては確認できなかった。

#### (スライド抜粋)

第30回(一社)日本環境測定分析協会  
関東支部環境セミナー in Niigata (2018) 2018年7月20日

### セシウムボールの検証

【土壌粒子径と放射性セシウム濃度からの考察】

一般社団法人群馬県計量協会環境分科会  
放射線委員会  
株式会社 食環境衛生研究所 松本彰平

### 3. 検証方法

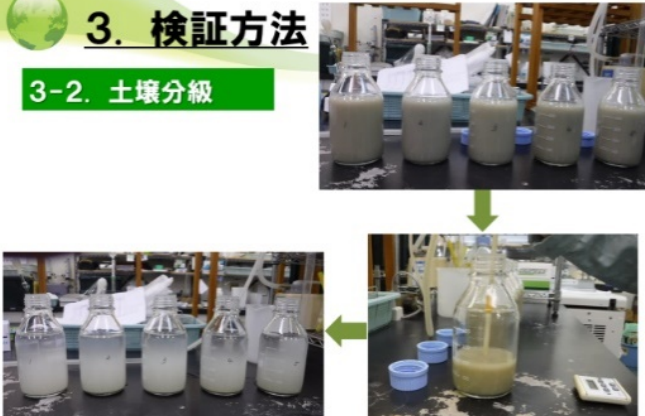
#### 3-1. 土壌採取

採取場所



### 3. 検証方法

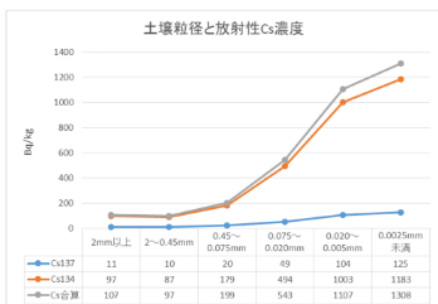
#### 3-2. 土壌分級



### 4. 放射性セシウム濃度測定結果

#### 4-3. 結果 分級区分ごと

土壌粒径と放射性Cs濃度



粒径区分	Cs-137 (Bq/kg)	Cs-134 (Bq/kg)	Cs合計 (Bq/kg)
2mm以上	11	97	107
2～0.45mm	10	87	97
0.45～0.075mm	20	179	199
0.075～0.020mm	49	494	543
0.020～0.005mm	104	1003	1107
0.005mm未満	125	1183	1308

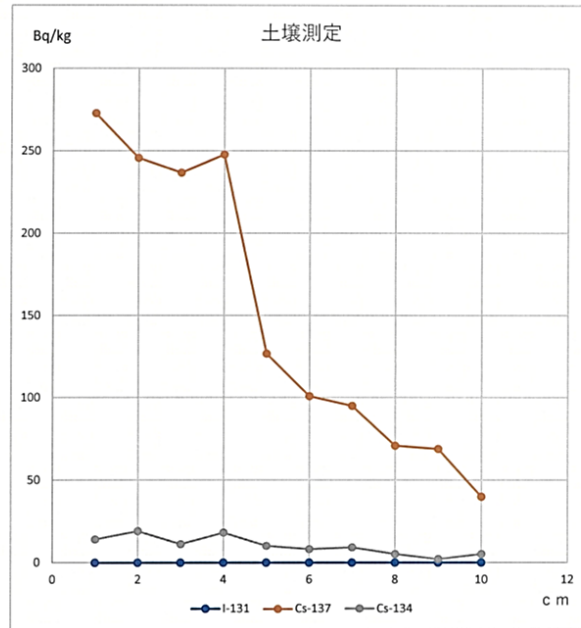
### 【3期-2】 2019年（令和元年）

#### 表層土壌における放射性セシウム濃度分析

（調査結果）

表層土壌のセシウム 137 について、2019 年（平成 31 年）時点では表層から深さ 4cm 程度までの濃度が比較的高く、5cm 以下になると濃度の急激な低下がみられた。土壌表層から下層部における放射性セシウムの浸透度合いの指標となった。

	含水率	I-131	Cs-137	Cs-134
1cm	22	0	273	14
2cm	24	0	246	19
3cm	24	0	237	11
4cm	23	0	248	18
5cm	26	0	127	10
6cm	29	0	101	8
7cm	28	0	95	9
8cm	28	0	71	5
9cm	28	0	69	2
10cm	30	0	40	5



### 【3期-3】2021年（令和3年）

#### 土壌の深度別放射性セシウム濃度分布調査

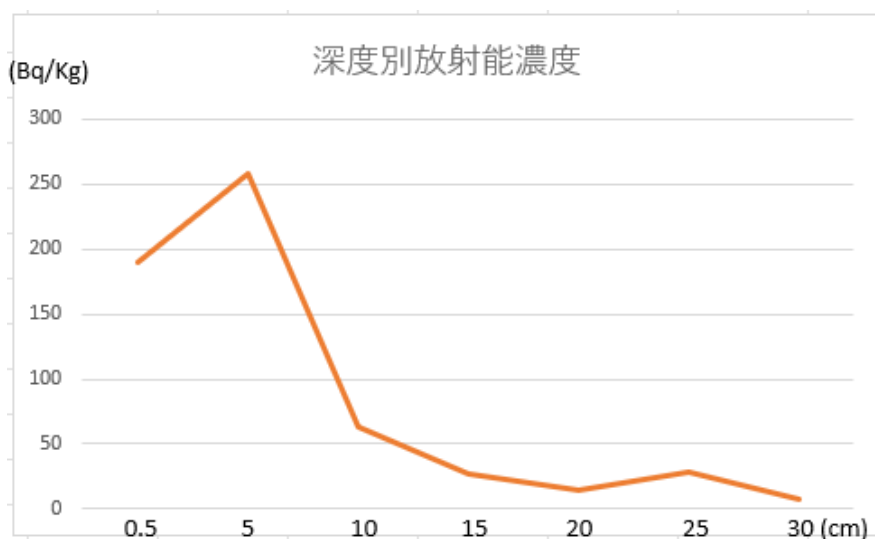
（調査方法）

土壌を表層から深さ 30cm まで 5cm 毎に採取し、NaI (TI) シンチレーション検出器（3 インチ）で測定した。

（調査結果）

土壌深度別の放射能は表層から深さ 5cm までが高濃度、それ以下（深さ 10cm 以下）については急激な低下がみられた。この時点における放射性セシウムの土壌浸透度合いの指標となった。

深度	0.5	5	10	15	20	25	30
放射能濃度	190	258	63	27	14	28	7



## 【全期】

### クロスチェック事業

全期を通して、放射線委員会内での測定技術向上のため、その時期の放射線量に合わせて試料を選択して検証した。

年度	実施内容
2015	玄米 8事業所 (Ge 検出器 4台、NaI 検出器 4台)
2017	玄米 8事業所 (Ge 検出器 4台、NaI 検出器 4台)
2019	玄米 7事業所 (Ge 検出器 4台、NaI 検出器 3台)
2020	土壌 8事業所 (Ge 検出器 4台、NaI 検出器 4台)
2021	あずき 7事業所 (Ge 検出器 4台、NaI 検出器 3台)
2022	玄米 8事業所 (Ge 検出器 4台、NaI 検出器 4台)

## 【土壌調査事業】

全期を通じて群馬県内の表層土壌に含まれる放射性物質濃度を測定して、環境中の放射能による影響を調査した。

年度	実施内容
2015	群馬県内 96地点
2016	群馬県内 93地点
2017	群馬県内 18地点
2018	群馬県内 25地点
2019	群馬県内 33地点
2020	群馬県内 18地点
2021	群馬県内 18地点
2022	群馬県内 15地点

## 【引用資料：法律関連】

- 1) 測定方法マニュアル (空間線量、排ガス、粉じん、排水等、周縁地下水、燃え殻等、溶出試料)  
放射能濃度等測定方法ガイドライン (環境省)  
食品中の放射性物質の試験法の取扱いについて (試験法通知 厚生労働省医薬食品局)  
放射能測定法シリーズ (公益財団法人日本分析センター)  
ほか
- 2) 排水放射能濃度基準値  
環境省\_放射性物質を環境へ放出する場合の規制基準  
<https://www.env.go.jp/chemi/rhm/r3kisoshiryo/r3kiso-06-03-07.html>

3) 食品関係基準値

食品中の放射性物質（環境省 放射能による県境影響等に関する統一的な基礎資料）

[https://www.env.go.jp/chemi/rhm/kisoshiryo/pdf\\_h30/2018tk2s08.pdf](https://www.env.go.jp/chemi/rhm/kisoshiryo/pdf_h30/2018tk2s08.pdf)

東日本大震災関連情報(厚生労働省、消費者庁、食品安全委員会、農林水産)

[https://www.mhlw.go.jp/shinsai\\_jouhou/shokuhin.html](https://www.mhlw.go.jp/shinsai_jouhou/shokuhin.html)

## 群馬県環境分科会放射線委員会を振り返って

放射線委員会発足から12年目となり、節目の年になりました。

当初は臨時委員会として発足したため、常設で運営していくことを目標としておりました。

また、放射線測定は我々計量証明事業所においても初めての分野でした。技術を始め多方面で未知の部分が多く、会員各位がそれらの問題、課題を持ち寄り、検討、解決していく場とし、技術委員会との連携を密にする為「技術委員会連携担当」を置きました。

開催は原則年4回とし、必要があればその都度臨時委員会を行うこととしました。




委員会発足前から東日本大震災に伴う原子力発電所の事故により、放射能汚染が大きな問題となり、その汚染状況の正確で迅速な把握が、行政をはじめとする各方面から望まれておりました。

委員会では毎期のテーマに向けて、11年にも及ぶ様々な実績を残しました。法令、測定ニーズ、群馬県内における土壌調査、同一サンプルにおけるクロスチェック、技術発表など会員各位の努力によって様々な知見を蓄積することが出来ました。

12年の節目を迎えましたが、放射能汚染の問題は終わったわけではありません。東日本大震災だけでなく、近年頻繁に地震災害が起きています。日本には原子力発電所が至る所にありますので、今後も注視していく必要があります。これまでの放射能汚染が今後どのような影響を環境に及ぼし、顕在化していくのかを監視していく必要もあると思います。状況に応じては放射線委員会の再発足が必要になると考えております。

再発足が必要にならないことを願いますが、一旦休会ということにしました。

### 令和5年度 放射線委員会

	<p>委員長 (株) 本庄分析センター 伊勢崎事業所 和田 英雄</p> <p>2013年(平成25年)5月総会にて委員会の発足が決まり2024年(令和6年)4月まで、委員長として活動させて頂きました。約11年の間、先代の浅川前会長、設立当初から支えてくれた新井副委員長はじめ会員の皆様のお陰で、なんとか11年間続けることが出来ました。原発事故のような放射能汚染が、再び起こらないことを願います。</p>
	<p>副委員長 (有) アライ計量事務所 新井 由雄</p> <p>東日本大震災から15年を迎える本年、メディアでは様々な特集番組が組まれました。史上最悪とも言われた原発事故を伴った大震災の記憶が鮮明に蘇ってきました。この原発事故をきっかけに、いち早く放射線測定を始めた環境分科会会員事業所を中心に、当会はスタートしました。社会的要望に応えてきたと自負しています。</p>
	<p>委員 (株) 環境評価機構分析センター 片亀 光</p> <p>チェルノブイリ原発事故の年に生まれた長女が40歳になりました。福島原発事故から15年、大惨事を忘れたかのように再稼働が進められています。放射能の恐ろしさは、放射線が目に見えず、五感でも感じられないところにあります。警鐘を鳴らし続けたいと思います。</p>

	<p>委員 パリノ・サーヴェイ (株) 中根 秀二</p> <p>群馬県環境計量協会の創立 50 周年を心よりお祝い申し上げます。平成に起こった原発事故は、昭和育ちの私にとって想像もしていなかった出来事でした。その中で発足した放射線委員会、何かを発信しなければと委員会活動に積極的参加をしたことが思い起こされます。今後も協会には委員会活動を含めた積極的な活動をお願いします。</p>
	<p>委員 (株) 総合環境分析 北関東支社 尾崎 剛</p> <p>創立 50 周年おめでとうございます。この活動を通じて放射線への理解が深まり、科学的な知識だけでなく安全意識の重要性も学び、私自身も大きく成長できたと実感しています。委員会での経験を大切にし、今後も社会に貢献していきたいと思います。</p>
	<p>技術委員会連携担当委員 (株) ミツバ環境ソリューション 高木 厚</p> <p>群馬県計量協会環境分科会開設 50 周年おめでとうございます。2011. 3.11 東日本震災の原子力発電所の事故より放射能汚染が懸念され 環境計量の指定物質でないが 我々環境に携わっている企業として研究、調査を考えなくてはならないとして放射線委員会を発足しました。今後 生産と環境の融合を支援できる 環境計量に携われるようまいりたいと考えます。</p>
	<p>書記 (株) 本庄分析センター 伊勢崎事業所 和田 尚人</p> <p>放射線委員会の一員として、測定器のクロスチェックや群馬県内の土壌のフィールド調査等に携わり、微力ながらも有益な記録を残す一助となることができました。50 年の歩みに敬意を表するとともに、今後も必要とされる際にはこれまでの知見を活かし、貢献してまいりたいと存じます。</p>
	<p>委員 プロファ設計 (株) 富田 雄二</p> <p>群馬県計量協会環境分科会 50 周年を迎えるにあたり、関係各位様のご尽力に感謝申し上げます。放射能委員会の活動において諸先輩方よりご指導頂き大変有難うございました。3.11 の震災後、放射能汚染への懸念から様々な科学的知見に基づき正確な情報発信の一助を担えた事は重要な経験になりました。</p>
	<p>委員 (株) 食環境衛生研究所 松本 彰平</p> <p>放射線委員会としては約 10 年活動してきました。一般的にはあまりなじみのない放射性物質について、当委員会の一員として広く情報提供できたのではと思います。環境問題も時代のニーズに合わせ対応することが重要かと思えます。今後も環境分科会の発展を願っております。</p>

# 活動記録写真

～ 創立30周年記念誌以降の活動記録 ～



2010.11.19  
研修見学会



2010.11.19  
研修見学会



2010.11.20  
研修見学会



2011.2.17  
環境研修会



2011.2.17  
環境研修会



2011.10.05  
研修見学会



2011.10.06  
研修見学会



2011.11.29  
新任技術者研修会



2011.11.29  
新任技術者研修会



2011.11.29  
新任技術者研修会



2011.11.29  
新任技術者研修会



2012.1.20  
新年会



2012.1.20  
新年会



2012.1.20  
新年会



2012.7.12  
環境セミナーin 高崎



2012.7.12  
環境セミナーin 高崎



2012.7.12  
環境セミナーin 高崎



2012.7.12  
環境セミナーin 高崎



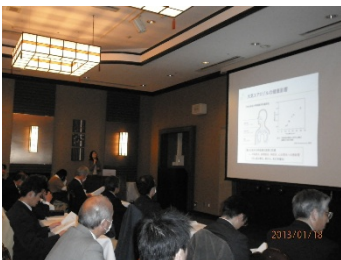
2012.7.13  
北関東三県



2012.7.13  
北関東三県



2012.7.13  
北関東三県



2013.1.18  
新年会



2013.1.18  
新年会



2013.2.20  
計量法研修会



2013.2.20  
計量法研修会



2013.2.20  
計量法研修会



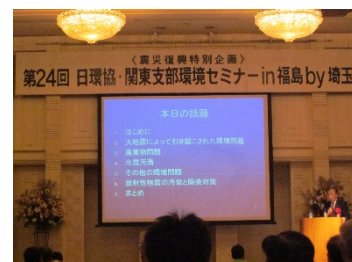
2013.5.17  
総会



2013.5.17  
総会



2013.5.17  
総会



2013.7.18  
研修見学会



2013.7.18  
研修見学会



2013.7.18  
研修見学会



2013.10.30  
新任技術者研修会



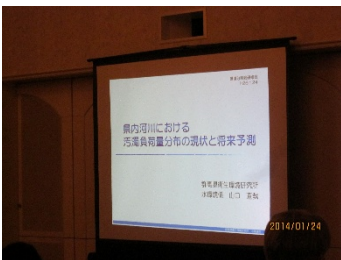
2013.10.30  
新任技術者研修会



2013.11.25  
白書研修会



2013.11.25  
白書研修会



2014.1.24  
新年会



2014.1.24  
新年会



2014.2.18  
計量法研修会



2014.2.18  
計量法研修会



2014.5.16  
総会



2014.5.16  
総会



2014.7.24  
研修見学会



2014.7.24  
研修見学会



2014.7.24  
研修見学会



2014.7.24  
研修見学会



2014.10.29  
新任技術者研修会



2014.10.29  
新任技術者研修会



2014.10.29  
新任技術者研修会



2014.10.29  
新任技術者研修会



2014.11.28  
白書研修会



2015.1.30  
新年会



2015.1.30  
新年会



2015.2.3  
意見交換会



2015.2.17  
計量法研修会



2015.2.17  
計量法研修会



2015.5.15  
総会



2015.5.15  
総会



2015.7.24  
環境セミナー



2015.10.15  
北関東三県



2015.10.15  
北関東三県



2015.10.15  
北関東三県



2015.11.17  
白書研修会



2015.11.17  
白書研修会



2016.2.3  
意見交換会



2016.2.3  
意見交換会



2016.2.17  
計量法研修会



2016.3.18  
橋梁塗膜替等説明会



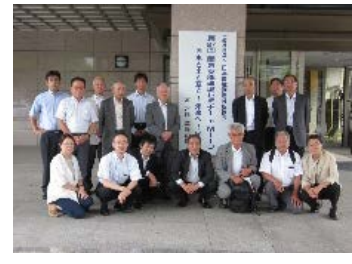
2016.7.21  
研修見学会



2016.7.21  
研修見学会



2016.7.21  
研修見学会



2016.7.22  
研修見学会



2016.10.27  
新任技術者講習



2016.10.27  
新任技術者講習



2017.1.27  
新年会



2017.1.27  
新年会



2017.1.27  
新年会



2017.1.27  
新年会



2017.1.27  
新年会



2017.1.27  
新年会



2017.2.2  
意見交換会



2017.2.15  
計量法研修会



2017.5.12  
総会



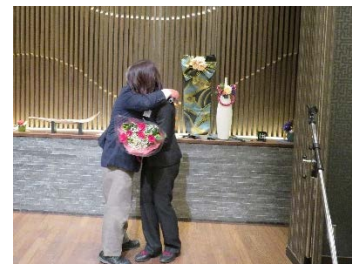
2017.5.12  
総会



2017.5.12  
総会



2017.5.12  
総会



2017.5.12  
総会



2017.6.15  
意見交換会



2017.9.27  
災害時緊急分析協定



2017.10.13  
研修見学会



2017.10.13  
研修見学会



2017.10.13  
研修見学会



2017.10.13  
研修見学会



2017.11.28  
新任技術者研修会



2017.11.28  
新任技術者研修会



2017.11.30  
白書研修会



2018.1.26  
新年会



2018.1.26  
新年会



2018.2.2  
意見交換会



2018.4.11  
理事会



2018.4.11  
理事会



2018.5.11  
総会



2018.5.11  
総会



2018.9.13  
北関東三県



2018.9.13  
北関東三県



2018.9.13  
北関東三県



2018.9.13  
北関東三県



2018.9.13  
北関東三県



2018.9.13  
北関東三県



2018.9.13  
北関東三県



2018.9.13  
北関東三県



2018.10.22  
意見交換会



2018.10.22  
意見交換会



2018.11.30  
白書研修会



2019.1.15  
新年会



2019.1.15  
新年会



2019.2.8  
意見交換会



2019.2.14  
計量法研修会



2019.5.17  
総会



2019.5.17  
総会



2019.11.12  
新任技術者研修会



2019.11.12  
新任技術者研修会



2019.11.26  
意見交換会



2019.11.26  
意見交換会



2020.1.24  
新年会



2020.1.24  
新年会



2020.2.7  
意見交換会



2020.2.13  
計量法研修会



2021.5.14  
総会 (WEB)



2021.5.14  
総会 (WEB)



2021.11.24  
白書研修会



2021.11.24  
意見交換会



2021.11.24  
意見交換会



2022.2.22  
新任技術者研修会



2022.2.22  
新任技術者研修会



2022.11.1  
白書研修会



2022.11.1  
意見交換会



2022.11.1  
意見交換会



2022.11.8  
意見交換会



2022.11.8  
意見交換会



2023.1.27  
新年会



2023.1.27  
新年会



2023.1.27  
新年会



2023.1.27  
新年会



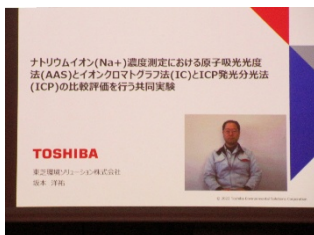
2022.4.14  
理事会 (WEB)



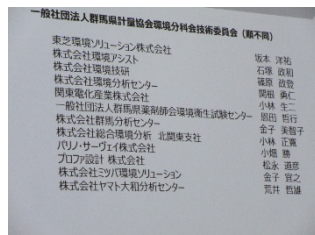
2022.9.15  
北関東三県



2022.9.15  
北関東三県



2022.10.6  
全国セミナー



2022.10.6  
全国セミナー



2022.10.6  
全国セミナー



2023.2.7  
新任技術者講習会



2023.2.7  
新任技術者講習会



2023.2.7  
新任技術者講習会



2023.5.26  
総会



2023.5.26  
総会



2023.8.22  
意見交換会



2023.9.14  
北関東三県



2023.9.14  
北関東三県災害協定調印式



2023.9.14  
北関東三県災害協定調印式



2023.9.15  
北関東三県



2023.9.15  
北関東三県



2023.10.31  
環境美化活動



2023.10.31  
環境美化活動



2023.10.31  
環境美化活動



2023.11.8  
環境白書研修会



2023.11.8  
環境白書研修会



2023.11.8  
理事会



2023.12.8  
意見交換会



2024.1.26  
新年会



2024.1.26  
新年会



2024.1.26  
新年会



2024.1.26  
新年会



2024.2.22  
計量法研修会 (WEB)



2024.2.22  
計量法研修会 (WEB)



2024.2.22  
計量法研修会 (WEB)



2024.5.31  
総会



2024.5.31  
総会



2024.5.31  
総会



2024.5.31  
総会



2024.5.31  
総会



2024.5.31  
総会



2024.5.31  
総会



2024.5.31  
総会



2024.5.31  
総会



2024.5.31  
総会



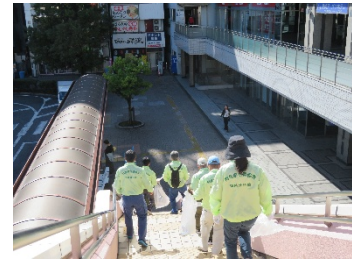
2024.8.27  
意見交換会



2024.8.27  
意見交換会



2024.10.15  
環境美化活動



2024.10.15  
環境美化活動



2024.10.15  
環境美化活動



2024.10.15  
環境美化活動



2024.10.15  
環境美化活動



2024.11.8  
白書研修会



2024.11.8  
白書研修会



2024.11.8  
白書研修会



2024.11.8  
白書研修会



2025.1.24  
新年会



2025.1.24  
新年会



2025.1.24  
新年会  
2025.1.24  
新年会



2025.1.24  
新年会



2025.1.24  
新年会



2025.2.26  
計量法研修会



2025.2.26  
計量法研修会



2025.5.30  
総会



2025.5.30  
総会



2025.5.30  
総会



2025.5.30  
総会



2025.5.30  
総会



2025.5.30  
総会



2025.5.30  
総会



2025.10.7  
環境美化活動



2025.10.7  
環境美化活動



2025.10.27  
意見交換会



2025.10.27  
意見交換会



2025.10.27  
意見交換会



2025.10.27  
意見交換会



2025.10.31  
白書研修会



2025.10.31  
白書研修会



2025.10.31  
白書研修会



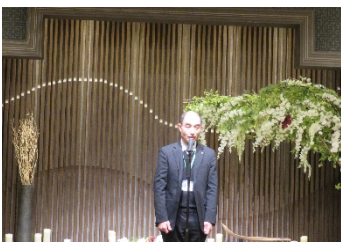
2026.1.23  
新年会



2026.1.23  
新年会



2026.1.23  
新年会



2026.1.23  
新年会



2026.1.23  
新年会



2026.1.23  
新年会

# 50周年を振り返って

～ 分科会員団体の代表者による述懐 ～

## 50周年を振り返って



株式会社インフォマテックヨシヤ  
代表取締役 佐藤 弘之

弊社は本会が昭和51年に発足した当時の8社のうちの1社であり、創業者である父、佐藤善也が携わらせていただいております。当時学生であった自身でも身近な話題として大気汚染、水質汚濁、土壌汚染等のいわゆる「公害」という言葉を耳にして育ちました。

「50周年を振り返って」を記すにあたっては創立30周年の式典の記憶はあるもののそれ以前については「創立30周年誌」に目を通しました。

創立30周年誌の活動記録（あゆみ）には、行政機関からの情報提供や様々なテーマでの自主的な研究発表会や他県との連携を深めてこられ活動が現在の礎となっております。

事業活動記録から設立当初の計算方法は関数電卓で毎回手計算からポケットコンピューターによるプログラム言語で書いたプログラムで走らせた答えをロール感熱紙にプリントアウトし、野帳に張り付けていた時代と想像します。また発表会では資料をスクリーンに投影するのはOHPの時代です。掲載されている写真で、健康増進法が施行される前の時代で会議の席で机の上にステンレス製平灰皿があるところに時代を感じると共に先人たちが業界を盛り上げる熱い想いが感じられました。

さて、私が本会に初めて参加したのが2004年（平成16年）と、まだ創立24周年を超えたあたりですが、「公害」から「環境」へ表現が変化し「基準を超過しないのは当たり前」であり、社会はISO14001、EA21、群馬環境GSなどの環境マネジメントシステムの運用により、PDCAサイクルでスパイラルアップによる環境パフォーマンスの向上を目指す動きが活発になってきました。当時は法規制や化学物質のSDSの情報収集には、人がインターネットを活用しホームページ等へアクセスして膨大な情報を入手したのち人が分析していた情報社会だったと記憶しております。

近年は持続可能な開発目標「SDGs」の推進が活発化しており、本会も推進しておりますが、今までの「情報社会」から一歩進んだ「人間中心の社会」へ移行し、人手不足、資材原材料の価格高騰、働き方改革などによる社会情勢の社会的課題を解決するため、会員事業所や本会事業活動においても、AIや5G、IoTの次世代技術の活用による社会変革を求められる時代を迎えますが、本会においても環境計量業務にとどまらず会員相互で情報共有と研鑽を重ね「共生」を続け、本会並びに会員事業所が発展し続けることを願います。

## 50周年を振り返って



株式会社環境技研

代表取締役社長 小林 聖

群馬県計量協会・環境分科会設立 50 周年、誠におめでとうございます。

当分科会におかれましては、1974 年（昭和 49 年）の計量法改正により環境計量証明事業制度が開始されたのに伴い、その 2 年後の 1976 年（昭和 51 年）に設立されたとのこと。そして、現在までの半世紀にわたり県内における環境計量証明事業の発展に対するご尽力、心より感謝申し上げます。設立当初は公害問題への対策が盛んに叫ばれていた時代であり、法規制により汚染物質の基準や計量方法が整備されて間もない時期でもあったことから、当時の諸先輩方は大変なご苦勞をされたことと拝察いたします。

これまでの 50 年間についての環境問題を振り返りますと、当初の公害対策から自然環境、さらには地球規模の環境保全対応が求められ、生物多様性の確保、循環型社会、脱炭素社会の取り組みへと変遷いたしました。それに伴いまして、環境分析・測定に対するニーズは多種多様化し、新規規制物質への対応や提供するデータの信頼性と精度の確保も重要度を増しました。もちろん、環境分科会での活動内容も社会や会員企業のニーズに沿ったものであったと思います。

そして、これから先の環境測定分析業界について考えてみると、測定分析機器の自動化、ロボット化による省人・無人化は急速に進展することが想定されます。しかも、人工知能（AI）の活用などの DX（デジタルトランスフォーメーション）によって業務環境が大きく変わり、環境分析や測定自体にどのようなイノベーションが起こり、その対応を迫られるのか、予測は非常に困難です。

しかし、そのような先行き不透明で将来予測が困難な状況とはいえ、当分の間、環境測定分析業界に関しては、環境保全に貢献し、安全・安心な社会の維持と国民経済の健全な発展を下支えするために必要不可欠な業界といえます。環境分科会にはその基礎となる団体として、まずは次の節目となる 60 周年に向けて、人材育成や技術向上の場の提供、研修会や情報交換会の開催を通して貢献されることを期待します。そして、会員企業がこれからも業績を伸ばせるようご指導の程、よろしく願いいたします。

## 50周年を振り返って



瑞晃化学株式会社

代表取締役 新井 俊則

群馬県計量協会環境分科会の設立50周年という節目を迎えるにあたり、これまでの活動を振り返ってみて様々な活動に取り組んできたことを再確認することができました。

環境計量証明事業を取り巻く状況の変化に対応すべく分析技術・研究やクロスチェックの取り組み、計量証明に係る情報・行政の情報提供など、環境分科会の活動は当社の事業活動においても大変役立たせていただいております。

振り返りますと環境分科会の活動は色々な取り組みを実施してきていることをあらためて感じます。活動を包括しながら様々な行事に取り組む総務企画員会、毎年一つのテーマについて研究検証を行なう技術委員会、浄化槽行政の変更に伴い効率化11条BOD検査における活動を行なっている浄化槽委員会、また活動を終えることになりましたが東日本大震災の原発事故における放射能測定について活動してきた放射線委員会とそれぞれの活動は環境におけるその時の状況変化に対応して取り組んできており、そのような活動に対する前向きな取り組みによってこのたび環境分科会50周年を迎えることに繋がっていることを改めて感じました。

ここで当社のあゆみについても紹介させていただきます。

当社は昭和50年に空調水処理事業を主とした水処理メーカーの高崎営業所から独立をして当メーカーの代理店として業務をスタートしました。

その背景としまして環境計量証明事業所登録制度が昭和51年に開始となったことが大きく関係していると聞いております。従来から実施してきた水処理業務のなかでも測定分析は大変重要なポイントとなっており、水処理を行なううえでは目視で分からない状況を確認する手段として水質分析はなくてはならないものでした。

顧客先で採取した水処理に関する試料の分析は営業所内で毎日のように実施しており測定分析については身近なものでした。

そのような測定分析を行なってきているなか計量証明事業所登録制度が開始されることとなり、今後計量証明事業は社会に必要な事業と考えられ、昭和51年に計量証明事業の登録を行いました。総合水処理業と計量証明事業の二つを軸としてスタートし、現在に至っても業務の柱となっております。

当社も環境分科会と同様に50周年を迎えることとなります。

会社設立当初と比べますと業務内容は変化を続けており環境に関係する業務が割合を多く占めるようになりました。

今後も様々な情勢変化・環境分野における課題に対し自分たちは何ができるのかを考え、あゆみをすすめていきたいと考えております。

一般社団法人群馬県計量協会環境分科会50周年おめでとうございます。



## 50周年を振り返って

株式会社不二ケミカル

代表取締役社長 下山 裕

50周年おめでとうございます。

群馬県は雷が多いと言われますが、数十年前会社の建屋のすぐ近くの電信柱に落雷し社内の電子機器や家電が数台ダメージを受けました。

特にパソコンのサーバーが損傷を受けたのは被害が大きく、ごそっと或る年一年分のデータが消えてしまったのには多いに困ってしまいました。ちょうど印刷物を電子化して保存することをおある程度始めていた矢先だったので、データのほぼ全部が物置に置いてあり必要になれば探し出すことができる状況ではあったが。アナログデータもあって良かったというところであろうか。

デジタルの便利さに慣れきってしまった今となっては、物置を総浚いする面倒くささと言うよりも煩わしさは共有されていると思うので、まあ何が何でも必要なもので探してくださいという人はいないと思うのだが、少し前（25年位前？）なら必要なら自分で家捜しする気になったろうし、世間的にもデジタル化が（この辺り記憶が曖昧で、会社でパソコンを導入したのがいつ頃だったか。最初に和文タイプライター懐かしいワープロそしてやっとパソコン導入。ヘルプで顔を出すイルカも見なくなった。ワードそしてエクセルで報告書を作成しネットで情報を得る。メールやらPDFやらでのやり取りがつい最近・・・）進んだおかげで現実でのや探しの代わりが机の前に張り付く作業になっている。

落雷の次は2011.3.11で、ある程度整理されていた箱詰め書類もどさどさばらばらと。整理は横に置いて片付けただけ。

かつての研修旅行に何度か行ったこと、現在も続いている浄化槽委員会のことなどアナログの棚に置かれている。



## 50周年を振り返って

シバタ環境科学株式会社

代表取締役社長 佐藤 留治

月日の立つのは早いもので、平成 18 年の群馬県計量協会環境分科会 30 周年から早 20 年を経過、今年 50 周年を迎えました。環境分科会の創立は昭和 51 年ですが当社の環境証明事業への参入とほぼ重なります。

当社のルーツをたどりますと、明治 21 年、祖父柴田長明が富岡の地に板金店を開業したのが始まりです。明治 36 年の現存する町内地図には、ブリキヤの名称で載っていました。その後、跡を継いだ先代社長の柴田正三が経済環境の変化に対応し昭和 37 年同所に株式会社柴田建材店を設立。その後、昭和 48 年の『公害国会』を期に環境問題に取り組むと同時に、その必要性を痛感し、昭和 53 年に計量証明事業所登録しました。

当初は、建材部門と環境計測部門の二部制で営業を開始しましたが、平成 3 年に環境計測事業部に一本化し、社名をシバタ環境科学株式会社に変更、環境部門に専念することになりました。その後、平成 16 年先代社長の柴田正三より私が代表取締役社長を引き継ぎ現在に至っています。

私と環境分科会との関わりが深まったのは、社長に就任して各委員会事業に参加するようになってからです。主に浄化槽委員会と総務企画委員会ですが、浄化槽委員会では BOD 効率化 11 条検査について様々な問題提起と活発な意見交換のもと意見集約し、クロスチェック実施、精度管理の確立に尽力された浄化槽委員会の各歴代委員長及委員の皆様に感謝申し上げます。

総務企画委員会については、事業内容が幅広く日環協関連事業、北関東環境測定機関連絡協議会、研修見学会、各種研修会等の設営及び参加人数の確保等忙しい中でも楽しみの多い委員会です。中でも好きな事業は研修見学会です。最近研修見学会は、日環協関東支部大会への参加が恒例化されているような気がしますが以前は、各種企業、団体、娯楽施設等バラエティーに富んだ見学会が多かったですね。研修見学会は場所により費用も多くかかりますのでその辺の兼ね合いが難しいです。

いずれにしても酒をたしなむのが好きな私の目的は、見学後の懇親会なのです、宿の風呂上がりに環境分科会の皆さんと酒を飲みかわし、仕事のことはもちろん、雑談をしながら会員相互の親睦を深め過ごすひとときは、楽しいものです。

当会も、社会奉仕活動の一環として環境美化運動の実施や SDGs への参画と新たな事業に取り組んでいますができる限り参加し、この事業が継続されるよう努力致します。

群馬県計量協会環境分科会 50 周年を祝うと共に、会員の皆様には、今後ともよろしくお願い致します。

## 50周年を振り返って



パリノ・サーヴェイ株式会社  
理事 小畑 勝

群馬県計量協会環境分科会の50周年、おめでとうございます。

弊社は、駿河元環境計量士、熊木元室長、川村元環境計量士、中根元取締役、小畑環境計量士が環境分科会の担当として務めてきました。

各計量士及び熊木室長は技術委員会、中根元取締役は放射性委員会の委員として活動しています。

当初は、計量事業所として登録してはいましたが、計量業務自体の実績は少なく、技術委員会を通して事業所として知見や技術を深めてきたことを強く感じます。30周年から50周年の間の2015年には委員長を務め、「水試料中の六価クロムに関する共同実験」をテーマに活動しています。

放射性委員会については、直接的に放射能測定をしていたわけではありませんが、補助的な役割として参加していたと記憶しています。

残念ながら時間が経過するに従い、放射能測定の需要が減少し、活動は終了となりましたが、この活動を通して福島震災の影響の大きさを強く感じ、復興を含め、震災の今後の経過に強く関心をもつことになりました。

このような活動を通して必要な知見を得られたことや時事に即した活動ができたことは、群馬県計量協会環境分科会があつてのことと感じ、感謝の念が堪えません。また、このような活動の機会を与えてくれる群馬県計量協会環境分科会の会員につきましては今後発展することを疑う余地はありません。

最後に群馬県計量協会環境分科会を50年支えてきた、会長、事務局、各会員の方々に感謝を申し上げます。



## 50周年を振り返って

公益財団法人群馬県健康づくり財団  
理事長 須藤 英仁

社団法人群馬県計量協会環境分科会が50周年を迎えました。この記念すべき節目の年を迎えることができましたのも、歴代の会長を始めとする会員の皆様の御尽力によるものであり、多くの関係者の皆様の御支援、御協力による賜物であると感謝申し上げます。

当財団は群馬県、県内全市町村、群馬県医師会及び群馬県歯科医師会の出捐により、結核予防会群馬県支部、群馬県対ガン協会及び群馬県公衆保健協会の3団体を統合して、1986年(昭和61年)12月に設立されました。

検査部門は従前団体の環境検査部門、食品検査部門、病理検査部門及び臨床検査部門を集約したものが始まりになります。統合当初は旧施設において、それぞれ結核予防事業部、公衆保健事業部及び対ガン事業部として活動していましたが、1990年(平成2年)に現在の施設に移転し、名実ともに統合を迎えました。

環境検査は従前団体である群馬県公衆保健協会にて1968年(昭和43年)に開始され、当初は家庭の浄化槽放流水の検査を中心に実施しておりました。1976年(昭和51年)に計量証明事業登録を受け、湖沼・河川や事業場排水及び土壌の農薬検査等の体制を整備し、事業の拡大を図ってきました。

環境分科会には、群馬県公衆保健協会の頃から入会しており、現在は総務企画委員会及び浄化槽委員会に属し活動を行っております。

時代の歩みを振り返りますと、ダイオキシンやアスベスト、放射性物質、最近ではPFASなど、人の健康及び自然環境に関する問題は枚挙にいとまがありませんが、そのたびに会の皆様が尽力してきたことは察するに余りあります。日本経済は飛躍的な成長を遂げると同時に、テクノロジーの発展が新たな問題を提起し続けてきた事が覗えます。

このことは、環境汚染や公害問題がしきりに叫ばれていた高度経済成長期も、関係法令等規制が強化され持続可能な社会の実現が叫ばれている現代でも、私たちはずっと変わらずに重要な役割を担っている事を表していると考えています。

更に、近年では日本の農畜産物が世界からの評価が高まりつつあり、また、外国資本のハイテク産業の誘致など工業面でも世界からの注目度は上がっています。どちらにも共通して言えることは、大量の清浄な水が必要であり、また、日本は島国という特性から世界有数の水資源大国であるということです。日本の持続的な発展のためには、この豊かな水資源を将来にわたって守り抜いていかなければなりません。

これまで、環境計量証明事業は人々の健康や自然環境を保全するとともに、陰ながら日本の産業を支えてきました。今後、環境計量証明事業が果たすべき役割は、益々大きくなっていくことでしょう。当財団も環境分科会が益々発展できますよう、努力していく所存です。



## 50周年を振り返って

関東電化産業株式会社  
代表取締役 吉田 精一

この度は、群馬県計量協会環境分科会創立 50 周年を迎え、おめでとうございます。

50 周年に寄せて、始めに弊社と群馬県計量協会環境分科会（以下、環境分科会と表記します）との係わりについて述べさせていただきます。

弊社は関東電化工業（株）の協力会社として関東運輸（株）の社名で設立し、製品および原材料の運輸に携わってきましたが、業容の拡大を図る為、1987 年（昭和 62 年）に社名を現在の関東電化産業（株）に改めました。

環境分科会には 1988 年（昭和 63 年）に入会し、環境計量事業を始めるにあたり、環境分科会にご指導・助言をいただき 1993 年（平成 5 年）から計量事業を開始して現在に至っています。現在まで理事、総務企画委員会および技術委員会の委員等を担当させていただいています。

日本経済および自然環境と環境計量のこの 50 年の係わりは、私が申し上げるまでもなく、経済の発展とともに様々な環境課題に直面し、その都度、課題を解決する手段のひとつとして、環境計量技術は先人たちの並々ならぬご苦勞があって、めざましい発展を遂げてきたと思います。

私自身は、環境計量との係わりは浅いですが、品質管理として化学分析には長く携わってきたので表題とは、いささか主旨は異なりますが、50 年近い期間に私が係わってきた化学分析技術の発展について述べさせていただきます。

私が学生の頃、当時、無機物分析は滴定分析、原子吸光分析が多く、有機物分析は赤外分光光度計、NMR で、NMR はその仕様において共鳴周波数は 50MHz 程度、核種はプロトンのみで、構造が推定できる程度でした。原子吸光は、金属種ごとにランプを手で交換するものでしたが、その後は ICP-AES が主流となり、ICP-MS では ppt レベルの分析が今では一般的となりました。測定は、夜間に自動で行い、翌朝には結果がわかることがあたり前となりました。現在は、目的に応じて、滴定、原子吸光、ICP を使い分けた分析が広く行われていると思います。滴定分析は、化学分析の基礎と私は思いますが、職人的なテクニックを要するところがあり、1/4 滴を滴下するには経験のいる分析でした。現代の分析機器は、分析の原理・原則を知らなくても機器のボタンを押せば、測定結果がわかる、いい意味では操作が簡単で、測定値に個人差がなく、再現性はよく、自動で測定を行える時代となりました。

これからの環境分析は、AI、DX を取り入れた機器が主流になると思われますが、原理原則を含めた若手の育成が急務と考えています。

環境計量技術をイノベーションし、持続可能な社会づくりのために地球温暖化等の気候変動への対応、水資源の保全、生物多様性への取組み、地球にやさしい社会の実現に環境計量で貢献していきたいと思います。

環境分科会の会員の皆様で情報を共有し、技術交流をますます深め、社会ニーズに対応・貢献できる技術を礎とする分科会となることを祈念いたします。



## 50周年を振り返って

株式会社 総合環境分析 北関東支社  
支社長 中村 和弘

群馬県計量協会環境分科会の創立 50 周年、誠におめでとうございます。  
この素晴らしい節目を会員の一人として迎えられることを、大変光栄に存じます。

弊社は、分科会活動として浄化槽委員会、技術委員会、そして SDGs 環境委員会設立準備グループに所属しております。

浄化槽委員会では、精度委員会のリーダーとして BOD のクロスチェックを年 2 回実施し、各委員のデータを取りまとめる重要な役割を担っております。精度管理の維持向上という責任の重さを感じながら、活動に取り組んでおります。

技術委員会では、毎年共同実験のテーマを定め、技術の研鑽に努めております。共同実験はもとより、委員の皆様との情報共有は、弊社にとりましても技術力向上の大変貴重な機会となっております。

また、SDGs 環境委員会設立準備グループの前身である放射線委員会においては、毎年土壌放射線のクロスチェックに参加してまいりました。今後の活動におきましても積極的に参画し、委員会のさらなる発展に寄与してまいりたいと考えております。

いずれの委員会活動も、委員の皆様と共に技術を磨き合い、情報を共有する大変貴重な場であり、長年継続されてきた環境分科会の意義と重みを改めて感じております。今後も切磋琢磨を重ね、会員事業所の皆様とともにさらなる高みを目指す一助となれましたら幸いに存じます。

結びに、先人の皆様の志とご尽力の積み重ねがあつてこそその 50 周年であると深く敬意を表します。本分科会ならびに会員事業所の皆様が、70 周年、100 周年へとますます発展されますことを心より祈念申し上げますとともに、会員の一人としてその歩みを共にし、微力ながら貢献してまいり所存でございます。



## 50周年を振り返って

一般財団法人群馬県薬剤師会環境衛生試験センター

代表理事 天田 彰義

群馬県計量協会環境分科会 50周年おめでとうございます。記念誌発刊に際しお祝いを申し述べさせていただきます。

当センターも、2022年（令和4年）6月に設立50周年を迎えたところで、その活動期間の大部分を本会とともに歩んできたこととなります。これまでの長い道のりを振り返ったとき、会の発展にお骨折りいただいた歴代役員の皆様に対し改めて感謝申し上げます。

本会に係わる「環境分野」については、かつての高度経済成長期に社会問題となった公害をはじめ、生物多様性を維持するための自然保護活動、持続可能な経済活動を進めるための循環型社会の構築、さらには最近注目を集めている地球規模で環境を守るための温暖化防止対策など非常に多岐にわたり、今後も益々社会的関心が高まっていく分野かと思われれます。我々検査機関がこれら社会的課題に的確に対応していくためには、顧客から期待される分析技術と分析結果に対する信頼性を確保・維持していくことが何より大切であることは言うまでもありません。さらに発生する諸問題に迅速な対処をしていくためには、業界内での連携・情報共有が今後益々重要になっていくと思われれます。本会は、日頃から委員会活動等を通じて積極的に会員交流の機会を設けるほか、関係行政機関等との情報交換窓口としての役割も担うなど、その存在意義がより明確になってきたように感じております。

さて、今回は記念誌への寄稿と言うことで、備忘録の意味も含め、改めて当センターの沿革と現況を簡単に紹介させていただきます。当センターは、1972年（昭和47年）に当時急速に普及した水道の水質検査を行う機関としてスタートして以来、地域の公衆衛生の向上と環境保全に向けた試験検査事業を続けてまいりました。組織的には、長い間、薬剤師会という医療系職能団体の附属機関として活動をしておりましたが、2023年（令和5年）10月より旧センターから営業権譲渡を受けた「一般財団法人」として再スタートしております。小規模な試験検査機関ではありますが、国際規格であるISO/IEC10725及び水道水質優良試験所規範（水道GLP）の認定取得と併せて、検査精度の維持・向上を図るための職員の教育訓練、外部精度管理への積極的参画に努めるなど、正確で迅速な検査結果を地域の皆様に提供できる業務体制の整備に取り組んでおります。

2024年（令和6年）10月現在の主な事業内容は次のとおりです。

水道法 20条登録水質検査機関、②水道法 34条の2登録簡易専用水道検査機関、ビル管法、建築物飲料水水質検査業、④計量証明事業所登録機関（濃度）、温泉法に基づく登録分析機関、⑥薬機法施行規則に基づく登録試験検査機関、放射性物質検査、⑧アスベスト調査・分析、⑨浴槽水、プール水の水質検査等

最後に、このたびの50周年記念事業を契機に分析業界がより魅力のある産業としてさらなる飛躍を遂げられますこととあわせて、皆様の益々のご健勝・ご活躍を祈念申し上げましてお祝いの言葉といたします。

## 50周年を振り返って



株式会社 ヤマト

代表取締役社長執行役員 町田 豊

この度は、群馬県計量協会環境分科会の創立 50 周年を迎えられたこと、心よりお祝い申し上げます。

今から 50 年ほど前というと、顕在化した公害対策のために公害対策基本法などの法律の整備が行われる中で、環境対策のベースとなる環境計量に関しても昭和 49 年の計量法の改正により、環境計量士と環境計量証明事業の登録制度が導入され、環境計量士及び環境計量証明事業所が環境対策の重要な役割を担い始めた頃です。そして、昭和 50 年代から 60 年代にかけては、各種施策により従来の有害物質による公害に対しては大きな成果があった一方、生活系排水の処理は十分でなく閉鎖系水域の富栄養化が問題となっていました。

そのような中で弊社では、河川・湖沼等の環境保全のため浄化槽の開発を開始し、浄化槽の処理性能等の評価のため水質分析を行っておりました。そして、平成 5 年に環境計量証明事業の登録を行い、群馬県計量協会環境分科会の会員として参加しております。

平成 5 年は計量法に関しても大幅な改正があった年で、国際単位系への統一化、計量標準供給制度の整備などが行われ、計量の精度向上のための施策が進められました。

群馬県計量協会環境分科会においても、弊社が技術委員会の委員長を担当した平成 13 年に、各委員が実際に分析を行い、分析精度を検討するなど、共同実験による分析技術の向上を図る活動等、精度管理に関する新たな取り組みが行われるようになりました。

また、分析精度の向上のためには、担当者個人の育成も重要であることから、平成 19 年より、日本環境測定分析協会と共催で新任者や中堅技術者を対象とした技術研修を定期的に行うようになりました。これらの研修には弊社からも講師としても参加しております。

環境に関しては、群馬県計量協会環境分科会設立当時の公害のような地域的な問題から、現在地球規模への問題へと広域化、多様化してきています。それら問題解決に必要となる環境計量に関しても技術的に高度化してきており、計量証明事業所としても、それへの対応が不可欠となっています。群馬県計量協会環境分科会においても、会員間の親睦を図り、技術向上等の研鑽を進めていくことがますます重要になると思われまます。弊社といたしましても微力ながらご協力させていただく所存です。

次の 50 年に向けて、群馬県計量協会環境分科会と会員の皆様のますますのご発展とご活躍をお祈り申し上げます。



## 50周年を振り返って

東芝環境ソリューション（株）

北関東分析センター長 坂本 洋祐

50周年の節目に立ち会えることに、慶びと感謝を申し上げます。

弊社が環境分科会に加入させていただいたのは、50年の歴史の内、30年となりますが、その間、弊社においては、社名が2回変更となりセンター長は4回交代と時代の長さや変遷を感じています。

30年の間、分析の主な対象物質も、ダイオキシン、シックハウス原因物質、ホルムアルデヒド、PCB、アスベスト、PFOSと様々に移り変わり、公害と規制、化学物質の扱いの難しさを改めて実感しています。

また、これらの物質は、数十年前の規制が未だに続いているもの、新たに規制されたもの、ほぼ終息しているもの、と多種多様であり、分析業界と民間・行政の努力が感じられる象徴的な物質となっています。

当初、規制物質に関わる分析業務は、一般的にコストがかかるだけの物として、あまり世間に浸透しないものでした。企業内でもコストがかかり、場合によっては行政の立ち入りを伴う、センシティブなものとして扱われていました。

しかし近年、ようやく企業として、個人としての、環境への配慮と責任意識が芽生え、身近なものとして、浸透してきました。

その身近になった最たるものが、SDGsと言えるでしょう。

SDGsの17の目標に対し、7の目標が分析に関わることとなります。

SDGsは、若い年代に関心が高く、このまま分析業界を盛り上げる起爆剤として、期待しています。若い世代の力も借りながら、50周年という節目があくまで通過点となり、様々な方の支えをもって、今後も社会貢献を続けて行き、100周年へと到達して行ければと思います。

化学物質の規制も年々増え、化学物質管理責任者や保護具着用管理者などの安全に関わる職務も増えましたが、結局は昔から変わらず、職務や管理などは、身近にある化学物質と上手に付き合うためのツールの中の一つに過ぎません。環境分科会の参加事業所や分析業界も、管理するツールの一つとして利用して頂ければと思います。

弊社も人と環境に寄り添える会社の一つとして、今後も群馬県の環境と社会的責任を担っていき、人と環境を繋ぐ役割に協力していきたいと思います。

最後に、一般社団法人群馬県計量協会 環境分科会の皆様、それに携わる関係者の皆様に感謝し、今後のさらなる発展を祈念して、締めくくりたいと思います。



## 50周年を振り返って

有限会社アライ計量事務所

代表取締役社長 環境計量士 新井由雄

原稿用紙を前にして、はて？と考えあぐねて、とんと筆が動きません。それは、ひと口に50年と言っても、我が半生をゆうに超える年月の為と思われまます。

記念誌の主旨から少し離れてしまうが、あれこれ振り返ってみて思い出されたのが、第三代、環境分科会会長の吉浜和夫氏のことでした。現会員の皆さんはご存知でない方もいると思いますので、簡単に触れておきたいと思います。

吉浜第三代会長は、我が県の分析業界のトップカンパニーのひとつである(株)群馬県環境技研(当時)の創業者であり、異業種交流会の会長もやられた方です。

以前は、群馬県公害衛生研究所\*1(当時)に隣接した公務員組合が運営していた「上毛会館」で総会と懇親会を行うのが慣例で、その頃の総会・懇親会は吉浜会長挨拶から始まりました。懇親会の席では、新参者の私にも、年齢や役職を超えて、フレンドリーに話をしてくれたことが強く印象に残っています。

また、前橋のホテル(当時)で開催された異業種交流会で、講師のヤマダ電機社長(現会長 山田 昇氏)に「山田さん、群馬のヤマダから世界のヤマダになりましたね。」と話しかけられていたのを、最前列にいた私は記憶に残っています。それと、圧巻は、社名を「(株)環境技研」に変更して、群馬町(当時)に社屋を移転、新築した年に高崎のホテルで開かれた新社屋披露パーティーに、SP数名を引き連れた小淵恵三第84代首相が現れ、「友人の吉浜さんの新社屋完成を祝う会と聞いて、何を差し置いても駆けつけました。」と祝辞を述べ、また、SPに守られながら颯爽と会場を後にしたのを、参列者一同、興奮したまま見送りました。

吉浜第三代会長のエピソードが長くなりましたが、当分科会、委員会を語るうえで欠かせない功労者として、(株)ヨシヤ産業(現インフォマテックヨシヤ)社長 佐藤善也副会長、(株)柴田建材社長(現シバタ環境科学(株))柴田正三 初代浄化槽委員長がおります。

佐藤、柴田両氏は、いずれ下水道が普及して、BOD測定はなくなると言われていた時代に浄化槽管理業者はじめ、関係各団体に働きかけて、現在の我々の仕事の基礎を創ってくれました。

このお二人の環境分科会、浄化槽委員会への尽力と貢献がなければ、少なくとも現在の群馬県方式でのBOD検査はなかったものと思います。

紙数の関係で、詳しくは触れられませんが、佐藤安信元専務理事はじめ、歴代の専務理事の皆様、計量協会事務局の方々等など、こうして50周年を振り返り返えってみると、走馬灯のように想いだされ敬意と感謝の念を禁じえません。



## 50周年に寄せて

株式会社環境アシスト

代表取締役社長 井口 喜章

※注：本稿は、執筆者が代表取締役社長在任中に執筆されたものです

群馬県計量協会環境分科会創立 50 周年を迎えられたこと心よりお慶び申し上げます。

当社は太陽誘電グループの一員として平成 10 年に設立し分析事業を始めました。群馬県計量協会環境分科会には会社設立後すぐに加盟し、分科会の活動に参加させていただいております。

事業開始当初は水質、大気、土壌、騒音、振動などの環境分析とめっき液などの太陽誘電の電子部品事業に関連した分析が主な対象でした。グループ会社の要求もあり次第に RoHS 規制を中心とした有害物質の分析にも範囲を拡大してまいりました。当社にとって環境分析や計量は基盤技術であり事業拡大の礎となっています。そして環境分析などの分析事業を通じて顧客企業様の環境負荷低減の活動に貢献し地球環境保全につながることを誇りに感じています。

さて、国際的な紛争や経済・産業構造の変化、技術革新、環境意識の向上など時代は大きな変化の流れにあり、環境関連業界も変化への対応が求められてきました。その中で関係諸官庁、関係機関、業界企業各社との連携が重要であり、貴協会がその中心的役割を果たしてきたことに深く敬意を表します。

今後も環境関連業界は規制などの変化に機敏に的確に対応していくことが求められます。石綿・PFAS・マイクロプラスチックなど、人類の活動に有益と考えられていた物質が、技術の進歩とともに続々と有害性が明らかになっています。以前と比較にならないほど物を造る・使う責任は大きなものとなっているのです。世の中の企業や関係機関がこのような環境要求に応えるための活動に対して、当社は事業を通じてその支援を継続していくことに取り組んでまいります。

そのためには行政機関との調整が必要となりますが、行政への上申は民間企業一社ではなかなか難しいものです。貴協会におかれましては、協会員各社と行政との橋渡し役としてこれまでと同様に県土木整備部や環境森林部との意見交換によって、県の環境保全に係る施策や対応など将来に向けての活動をリードしていただけるものと期待しております。

未来の環境を守るという社会貢献性の極めて高い事業として計量証明事業があり、貴協会はその事業所の活動を支援する中心的な立場にあります。貴協会の活動が自然環境の保全に貢献し、益々のご活躍を祈念しお祝いの言葉とさせていただきます。



## 50周年を振り返って

株式会社 エコセンター  
代表取締役社長 鈴木 敦

1997年（平成9年）12月に株式会社エコセンターが設立され、翌年の2027年（令和9年）には設立30周年の節目の年を迎えます。

私は17年前の2009年（平成21年）4月より二代目として代表に就任し、群馬県計量協会環境分科会の一員として共に歩ませていただきました。

前職は建設業の現場監督という異色の経歴でしたが、当時の環境分科会の皆様に暖かく迎えていただいたことを、今でも鮮明に覚えています。

振り返るとあっという間の17年間で、当時34歳の私は、会員の中で最も若造だったことを記憶しております。

そんな私に、浅川前会長が群馬県の環境行政事情や環境分科会の基礎を教えてくださいましたことには、心より感謝申し上げます。

浅川前会長、本当にありがとうございました。

2013年度から2016年度の4年間、浄化槽委員会の副委員長を務め、佐藤委員長のもとで群馬県内の浄化槽関連事業や効率化11条検査に関わる業務に従事しました。

当時、ほぼ毎月開催される委員会では、群馬県環境検査事業団や浄化槽関係四団体事業推進連絡協議会との協議等もあり、非常に多忙でしたが、その中で委員会運営の進行や意見の集約などを学びました。

佐藤委員長、本当にありがとうございました。

2017年度から現在まで、総務企画委員会の委員長を務め、環境分科会の事業計画や行事進行の取りまとめ役を務めさせていただいております。

しかし、就任当初からこの役職に自分がふさわしいかどうか、不安を感じておりました。その中で、小見副委員長が全面的に支えてくださったおかげで、何とか職務を全うすることができました。

小見副委員長、本当にありがとうございました。

最後になりますが、今後は青山会長を中心に、当協会の団結力・知名度向上、環境分科会のさらなる発展、関連企業の繁栄、そして群馬県の自然環境保全に向けて邁進していく所存です。

この方針の達成に向け、会長と共に歩んでいきたいと考えております。

青山会長、これからもよろしくお願いいたします。



## 50周年を振り返って

株式会社ミツバ環境ソリューション  
代表取締役社長 奈良 幸治

一般社団法人 群馬県計量協会 環境分科会が節目の創立 50 周年を迎えられましたこと、心よりお慶び申し上げます。また 50 周年の足跡を集大成した記念誌を発刊される事を心からお祝い申し上げます。貴会は昭和 51 年の創立以来、環境対策に多大なる貢献をされてまいりました。これもひとえに歴代会長をはじめ、会員みなさまのたゆまぬ努力の賜物と心から敬意を表する次第であります。

当社は、まだ半分の 25 年を経た平成 11 年 4 月 2 日に (株) テクノ・クローバの社名で計量証明事業所として登録し協会に入会させて頂きました。最初は計量証明事業所として駆け出しで右も左もわからず各事業所の諸先輩の方と交流を兼ねて技術委員会に参加させて頂きました。平成 20 年 (2008 年) 技術委員会の順番の委員長に当社があたり「ふっ素化合物の分析法の相違による分析値の比較」をテーマに 1 年間会員の方々と共に分析方法の違いによる値の違い、分析時間の違い等検討させて頂きました。今年度 (2024 年) は 50 周年誌に毎年違うテーマで行っている技術委員会活動報告のまとめ作業を行っています。

平成 21 年 (2009 年) から平成 28 年 (2016 年) まで浄化委員会に参加し群馬県の浄化槽の在り方を学ばせて頂きました。年間 10 万検体ある浄化槽の水質管理で BOD の値を管理し浄化槽の維持管理に計量事業所の役割を勉強させて頂きました。

平成 23 年 9 月 11 日に発生した東日本大震災を契機に発足しました放射線委員会に参加し計量証明事業所の立場で放射能の位置づけをメンバーと共に検討しました。

また令和 6 年 (2024 年) に発足しました SDGs 環境委員会に参加し今後の環境における環境計量の在り方を検討させて頂いております。

創業当時埼玉県野菜にダイオキシンが検出され環境問題として話題になり、当社の遅ればせながら測定にトライさせて頂きましたが当時の焼却炉の測定口近くで 800°C 以上の煙突での測定で足場にヘーベルを敷き測定しておりました。当時群馬県内に 200 基以上ありました焼却施設も平成 12 年のダイオキシン類特別措置法により構造規制で排出温度を 200°C 以下の構造に変更され焼却施設の改造が義務付けられ測定は楽になりましたが、平成 22 年頃には 130 基、令和 4 年には 88 基近くになり顧客の減少しました。

我々の業務もこの 20 年間で個別の排出の環境測定から物質の含有で REACH 規制、RoHS 指令の物質内の有害物質の分析、河川のマイクロプラスチック分析とターゲットが変わって来ており時代の流れを感じます。

弊社といたしましても、今後とも貴会との連携を深め、事業の更なる発展に尽力してまいりたいと存じます。末筆となりますが、貴会並びに会員みなさまの更なるご発展を心よりご祈念申し上げ、記念誌発刊に寄せる言葉とさせていただきます。



## 50周年を振り返って

昭和環境分析センター株式会社

代表取締役社長名 市川 秀和

このたび一般社団法人群馬県計量協会環境分科会が創立50周年を迎えられ、この記念すべき節目に記念誌が発行されますことを、心よりお祝い申し上げます。

昭和40年頃より、日本では高度成長に伴い自然環境の破壊や人の健康被害の原因とされる公害の問題が提議されるようになりました。環境分析の社会的信頼性の確保が要求される情勢の中、環境分科会は昭和51年に発足され、土壌、水質、大気分析、騒音や振動の測定で、社会に大きく貢献されてきました。

弊社は、環境分科会がちょうど創立25年を迎えた平成13年に創業し、浄化槽委員会に25年間参加して参りました。弊社が日頃より実施している効率化11条BOD検査は、有機物による水の汚れの指標とされていますが、保管日数や温度、汚泥や微小虫の混入など、測定値の変動を起こす様々な要因が確認されており、非常に注意が必要な検査項目です。時には困難な問題もありますが、同じ委員会の方々と協力し合い、克服しながら精度管理を徹底し続けております。

BODの精度管理を徹底する方法の一つとして、浄化槽委員会では定期的なクロスチェックを実施しております。クロスチェックは各社一斉に行う事により、測定結果の「ばらつき」から得られる情報を利用する事が可能です。例えば、報告値が比較的離れていた分析機関に対し、希釈水、植種、曝気時間、SSや透視度など、有効なデータを収集する事によって、報告値が他の分析機関と乖離した原因を追究することが可能となります。こうした数々の経験から、益々高度な技術や知識を得られるようになりました。

弊社は日頃の一般業務においても、公共用水域等に放流される事業場の排水、雨水、井戸水など、水質汚濁防止法や環境基準に基づく分析の依頼を受注しております。一般排水基準などには有害物質項目も含まれていますが、正しい精度管理が基本となって業務が確立しております。

今や、あらゆる場面において、分析機関の技術の向上が昨今の環境問題の解決に必要とされているということ存じ上げる次第です。そして、多忙な業務の中で活動される会員の皆様のご努力に敬意を表すると共に、日頃よりご協力を頂いております事を心より感謝致しております。

末筆ではございますが、皆様の益々のご繁栄をお祈り申し上げます。

## 50周年を振り返って



有限会社 吾妻分析センター  
代表取締役社長 本間郁恵

このたび、群馬県計量協会の創立 50 周年を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。貴協会が長年にわたり、計量の正確性と信頼性を維持し、地域社会と産業の発展に貢献されて活動を続けてきたことに深く敬意を表します。

計量は、日常生活から産業界に至るまで幅広い分野で私たちの生活を支え重要な役割を果たしています。例えば、製造業では、正確な計量が製品の品質を左右し、ひいては消費者の信頼を得るための基礎となっています。また、環境保全の分野でも、適切な計量や管理が公害防止や資源の有効利用として大変重要になってきます。貴協会はこれらの分野において、研修会の実施や技術指導、各種計量機器の検査業務の充実を図り、多くの企業や市民に計量の重要性を広めてこられました。

近年では技術革新が加速し、デジタル化・自動化が進展しています。計量分野においてはデジタル化により、計量器の精度向上やデータ管理の効率化が進む一方、新しい技術への適応や基準の更新が求められる時代となっております。

私自身も、これまでの経験を通じて計量の重要性を実感しております。計量に関する講習会や勉強会への参加を通じて積極的に知識と技術を学び、自身の業務に活かし、微力ながら環境保全に貢献できるよう努力してまいります。

改めまして、創立 50 周年を迎えられたことに心よりお祝い申し上げますとともに、貴協会のますますのご発展をお祈りしております。



## 50周年を振り返って

株式会社本庄分析センター伊勢崎事業所

代表取締役社長 和田 英雄

群馬県環境分科会に入会後、浄化槽委員会に参加させていただいてから早 20 年が経とうとしております。その後、浄化槽委員会にて技術研鑽を積み、現在も浄化槽の効率化 11 条に微力ながら貢献させていただいております。

昔は利根川の透視度も悪く、洗剤等の泡が川の流れによって浮遊している状況にありました。利根川の上流県である群馬県の河川は 50 年前からみるとかなり水質が改善されました。下流で都内の川の透明度も向上し、魚の生息も目視できるくらいきれいになったかと思えます。下水道の普及が進んだことも一因ではありますが浄化槽の放流水の BOD を測定している我々浄化槽委員会の貢献も大きくかかわっているのではないかと自負しております。

また 2011 年（平成 23 年）3 月 11 日の東日本大震災に伴う原子力発電所の事故が起きたのち、放射能汚染が大きな問題となりました。行政や各方面から汚染濃度の把握と対応を強く望まれたことをきっかけに 2011 年（平成 23 年）12 月 15 日時点で会長事業所をはじめ、9 社が測定体制の整備がスタートいたしました。

この放射能測定は計量法にはない未知の分野であり、計測を実施するにあたって、多様な課題や問題を解決するために放射線委員会が設立されました。初代委員長を務めさせていただき約 12 年間活動して参りました。クロスチェック及び群馬県の土壌調査を実施し、群馬県の放射能汚染が年度を重ねるごとに徐々に減少していくことを確認できたことは大変喜ばしいことと思っております。

現在、放射線委員会の活動を引き継ぎ、SDGs（持続可能な開発目標）の理念に基づく SDGs 環境委員会の設立に向けた準備を進めております。これからも持続可能な社会の実現に向けて、環境保全活動に尽力することを決意しております。また私事ではございますが、株式会社本庄分析センターは 2023 年（令和 5 年）をもって創立 40 周年となりました。約 40 年間の実績を土台に、未来に向けてさらなる発展を目指し、地域社会や環境に貢献していけたらと思っております。



## 50周年を振り返って

会員事業所名 プロファ設計株式会社  
代表取締役  
杉山 崇

一般社団法人群馬県計量協会環境分科会 50周年を迎え、記念事業の一環として記念誌が発行されますことを心よりお祝い申し上げます。ご先輩方のこれまでのご尽力に深く敬意を表します。

当会は、昭和 51 年に発足し、環境計量証明事業は公害問題に始まり、環境保全へと変わっていき、ダイオキシン類の特定計量証明事業、地球温暖化・脱炭素社会への取り組み、最近では PFAS（有機フッ素化合物）の地下水や河川水など環境への影響や、SDGs にみられます持続可能（サステナビリティ）な地球環境を守り次世代へと受け継ぐために重要な分岐点にあると考えられます。

この 50 年間は、日本経済及び世界経済は、飛躍的な経済発展、バブル崩壊、リーマンショック、東日本大震災及び新型コロナウイルス感染症禍による経済衰退などの激動の時代を経てまいりました。

その時代の中で群馬県内の環境計量証明事業におきましても幾多の困難・問題に直面してまいりましたが、克服し地域社会や我々の生活環境の安全・安心を図るとともに環境作りに貢献してまいりました。

さて、私たち「プロファ設計株式会社」は、昭和 45 年に土地改良専門企業としてスタートし、その後、建設コンサルタントとして社会資本整備に携わり、環境研究所を設立し総合コンサルタントとして地域社会の発展に寄与してまいりました。

新時代に合わせて様々なニーズに対応しながら建設分野、環境分野において社員一人ひとりが常に技術研鑽し地域の皆様の安全・安心、そして快適で活力に満ちた質の高いスマート社会の実現に向けて心がけています。

環境研究所は平成 17 年にスタートし、環境水質調査、工場排水調査、大気汚染防止法に係る煤煙測定業務、建設発生土調査、土壌汚染調査、生態系調査、事業場における作業環境測定などの業務に取り組んで参りました。

昨今の環境を巡る問題・ニーズは多様化し、環境調査機関に求められる役割も幅広く変貌しております。研究所の職員一同、行政、民間顧客、地域社会の皆様のご期待に沿えるよう誠心誠意努力し、一步一步前進し、持続可能な社会の実現・社会課題の解決へ貢献して参りたいと存じます。

環境分科会の活動においては、平成 17 年に計量証明事業登録を行い、その後環境分科会の活動に参加させて頂いております。

せん越ながら環境分科会では、副会長の大役を仰せつかり青山会長、佐藤副会長はじめ会員皆様からご指導・ご協力を頂き取り組んでおります。

過去 50 年間に培われた技術や経験を礎に、新たな問題にも対応していく努力を続け、当会が益々発展・持続出来ますよう、努めてまいりたいと存じます。

何卒よろしくお願い申し上げます。

## 50周年を振り返って



株式会社 食環境衛生研究所  
代表取締役 久保 一弘

この度は群馬県計量協会の設立 50 周年記念おめでとうございます。  
弊社は平成 20 年（2008 年）より当協会に参加し、県内の環境計量事業に  
微力ながら参加させていただいております。

弊社は 1998 年（平成 10 年）に設立し、弊社の経営理念である「食品の生産・加工過程と、食品の安全性向上に貢献し、もって人の健康と好ましい生活環境を持続できる社会構造を実現する」を目標に、食の川上から川下まで、生産現場から消費者の手元に至るまでの幅広い分野を網羅して検査・試験・コンサルサービスを行っております。

業務に関しては、主に食品製造や畜産現場での衛生検査を中心に行っておりますが、この分野だけにとどまらず、人間の臨床検査や、動物用医薬品等の臨床試験や残留性試験、一般に販売されている消毒剤や空調機器等の性能試験なども行っております。さらに農産物の生産販売も手掛けております。

環境計量事業者として、食品や畜産現場からの排水を良好に維持するために、定期的に管理することは、法令遵守のみでなく、県内にとどまらず関東地域全体にわたる環境負荷を出来るだけ最小限にとどめることにつながり、必要不可欠かと考えております。日に日に高まる環境負荷への配慮については SDGs が宣言されてからも弱まることはありません。

一方で、我々の生活環境は悪化の傾向をたどっていることも言うまでもありません。地球温暖化を始め過去の遺物とも思われるマイクロプラスチックや PHOS・PFOA 等は、自然環境を思いのままに変えてきた人類へのつけでもあるかと思えます。現在世界中でこれらの化学物質の除去に関する研究が行われていますが、我々環境計量事業者にはそれに先んじて、現状を把握するための分析調査を行う義務があると感じております。

持続可能な循環型社会を目指すために、生産・加工・消費・排出・再利用といったそれぞれにおける環境への負荷状態を適正に把握できる様、我々事業者が連携して地域社会を守っていけたらと思います。

今後も当協会の皆さんと協力して、我々を取り巻く環境問題の解決に向けて協力して進めて行けるよう、邁進してまいりたいと思います。



## 50周年を振り返って

株式会社環境評価機構分析センター  
代表取締役 片亀 光

(一社)群馬県計量協会環境分科会の創立50周年をお慶び申し上げますとともに、歴代役員と事務局の皆様のご尽力に対し心より感謝申し上げます。

弊社は2004年に設立し、安中市を中心に主に西毛地域の事業者からの排水・排ガス測定のご依頼に対応するとともに、2005年度から浄化槽委員会に参加して、効率化11条検査の一端を担わせていただきました。

新参者のつもりでしたが、気がつけば20年が経過していました。環境分科会では歴史と実績のある事業者から弊社のような歴史の浅い零細事業者まで、分け隔てなく平等に接していただいたことに感謝するとともに、活動に十分貢献できなかったことを反省しております。

浄化槽委員会では、単独浄化槽から合併浄化槽への転換促進と効率化11条検査の受検数拡大に取り組んできました。昨年1月の埼玉県八潮市での道路陥没事故で改めて明らかとなった下水道管の劣化・破損リスクは、全国各地で深刻な問題となっています。

汚水の適正かつ効率的な処理という観点から、弊社は当初より下水道による集合処理のみに偏重せず、浄化槽による個別分散処理を推進すべきという立場を表明してきました。この間、合併処理浄化槽の性能が向上する一方、下水道事業は採算性の点でも優位性が低下し、汚水処理計画においても集合処理から個別処理への転換が模索されています。

下水道に接続した浄化槽が廃止され、高齢化・人口減少も重なって浄化槽の設置・管理基数が減少傾向にありましたが、今後はそれに歯止めがかかり、浄化槽による個別処理が汚水処理の社会インフラとして見直されることが期待されます。

首都圏の3000万人近い人々の水源となっている利根川水系の上流に位置する本県は、県民生活と事業活動から排出される汚水を適正に処理し、流域に還元する責任を有しています。浄化槽効率化11条検査は、社会インフラとしての浄化槽が汚水処理機能を適切に果たしているかを確認するための重要なチェックポイントです。浄化槽委員会では、この制度を適正かつ効果的に維持・継続するため、クロスチェックによるBODの精度管理にも取り組んできました。先輩事業者の豊富な知見に助けられながら、弊社も実績を積み重ねることができたことに改めて感謝いたします。

地球温暖化による気候変動の激甚化、化石燃料・レアメタル・レアアースなどの資源獲得を巡る国際競争の激化、生物多様性の劣化などの環境リスクの深刻化に対して、「脱炭素社会」・「循環型社会」・「自然共生社会」を指向すべきことが提唱されています。

パリ協定とSDGsの目標年である2030年、さらに「2050年カーボンニュートラル」を展望し、環境計量証明事業を営む各会員事業者の事業繁栄と環境分科会の益々の発展を祈念いたします。弊社も皆様の歩みに遅れないよう努力しますので、今後ともよろしくお願いいたします。

## 50周年を振り返って



株式会社江東微生物研究所

代表取締役社長 小林 博美

(令和8年2月3日 退会)

一般社団法人群馬県計量協会環境分科会が創立50周年を迎えられたことを心より慶び申し上げます。一般社団法人群馬県計量協会環境分科会がこの記念すべき日を迎えられたのは、昭和51年の発足以来、会の運営にご尽力されました歴代会長および役職員の皆様、会員の皆様、関係各位の皆様のこれまでの弛まぬ努力の賜物であり、深く敬意を表します。

環境分科会は環境計量に関する技術の向上と環境計量証明事業の健全な発展を図るとともに、社会および自然環境の保全に尽くし、産業経済の発展および文化の向上に大きく貢献されてきました。この50年間で日本経済は飛躍的な発展を遂げるとともに、公害問題や環境保全などの社会問題があり、その時代ごとにさまざまな環境測定分析を行って環境保全・対策されてきたことは、群馬県を中心に近隣地域のかたがたが安心・安全に生活できる環境づくりに大きな役割を果たされてきたことと存じます。また、弊社にて検査および提供させていただいたデータがその一助となれば幸いです。

「あらゆる検査ニーズに応え、地域社会に貢献する」を企業理念とする弊社は昭和32年より臨床検査事業を中心に事業を展開しておりましたが、ユーザーからのニーズに応えるべく、創業より培ってきた臨床検査技術や経験を活かし水質検査、食品検査、保菌検査、放射能検査など、環境衛生検査分野に業務を拡大し、平成6年に福島県いわき市に環境分析センターを設立し、先進の設備・機器、優れた専門スタッフと高い技術力を基盤として広範囲な検査を通じ、高度で多様な検査ニーズに総合力で応え、高い信頼性で人びとの健康で安全な暮らしを、地域に密着したきめ細かなサービスを心がけ検査サービスを提供しています。

環境分科会に弊社が会員となり12年となりますが、その間を振り返りますと平成23年に発生した東電福島第一原発事故により放射能検査のニーズが高まりましたが、地震被害から職員の安全を確保しながら検査対応を行ったこと、令和元年から猛威を振るったコロナウイルスではPCR検査のニーズが高まるなか、職員の感染対応をしながらの検査対応など、いずれも弊社職員が部門を越えて一致団結して検査結果を提供でき、地域社会に貢献できたと自負しております。これからの時代も経済構造が大きく変化し、健康と暮らしに大きな脅威となるさまざまな問題が出るのが予測されます。問題の状況を正確に把握するための環境測定分析は、社会において必要不可欠で重要性が変わることはありません。これからも精度が高く迅速な検査データを提供できるよう取り組んでまいります。

環境分科会が50年で培われた技術と経験で新しい事態に適応して更に発展すること、また皆様の益々のご繁栄をご祈念申し上げるとともに、引き続いての皆様のご支援ご協力を何卒よろしくお願ひ申し上げます。

## 50周年を振り返って



株式会社アクアセント  
代表取締役 長沼 今朝男

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

本日、群馬県計量協会環境分科会の創立50周年という大きな節目を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。

50年という歳月は、決して平坦な道のりではなかったことと存じます。社会や産業の変化、技術革新の波、そして幾多の課題を乗り越えながら、正確さと信頼を守り続けてこられた皆様のご努力と情熱に、深い敬意を表します。

振り返れば、計量は単なる数値のやり取りではなく、産業の基盤であり、人々の暮らしの安心を支える大切な礎です。その使命を50年にわたり果たし続けてこられたことはまさに協会の誇りであり、関わってこられた全ての方々の功績であります。

これまで築かれた信頼と実績を胸に、60周年、そしてその先の未来へ向けて、さらなる飛躍を遂げられますことを心より祈念いたします。

結びに、創立50周年を迎えられましたことをお祝い申し上げるとともに、一般社団法人群馬県計量協会環境分科会のますますのご発展を祈念申し上げます。

## 環境分科会を支えた人々

## 50周年を振り返って



浅川 千佳夫

環境分科会の設立 50 周年を、関係する皆様と共に喜びたいと思います。会の設立の経緯等については 30 周年記念誌に載せてありますので読んでいただければと思います。また 30 周年記念式典のあいさつでは「1975 年（昭和 50 年）に環境計量証明事業登録制度ができた。当時は公害という言葉で象徴されるような環境汚染が社会問題として存在しており、そうした汚染物質を分析測定する計量行為として位置付け、信頼性を維持できる分析会社の育成が必要とされたため、環境計量証明機関はそのような社会的要請により生み出されたもの」と述べたことを思い出します。

私はすでに会の活動から離れておりますので、つれづれなる思いを記してみようと思います。環境分科会は主に水質・大気質・土壌等の化学分析を行うことを生業とする事業者の集まりです。各基準値に比べてどのくらいの状態なのかを知るために行っている計量事業も含まれています。私たちが日常生活に支障がないかを知るためのものといえるでしょう。こうした計量を事業にできる社会に感謝したいと思います。

先般、私は地球を一回りしてきました。17 か所に寄港しながらの船旅で、そのつど寄港地を 1～2 日見て回りました。おどろいたことに、多くの地で道路に散らかるゴミの多さや、流れる川の水のきたなさを目にしました。たとえばニューヨークでは港からセントラルパークへの歩道にもゴミは多くておどろきました。それに比べアイスランドのレイキャビクでは道路にゴミはなく、川や湖はきれいな状態でした。どうも人口の多く住む場所では生活環境に十分配慮する必要があるようです。地域の環境許容限度があるように思われるのです。

群馬県内で環境分科会が 50 年も続けられていることを誇らしく感じますし、会が存続することで河川や大気や土壌の測定が続けられ、安全で快適な生活を送ることができるのではないかと思えるからです。社会が会を必要としてくれることが大事なのだと感じられるのです。

昨年（2024 年（令和 6 年））の 12 月下旬に「生物多様性の回復を進めるため群馬県はネイチャーポジティブ（自然再興）宣言」をしたとの報道を目にしました。2017 年（平成 29 年）3 月に群馬県が「生物多様性ぐんま戦略」という冊子を出してから 7 年経過していますが、群馬県の自然保全への姿勢を示したものといえます。生物多様性により暮らしの安全性を存続させようというもので、水環境をはじめ環境分科会で担っている事業の成果は重要な基礎データとなるはずで、そうしたことも含め、これからも長く環境分科会が続いていくことを望み、設立 50 周年誌への稿とします。



## 50周年を振り返って

株式会社環境分析センター  
代表取締役 関根 勇仁

(一社)群馬県計量協会環境分科会創立50周年にあたり心からお祝い申し上げます。  
当社は、1993年(平成5年)5月に設立し今年で33年が経過しました。

30年以上も当社が存続できたことは、ひとえに関係各位の支援があったことが大きいと思います。関係各位に心から感謝申し上げます。

設立当初を振り返ってみると、私は、藤岡市鬼石町に(株)環境科学コーポレーションの名称で環境計量証明業を営む会社に入社し、十年以上環境計量証明に従事してきました。会社の同僚でもあり前橋市に住居していた私を含む4名で1993年(平成5年)5月に前橋市に会社を設立しました。

社名の(株)環境分析センターは、(株)環境科学コーポレーションの社名変更前の名称を譲り受けた形となりました。

当社の社訓は「正確に、早く、安く」でありこの理念を胸に刻んで社員一同が従事してきました。だからこそ今日の会社が継続できたものと自負しております。

設立当初は、水質分析(河川、湖沼等)が主体となっており、その後分析の技術力も付き、土壌分析(土壌汚染対策法関係)も増えてきました。今日では土壌分析が売り上げの多くを占めるような業務体制となりました。

今後も初心を忘れず分析技術力を向上させて環境計量証明業の発展のために精進してまいりたいと考えております。

結びに(一社)群馬県計量協会環境分科会のますますのご発展を祈念申し上げます。

## 災害時等における緊急分析協定

2017年(平成29年)9月27日

群馬県下水道総合事務所・一般社団法人群馬県計量協会環境分科会による  
「災害時等における緊急分析の協力に関する協定」締結式



一般社団法人群馬県計量協会環境分科会 会長 浅川 千佳夫 挨拶



双方による署名、押印



調印状況



調印状況



謝辞 群馬県下水道総合事務所 所長 大内 章義 様



参加者による記念撮影

2023 年度(令和 5 年度)北関東環境測定分析機関連絡協議会

一般社団法人茨城県計量協会環境証明部会・栃木県計量協会環境計量証明部会・

一般社団法人群馬県計量協会環境分科会による

「北関東三県の災害時等における緊急分析の競艇に関する協定書」調印式

2023 年(令和 5 年)9 月 14 日 高崎ワシントンホテルプラザ 11 階「ワシントンホール」にて



調印式 左から

立会人 一般社団法人日本環境測定分析協会関東支部長 大角 武志 様

一般社団法人群馬県計量協会環境分科会 会長 青山 守

栃木県計量協会環境計量証明部会 会長 新井 有明 様

一般社団法人茨城県計量協会環境証明部会 会長 大津 寿 様



3 県による署名、押印



参加者による意見交換会



参加者

2023 年度(令和 5 年度) 北関東環境測定分析機関連絡協議会 懇親会



開演 乾杯 栃木県計量協会環境計量証明部会 会長 新井 有明 様



懇親会の様子



2023 年(令和 5 年)9 月 14 日 安全祈願 少林山 達磨寺にて



安全祈願 参加者 少林山 達磨寺にて

# 歴代役員名簿

～ 歴代役員 ～

歴代役員

年度	会長	副会長	理事			監事
昭和51年	斉藤信太郎	松本史郎				
昭和52年	斉藤信太郎	松本史郎				
昭和53年	斉藤信太郎	松本史郎				
昭和54年	斉藤信太郎	松本史郎				
昭和55年	斉藤信太郎	松本史郎				
昭和56年	斉藤信太郎	松本史郎				
昭和57年	斉藤信太郎	松本史郎				
昭和58年	吉村國度	佐藤善也 塚田邦雄				
昭和59年	吉村國度	佐藤善也 塚田邦雄				
昭和60年	吉濱和夫	北脇敏彦 塚田邦雄				
昭和61年	吉濱和夫	北脇敏彦 塚田邦雄				
昭和62年	吉濱和夫	北脇敏彦 塚田邦雄				
昭和63年	吉濱和夫	北脇敏彦 塚田邦雄				
平成元年	吉濱和夫	北脇敏彦 塚田邦雄				
平成2年	吉濱和夫	佐藤善也 高橋牧克				
平成3年	吉濱和夫	佐藤善也 高橋牧克				
平成4年	吉濱和夫	佐藤緋佐子 高橋牧克				
平成5年	吉濱和夫	佐藤緋佐子 高橋牧克				
平成6年	吉濱和夫	佐藤緋佐子 高橋牧克				
平成7年	吉濱和夫	佐藤緋佐子 高橋牧克	本田 正 新井宗雄 下山親一	柴田正三 家崎 智 井田保之	佐藤泰造	
平成8年	吉濱和夫	佐藤緋佐子 高橋牧克	本田 正 新井宗雄 下山親一	柴田正三 家崎 智 井田保之	佐藤泰造	

歴代役員

年度	会長	副会長	理事			監事
平成9年	吉濱和夫	佐藤緋佐子 高橋牧克	本田 正 新井宗雄 下山親一	柴田正三 家崎 智 井田保之	佐藤泰造	
平成10年	吉濱和夫	佐藤緋佐子 高橋牧克	本田 正 新井宗雄 下山親一	柴田正三 家崎 智 井田保之	佐藤泰造	
平成11年	浅川千佳夫	根岸 栄 原 善彦	佐藤緋佐子 新井宗雄 下山親一	柴田正三 羽鳥 毅 大泉 洋		新井由雄 関根勇仁
平成12年	浅川千佳夫	広瀬 昇 原 善彦	佐藤緋佐子 新井常夫 新井宗雄	下山親一 柴田正三 石渕善範	大泉 洋	新井由雄 関根勇仁
平成13年	浅川千佳夫	広瀬 昇 原 善彦	佐藤緋佐子 新井常夫 新井宗雄	下山親一 柴田正三 石渕善範	大泉 洋	新井由雄 関根勇仁
平成14年	浅川千佳夫	高橋春雄 原 善彦	佐藤緋佐子 新井常夫 新井宗雄	下山親一 柴田正三 石渕善範	大泉 洋	新井由雄 関根勇仁
平成15年	浅川千佳夫	中西 昇 原 善彦	佐藤緋佐子 川口 勝 新井宗雄	下山親一 柴田正三 川渕 勇	篠原和人	新井由雄 関根勇仁
平成16年	浅川千佳夫	中西 昇 篠原和人	佐藤弘之 川口 勝 新井宗雄	下山親一 佐藤留治 加藤征一郎	川端 勇	新井由雄 関根勇仁
平成17年	浅川千佳夫	中西 昇 篠原和人	佐藤弘之 川口 勝 新井宗雄	下山 裕 佐藤留治 加藤征一郎	高橋正欣	新井由雄 関根勇仁
平成18年	浅川千佳夫	中西 昇	佐藤弘之 川口 勝 新井宗雄	下山 裕 佐藤留治 加藤征一郎	高橋正欣	新井由雄 関根勇仁
平成19年	浅川千佳夫	江原 仁	佐藤弘之 川口 勝 新井宗雄	下山 裕 加藤征一郎 高橋正欣	星野輝久	佐藤留治 新井孝雄
平成20年	浅川千佳夫	江原 仁	佐藤弘之 川口 勝 新井宗雄	下山 裕 加藤征一郎 高橋正欣	須藤健一	佐藤留治 新井孝雄

歴代役員

年度	会長	副会長	理事			監事
平成21年	浅川千佳夫	佐藤弘之 根岸 栄	川口 勝 新井宗雄 小屋和行	高橋正欣 須藤健一 関根勇仁		佐藤留治 新井孝雄
平成22年	浅川千佳夫	佐藤弘之 中川佳次	川口 勝 新井宗雄 小屋和行	山口 治 渡辺良伸 関根勇仁		佐藤留治 新井孝雄
平成23年	浅川千佳夫	佐藤弘之 中川佳次	星 正敏 新井俊則 小屋和行	山口 治 渡辺良伸 関根勇仁		佐藤留治 新井孝雄
平成24年	浅川千佳夫	佐藤弘之 中川佳次	星 正敏 新井俊則 小屋和行	細谷英雄 渡辺良伸 関根勇仁		佐藤留治 新井孝雄
平成25年	浅川千佳夫	佐藤弘之 星 正敏	新井俊則 小屋和行 細谷英雄	飯塚明彦 関根勇仁 杉山 崇		佐藤留治 新井孝雄
平成26年	浅川千佳夫	佐藤弘之 星 正敏	新井俊則 杉原志朗 細谷英雄	飯塚明彦 関根勇仁 杉山 崇		佐藤留治 新井孝雄
平成27年	浅川千佳夫	佐藤弘之	田島和明 新井俊則 杉原志朗	中野恵子 飯塚明彦 関根勇仁	杉山 崇	佐藤留治 新井孝雄
平成28年	浅川千佳夫	佐藤弘之	田島和明 新井俊則 富岡 淳	中野恵子 須野原修 関根勇仁	杉山 崇	佐藤留治 新井孝雄
平成29年	浅川千佳夫	佐藤弘之 杉山 崇	田島和明 新井俊則 富岡 淳	中野恵子 須野原修 関根勇仁		佐藤留治 新井忠男
平成30年	浅川千佳夫	佐藤弘之 杉山 崇	田島和明 新井俊則 富岡 淳	中野恵子 須野原修 関根勇仁		佐藤留治 新井忠男
令和元年	浅川千佳夫	佐藤弘之 杉山 崇	田島和明 新井俊則 富岡 淳	中野恵子 須野原修 関根勇仁		佐藤留治 新井忠男
令和2年	青山 守	佐藤弘之 杉山 崇	小見 明 新井俊則 富岡 淳	中野恵子 須野原修 関根勇仁		佐藤留治 新井忠男

歴代役員

年度	会長	副会長	理事			監事
令和3年	青山 守	佐藤弘之 杉山 崇	小見 明 新井俊則 須藤律子	中野恵子 須野原修 鈴木 敦		佐藤留治 関根勇仁
令和4年	青山 守	佐藤弘之 杉山 崇	小見 明 新井俊則 須藤律子	中野恵子 須野原修 鈴木 敦		佐藤留治 関根勇仁
令和5年	青山 守	佐藤弘之 杉山 崇	小見 明 新井俊則 須藤律子	中野恵子 須野原修 鈴木 敦		関根勇仁 片亀 光
令和6年	青山 守	佐藤弘之 杉山 崇	小見 明 新井俊則 須藤律子	中野恵子 須野原修 鈴木 敦		関根勇仁 片亀 光
令和7年	青山 守	佐藤弘之 杉山 崇	田中克佳 新井俊則 須藤律子	中野恵子 須野原修 鈴木 敦		石塚政和 片亀 光

# 歴代役員名簿

～ 総務企画委員会 ～

総務企画委員会歴代委員名簿

年 度	役職名	氏 名	所 属
平成18年	委員長	星 正敏	(株) 環境技研
	副委員長	佐藤 修	(株) 群馬分析センター
	副委員長	新井宗雄	瑞晃化学(株)
	構成委員	佐藤弘之	(株) インフォマテックヨシヤ
		中西 昇	(株) 環境科学コーポレーション関東事業所
		清水則幸	(公財) 群馬県健康づくり財団
		中野恵子	関東電化産業(株)
		荒井哲雄	(株) ヤマト大和分析センター
		片亀 光	(株) 環境評価機構分析センター
平成19年	委員長	星 正敏	(株) 環境技研
	副委員長	佐藤 修	(株) 群馬分析センター
	副委員長	新井宗雄	瑞晃化学(株)
	構成委員	佐藤弘之	(株) インフォマテックヨシヤ
		高橋行正	(株) 環境科学コーポレーション関東事業所
		佐藤留治	シバタ環境科学(株)
		清水則幸	(公財) 群馬県健康づくり財団
		中野恵子	関東電化産業(株)
		荒井哲雄	(株) ヤマト大和分析センター
		本嶋茂雄	(株) エコセンター
片亀 光		(株) 環境評価機構分析センター	
平成20年	委員長	星 正敏	(株) 環境技研
	副委員長	佐藤 修	(株) 群馬分析センター
	副委員長	佐藤留治	シバタ環境科学(株)
	構成委員	佐藤弘之	(株) インフォマテックヨシヤ
		高橋行正	(株) 環境科学コーポレーション関東事業所
		新井宗雄	瑞晃化学(株)
		清水則幸	(公財) 群馬県健康づくり財団
		中野恵子	関東電化産業(株)
		荒井哲雄	(株) ヤマト大和分析センター
		本嶋茂雄	(株) エコセンター
片亀 光		(株) 環境評価機構分析センター	
平成21年	委員長	星 正敏	(株) 環境技研
	副委員長	佐藤 修	(株) 群馬分析センター
	副委員長	佐藤留治	シバタ環境科学(株)
	構成委員	佐藤弘之	(株) インフォマテックヨシヤ
		根岸 栄	(株) 環境科学コーポレーション関東事業所
		新井宗雄	瑞晃化学(株)
		清水則幸	(公財) 群馬県健康づくり財団
		中野恵子	関東電化産業(株)
		荒井哲雄	(株) ヤマト大和分析センター
鈴木 敦		(株) エコセンター	
片亀 光	(株) 環境評価機構分析センター		

総務企画委員会歴代委員名簿

年 度	役職名	氏 名	所 属
平成22年	委員長	星 正敏	(株) 環境技研
	副委員長	佐藤 修	(株) 群馬分析センター
	副委員長	佐藤留治	シバタ環境科学 (株)
	構成委員	佐藤弘之	(株) インフォマテックヨシヤ
		根岸 栄	(株) 環境科学コーポレーション関東事業所
		新井宗雄	瑞晃化学 (株)
		清水則幸	(公財) 群馬県健康づくり財団
		中野恵子	関東電化産業 (株)
		荒井哲雄	(株) ヤマト大和分析センター
		鈴木 敦	(株) エコセンター
		片亀 光	(株) 環境評価機構分析センター
		黒澤文雄	アクアハイプラン (株)
		高梨正夫	浅野テクノロジー (株)
平成23年	委員長	佐藤 修	(株) 群馬分析センター
	副委員長	佐藤留治	シバタ環境科学 (株)
	副委員長	荒井哲雄	(株) ヤマト大和分析センター
	構成委員	星 正敏	(株) 環境技研
		中川佳次	(株) 環境科学コーポレーション関東事業所
		佐藤弘之	(株) インフォマテックヨシヤ
		新井俊則	瑞晃化学 (株)
		清水則幸	(公財) 群馬県健康づくり財団
		中野恵子	関東電化産業 (株)
		鈴木 敦	(株) エコセンター
		片亀 光	(株) 環境評価機構分析センター
		黒澤文雄	アクアハイプラン (株)
		高梨正夫	浅野テクノロジー (株)
平成24年	委員長	佐藤 修	(株) 群馬分析センター
	副委員長	佐藤留治	シバタ環境科学 (株)
	副委員長	荒井哲雄	(株) ヤマト大和分析センター
	構成委員	星 正敏	(株) 環境技研
		中川佳次	(株) 環境科学コーポレーション関東事業所
		佐藤弘之	(株) インフォマテックヨシヤ
		新井俊則	瑞晃化学 (株)
		清水則幸	(公財) 群馬県健康づくり財団
		中野恵子	関東電化産業 (株)
		鈴木 敦	(株) エコセンター
		片亀 光	(株) 環境評価機構分析センター
		黒澤文雄	アクアハイプラン (株)
		高梨正夫	浅野テクノロジー (株)
平成25年	委員長	荒井哲雄	(株) ヤマト大和分析センター
	副委員長	清水則幸	(公財) 群馬県健康づくり財団
	副委員長	鈴木 敦	(株) エコセンター
	構成委員	佐藤 修	(株) 群馬分析センター
		新井俊則	瑞晃化学 (株)
		片亀 光	(株) 環境評価機構分析センター
		黒澤文雄	アクアハイプラン (株)
		佐藤留治	シバタ環境科学 (株)
		高梨正夫	浅野テクノロジー (株)
		中野恵子	関東電化産業 (株)
		星 正敏	(株) 環境技研
		佐藤弘之	(株) インフォマテックヨシヤ

総務企画委員会歴代委員名簿

年 度	役職名	氏 名	所 属
平成26年	委員長	荒井哲雄	(株) ヤマト大和分析センター
	副委員長	清水則幸	(公財) 群馬県健康づくり財団
	副委員長	鈴木 敦	(株) エコセンター
	構成委員	佐藤 修	(株) 群馬分析センター
		新井俊則	瑞晃化学(株)
		片亀 光	(株) 環境評価機構分析センター
		黒澤文雄	アクアハイプラン(株)
		佐藤留治	シバタ環境科学(株)
		高梨正夫	浅野テクノロジー(株)
		中野恵子	関東電化産業(株)
		湯澤厚二	(株) 環境技研
	オブザーバー	浅川千佳夫	環境分科会会長
平成27年	委員長	荒井哲雄	(株) ヤマト大和分析センター
	副委員長	清水則幸	(公財) 群馬県健康づくり財団
	副委員長	鈴木 敦	(株) エコセンター
	構成委員	青山 守	(株) 群馬分析センター
		新井俊則	瑞晃化学(株)
		片亀 光	(株) 環境評価機構分析センター
		黒澤文雄	アクアハイプラン(株)
		佐藤留治	シバタ環境科学(株)
		杉山 崇	プロファ設計(株) 環境研究所
		高梨正夫	浅野テクノロジー(株)
		中野恵子	関東電化産業(株)
	湯澤厚二	(株) 環境技研	
	オブザーバー	浅川千佳夫	環境分科会会長
平成28年	委員長	荒井哲雄	(株) ヤマト大和分析センター
	副委員長	清水則幸	(公財) 群馬県健康づくり財団
	副委員長	鈴木 敦	(株) エコセンター
	構成委員	青山 守	(株) 群馬分析センター
		新井紀好	瑞晃化学(株)
		片亀 光	(株) 環境評価機構分析センター
		黒澤文雄	アクアハイプラン(株)
		佐藤留治	シバタ環境科学(株)
		杉山 崇	プロファ設計(株) 環境研究所
		高梨正夫	浅野テクノロジー(株)
		中野恵子	関東電化産業(株)
	湯澤厚二	(株) 環境技研	
	オブザーバー	浅川千佳夫	環境分科会会長
平成29年	委員長	鈴木 敦	(株) エコセンター
	副委員長	青山 守	(株) 群馬分析センター
	副委員長	清水則幸	(公財) 群馬県健康づくり財団
	構成委員	荒井哲雄	(株) ヤマト大和分析センター
		新井紀好	瑞晃化学(株)
		片亀 光	(株) 環境評価機構分析センター
		佐藤留治	シバタ環境科学(株)
		高梨正夫	浅野テクノロジー(株)
		杉山 崇	プロファ設計(株) 環境研究所
		中野恵子	関東電化産業(株)
		小見 明	(株) 環境技研
	アドバイザー	田島和明	(株) 環境技研
	オブザーバー	浅川千佳夫	環境分科会会長

総務企画委員会歴代委員名簿

年 度	役職名	氏 名	所 属
平成30年	委員長	鈴木 敦	(株) エコセンター
	副委員長	青山 守	(株) 群馬分析センター
	副委員長	小見 明	(株) 環境技研
	構成委員	荒井哲雄	(株) ヤマト大和分析センター
		新井紀好	瑞晃化学(株)
		片亀 光	(株) 環境評価機構分析センター
		佐藤留治	シバタ環境科学(株)
		清水則幸	(公財) 群馬県健康づくり財団
		杉山 崇	プロファ設計(株) 環境研究所
		中野恵子	関東電化産業(株)
	アドバイザー	須野原修	(一社) 群馬県薬剤師会環境衛生試験センター
	オブザーバー	浅川千佳夫	環境分科会会長
令和元年	委員長	鈴木 敦	(株) エコセンター
	副委員長	青山 守	(株) 群馬分析センター
	副委員長	小見 明	(株) 環境技研
	構成委員	荒井哲雄	(株) ヤマト大和分析センター
		新井紀好	瑞晃化学(株)
		片亀 光	(株) 環境評価機構分析センター
		佐藤留治	シバタ環境科学(株)
		高橋昭統	(公財) 群馬県健康づくり財団
		杉山 崇	プロファ設計(株) 環境研究所
		中野恵子	関東電化産業(株)
	アドバイザー	須野原修	(一社) 群馬県薬剤師会環境衛生試験センター
	オブザーバー	浅川千佳夫	環境分科会会長
令和2年	委員長	鈴木 敦	(株) エコセンター
	副委員長	小見 明	(株) 環境技研
	構成委員	関根友規	(株) 群馬分析センター
		荒井哲雄	(株) ヤマト大和分析センター
		新井紀好	瑞晃化学(株)
		片亀 光	(株) 環境評価機構分析センター
		佐藤留治	シバタ環境科学(株)
		高橋昭統	(公財) 群馬県健康づくり財団
		杉山 崇	プロファ設計(株) 環境研究所
		中野恵子	関東電化産業(株)
	アドバイザー	須野原修	(一社) 群馬県薬剤師会環境衛生試験センター
	令和3年	委員長	鈴木 敦
副委員長		小見 明	(株) 環境技研
構成委員		関根友規	(株) 群馬分析センター
		新井紀好	瑞晃化学(株)
		片亀 光	(株) 環境評価機構分析センター
		佐藤留治	シバタ環境科学(株)
		牟田恵理子	(公財) 群馬県健康づくり財団
		中野恵子	関東電化産業(株)
		杉山 崇	プロファ設計(株) 環境研究所
		荒井哲雄	(株) ヤマト大和分析センター
アドバイザー		須野原修	(一社) 群馬県薬剤師会環境衛生試験センター

総務企画委員会歴代委員名簿

年 度	役職名	氏 名	所 属
令和4年	委員長	鈴木 敦	(株) エコセンター
	副委員長	小見 明	(株) 環境技研
	構成委員	関根友規	(株) 群馬分析センター
		新井紀好	瑞晃化学(株)
		片亀 光	(株) 環境評価機構分析センター
		佐藤留治	シバタ環境科学(株)
		牟田恵理子	(公財) 群馬県健康づくり財団
		中野恵子	関東電化産業(株)
		杉山 崇	プロファ設計(株) 環境研究所
		荒井哲雄	(株) ヤマト大和分析センター
	アドバイザー	須野原修	(一社) 群馬県薬剤師会環境衛生試験センター
	オブザーバー	青山 守	環境分科会会長
	オブザーバー	佐藤弘之	環境分科会副会長
令和5年	委員長	鈴木 敦	(株) エコセンター
	副委員長	小見 明	(株) 環境技研
	構成委員	関根友規	(株) 群馬分析センター
		新井紀好	瑞晃化学(株)
		片亀 光	(株) 環境評価機構分析センター
		佐藤留治	シバタ環境科学(株)
		牟田恵理子	(公財) 群馬県健康づくり財団
		中野恵子	関東電化産業(株)
		杉山 崇	プロファ設計(株) 環境研究所
		川端洋之進	(株) ヤマト大和分析センター
	アドバイザー	須野原修	(一社) 群馬県薬剤師会環境衛生試験センター
	オブザーバー	青山 守	環境分科会会長
	オブザーバー	佐藤弘之	環境分科会副会長
令和6年	委員長	鈴木 敦	(株) エコセンター
	副委員長	小見 明	(株) 環境技研
	構成委員	関根友規	(株) 群馬分析センター
		新井紀好	瑞晃化学(株)
		片亀 光	(株) 環境評価機構分析センター
		佐藤留治	シバタ環境科学(株)
		牟田恵理子	(公財) 群馬県健康づくり財団
		中野恵子	関東電化産業(株)
		杉山 崇	プロファ設計(株) 環境研究所
		川端洋之進	(株) ヤマト大和分析センター
		和田英雄	(株) 本庄分析センター伊勢崎営業所
	アドバイザー	須野原修	(一財) 群馬県薬剤師会環境衛生試験センター
	オブザーバー	青山 守	環境分科会会長

総務企画委員会歴代委員名簿

年 度	役職名	氏 名	所 属
令和7年	委員長	鈴木 敦	(株) エコセンター
	副委員長	茂木謙和	(株) 環境技研
	構成委員	関根友規	(株) 群馬分析センター
		新井紀好	瑞晃化学(株)
		片亀 光	(株) 環境評価機構分析センター
		佐藤留治	シバタ環境科学(株)
		牟田恵理子	(公財) 群馬県健康づくり財団
		中野恵子	関東電化産業(株)
		杉山 崇	プロファ設計(株) 環境研究所
		川端洋之進	(株) ヤマト大和分析センター
		和田英雄	(株) 本庄分析センター伊勢崎営業所
	アドバイザー	須野原修	(一財) 群馬県薬剤師会環境衛生試験センター
	オブザーバー	青山 守	環境分科会会長

# 歴代役員名簿

～ 技術委員会 ～

技術委員会歴代委員名簿

年 度	役職名	氏 名	所 属
平成18年	委員長	下山 裕	(株) 不二ケミカル
	副委員長	石塚政和	(株) 環境アシスト
	副委員長	高木 厚	(株) ミツバ環境分析リサーチ
	構成委員	佐藤竜馬	(株) インフォマテックヨシヤ
		高橋行正	(株) 環境科学コーポレーション関東事業所
		足立英則	(株) 環境技研
		松村裕之	(株) 群馬分析センター
		福島孝志	三洋電機 (株) 環境リサーチセンター東部
		小畑 勝	パリノ・サーヴェイ (株)
		野田 猛	(株) 総合環境分析北関東支社
		加藤克之	(社) 群馬県薬剤師会環境衛生試験センター
		荒井哲雄	(株) ヤマト大和分析センター
		白石 実	(株) テルム北関東分析センター
	関根勇仁	(株) 環境分析センター	
平成19年	委員長	小澤光男	(株) 環境アシスト
	副委員長	高木 厚	(株) ミツバ環境分析リサーチ
	副委員長	細田 博	プロファ設計 (株) 環境研究所
	構成委員	佐藤竜馬	(株) インフォマテックヨシヤ
		境野幸一	(株) 環境科学コーポレーション関東事業所
		足立英則	(株) 環境技研
		赤穂和行	(株) 群馬分析センター
		下山 裕	(株) 不二ケミカル
		福島孝志	三洋電機 (株) 環境リサーチセンター東部
		小畑 勝	パリノ・サーヴェイ (株)
		小林生二	関東電化産業 (株)
		中村和弘	(株) 総合環境分析北関東支社
		加藤克之	(社) 群馬県薬剤師会環境衛生試験センター
	荒井哲雄	(株) ヤマト大和分析センター	
	白石 実	(株) テルム北関東分析センター	
	関根勇仁	(株) 環境分析センター	
平成20年	委員長	高木 厚	(株) ミツバ環境分析リサーチ
	副委員長	小林生二	関東電化産業 (株)
	副委員長	細田 博	プロファ設計 (株) 環境研究所
	構成委員	佐藤弘之	(株) インフォマテックヨシヤ
		境野幸一	(株) 環境科学コーポレーション関東事業所
		足立英則	(株) 環境技研
		赤穂和行	(株) 群馬分析センター
		下山 裕	(株) 不二ケミカル
		福島孝志	三洋電機 (株) 環境リサーチセンター
		小畑 勝	パリノ・サーヴェイ (株)
		中村和弘	(株) 総合環境分析北関東支社
		加藤克之	(社) 群馬県薬剤師会環境衛生試験センター
		荒井哲雄	(株) ヤマト大和分析センター
	白石 実	(株) テルム北関東分析センター	
	関根勇仁	(株) 環境分析センター	
	小澤光男	(株) 環境アシスト	
	殿木正人	(株) 群馬臨床検査センター	
	玉木哲也	(財) 群馬県環境検査事業団	

技術委員会歴代委員名簿

年 度	役職名	氏 名	所 属
平成21年	委員長	細田 博	プロファ設計 (株) 環境研究所
	副委員長	小林生二	関東電化産業 (株)
	副委員長	殿木正人	(株) 群馬臨床検査センター
	構成委員	境野幸一	(株) 環境科学コーポレーション関東事業所
		足立英則	(株) 環境技研
		赤穂和行	(株) 群馬分析センター
		下山 裕	(株) 不二ケミカル
		福島孝志	三洋電機 (株) 環境リサーチセンター
		小畑 勝	パリノ・サーヴェイ (株)
		中村和弘	(株) 総合環境分析北関東支社
		恩田哲行	(社) 群馬県薬剤師会環境衛生試験センター
		荒井哲雄	(株) ヤマト大和分析センター
		白石 実	(株) テルム北関東分析センター
		関根勇仁	(株) 環境分析センター
		小澤光男	(株) 環境アシスト
		高木 厚	(株) ミツバ環境分析リサーチ
	玉木哲也	(財) 群馬県環境検査事業団	
	内藤雅也	(株) 食環境衛生研究所	
平成22年	委員長	小林生二	関東電化産業 (株)
	副委員長	殿木正人	(株) 群馬臨床検査センター
	副委員長	玉木哲也	(財) 群馬県環境検査事業団
	構成委員	境野幸一	(株) 環境科学コーポレーション関東事業所
		足立英則	(株) 環境技研
		赤穂和行	(株) 群馬分析センター
		下山徹也	(株) 不二ケミカル
		小畑 勝	パリノ・サーヴェイ (株)
		中村和弘	(株) 総合環境分析北関東支社
		恩田哲行	(社) 群馬県薬剤師会環境衛生試験センター
		荒井哲雄	(株) ヤマト大和分析センター
		白石 実	(株) テルム北関東分析センター
		関根勇仁	(株) 環境分析センター
		小澤光男	(株) 環境アシスト
		高木 厚	(株) ミツバ環境分析リサーチ
		細田 博	プロファ設計 (株) 環境研究所
	内藤雅也	(株) 食環境衛生研究所	

技術委員会歴代委員名簿

年 度	役職名	氏 名	所 属
平成23年	委員長	殿木正人	(株) 群馬臨床検査センター
	副委員長	玉木哲也	(株) 群馬県環境検査事業団
	副委員長	内藤雅也	(株) 食環境衛生研究所
	構成委員	境野幸一	(株) 環境科学コーポレーション関東事業所
		足立英則	(株) 環境技研
		赤穂和行	(株) 群馬分析センター
		下山徹也	(株) 不二ケミカル
		小畑 勝	パリーノ・サーヴェイ (株)
		小川亮介	関東電化産業 (株)
		中村和弘	(株) 総合環境分析北関東支社
		恩田哲行	(社) 群馬県薬剤師会環境衛生試験センター
		荒井哲雄	(株) ヤマト大和分析センター
		白石 実	(株) テルム北関東分析センター
		関根勇仁	(株) 環境分析センター
		小沢光男	(株) 環境アシスト
	高木 厚	(株) ミツバ環境分析リサーチ	
	細田 博	プロファ設計 (株) 環境研究所	
平成24年	委員長	玉木哲也	(公財) 群馬県環境検査事業団
	副委員長	境野幸一	(株) 環境科学コーポレーション関東事業所
	副委員長	内藤雅也	(株) 食環境衛生研究所
	構成委員	足立英則	(株) 環境技研
		青木智也	(株) 群馬分析センター
		下山徹也	(株) 不二ケミカル
		小畑 勝	パリーノ・サーヴェイ (株)
		小川亮介	関東電化産業 (株)
		中村和弘	(株) 総合環境分析北関東支社
		恩田哲行	(一社) 群馬県薬剤師会環境衛生試験センター
		荒井哲雄	(株) ヤマト大和分析センター
		白石 実	(株) テルム北関東分析センター
		関根勇仁	(株) 環境分析センター
		小澤光男	(株) 環境アシスト
		高木 厚	(株) ミツバ環境分析リサーチ
	木元英哉	プロファ設計 (株) 環境研究所	
	殿木正人	(株) 群馬臨床検査センター	
平成25年	委員長	下山徹也	(株) 不二ケミカル
	副委員長	足立英則	(株) 環境技研
	副委員長	青木智也	(株) 群馬分析センター
	構成委員	小畑 勝	パリーノ・サーヴェイ (株)
		小林生二	関東電化産業 (株)
		中村和弘	(株) 総合環境分析北関東支社
		恩田哲行	(一社) 群馬県薬剤師会環境衛生試験センター
		荒井哲雄	(株) ヤマト大和分析センター
		白石 実	(株) テルム北関東分析センター
		関根勇仁	(株) 環境分析センター
		小澤光男	(株) 環境アシスト
		高木 厚	(株) ミツバ環境分析リサーチ
		木元英哉	プロファ設計 (株) 環境研究所
		玉木哲也	(公財) 群馬県環境検査事業団

技術委員会歴代委員名簿

年 度	役職名	氏 名	所 属
平成26年	委員長	足立英則	(株) 環境技研
	副委員長	小畑 勝	パリノ・サーヴェイ (株)
	副委員長	金子美智子	(株) 群馬分析センター
	構成委員	小林生二	関東電化産業 (株)
		中村和弘	(株) 総合環境分析北関東支社
		恩田哲行	(一社) 群馬県薬剤師会環境衛生試験センター
		荒井哲雄	(株) ヤマト大和分析センター
		松田 涉	(株) テルム北関東分析センター
		関根勇仁	(株) 環境分析センター
		小澤光男	(株) 環境アシスト
		高木 厚	(株) ミツバ環境分析リサーチ
		木元英哉	プロファ設計 (株) 環境研究所
		玉木哲也	(公財) 群馬県環境検査事業団
	下山徹也	(株) 不二ケミカル	
平成27年	委員長	小畑 勝	パリノ・サーヴェイ (株)
	副委員長	金子美智子	(株) 群馬分析センター
	副委員長	小林生二	関東電化産業 (株)
	構成委員	中村和弘	(株) 総合環境分析北関東支社
		恩田哲行	(一社) 群馬県薬剤師会環境衛生試験センター
		荒井哲雄	(株) ヤマト大和分析センター
		坂本洋祐	東芝環境ソリューション (株) 北関東分析センター
		関根勇仁	(株) 環境分析センター
		小澤光男	(株) 環境アシスト
		高木 厚	(株) ミツバ環境分析リサーチ
		木元英哉	プロファ設計 (株) 環境研究所
		玉木哲也	(公財) 群馬県環境検査事業団
		下山徹也	(株) 不二ケミカル
	足立英則	(株) 環境技研	
平成28年	委員長	金子美智子	(株) 群馬分析センター
	副委員長	小林生二	関東電化産業 (株)
	副委員長	中村和弘	(株) 総合環境分析北関東支社
	構成委員	恩田哲行	(一社) 群馬県薬剤師会環境衛生試験センター
		荒井哲雄	(株) ヤマト大和分析センター
		松田 涉	東芝環境ソリューション (株) 北関東分析センター
		関根勇仁	(株) 環境分析センター
		小澤光男	(株) 環境アシスト
		高木 厚	(株) ミツバ環境分析リサーチ
		木元英哉	プロファ設計 (株) 環境研究所
		玉木哲也	(公財) 群馬県環境検査事業団
		下山徹也	(株) 不二ケミカル
		足立英則	(株) 環境技研
	小畑 勝	パリノ・サーヴェイ (株)	
	境野幸一	(株) 環境科学コーポレーション関東事業所	

技術委員会歴代委員名簿

年 度	役職名	氏 名	所 属
平成29年	委員長	小林生二	関東電化産業 (株)
	副委員長	中村和弘	(株) 総合環境分析北関東支社
	副委員長	恩田哲行	(一社) 群馬県薬剤師会環境衛生試験センター
	構成委員	荒井哲雄	(株) ヤマト大和分析センター
		坂本洋祐	東芝環境ソリューション (株) 北関東分析センター
		関根勇仁	(株) 環境分析センター
		石塚政和	(株) 環境アシスト
		高木 厚	(株) ミツバ環境分析リサーチ
		玉木哲也	(公財) 群馬県環境検査事業団
		下山徹也	(株) 不二ケミカル
		足立英則	(株) 環境技研
		小畑 勝	パリノ・サーヴェイ (株)
	金子美智子	(株) 群馬分析センター	
平成30年	委員長	中村和弘	(株) 総合環境分析北関東支社
	副委員長	恩田哲行	(一社) 群馬県薬剤師会環境衛生試験センター
	副委員長	荒井哲雄	(株) ヤマト大和分析センター
	構成委員	坂本洋祐	東芝環境ソリューション (株) 北関東分析センター
		関根勇仁	(株) 環境分析センター
		石塚政和	(株) 環境アシスト
		高木 厚	(株) ミツバ環境ソリューション
		玉木哲也	(公財) 群馬県環境検査事業団
		下山徹也	(株) 不二ケミカル
		足立英則	(株) 環境技研
		小畑 勝	パリノ・サーヴェイ (株)
		金子美智子	(株) 群馬分析センター
	小林生二	関東電化産業 (株)	
令和元年	委員長	恩田哲行	(一社) 群馬県薬剤師会環境衛生試験センター
	副委員長	荒井哲雄	(株) ヤマト大和分析センター
	副委員長	坂本洋祐	東芝環境ソリューション (株) 北関東分析センター
	構成委員	関根勇仁	(株) 環境分析センター
		石塚政和	(株) 環境アシスト
		高木 厚	(株) ミツバ環境ソリューション
		玉木哲也	(公財) 群馬県環境検査事業団
		下山徹也	(株) 不二ケミカル
		足立英則	(株) 環境技研
		小畑 勝	パリノ・サーヴェイ (株)
		金子美智子	(株) 群馬分析センター
		小林生二	関東電化産業 (株)
		中村和弘	(株) 総合環境分析北関東支社
	松永道彦	プロファ設計 (株) 環境研究所	

技術委員会歴代委員名簿

年 度	役職名	氏 名	所 属
令和2年	委員長	荒井哲雄	(株) ヤマト大和分析センター
	副委員長	坂本洋祐	東芝環境ソリューション (株) 北関東分析センター
	副委員長	関根勇仁	(株) 環境分析センター
	構成委員	黒田奈央子	(株) 環境アシスト
		金子宣之	(株) ミツバ環境ソリューション
		玉木哲也	(公財) 群馬県環境検査事業団
		下山徹也	(株) 不二ケミカル
		足立英則	(株) 環境技研
		小畑 勝	パリノ・サーヴェイ (株)
		金子美智子	(株) 群馬分析センター
		小林生二	関東電化産業 (株)
		小林正寛	(株) 総合環境分析北関東支社
		松永道彦	プロファ設計 (株) 環境研究所
		恩田哲行	(一社) 群馬県薬剤師会環境衛生試験センター
令和3年	委員長	坂本洋祐	東芝環境ソリューション (株) 北関東分析センター
	副委員長	関根勇仁	(株) 環境分析センター
	副委員長	石塚政和	(株) 環境アシスト
	構成委員	金子宣之	(株) ミツバ環境ソリューション
		下山徹也	(株) 不二ケミカル
		篠原政登	(株) 環境技研
		小畑 勝	パリノ・サーヴェイ (株)
		金子美智子	(株) 群馬分析センター
		小林生二	関東電化産業 (株)
		小林正寛	(株) 総合環境分析北関東支社
		松永道彦	プロファ設計 (株) 環境研究所
		恩田哲行	(一社) 群馬県薬剤師会環境衛生試験センター
		荒井哲雄	(株) ヤマト大和分析センター
	令和4年	委員長	関根勇仁
副委員長		石塚政和	(株) 環境アシスト
副委員長		金子宣之	(株) ミツバ環境ソリューション
構成委員		松永道彦	プロファ設計 (株) 環境研究所
		篠原政登	(株) 環境技研
		金子美智子	(株) 群馬分析センター
		下山徹也	(株) 不二ケミカル
		小畑 勝	パリノ・サーヴェイ (株)
		小林生二	関東電化産業 (株)
		小林正寛	(株) 総合環境分析北関東支社
		恩田哲行	(一社) 群馬県薬剤師会環境衛生試験センター
		荒井哲雄	(株) ヤマト大和分析センター
		坂本洋祐	東芝環境ソリューション (株) 北関東分析センター
		オブザーバー	青山 守

技術委員会歴代委員名簿

年 度	役職名	氏 名	所 属
令和5年	委員長	石塚政和	(株) 環境アシスト
	副委員長	金子宣之	(株) ミツバ環境ソリューション
	副委員長	松永道彦	プロファ設計 (株) 環境研究所
	構成委員	篠原政登	(株) 環境技研
		金子美智子	(株) 群馬分析センター
		下山徹也	(株) 不二ケミカル
		小畑 勝	パリノ・サーヴェイ (株)
		小林生二	関東電化産業 (株)
		小林正寛	(株) 総合環境分析北関東支社
		恩田哲行	(一社) 群馬県薬剤師会環境衛生試験センター
		春山由紀子	(株) ヤマト大和分析センター
		坂本洋祐	東芝環境ソリューション (株) 北関東分析センター
		関根勇仁	(株) 環境分析センター
	オブザーバー	青山 守	環境分科会会長
令和6年	委員長	高木 厚	(株) ミツバ環境ソリューション
	副委員長	松永道彦	プロファ設計 (株) 環境研究所
	副委員長	篠原政登	(株) 環境技研
	構成委員	金子美智子	(株) 群馬分析センター
		下山徹也	(株) 不二ケミカル
		小畑 勝	パリノ・サーヴェイ (株)
		小林生二	関東電化産業 (株)
		小林正寛	(株) 総合環境分析北関東支社
		田島幸夫	(一財) 群馬県薬剤師会環境衛生試験センター
		春山由紀子	(株) ヤマト大和分析センター
		坂本洋祐	東芝環境ソリューション (株) 北関東分析センター
		関根勇仁	(株) 環境分析センター
		石塚政和	(株) 環境アシスト
	オブザーバー	青山 守	環境分科会会長
令和7年	委員長	松永道彦	プロファ設計 (株) 環境研究所
	副委員長	篠原政登	(株) 環境技研
	副委員長	金子美智子	(株) 群馬分析センター
	構成委員	下山徹也	(株) 不二ケミカル
		小畑 勝	パリノ・サーヴェイ (株)
		小林生二	関東電化産業 (株)
		小林正寛	(株) 総合環境分析北関東支社
		田島幸夫	(一財) 群馬県薬剤師会環境衛生試験センター
		春山由紀子	(株) ヤマト大和分析センター
		坂本洋祐	東芝環境ソリューション (株) 北関東分析センター
		関根勇仁	(株) 環境分析センター
		石塚政和	(株) 環境アシスト
		恩田綾子	(株) ミツバ環境ソリューション
	オブザーバー	青山 守	環境分科会会長

# 歴代役員名簿

～ 浄化槽委員会 ～

浄化槽委員会歴代委員名簿

年 度	役職名	氏 名	所 属
平成18年	委員長	新井由雄	(有) アライ計量事務所
	副委員長	佐藤竜馬	(株) インフォマテックヨシヤ
	副委員長	新井宗雄	瑞晃化学(株)
	構成委員	川口 勝	(株) 環境技研
		浅川千佳夫	(株) 群馬分析センター
		下山 裕	(株) 不二ケミカル
		福島孝志	三洋電機(株) 環境リサーチセンター東部
		佐藤留治	シバタ環境科学(株)
		清水則幸	(公財) 群馬県健康づくり財団
		野田 猛	(株) 総合環境分析北関東支社
		中林栄一	(社) 群馬県薬剤師会環境衛生試験センター
		本嶋茂雄	(株) エコセンター
		高木 厚	(株) ミツバ環境分析リサーチ
		市川秀和	昭和環境分析センター(株)
		八木良子	(有) 吾妻分析センター
	和田英雄	(株) 本庄分析センター藤岡営業所	
	下城	(株) 環境評価機構分析センター	
平成19年	委員長	新井由雄	(有) アライ計量事務所
	副委員長	佐藤竜馬	(株) インフォマテックヨシヤ
	副委員長	新井宗雄	瑞晃化学(株)
	構成委員	川口 勝	(株) 環境技研
		浅川千佳夫	(株) 群馬分析センター
		下山 裕	(株) 不二ケミカル
		藤井博水	三洋電機(株) 環境リサーチセンター東部
		佐藤留治	シバタ環境科学(株)
		清水則幸	(公財) 群馬県健康づくり財団
		野田 猛	(株) 総合環境分析北関東支社
		中林栄一	(社) 群馬県薬剤師会環境衛生試験センター
		本嶋茂雄	(株) エコセンター
		高木 厚	(株) ミツバ環境分析リサーチ
		森山朋憲	昭和環境分析センター(株)
		八木良子	(有) 吾妻分析センター
	和田英雄	(株) 本庄分析センター藤岡営業所	
	片亀 光	(株) 環境評価機構分析センター	

浄化槽委員会歴代委員名簿

年 度	役職名	氏 名	所 属
平成20年	委員長	新井宗雄	瑞晃化学(株)
	副委員長	佐藤弘之	(株) インフォマテックヨシヤ
	副委員長	本嶋茂雄	(株) エコセンター
	構成委員	川口 勝	(株) 環境技研
		浅川千佳夫	(株) 群馬分析センター
		下山 裕	(株) 不二ケミカル
		藤井博水	三洋電機(株) 環境リサーチセンター東部
		佐藤留治	シバタ環境科学(株)
		清水則幸	(公財) 群馬県健康づくり財団
		野田 猛	(株) 総合環境分析北関東支社
		中林栄一	(社) 群馬県薬剤師会環境衛生試験センター
		新井由雄	(有) アライ計量事務所
		高木 厚	(株) ミツバ環境分析リサーチ
		森山朋憲	昭和環境分析センター(株)
		八木良子	(有) 吾妻分析センター
	和田英雄	(株) 本庄分析センター藤岡営業所	
	片亀 光	(株) 環境評価機構分析センター	
平成21年	委員長	新井宗雄	瑞晃化学(株)
	副委員長	佐藤弘之	(株) インフォマテックヨシヤ
	副委員長	本嶋茂雄	(株) エコセンター
	構成委員	川口 勝	(株) 環境技研
		浅川千佳夫	(株) 群馬分析センター
		下山 裕	(株) 不二ケミカル
		佐藤留治	シバタ環境科学(株)
		清水則幸	(公財) 群馬県健康づくり財団
		野田 猛	(株) 総合環境分析北関東支社
		中林栄一	(社) 群馬県薬剤師会環境衛生試験センター
		新井由雄	(有) アライ計量事務所
		高木 厚	(株) ミツバ環境分析リサーチ
		森山朋憲	昭和環境分析センター(株)
		加部世津子	(有) 吾妻分析センター
		和田英雄	(株) 本庄分析センター藤岡営業所
	片亀 光	(株) 環境評価機構分析センター	
平成22年	委員長	新井宗雄	瑞晃化学(株)
	副委員長	佐藤弘之	(株) インフォマテックヨシヤ
	副委員長	本嶋茂雄	(株) エコセンター
	構成委員	川口 勝	(株) 環境技研
		浅川千佳夫	(株) 群馬分析センター
		下山徹也	(株) 不二ケミカル
		佐藤留治	シバタ環境科学(株)
		清水則幸	(公財) 群馬県健康づくり財団
		近野栄子	(株) 総合環境分析北関東支社
		中林栄一	(社) 群馬県薬剤師会環境衛生試験センター
		新井由雄	(有) アライ計量事務所
		高木 厚	(株) ミツバ環境分析リサーチ
		森山朋憲	昭和環境分析センター(株)
		加部世津子	(有) 吾妻分析センター
		和田英雄	(株) 本庄分析センター藤岡営業所
	片亀 光	(株) 環境評価機構分析センター	

浄化槽委員会歴代委員名簿

年 度	役職名	氏 名	所 属
平成23年	委員長	佐藤弘之	(株) インフォマテックヨシヤ
	副委員長	近野栄子	(株) 総合環境分析北関東支社
	副委員長	鈴木 敦	(株) エコセンター
	構成委員	田島和明	(株) 環境技研
		浅川千佳夫	(株) 群馬分析センター
		下山徹也	(株) 不二ケミカル
		佐藤伸子	シバタ環境科学 (株)
		新井俊則	瑞晃化学 (株)
		清水則幸	(公財) 群馬県健康づくり財団
		中林栄一	(社) 群馬県薬剤師会環境衛生試験センター
		新井由雄	(有) アライ計量事務所
		高木 厚	(株) ミツバ環境分析リサーチ
		清田 賢	昭和環境分析センター (株)
		加部世津子	(有) 吾妻分析センター
		和田英雄	(株) 本庄分析センター藤岡営業所
	片亀 光	(株) 環境評価機構分析センター	
平成24年	委員長	佐藤弘之	(株) インフォマテックヨシヤ
	副委員長	近野栄子	(株) 総合環境分析北関東支社
	副委員長	鈴木 敦	(株) エコセンター
	構成委員	田島和明	(株) 環境技研
		浅川千佳夫	(株) 群馬分析センター
		下山徹也	(株) 不二ケミカル
		新井俊則	瑞晃化学 (株)
		佐藤伸子	シバタ環境科学 (株)
		清水則幸	(公財) 群馬県健康づくり財団
		中林栄一	(一社) 群馬県薬剤師会環境衛生試験センター
		新井由雄	(有) アライ計量事務所
		高木 厚	(株) ミツバ環境分析リサーチ
		森山朋憲	昭和環境分析センター (株)
		加部世津子	(有) 吾妻分析センター
		和田英雄	(株) 本庄分析センター藤岡営業所
		片亀 光	(株) 環境評価機構分析センター
		小澤 章	プロファ設計 (株) 環境研究所
	黒澤文雄	アクアハイプラン (株)	

浄化槽委員会歴代委員名簿

年 度	役職名	氏 名	所 属
平成25年	委員長	佐藤弘之	(株) インフォマテックヨシヤ
	副委員長	近野栄子	(株) 総合環境分析北関東支社
	副委員長	鈴木 敦	(株) エコセンター
	構成委員	田島和明	(株) 環境技研
		浅川千佳夫	(株) 群馬分析センター
		下山徹也	(株) 不二ケミカル
		新井俊則	瑞晃化学 (株)
		佐藤伸子	シバタ環境科学 (株)
		清水則幸	(公財) 群馬県健康づくり財団
		中林栄一	(一社) 群馬県薬剤師会環境衛生試験センター
		新井由雄	(有) アライ計量事務所
		高木 厚	(株) ミツバ環境分析リサーチ
		宮田正慶	昭和環境分析センター (株)
		加部世津子	(有) 吾妻分析センター
		和田英雄	(株) 本庄分析センター藤岡営業所
		片亀 光	(株) 環境評価機構分析センター
		小澤 章	プロファ設計 (株) 環境研究所
		黒澤文雄	アクアハイプラン (株)
	川田孝夫	(株) 江東微生物研究所北関東支所	
平成26年	委員長	佐藤弘之	(株) インフォマテックヨシヤ
	副委員長	近野栄子	(株) 総合環境分析北関東支社
	副委員長	鈴木 敦	(株) エコセンター
	構成委員	田島和明	(株) 環境技研
		浅川千佳夫	(株) 群馬分析センター
		下山徹也	(株) 不二ケミカル
		新井俊則	瑞晃化学 (株)
		佐藤伸子	シバタ環境科学 (株)
		清水則幸	(公財) 群馬県健康づくり財団
		中林栄一	(一社) 群馬県薬剤師会環境衛生試験センター
		新井由雄	(有) アライ計量事務所
		高木 厚	(株) ミツバ環境分析リサーチ
		宮田正慶	昭和環境分析センター (株)
		加部世津子	(有) 吾妻分析センター
		和田英雄	(株) 本庄分析センター藤岡営業所
		片亀 光	(株) 環境評価機構分析センター
		小澤 章	プロファ設計 (株) 環境研究所
		黒澤文雄	アクアハイプラン (株)

浄化槽委員会歴代委員名簿

年 度	役職名	氏 名	所 属	
平成27年	委員長	佐藤弘之	(株) インフォマテックヨシヤ	
	副委員長	近野栄子	(株) 総合環境分析北関東支社	
	副委員長	鈴木 敦	(株) エコセンター	
	構成委員	小見 明	(株) 環境技研	
		佐藤 修	(株) 群馬分析センター	
		下山徹也	(株) 不二ケミカル	
		新井俊則	瑞晃化学(株)	
		佐藤伸子	シバタ環境科学(株)	
		清水則幸	(公財) 群馬県健康づくり財団	
		中林栄一	(一社) 群馬県薬剤師会環境衛生試験センター	
		新井由雄	(有) アライ計量事務所	
		高木 厚	(株) ミツバ環境分析リサーチ	
		宮田正慶	昭和環境分析センター(株)	
		加部世津子	(有) 吾妻分析センター	
		和田英雄	(株) 本庄分析センター藤岡営業所	
		片亀 光	(株) 環境評価機構分析センター	
		小澤 章	プロファ設計(株) 環境研究所	
		黒澤文雄	アクアハイプラン(株)	
		オブザーバー	浅川千佳夫	環境分科会会長
	平成28年	委員長	佐藤弘之	(株) インフォマテックヨシヤ
副委員長		近野栄子	(株) 総合環境分析北関東支社	
副委員長		鈴木 敦	(株) エコセンター	
構成委員		小見 明	(株) 環境技研	
		佐藤 修	(株) 群馬分析センター	
		下山徹也	(株) 不二ケミカル	
		新井俊則	瑞晃化学(株)	
		佐藤伸子	シバタ環境科学(株)	
		石田敏教	(公財) 群馬県健康づくり財団	
		中林栄一	(一社) 群馬県薬剤師会環境衛生試験センター	
		新井由雄	(有) アライ計量事務所	
		宮田正慶	昭和環境分析センター(株)	
		加部世津子	(有) 吾妻分析センター	
		和田英雄	(株) 本庄分析センター藤岡営業所	
		和田尚人	(株) 本庄分析センター藤岡営業所	
		片亀 光	(株) 環境評価機構分析センター	
		小澤 章	プロファ設計(株) 環境研究所	
		黒澤文雄	アクアハイプラン(株)	
		オブザーバー	浅川千佳夫	環境分科会会長

浄化槽委員会歴代委員名簿

年 度	役職名	氏 名	所 属	
平成29年	委員長	佐藤弘之	(株) インフォマテックヨシヤ	
	副委員長	近野栄子	(株) 総合環境分析北関東支社	
	副委員長	新井俊則	瑞晃化学(株)	
	構成委員	小見 明	(株) 環境技研	
		佐藤 修	(株) 群馬分析センター	
		下山徹也	(株) 不二ケミカル	
		佐藤伸子	シバタ環境科学(株)	
		石田敏教	(公財) 群馬県健康づくり財団	
		中林栄一	(一社) 群馬県薬剤師会環境衛生試験センター	
		新井由雄	(有) アライ計量事務所	
		鈴木 敦	(株) エコセンター	
		宮田正慶	昭和環境分析センター(株)	
		加部世津子	(有) 吾妻分析センター	
		和田英雄	(株) 本庄分析センター藤岡営業所	
		和田尚人	(株) 本庄分析センター藤岡営業所	
		片亀 光	(株) 環境評価機構分析センター	
		小澤 章	プロファ設計(株) 環境研究所	
		黒澤文雄	アクアハイプラン(株)	
		オブザーバー	浅川千佳夫	環境分科会会長
	平成30年	委員長	佐藤弘之	(株) インフォマテックヨシヤ
副委員長		近野栄子	(株) 総合環境分析北関東支社	
副委員長		新井俊則	瑞晃化学(株)	
構成委員		小野知弘	(株) 環境技研	
		佐藤 修	(株) 群馬分析センター	
		下山徹也	(株) 不二ケミカル	
		佐藤伸子	シバタ環境科学(株)	
		石田敏教	(公財) 群馬県健康づくり財団	
		中林栄一	(一社) 群馬県薬剤師会環境衛生試験センター	
		新井由雄	(有) アライ計量事務所	
		鈴木 敦	(株) エコセンター	
		吉田弥矩	昭和環境分析センター(株)	
		土屋直也	(有) 吾妻分析センター	
		和田英雄	(株) 本庄分析センター藤岡営業所	
		和田尚人	(株) 本庄分析センター藤岡営業所	
		片亀 光	(株) 環境評価機構分析センター	
		小澤 章	プロファ設計(株) 環境研究所	
		黒澤文雄	アクアハイプラン(株)	
		オブザーバー	浅川千佳夫	環境分科会会長

浄化槽委員会歴代委員名簿

年 度	役職名	氏 名	所 属
令和元年	委員長	佐藤弘之	(株) インフォマテックヨシヤ
	副委員長	近野栄子	(株) 総合環境分析北関東支社
	副委員長	新井俊則	瑞晃化学(株)
	構成委員	小野知弘	(株) 環境技研
		佐藤 修	(株) 群馬分析センター
		下山徹也	(株) 不二ケミカル
		佐藤伸子	シバタ環境科学(株)
		石田 彩	(公財) 群馬県健康づくり財団
		中林栄一	(一社) 群馬県薬剤師会環境衛生試験センター
		新井由雄	(有) アライ計量事務所
		鈴木 敦	(株) エコセンター
		吉田弥矩	昭和環境分析センター(株)
		岩崎真代	(有) 吾妻分析センター
		和田英雄	(株) 本庄分析センター藤岡営業所
		和田尚人	(株) 本庄分析センター藤岡営業所
		片亀 光	(株) 環境評価機構分析センター
	黒澤文雄	アクアハイプラン(株)	
	オブザーバー	浅川千佳夫	環境分科会会長
令和2年	委員長	佐藤弘之	(株) インフォマテックヨシヤ
	副委員長	近野栄子	(株) 総合環境分析北関東支社
	副委員長	新井俊則	瑞晃化学(株)
	構成委員	小野知弘	(株) 環境技研
		佐藤 修	(株) 群馬分析センター
		下山徹也	(株) 不二ケミカル
		佐藤伸子	シバタ環境科学(株)
		石田 彩	(公財) 群馬県健康づくり財団
		中林栄一	(一社) 群馬県薬剤師会環境衛生試験センター
		新井由雄	(有) アライ計量事務所
		鈴木 敦	(株) エコセンター
		小林洋行	昭和環境分析センター(株)
		岩崎真代	(有) 吾妻分析センター
		和田英雄	(株) 本庄分析センター藤岡営業所
		和田尚人	(株) 本庄分析センター藤岡営業所
		片亀 光	(株) 環境評価機構分析センター
		鷺坂加奈子	アクアハイプラン(株)
	オブザーバー	青山 守	環境分科会会長

浄化槽委員会歴代委員名簿

年 度	役職名	氏 名	所 属
令和3年	委員長	佐藤弘之	(株) インフォマテックヨシヤ
	副委員長	近野栄子	(株) 総合環境分析北関東支社
	副委員長	新井俊則	瑞晃化学(株)
	構成委員	小野知弘	(株) 環境技研
		佐藤 修	(株) 群馬分析センター
		下山徹也	(株) 不二ケミカル
		佐藤伸子	シバタ環境科学(株)
		石田 彩	(公財) 群馬県健康づくり財団
		中林栄一	(一社) 群馬県薬剤師会環境衛生試験センター
		新井由雄	(有) アライ計量事務所
		鈴木 敦	(株) エコセンター
		小林洋行	昭和環境分析センター(株)
		高橋佑気	(有) 吾妻分析センター
		和田英雄	(株) 本庄分析センター藤岡営業所
		和田尚人	(株) 本庄分析センター藤岡営業所
		片亀 光	(株) 環境評価機構分析センター
		鷺坂加奈子	アクアハイプラン(株)
	オブザーバー	青山 守	環境分科会会長
令和4年	委員長	佐藤弘之	(株) インフォマテックヨシヤ
	副委員長	近野栄子	(株) 総合環境分析北関東支社
	副委員長	新井俊則	瑞晃化学(株)
	構成委員	佐藤 修	(株) 群馬分析センター
	オブザーバー	市毛克哉	(株) 群馬分析センター
		下山徹也	(株) 不二ケミカル
		村木江津子	シバタ環境科学(株)
		石田敏教	(公財) 群馬県健康づくり財団
		中林栄一	(一社) 群馬県薬剤師会環境衛生試験センター
		新井由雄	(有) アライ計量事務所
		鈴木 敦	(株) エコセンター
		小林洋行	昭和環境分析センター(株)
		高橋佑気	(有) 吾妻分析センター
		和田英雄	(株) 本庄分析センター藤岡営業所
		和田尚人	(株) 本庄分析センター藤岡営業所
		片亀 光	(株) 環境評価機構分析センター
		鷺坂加奈子	アクアハイプラン(株)
	オブザーバー	青山 守	環境分科会会長

浄化槽委員会歴代委員名簿

年 度	役職名	氏 名	所 属
令和5年	委員長	佐藤弘之	(株) インフォマテックヨシヤ
	副委員長	近野栄子	(株) 総合環境分析北関東支社
	副委員長	新井俊則	瑞晃化学(株)
	構成委員	市毛克哉	(株) 群馬分析センター
		下山徹也	(株) 不二ケミカル
		村木江津子	シバタ環境科学(株)
		石田敏教	(公財) 群馬県健康づくり財団
		中林栄一	(一社) 群馬県薬剤師会環境衛生試験センター
		新井由雄	(有) アライ計量事務所
		鈴木 敦	(株) エコセンター
		小林洋行	昭和環境分析センター(株)
		篠原和人	(有) 吾妻分析センター
		和田英雄	(株) 本庄分析センター藤岡営業所
		片亀 光	(株) 環境評価機構分析センター
	オブザーバー	青山 守	環境分科会会長
令和6年	委員長	佐藤弘之	(株) インフォマテックヨシヤ
	副委員長	近野栄子	(株) 総合環境分析北関東支社
	副委員長	新井俊則	瑞晃化学(株)
	構成委員	市毛克哉	(株) 群馬分析センター
		下山徹也	(株) 不二ケミカル
		村木江津子	シバタ環境科学(株)
		石田敏教	(公財) 群馬県健康づくり財団
		恩田哲行	(一財) 群馬県薬剤師会環境衛生試験センター
		新井由雄	(有) アライ計量事務所
		鈴木 敦	(株) エコセンター
		小林洋行	昭和環境分析センター(株)
		篠原和人	(有) 吾妻分析センター
		和田英雄	(株) 本庄分析センター藤岡営業所
		片亀 光	(株) 環境評価機構分析センター
		黒澤文雄	(株) アクアセント
	オブザーバー	青山 守	環境分科会会長
令和7年	委員長	佐藤弘之	(株) インフォマテックヨシヤ
	副委員長	近野栄子	(株) 総合環境分析北関東支社
	副委員長	新井俊則	瑞晃化学(株)
	構成委員	市毛克哉	(株) 群馬分析センター
		下山徹也	(株) 不二ケミカル
		村木江津子	シバタ環境科学(株)
		石田敏教	(公財) 群馬県健康づくり財団
		恩田哲行	(一財) 群馬県薬剤師会環境衛生試験センター
		新井由雄	(有) アライ計量事務所
		鈴木 敦	(株) エコセンター
		小林洋行	昭和環境分析センター(株)
		篠原和人	(有) 吾妻分析センター
		和田英雄	(株) 本庄分析センター伊勢崎事業所
		和田尚人	(株) 本庄分析センター伊勢崎事業所
	片亀 光	(株) 環境評価機構分析センター	
		黒澤文雄	(株) アクアセント
	オブザーバー	青山 守	環境分科会会長

# 歴代役員名簿

～ 放射線委員会 ～

## 放射線委員会歴代委員名簿

年 度	役職名	氏 名	所 属
平成24年	委員長	和田英雄	(株) 本庄分析センター藤岡事業所
	副委員長	新井由雄	(有) アライ計量事務所
	構成委員	高木 厚	(株) ミツバ環境分析リサーチ
		佐藤弘之	(株) インフォマテックヨシヤ
		佐藤留治	シバタ環境科学(株)
		中根秀二	パリノ・サーヴェイ(株)
		小林生二	関東電化産業(株)
		尾崎 剛	(株) 総合環境分析北関東支社
		金子弓子	(有) アライ計量事務所
		佐藤 篤	(株) 環境アシスト
		鈴木 敦	(株) エコセンター
		和田尚人	(株) 本庄分析センター藤岡事業所
		片亀 光	(株) 環境評価機構分析センター
		丹野一雄	プロファ設計(株) 環境研究所
		黒崎明彦	(株) 群馬臨床検査センター
		内藤雅也	(株) 食環境衛生研究所
		黒澤文雄	アクアハイプラン(株)
	オブザーバー	浅川千佳夫	環境分科会会長
平成25年	委員長	和田英雄	(株) 本庄分析センター藤岡事業所
	副委員長	新井由雄	(有) アライ計量事務所
	構成委員	高木 厚	(株) ミツバ環境分析リサーチ
		佐藤伸子	シバタ環境科学(株)
		中根秀二	パリノ・サーヴェイ(株)
		尾崎 剛	(株) 総合環境分析北関東支社
		金子弓子	(有) アライ計量事務所
		鈴木 敦	(株) エコセンター
		和田尚人	(株) 本庄分析センター藤岡事業所
		片亀 光	(株) 環境評価機構分析センター
		小澤 章	プロファ設計(株) 環境研究所
		内藤雅也	(株) 食環境衛生研究所
		川田孝夫	(株) 江東微生物研究所
		オブザーバー	浅川千佳夫
平成26年	委員長	和田英雄	(株) 本庄分析センター藤岡事業所
	副委員長	新井由雄	(有) アライ計量事務所
	構成委員	高木 厚	(株) ミツバ環境分析リサーチ
		佐藤伸子	シバタ環境科学(株)
		中根秀二	パリノ・サーヴェイ(株)
		尾崎 剛	(株) 総合環境分析北関東支社
		鈴木 敦	(株) エコセンター
		和田尚人	(株) 本庄分析センター藤岡事業所
		片亀 光	(株) 環境評価機構分析センター
		小澤 章	プロファ設計(株) 環境研究所
		松本彰平	(株) 食環境衛生研究所
		川田孝夫	(株) 江東微生物研究所
		オブザーバー	浅川千佳夫

## 放射線委員会歴代委員名簿

年 度	役職名	氏 名	所 属
平成27年	委員長	和田英雄	(株)本庄分析センター藤岡事業所
	副委員長	新井由雄	(有)アライ計量事務所
	構成委員	高木 厚	(株)ミツバ環境分析リサーチ
		佐藤伸子	シバタ環境科学(株)
		中根秀二	パリノ・サーヴェイ(株)
		近野栄子	(株)総合環境分析北関東支社
		鈴木 敦	(株)エコセンター
		和田尚人	(株)本庄分析センター藤岡事業所
		片亀 光	(株)環境評価機構分析センター
		小澤 章	プロファ設計(株)環境研究所
		松本彰平	(株)食環境衛生研究所
		野田 猛	(株)江東微生物研究所北関東支所
オブザーバー	浅川千佳夫	環境分科会会長	
平成28年	委員長	和田英雄	(株)本庄分析センター藤岡事業所
	副委員長	新井由雄	(有)アライ計量事務所
	構成委員	高木 厚	(株)ミツバ環境分析リサーチ
		佐藤伸子	シバタ環境科学(株)
		中根秀二	パリノ・サーヴェイ(株)
		近野栄子	(株)総合環境分析北関東支社
		鈴木 敦	(株)エコセンター
		和田尚人	(株)本庄分析センター藤岡事業所
		片亀 光	(株)環境評価機構分析センター
		小澤 章	プロファ設計(株)環境研究所
		松本彰平	(株)食環境衛生研究所
		野田 猛	(株)江東微生物研究所北関東支所
		重田智久	(株)環境科学コーポレーション関東事業所
オブザーバー	浅川千佳夫	環境分科会会長	
平成29年	委員長	和田英雄	(株)本庄分析センター藤岡事業所
	副委員長	新井由雄	(有)アライ計量事務所
	構成委員	高木 厚	(株)ミツバ環境分析リサーチ
		佐藤伸子	シバタ環境科学(株)
		中根秀二	パリノ・サーヴェイ(株)
		近野栄子	(株)総合環境分析北関東支社
		鈴木 敦	(株)エコセンター
		和田尚人	(株)本庄分析センター藤岡事業所
		片亀 光	(株)環境評価機構分析センター
		小澤 章	プロファ設計(株)環境研究所
		松本彰平	(株)食環境衛生研究所
		野田 猛	(株)江東微生物研究所北関東支所
オブザーバー	浅川千佳夫	環境分科会会長	

## 放射線委員会歴代委員名簿

年 度	役職名	氏 名	所 属
平成30年	委員長	和田英雄	(株) 本庄分析センター藤岡事業所
	副委員長	新井由雄	(有) アライ計量事務所
	構成委員	高木 厚	(株) ミツバ環境分析リサーチ
		佐藤伸子	シバタ環境科学 (株)
		中根秀二	パリノ・サーヴェイ (株)
		近野栄子	(株) 総合環境分析北関東支社
		鈴木 敦	(株) エコセンター
		和田尚人	(株) 本庄分析センター藤岡事業所
		片亀 光	(株) 環境評価機構分析センター
		小澤 章	プロファ設計 (株) 環境研究所
		松本彰平	(株) 食環境衛生研究所
		野田 猛	(株) 江東微生物研究所北関東支所
	オブザーバー	浅川千佳夫	環境分科会会長
令和元年	委員長	和田英雄	(株) 本庄分析センター藤岡事業所
	副委員長	新井由雄	(有) アライ計量事務所
	構成委員	高木 厚	(株) ミツバ環境分析リサーチ
		佐藤伸子	シバタ環境科学 (株)
		中根秀二	パリノ・サーヴェイ (株)
		近野栄子	(株) 総合環境分析北関東支社
		尾崎 剛	(株) 総合環境分析北関東支社
		鈴木 敦	(株) エコセンター
		和田尚人	(株) 本庄分析センター藤岡事業所
		片亀 光	(株) 環境評価機構分析センター
		小澤 章	プロファ設計 (株) 環境研究所
		松本彰平	(株) 食環境衛生研究所
		野田 猛	(株) 江東微生物研究所北関東支所
オブザーバー	浅川千佳夫	環境分科会会長	
令和2年	委員長	和田英雄	(株) 本庄分析センター藤岡事業所
	副委員長	新井由雄	(有) アライ計量事務所
	構成委員	高木 厚	(株) ミツバ環境ソリューション
		佐藤伸子	シバタ環境科学 (株)
		中根秀二	パリノ・サーヴェイ (株)
		近野栄子	(株) 総合環境分析北関東支社
		尾崎 剛	(株) 総合環境分析北関東支社
		鈴木 敦	(株) エコセンター
		和田尚人	(株) 本庄分析センター藤岡事業所
		片亀 光	(株) 環境評価機構分析センター
		小澤 章	プロファ設計 (株) 環境研究所
		松本彰平	(株) 食環境衛生研究所
		野田 猛	(株) 江東微生物研究所北関東支所
オブザーバー	青山 守	環境分科会会長	

## 放射線委員会歴代委員名簿

年 度	役職名	氏 名	所 属
令和3年	委員長	和田英雄	(株) 本庄分析センター藤岡事業所
	副委員長	新井由雄	(有) アライ計量事務所
	構成委員	高木 厚	(株) ミツバ環境ソリューション
		中根秀二	パリノ・サーヴェイ (株)
		尾崎 剛	(株) 総合環境分析北関東支社
		鈴木 敦	(株) エコセンター
		和田尚人	(株) 本庄分析センター藤岡事業所
		片亀 光	(株) 環境評価機構分析センター
		小澤 章	プロファ設計 (株) 環境研究所
		松本彰平	(株) 食環境衛生研究所
		野田 猛	(株) 江東微生物研究所北関東支所
	オブザーバー	青山 守	環境分科会会長
令和4年	委員長	和田英雄	(株) 本庄分析センター伊勢崎事業所
	副委員長	新井由雄	(有) アライ計量事務所
	構成委員	高木 厚	(株) ミツバ環境ソリューション
		中根秀二	パリノ・サーヴェイ (株)
		尾崎 剛	(株) 総合環境分析北関東支社
		鈴木 敦	(株) エコセンター
		和田尚人	(株) 本庄分析センター伊勢崎事業所
		片亀 光	(株) 環境評価機構分析センター
		小澤 章	プロファ設計 (株) 環境研究所
		松本彰平	(株) 食環境衛生研究所
		野田 猛	(株) 江東微生物研究所北関東支所
	オブザーバー	青山 守	環境分科会会長
令和5年	委員長	和田英雄	(株) 本庄分析センター伊勢崎事業所
	副委員長	新井由雄	(有) アライ計量事務所
	構成委員	高木 厚	(株) ミツバ環境ソリューション
		栴原繁和	パリノ・サーヴェイ (株)
		尾崎 剛	(株) 総合環境分析北関東支社
		和田尚人	(株) 本庄分析センター伊勢崎事業所
		片亀 光	(株) 環境評価機構分析センター
		富田雄二	プロファ設計 (株) 環境研究所
		松本彰平	(株) 食環境衛生研究所
		野田 猛	(株) 江東微生物研究所北関東支所
オブザーバー	青山 守	環境分科会会長	

# 会 則

## 一般社団法人群馬県計量協会環境分科会規約

### 第1章 総則

#### (名称)

第1条 本会は、一般社団法人群馬県計量協会環境分科会（略称 群環協）と称する。

#### (事務所)

第2条 本会の事務所は、一般社団法人群馬県計量協会（以下、計量協会という。）内に置く。

#### (目的)

第3条 本会は、環境計量に関する技術の向上と会員相互の親睦協調に努め環境計量証明事業の健全な発展を図るとともに、社会及び自然環境の保全につくし、もって産業経済の発展及び文化の向上に寄与することを目的とする。

#### (事業)

第4条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

1. 分析技術の交流及び向上
2. 環境計量に関する調査研究及び普及
3. 関係官公庁及び関連団体との連絡協調
4. その他本会の目的達成に必要な事項

#### (事業年度)

第5条 本会の事業年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月末日に終わる。

### 第2章 会員

#### (会員)

第6条 本会の会員は、計量協会の会員であり、かつ群馬県内で環境計量証明事業を営むものとする。ただし現会員はこの限りではない。

(会費)

第7条 会員は計量協会が定めた会費を納めなければならない。

(入会、退会)

第8条 会員になろうとするもの、退会しようとする会員は、計量協会定款に定めるところに従う。

2. 本会に入会しようとするものは、原則として本会員3者以上の推薦を得た上で理事会の承認を得なければならない。

(除名)

第9条 会員が会費の納入を怠った場合、又は本会の事業遂行に支障のある行為をした場合、計量協会の定めるところに従い除名することができる。

第3章 役員、理事等

(役員)

第10条 本会に次の役員を置くものとする。

会 長 1 名 (計量協会理事を兼ねる。)

副会長 2 名以内

理 事 1 0 名以内 (内 1 名を一般社団法人日本環境測定分析協会 (以下、日環協という。)) の担当理事とする。

監 事 2 名

2. 本会に理事会の承認を得て、名誉会長及び顧問を置くことができる。

(選任)

第11条 役員は総会において選任し、その任期は2年とする。但し、再任を妨げない。

2. 役員の前欠は理事会に置いて選任することができ、その選任された役員の前欠は前任者の前欠期間とし、次回の総会において承認を得るものとする。

3. 役員は任期が満了しても後任者の就任するまでその職務を行うものとする。

(職務)

第12条 会長は本会を代表し、会務を総理する。

2. 名誉会長は協会の最高顧問として、会長の諮問に応ずる。
3. 副会長は会長を補佐し、会長が事故又は欠員のときは、その職務を代行する。
4. 日環協担当理事は、日環協の会員であるものとし、日環協と本会との連携を円滑に図るものとする。
5. 理事は理事会を構成し、会務の運営にあたる。
6. 監事は会務及び資産の状況を監査する。

第4章 会議、委員会等

(会議)

第13条 会議は、通常総会、臨時総会及び理事会の3種とする。

(総会)

第14条 通常総会は、毎年1回事業年度終了後2ヶ月以内に会長が召集する。

2. 臨時総会は、会長が必要と定めた時又は会員の5分の1以上から会議目的を示し、請求のあった場合に会長が召集する。
3. 総会の議長は会長とする。会長が事故ある場合は副会長が代わる。

(理事会)

第15条 理事会は会長、副会長及び理事をもって組織する。

2. 理事会は、会長が必要と認めた場合又は理事の3分の1以上から会議目的を示し、請求のあった場合に会長が召集する。
3. 理事会は、総会に附する議案及び規約に定められた事項並びに理事会に委された事項を審議する。

4. 理事会の議長は会長とする。

(委員会)

第16条 本会には、次の委員会を設置し、本会の具体的な施策、対策を講じる。

- ① 総務企画委員会は、本会事業活動に関わる総合的事項の企画立案を行う。
- ② 技術委員会は、分析技術の向上等技術的事項の企画立案を行う。
- ③ 浄化槽委員会は、浄化槽に関する事項の企画立案を行う。
- ④ 放射線委員会は、放射線測定に関する事項の企画立案を行う。
- ⑤ 該当年度に必要とされる臨時的な委員会

2. 委員会の構成員は理事会の承認を得て、会長が選任する。

(招集)

第17条 会議を招集するには、少なくとも総会については、開催日の20日前までに、理事会については10日前までに、各委員会については10日前までに、付議事項日時及び場所を記載した書面をもって通知しなければならない。但し緊急の場合にはこの限りではない。

(付議事項)

第18条 次の事項は、総会の議決を経なければならない。

1. 規約の変更
2. 予算、決算
3. 事業の計画及び報告
4. 役員の選任
5. その他理事会で必要と認めた事項

(議決)

第19条 会議の議事はそれぞれ構成員の2分の1以上出席し、出席者の過半数で決し可否同数の場合は議長が決する。

(議事録)

第20条 会議においては議事録を作成し、事務局へ提出し保管する。

## 第5章 事務局

(設置)

第21条 本会の事務を処理するため、事務局を設置する。

2. 事務局は計量協会の専務理事及び職員があたる。

## 第6章 補足

(委任)

第22条 この規約に定めるもののほか本会の運営に関し必要な事項については理事会の承認を得て会長が別に定める。

附則 1. この規約は、社団法人群馬県計量協会定款を尊重し抵触しないよう定める。

2. この規約は、平成17年5月27日より施行する。

3. この規約は、平成21年5月21日より施行する。

4. この規約は、平成25年5月17日から施行する。

5. この規約は、平成27年5月15日から施行する。

6. この規約は、平成29年5月12日から施行する。

# 表彰規程

## 一般社団法人群馬県計量協会環境分科会表彰規程

### (目的)

第1条 この規程は、環境計量証明事業に従事し、他の模範となるべき功績のあった会員又はその従業員若しくは事業所に対し表彰を行う場合について定める。

### (表彰の方法)

第2条 表彰は、会長名をもって表彰状又は感謝状を贈り、記念品を副える。

### (表彰の時期)

第3条 表彰は、毎年原則として年度当初の通常総会において行う。

なお、その年度に該当者がいないときは、表彰を行わない。

### (選考の基準)

第4条 表彰選考の基準は、次の各号のいずれかに該当するものとする。

- 1 環境分科会(以下、本会という。)構成員の経営者として、その経歴が4年以上あり、本会事業の運営・発展に寄与したと認められる者。
- 2 本会の役員等の職務経験が5年相当以上あり、本会発展に寄与したと認められる者。
- 3 環境計量証明事業に熱意を有し、その成果が特に顕著に認められる事業所。
- 4 本会会員の企業に従事する者で、当該企業に10年以上勤務し、環境計量測定技術等が卓越し計量証明事業の発展に寄与したと認められる者。
- 5 前各号にかかわらず、環境計量業務の発展に関し、特に著しい功績があったと会長が認めるもの。

### (被表彰者の選考及び決定)

第5条 表彰を受ける者は、本会構成員各社等から別紙推薦書の様式により推薦された者の中より、理事会で選考を経て会長が決定する。

### (内申)

第6条 特に功労のあった者について、一般社団法人群馬県計量協会及び群馬県知事等の感謝状又は表彰状を受けられるよう内申することができる。

### (制限)

第7条 表彰は同一人については、1回に限るものとする。

### (その他)

第8条 この規程と実施するために必要な事項については別に定める。

### 附則

- 1.この規程は、平成17年9月7日から施行する。
- 2.この規程は、平成24年4月1日から施行する。

(第5条推薦書様式)

被表彰者推薦書

令和 年 月 日

一般社団法人群馬県計量協会環境分科会長 様

推薦者 氏名  
(事業者名)  
住所  
印

下記のとおり推薦しますので、よろしくお願ひ致します。

記

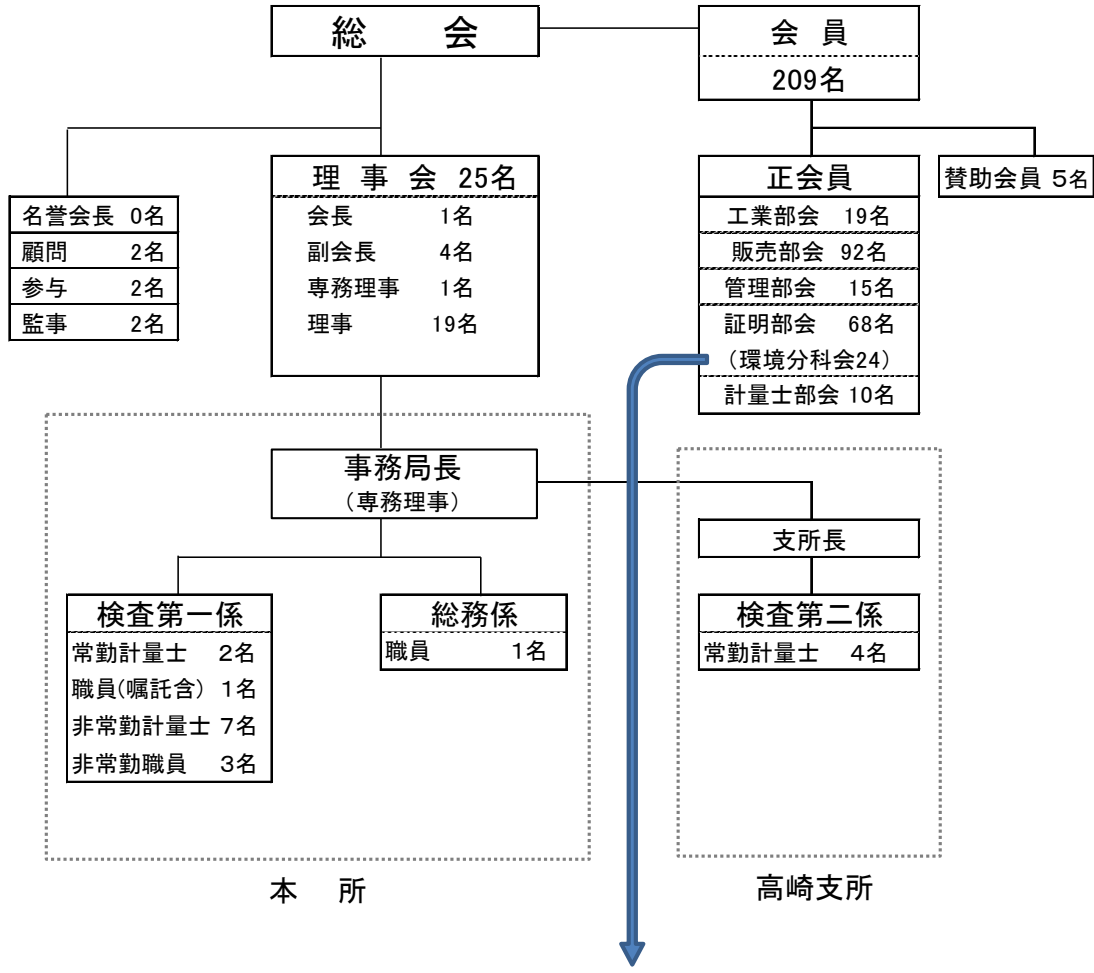
- 1 事業者名又は氏名 (フリガナ)
- 2 生年月日
- 3 住所
- 4 連絡先電話番号
- 5 略歴
  
- 6 表彰規程第4条各号の状況 (経験年数、技量卓越の内容、事業に対する貢献度等)
  
- 7 推薦の意見

※ 記載欄が不足の場合には別紙を使用する。

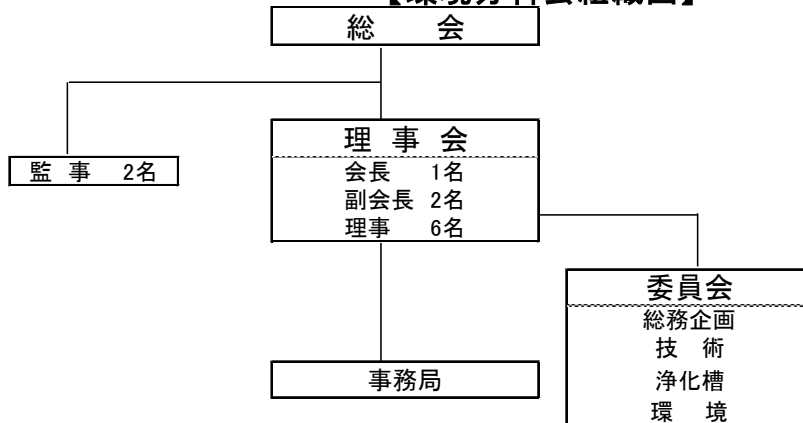
## 組織図

# 一般社団法人群馬県計量協会組織図

令和8年4月1日現在



## 【環境分科会組織図】



# 會員名簿

# 環境分科会会員名簿

令和8年4月1日現在

事業所名	所在地	濃度	音圧	振動	特定濃度	TEL
						FAX
(株) インフォマテックヨシヤ	桐生市相生町3-800-28	○	○	○		0277-52-8888
						0277-52-8894
(株) 環境技研	高崎市金古町1709-1	○	○	○	○	0273-72-5111
						027-372-5001
(株) 群馬分析センター	高崎市下大島町625	○	○	○	○	027-395-0606
						027-325-8842
瑞晃化学(株)	高崎市倉賀野町1201	○				027-346-8262
						027-346-8260
(株) 不二ケミカル	桐生市相生町2-835	○				0277-52-0889
						0277-52-0891
シバタ環境科学(株)	富岡市下黒岩581-1	○	○	○		0274-62-4008
						0274-62-2895
パリノ・サーヴェイ(株)	藤岡市岡之郷字戸崎559-3	○				0274-42-8129
						0274-42-7950
(公財) 群馬県健康づくり財団	前橋市堀之下町16-1	○				027-269-7815
						027-269-7805
関東電化産業(株)	渋川市渋川1497	○				0279-25-3467
						0279-23-2231
(株) 総合環境分析北関東支社	邑楽郡邑楽町中野127-6	○				0276-89-0745
						0276-89-1415
(一財) 群馬県薬剤師会環境衛生試験センター	前橋市西片貝5-23-10	○				027-223-6355
						027-243-2967
(株) ヤマト 大和分析センター	前橋市古市町118	○				027-290-1865
						027-290-1897
東芝環境ソリューション(株) 北関東分析センター	太田市西新町14-7	○				0276-32-3522
						0276-32-3522
(有) アライ計量事務所	みどり市大間々町大間々1255-9	○				0277-72-3298
						0277-72-4109
(株) 環境アシスト	高崎市倉賀野町2925-3	○	○	○		027-346-6114
						027-346-6612
(株) エコセンター	吾妻郡東吾妻町大字岩井471-17	○	○	○		0279-68-5013
						0279-68-5433
(株) ミツバ環境ソリューション	桐生市新里町野598	○	○	○		0277-74-5958
						0277-74-5973
昭和環境分析センター(株)	館林市堀工町1884-28	○				0276-75-5500
						0276-73-3499
(有) 吾妻分析センター	吾妻郡長野原町大津417	○				0279-82-2921
						0279-82-2921
(株) 本庄分析センター 伊勢崎事業所	伊勢崎市長沼町2482-3	○				0270-55-4991
						0495-21-8630
(株) 環境評価機構分析センター	安中市郷原2996-2	○				027-380-2577
						027-380-2578
プロファ設計(株) 環境研究所	伊勢崎市下触町629-1	○	○	○		0270-62-2111
						0270-62-2112
(株) 食環境衛生研究所	前橋市荒口町561-21	○				027-230-3411
						027-230-3412
(株) アクアセント	富岡市富岡259-2	○				0274-64-9278
						0274-64-9279

あとかき

## 創立50周年事業へ向けた2つの委員会委員名簿

令和8年1月

	事業所名	記念式典実行委員会	記念誌編纂委員会
1	(株) インフォマテックヨシヤ	佐藤 弘之	◎ 佐藤 弘之
2	(株) 環境技研	茂木 謙和	田中 克佳
3	(株) 群馬分析センター	関根 友規	金子美智子
4	瑞晃化学(株)	新井 紀好	新井 紀好
5	(株) 不二ケミカル	下山 裕	下山 裕
6	シバタ環境科学(株)	佐藤 留治	佐藤 留治
7	パリノ・サーヴェイ(株)	小畑 勝	小畑 勝
8	(公財) 群馬県健康づくり財団	石田 敏教	石田 敏教
9	関東電化産業(株)	中野 恵子	小林 生二
10	(株) 総合環境分析北関東支社	中村 和弘	中村 和弘
11	(一財) 群馬県薬剤師会環境衛生試験センター	須野原 修	松井 利光
12	(株) ヤマト大和分析センター	川端洋之進	春山由紀子
13	東芝環境ソリューション(株) 北関東分析センター	坂本 洋祐	坂本 洋祐
14	(有) アライ計量事務所	新井 由雄	新井 由雄
15	(株) 環境アシスト	石塚 政和	石塚 政和
16	(株) エコセンター	鈴木 敦	鈴木 敦
17	(株) ミツバ環境ソリューション	清水 敬祐	高木 厚
18	昭和環境分析センター(株)	小林 洋行	小林 洋行
19	(有) 吾妻分析センター	篠原 和人	篠原 和人
20	(株) 本庄分析センター伊勢崎事業所	和田 英雄	和田 英雄
21	(株) 環境評価機構分析センター	片亀 光	片亀 光
22	プロファ設計(株) 環境研究所	◎ 杉山 崇	木元 英哉
23	(株) 食環境衛生研究所	松本 彰平	松本 彰平
24	(株) 江東微生物研究所北関東支所	野田 猛	野田 猛
25	(株) アクアセント	黒澤 文雄	黒澤 文雄



群馬県計量協会事務局

事務局長 中田 富久

一般社団法人群馬県計量協会の部会として設立されました、環境分科会が創立 50 周年（半世紀！）の大きな節目を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。

当協会には、工業部会や管理部会など、5つの部会が設置されていますが、そのなかでも、環境分科会は群を抜いてさまざまな事業活動を活発に行なっています。

そして、同じような活動を行っているほかの団体と比べても、群馬県庁との意見交換会を実施している団体は、あまりないのではないかと思います。それだけ、業界が抱える課題に対する問題意識が高いと同時に、行政との意見交換が行えるほど、行政からの信頼を得ているということの証ではないかと思います。

そのほか、新任技術者セミナーを開催し、栃木県や茨城県在住の事業者にもセミナーへの参加を案内するなど、自分たちのスキルアップだけでなく、業界全体としてのスキルアップを図っていこうという姿勢には、いつも感銘を受けています。

このようにさまざまな事業が行われていますので、事務局もたいへん忙しいのですが、社会をよりよくしていこうという環境分科会の設立目的の達成に、ともに力を合わせて参りたいと考えていますので、引き続きよろしく願いいたします。

環境分科会の、今後益々の活躍を期待し、会員みなさまのご発展をお祈りします。



群馬県計量協会事務局

主任 荻野 容子

環境分科会創立 50 周年おめでとうございます。会員皆様の 50 年の歩みに共に参加させていただき大きな感動と感謝を感じております。

分科会また各委員会の活発な事業活動には日々感銘をうけております。セミナーや研修会または環境美化運動など様々な分野で活躍し、他県とも交流をひろげ情報交換を行い分科会の活躍は私自身の励みになります。

時代とともに生活環境は変化し環境は生活に身近なものになりました。これからも環境分科会の一員として微力ながら皆様のエネルギーな取組に協力し環境未来に繋げていけたらと思います。



## 編集後記

創立50周年記念事業 記念誌編纂委員会

委員長 佐藤 弘之

((株)インフォマテックヨシヤ 代表取締役)

環境分科会創立50周年を迎えるにあたり、本記念誌の編集に携わることができたことを大変光栄に思います。この半世紀にわたり、環境保護のために尽力してきた数多くの方々の努力と情熱を振り返ることができました。私たちの分科会は、持続可能な未来のために絶え間ない努力を続けてきました。その歴史と成果を記録に残すことは、次世代への大切なメッセージでもあります。

編集作業を通じて、多くの貴重な体験や学びがありました。特に、過去の資料を紐解きながら、当時の社会背景や技術の進展、そして多くの困難を乗り越えてきた先人たちの姿勢には深い感銘を受けました。先人の努力があってこそ、今日の私たちが享受している環境保護の成果があることを再認識しました。

また、この記念誌の制作にあたり、多くの方々のご協力とご支援をいただきました。寄稿していただいた記事や写真のご提供にご協力いただいた皆様には、この場を借りて厚く御礼申し上げます。おかげさまで、充実した内容をお届けすることができました。

今後も環境分科会の活動が更なる発展を遂げ、持続可能な社会の実現に向けた取り組みがますます活発になることを期待し、本記念誌が、その一助となれば幸いです。

最後に、この編集作業において多大なご支援をいただいた記念誌編纂委員会の皆様に、心より感謝申し上げます。

---

本文中の画像提供

- ・一般社団法人群馬県計量協会環境分科会
- ・写真 AC <https://www.photo-ac.com/>

## 50周年記念誌

令和8年6月初版発行

編集 一般社団法人群馬県計量協会環境分科会  
創立50周年記念誌・編纂委員会

発行 一般社団法人群馬県計量協会環境分科会  
〒379-2152 前橋市大島町81-13

TEL.027-263-8217 FAX.027-261-9317

メールアドレス gunkeikyo@dan.wind.ne.jp

<https://www.gunmakeiryu.or.jp/bunkakai/index.html>

